義務教育教科書に関する教師の意識及び保護者の要望についての調査

調査結果報告書

〈最終報告〉

平成 20（2008）年 9 月

財団法人 教科書研究センター

義務教育教科書に関する教師の意識及び保護者の要望についての調査

調査結果報告書

〈最終報告〉

はしがき

この 3 月に小・中学校の学習指導要領が改訂され、これを受けて、平成 21 年度に小学校教科書について、平成 22 年度に中学校教科書について検定が行われることとされている。

本調査報告書は、このような状況において、新たな教科書の編集に役立てる、あるいは参考とするため、(財)教科書研究センターが、小・中学校の教科書について、(社)教科書協会、全国連合小学校長会、全国中学校長会の協力を得て、教師の意識や保護者の要望について調査し、それを取りまとめたものである。

調査は、昨年 9 月から 10 月にかけて実施したところであり、作成した調査票に対する回答の素集計や自由記述については、既に、今年 3 月に中間報告書として発行したところであるが、本報告書は、それを素材として分析・検討を行うとともに、それから導かれる教科書の改善に係わる提言を掲載した。

今回の調査は、600 を超える学校に対して行ったものであるが、教育委員会を通さない調査としては、大変高い約８割に上る回答率を示しており、更に、自由記述も、教師が 980 あまり、保護者に至っては 1250 を超える意見があったのは、教師や保護者の方々が教科書に対して高い関心を持ってこの調査に対応していただいたためと考えている。

したがって、この調査は、教師や保護者の意識・要望が強く反映されていると考えられ、調査を分析・検討した本報告書は、各教科書会社にとってこれからの教科書編集に大変に役立つ貴重かつ重要なものになるのではないかと期待している。

終わりに、この調査の設計を行い、集計された結果について分析・検討し、更には提言を加えて本報告書をまとめていただいた「教科書に関する意識調査委員会」（委員長　新井郁男・上越教育大学名誉教授）の委員の方々のご苦労やお忙しい中を調査に対応していただいた学校、教師、保護者の皆様のご協力に心から感謝申し上げる次第である。

平成 20 年 9 月 20 日

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

教科書に関する意識調査委員会
委員名簿

委員長	新井郁男	上越教育大学名誉教授
副委員長	川野辺敏	星槎大学副学長

委員（学識者等）

総括	安藤駿英	元・全国連合小学校長会会長
総括	中進士	元・全日本中学校長会会長
国語	石塚修	筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授
社会	山本友和	上越教育大学大学院学校教育研究科教授
算数・数学	國宗進	静岡大学教育学部教授
理科	福地昭輝	元・東京学芸大学教育学部教授
英語	加藤幸次	上智大学名誉教授

委員（教科書編集者）

国語	金子哲	光村図書出版㈱教科書編集部部長
社会	渡辺能理夫	東京書籍㈱編集局社会編集部長
算数・数学	森田浩一	㈱新興出版社啓林館第一編集部部長
理科	藤川広	大日本図書㈱編集部部長
英語	堤隆夫	開隆堂出版㈱編集第一部部長

事務局	伊勢呂裕史	財団法人教科書研究センター常務理事
〃	藤村和男	財団法人教科書研究センター参与
〃	羽田喜次	財団法人教科書研究センター事務局長
〃	松田泉	財団法人教科書研究センター主任研究員

目　　次

はしがき …… 3
教科書に関する意識調査委員会　委員名簿 …… 4

第１章　調査の趣旨と概要 …… 7
Ⅰ．調査の趣旨 …… 7
Ⅱ．調査の概要 …… 7
Ⅲ．調査対象数と回答率 …… 10
Ⅳ．調査票の概要 …… 10
１．教師対象調査 …… 10
２．保護者対象調査 …… 12

第２章　調査結果の分析 …… 15
Ⅰ．調査全体を概観して …… 15
Ⅱ．教師と教科書 …… 18
１．各教科の視点から …… 18
１．１　国語 …… 18
１．２　社会 …… 36
１．３　算数・数学 …… 56
１．４　理科 …… 79
１．５　英語 …… 96
２．教科全体の視点から …… 108
Ⅲ．保護者と教科書 …… 119
１．小学校 …… 119
２．中学校 …… 131
Ⅳ．教科書の体様 …… 143
１．内容の構成やデザイン …… 143
２．堅牢性 …… 158
３．書き込み、貼り付け、切り取りなど …… 160
Ⅴ．教科書制度 …… 162
１．無償制 …… 162
２．給与制 …… 163
３．定価 …… 164

第３章　まとめ …… 167
Ⅰ．各教科の調査結果から …… 167
１．国語 …… 167

２．社会 …… 169
３．算数・数学 …… 171
４．理科 …… 173
５．英語 …… 175
Ⅱ．全体を総括して …… 176
１．概観 …… 176
２．総括 …… 179

〈資料〉調査依頼状と調査票 …… 181
Ⅰ．調査依頼状 …… 182
Ⅱ．調査協力依頼状 …… 184
Ⅲ．調査票〈教師対象調査〉 …… 185
１．小学校 …… 185
２．中学校国語 …… 194
３．中学校社会 …… 199
４．中学校数学 …… 206
５．中学校理科 …… 211
６．中学校英語 …… 217
Ⅳ．調査票〈保護者対象調査〉 …… 222
１．小学校 …… 222
２．中学校 …… 226

第１章　調査の趣旨と概要

Ⅰ．調査の趣旨

本調査は、平成 20 年 3 月の学習指導要領の改訂により、平成 21 年度以降教科書検定が行われる義務教育教科書について、教師の意識及び保護者の要望をまとめ、新たな教科書の編集に役立たせるために、(財)教科書研究センターが(社)教科書協会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会の協力を得て実施したものである。平成 20 年 3 月に素集計した中間報告書、平成 20 年度中に調査結果の分析も加えた調査報告書をまとめ、新しい教科書の編集の参考に供するものである。

Ⅱ．調査の概要

１．組織

本調査の調査票の設計や結果分析を行うため「教科書に関する意識調査委員会」を設置した。委員会は学識経験者（主として大学の教員)、教科書発行会社の編集担当者、小・中学校の教員ＯＢなどをもって組織した。(p. 4 参照)

２．調査期間

平成 19 年度～平成 20 年度

３．調査の種類と調査対象

学校種別に、教師対象調査と保護者対象調査を実施した。

〈小学校〉

○教師対象調査は、調査対象校の教務主任及び第５学年の学年主任（またはこれに代わることのできる教員）に回答を依頼した。

○保護者対象調査は、無作為抽出した対象校の中から各県１校を選び、第５学年（または第４学年か第６学年）のうちの１学級の児童の保護者に回答を依頼した。

〈中学校〉

○教師対象調査は、調査票を教科（国語、社会、数学、理科、英語）別に作成し、調査対象校の各教科の主任に回答を依頼した。

○保護者対象調査は、無作為抽出した対象校の中から各県１校を選び、第２学年（またはこれに代わる学年）のうちの１学級の生徒の保護者に回答を依頼した。

調査の種類	小学校	中学校
教師対象調査	205 校	404 校
	教務主任及び第５学年の学年主任（またはこれに代わることのできる教員） 2名×205校＝410名	教科（国語、社会、数学、理科、英語）の主任 5名×404校＝2020名（各教科404名）
保護者対象調査	47 校（各県１校）	47 校（各県１校）
	第５学年（または第４学年か第６学年）の１学級分の保護者 26名×47校＝1222名	第２学年（またはこれに代わる学年）の１学級分の保護者 30名×47校＝1410名

４．実施方法

質問紙による郵送調査とした。教師、保護者への調査依頼を学校を通じて行うため、『全国学校総覧 2007 年版』（原書房）から無作為抽出法により公立の小学校 205 校、中学校 404 校を抽出した（後掲の都道府県別調査対象校数を参照）。調査票はこの調査対象校に送付し、各学校で回答を回収し、まとめて返送してもらった。

調査票の発送、回収、集計は㈱サーベイリサーチセンターに委託した。

なお、学校には大学や民間の研究機関などからの調査依頼が多く、教育委員会から回答の依頼がない限り校長判断で回答しない例が多いと聞いている。このような学校現場の実情や調査期間を考慮したうえで、多くの調査票を回収するために以下のような依頼方法を考え、実施した。

○教育委員会を通じて依頼するには手続きに時間がかかるので、全国連合小学校長会及び全日本中学校長会の協力要請の文書を添付した。

○教師対象調査の回答者に教務主任や教科の主任を指定し、回答者の選定を容易にした。

○調査の協力へのお礼として、各学校に蛍光ペン 20 本（２色）を調査票と合わせて送付した。

５．調査日程

調査票発送　　平成19年 9月21日

調査票回収締切り　平成19年10月31日

６．回収結果（票数）

調査の種類	合計（票）	内訳（票）	
教師対象調査	1,938	小学校	315
		中学校（計）	1,623
		国語	322
		社会	321
		数学	328
		理科	326
		英語	326
保護者対象調査	2,115	小学校	1,054
		中学校	1,061

都道府県別調査対象校数

	都道府県	小学校	中学校
1	北海道	11	24
2	青森	3	6
3	岩手	4	6
4	宮城	4	8
5	秋田	2	5
6	山形	3	4
7	福島	5	8
8	茨城	4	9
9	栃木	4	6
10	群馬	3	6
11	埼玉	6	14
12	千葉	7	14
13	東京	12	28
14	神奈川	7	16
15	新潟	5	8
16	富山	2	3
17	石川	2	4
18	福井	1	3
19	山梨	2	4
20	長野	4	7
21	岐阜	3	6
22	静岡	4	10
23	愛知	8	15
24	三重	4	6
25	滋賀	2	4
26	京都	4	7
27	大阪	8	18
28	兵庫	7	13
29	奈良	2	4
30	和歌山	3	6
31	鳥取	1	2
32	島根	2	4
33	岡山	4	5
34	広島	5	10
35	山口	3	6
36	徳島	2	4
37	香川	2	3
38	愛媛	3	5
39	高知	2	5
40	福岡	7	12
41	佐賀	1	4
42	長崎	4	7
43	熊本	3	6
44	大分	3	5
45	宮崎	3	5
46	鹿児島	5	10
47	沖縄	2	5
計		188	370

	政令指定都市	小学校	中学校
1	札幌市	1	2
2	仙台市	1	2
3	さいたま市	1	2
4	千葉市	1	2
5	横浜市	1	2
6	川崎市	1	2
7	新潟市	1	2
8	静岡市	1	2
9	浜松市	1	2
10	名古屋市	1	2
11	京都市	1	2
12	大阪市	1	2
13	堺市	1	2
14	神戸市	1	2
15	広島市	1	2
16	北九州市	1	2
17	福岡市	1	2
計		17	34

合計	205	404

Ⅲ．調査対象数と回答率

教師に対する調査は、全国の公立の小学校から 205 校（約 1%）、中学校から 404 校（約 4%）の学校をそれぞれ無作為抽出し、小学校については、調査対象校の教務主任及び第５学年の学年主任に、中学校については、調査対象校の国語、社会、数学、理科、英語の主任に回答を求めたものである。

回答率は、小学校 77%（315 票）、中学校国語 80%（322 票）、社会 79%（321 票）、数学 81%（328 票）、理科 81%（326 票）、英語 81%（326 票）となり、教育委員会を通じて行う調査ではなく、学校あてに直接実施する調査としては、高い回答率を得ることができた。これは、Ⅱの４で示した実施方法を取ったことによって効果があったと考えられる。

保護者に対する調査は、小・中学校の調査対象校の中から、小・中学校それぞれ都道府県ごとに１校を無作為抽出し、小学校については、第５学年のうち１学級の児童の保護者に、中学校については第２学年のうち１学級の生徒の保護者に回答を求めたものである。

しかし、実際に保護者に配布した数を確かめていないため、回答率は不明であるが、学校から保護者への依頼率を小学校 90%、中学校 81%と仮定すると、

〈小学校〉

全国の小学校の平均児童数 26 名（１学級）×47 校×0.90＝1100 票

1054／1100 票＝96%

〈中学校〉

全国の中学校の平均生徒数 30 名（１学級）×47 校×0.81＝1142 票

1061／1142 票＝93%

となり、仮定の計算であるが、恐らく、回答を依頼された保護者は、その９割以上が、回答したとみてよいと考える。

（注　このような調査への対応については、中学校は教員の３教科の回答率の 81%を採用した。）

Ⅳ．調査票の概要

今回の調査は、「教師対象調査」と「保護者対象調査」からなる。

１．教師対象調査

小学校教師に対する調査と、中学校教師に対する調査（国語、社会、数学、理科、英語の教科別）からなる。その内容は、小中学校の教師に共通のものと、各教科別のものとに分かれる。

〈小・中学校の教師に共通の設問〉

○　ふだんの授業での教科書や他の教材の使われ方について

○　教科書の、教師が児童生徒に教えるための教材という性格と、ひとりひとりの児童生徒が、自ら学習するための学習材という性格についての考え方

○　教科書の体様（ページ数、カラーページの割合、紙質など、教科書の規格ともいうべきもの）について

○　教科書の無償制、給与制、価格など教科書制度について
○　その他
　回答者についてその属性（勤務校の所在地、所有している免許状、教員歴（年数）、使用している教科書の出版社名、回答者の得意な授業など）について
○　教科書について日頃感じていること、改善すべき点、気がついた点などについての自由記述。

〈教科別の質問〉

①小学校

小学校の教師は、全教科担任のため、ひとりひとりの教師に、国語、社会、算数、理科についてきいた。

国語

小学校の国語教科書について、「読むこと」「書くこと」「話す・聞く」（古典教材を含む）などの内容について

社会

小学校の社会科教科書の現状についての評価、小学校社会科の学習指導要領の目標にてらして役立つものとなっているかどうか、今後の小学校社会科教科書に期待するもの、社会科教科書の使用にあたって重視している場面などについて

算数

小学校算数教科書のあり方について、難しさの程度、作業的・体験的な内容の分量、記述式問題の量、習熟度別指導への対応などについて

理科

小学校の理科教科書に載っている観察・実験を実際の授業で行っているかどうか、それ以外の観察・実験を行っているかどうか問うたうえで、教科書の内容が、さまざまな観点から適切に掲載されているかどうかについて

②中学校

中学校の教師は、教科担任制のため、それぞれの教科の主任にきいた。

国語

○　「読むこと」の教材について、近代古典の名作をもっと取り上げるべきか、説明的文章は、テーマよりも文章構成がわかりやすい方がよいかなど、幅広く読み物教材の取り上げ方などについて
○　中学校の古典教材の扱い方について、小学校に古典教材が入ってくるならば、中学校では現行よりも高度な古典教材とした方がよいかなどについて
○　「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材について、もっとふやした方がよいか、

どのような角度から取り上げるべきかなどについて

○　「漢字、文法、その他の言語事項」の扱いについて、読むことの教材の文脈の中で扱った方がよいかなどについて

社会

○　中学校の社会科の、地理的分野、歴史的分野、公民的分野のそれぞれについて、現在の教科書が、主体的、活動的な学び方を促すような配慮がなされているかなどについて

○　社会科の学習指導において教科書が生徒の興味・関心をひき、学習意欲を促すのに役立っているか、また学習を定着させるための手立てがなされているかどうかなどについて

○　社会科の授業のどのような場面で、教科書が使われているかについて

数学

教科書の程度や定着のため練習問題の数、習熟度別指導への対応など、数学の教科書の編集にあたってのさまざまな要望について

理科

○　理科の教科書に載っている観察・実験授業を実際に行っているか、教科書に載っていない観察・実験を行っているかなど、理科教育の重要なポイントである観察・実験の実情について

○　理科教科書に、生徒の興味・関心を高める内容が適切に掲載されているかなど、現在の教科書の評価について

○　夏休みの自由研究などのために、自由研究のテーマ例の掲載が参考になっているかどうかについて

英語

○　中学校英語科では「聞く」「話す」ことを重点的に行うように構成されているが、「読む」「書く」とのバランスをとる必要があるかどうかなどについて

○　中学校英語科の 900 語程度の語彙の増減について

○　中学校英語科では、どのような場面で使える英語を教えるのかなど、いわゆる言語項目が指定されているが、これを精選すべきか、ふやすべきかなどについて

２．保護者対象調査

保護者に対する調査は、小学校の保護者と中学校の保護者に対する質問が同じである。

○　保護者の教科書への関心の度合いについて（４段階）

○　生涯学習と教科書という観点から保護者の興味関心や勉強のために、教科別に子どもの教科書を読んだり見たりすることがあるかどうかについて

○　教科書への関心度と合わせて家庭での子どもの様子や家庭学習などについて

○　子どもの日頃の教科書の取り扱い方について
○　子どもの学習にあたっての保護者の対応の仕方について
○　教科書の内容についての保護者の評価や教科書の編集にあたってのアイデアについて
○　教師と同様に教科書の体様（ページ数、カラーページの割合、紙質など、教科書の規格ともいうべきもの）について
○　教師の場合と同様に教科書の無償制、給与制、価格など教科書制度について
○　その他　回答者の性別について
○　教科書について日頃感じていること、改善すべき点、気がついた点などについての自由記述

（藤村和男）

第２章　調査結果の分析

Ⅰ．調査全体を概観して

本調査は、平成 19 年度中に行なわれることが予想された学習指導要領の改訂に合わせて、小学校と中学校の教科書についての教師の意識及び保護者の要望を把握し、新たな教科書の編集に役立たせるために、(財)教科書研究センターが(社)教科書協会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会の協力を得て実施したものである。

調査の内容などの検討及び結果の分析・考察は、主として大学に籍を置く学識経験者、教科書発行会社、小・中学校の教員ＯＢなどによって構成される委員会において行なわれた。

調査は、無償性、給与制・貸与制など教科書発行の制度にかかわる側面と構成・体裁など教科書自体に関する側面の両面について、小・中学校の教師と小・中学校の児童生徒の保護者を対象とする質問紙法によって実施した。調査対象は、全国の小・中学校から無作為で公立小学校 205 校、公立中学校 404 校（抽出率小学校約 1%、中学校約 4%）をまず抽出し、教師については、小学校は教務主任と第５学年の学年主任（またはこれに代わることのできる教師）410 名、中学校は国語・社会・数学・理科・英語の教科主任各教科 404 名（合計 2020 名）を抽出した。保護者については、各県小・中学校各１校を無作為抽出し、小学校は第５学年（または第４学年か第６学年）の１学級分（26 名）の保護者 1222 名、中学校は第２学年（またはこれに代わる学年）の１学級分（30 名）の保護者 1410 名を抽出した。

質問紙は、平成 19 年 9 月 21 日に各学校に郵送し、回収締切りを 10 月 31 日として学校で回収をし、まとめて返送してもらった。回収率は、教師は８割前後、保護者は学校からの想定依頼率を小学校 90%、中学校 81%として、それぞれ 96%、93%という高い比率であった。教師の場合には、昨今学校や教員に対する調査依頼が多い中で、このように回収率が高かったことは、校長会の協力を得たこと、主任クラスを対象に選定したことなどの配慮をしたこともあるであろうが、これだけ回収率が高かったことは、教師、保護者ともに教科書について高い意識・関心があるということの左証であろう。そのことは多くの回答者が自由記述欄に教科書の具体的な改善点について貴重な意見を書いていることからもうかがえる。採択の自由がない個々の教師にとって教科書はいわば与えられたものであるということから、特に改善についての意見・要望は従来特に表明されていないが、この度の調査をみると、教師は教科書の改善について、日常の授業などでの使用体験に基づいて、いろいろと意見をもっていることがわかる。

また、保護者の場合には、子どもの教育は学校まかせ、塾まかせであるとよく言われていることなどから、教科書にはそれほど強い関心・要望をもっているとは予想していなかったのであるが、教師の場合と同じように、回収率が高いだけでなく、多くの貴重な意見・要望が記述されていた。このことについて調査委員会では、調査の実施時期に、教科書における沖縄戦にかかわる記述をめぐることが問題となっていたことも関係があるだろう

か、ということが話題になったが、このような内容にかかわることは全く記述されてはいなかったことなどから判断するならば、やはり、日常における宿題や家庭学習への保護者としての対応のなかで、教科書についての関心がそれなりに高くなっていたということであろう。

調査の標本（サンプル）は全国から無作為で抽出したこと、回収率が高率であったことから、回答結果は、教師および保護者全体の意識・要望をほぼ反映しているといってよく、これからの教科書のあり方を検討する際の貴重かつ重要なデータとなるものと思われる。

制度に関する回答には、例えば、貸与制への指摘率が比較的高かったように、現行の国の政策とは異なる意識傾向もみられたが、これは「主たる教材」としての教科書を内容的にもっと充実させるべきであり、その場合にはコストも高くなるであろうという判断からの意識と考えられる。

教科書研究センターにおいては、これまで教科書の改善を目的として、数多くの調査研究が行なわれてきた。最近 20 年の総合的な調査研究としては以下のようなものがある。(括弧内の年次は最終研究成果報告書の発行年）いずれも文部科学省の科学研究費の補助金を得て行なわれたものである。

（ⅰ）教科書の質的向上に関する総合的調査研究（平成元年 3 月）

（ⅱ）「学習材」としての教科書の機能に関する基礎的研究（平成 7 年 3 月）

（ⅲ）学校教育における教科書の体様とその教育効果に関する調査研究(平成 12 年 3 月)

（ⅳ）小・中学校の教科書の読みやすさ・わかりやすさに関する調査研究（平成 16 年 3 月）

（ⅰ）は、①教師・児童生徒の教科書の利用状況・使用経験の実態とそれに基づく教科書観・教科書への要望等についての全国的調査、②諸外国（アメリカ・イギリス・西ドイツ・フランス・ソビエト・スウェーデン・韓国・中国等）における教科書に関する諸制度、利用状況、改善動向の調査、③戦前・戦後の教科書比較調査を行ない、それらを総合して社会の変化に対応した教科書改善の方途について考察・提言を行ない、今後の研究課題を明らかにしている。この調査研究は、昭和 62 年 5 月に教科書研究センターがまとめた報告『教科書の内容・体様の改善について』において、教科書は児童生徒にとって学習材でなければならないという認識が必要であることが指摘されたこと、さらに『臨教審第３次答申』(昭和 62 年 4 月）において、「教員が指導のために使用する教材としての性格よりも児童・生徒が使用する学習材としての性格を重視する」と提言したことなどを踏まえて行なわれ、「主たる“学習材”としての教科書の可能性の探究と研究は、これからの教科書研究の大きな課題である」と提言している。

（ⅱ）では、この研究・提言を踏まえて、国際的・総合的な立場から、児童・生徒の使用する「学習材」としての教科書の機能について、理論的・実証的な基礎研究を行ない、今後の望ましい教科書の役割や在り方を究明している。「学習材」の機能としては、学習意欲喚起機能、学習課題提示機能、学習方法提示機能、学習の個性化・個別化機能、学習定着機能の４機能が求められていることが示唆されている。

（ⅲ）は、学習メディアの多様化や学校週５日制の実施などによって急激な変化が進む学習環境に、主たる教材であり、教師のための教材であると同時に、児童生徒のための学習材として重要な役割を担う印刷メディアとしての教科書が、どのように対応し、どのように変化していくべきかという点、特に、その体様（装丁、判型、ページ数、重さ、活字

の大きさ・並べ方、色度数、写真、挿絵、図表など）が、多種多様な情報メディアに囲まれた児童生徒の学習意欲を喚起し、教育効果を高めるためにはどうあるべきなのかといった点を明らかにすることを目的として、国内の教師および児童生徒に対する質問紙調査と国際比較研究調査（対象国は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、韓国）によって行なわれている。

（ⅳ）は、現行教科書が児童生徒の側からみると、必ずしも読みやすい、わかりやすい教科書になっていない（いいかえるならば、学習材になっていない）のではないかという問題意識にたって、アメリカの教科書の編集基準のひとつになっている readability（読みやすさ）といった概念などを念頭において行なった研究である。研究成果報告書には、記述例を開発し、それを現行の教科書の記述と比較しての児童生徒と教師に対する質問紙調査の分析、アメリカ、イギリス、フランスの教科書との比較などがもりこまれている。

本章は、以上のような先行研究や学習指導要領の改訂などをも視野に入れて調査内容の検討を行い、教師と保護者を対象とする質問紙法によって実施した全国調査の結果分析である。Ⅱは、調査対象とした５つの各教科（国語、社会、算数・数学、理科、英語）の教科書についての教師の意識などを分析したものである。調査項目は、各教科に共通のものと各教科固有のものと両方から構成されているが、考察は、まず共通の項目について行い、その後で各教科固有の質問項目についての分析を考察している。なお、教科書についての調査であるので、英語については中学校のみの考察である。

Ⅲは、保護者の回答結果の分析である。考察は小学校の保護者と中学校の保護者について別個に行なっている。教師の場合のように、教科ごとに個別の質問紙を作成して回答してもらってはいないので、教科間の比較は行なっているが、教科別には考察してはいない。

Ⅳは、内容の構成・デザイン、堅牢性、書き込み・貼り付け・切り取りという教科書の体様についての回答結果の分析である。内容の構成・デザインについては、ページ数、カラーページの割合、堅牢性及び判型については教師と保護者の両方に質問しているが、本文の分量、発展的な学習内容の分量、注・コラム・資料などの分量、さし絵・図・表・写真の大きさ、文字の大きさについては教師にだけ質問している。また、「観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数」のように特定の教科にかかわる点について教師に質問している。

Ⅴは、無償性、給与制及び定価という教科書制度に関する教師及び保護者の回答結果の考察である。

以上の諸側面についての以下の分析・考察を概観すると、全体として現状は肯定されているが、多くの改善の視点や方向が示唆されている。例えば、教師と保護者の両方に共通してみられる全教科にかかわる点として印象的なのは、必要以上にカラフルになっているのではないかという意見である。これは検定、無償での給与という現在の教科書発行制度のもとで、色度数など体様が自由化されていることなどから必然的に生まれている状況であると思われる。内容はもちろん体様などの側面についても、教育効果、学習効果という面から更なる実証的な調査研究が求められる。

（新井郁男）

Ⅱ．教師と教科書

１．各教科の視点から

１．１　国語

（１）〈小中学校の教師に共通の設問〉についての分析

１）ふだんの授業での教科書の使い方（質問１）

表１　ふだんの授業での教科書の使い方

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は％）

ふだんの授業での教科書の使い方	国語･小	国語･中	社会	算数	理科
教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う	24.8	10.2	4.1	25.7	22.5
教科書を主に使うがその他の教材もところどころ使う	71.4	87.0	66.3	68.3	61.3
教科書とその他の教材を半々程度使う	0.6	1.2	22.9	3.2	9.5
教科書をところどころ使うがその他の教材を主に使う	－	－	4.1	1.6	2.5
教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う	－	－	－	－	－

※社会、算数、理科は小学校

小学校では「教科書を主に使うがその他の教材もところどころ使う。」と答えた教師が71.4％と最も多く、「教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。」と答えた教師が 24.8％と、それに次いでいる。この二つを合わせると 96.2％になり、４教科の中で国語がいちばん高い比率になる。逆に教科書以外の教材を使う比率は４教科の中で国語が最も少ない。中学校では「教科書を主に使う」が 87.0％と小学校よりも多く、「教科書だけを使う」が 10.2％と小学校よりも少ないが、計 97.2％はやはり４教科中いちばん高い比率である。

教師の教員歴とのクロス集計を見ると、特に顕著な差ではないが、31 年以上の教員歴を持つ教師において「教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。」という回答の比率が低い点が目につく。小学校では 13.8％、中学校では 5％という数値である。

この回答から浮かび上がるのは、国語の授業における教科書が果たす役割の大きさである。小学校も中学校もほとんどの教師が教科書を中心に授業を組み立てているが、これは国語の特性だと言えるだろう。たとえば「読むこと」の学習を考えてみれば、まず「教科書教材を読む」ことが必要不可欠だからである。教科書を使わずそれ以外の文章を読ませて指導するというのはよほど教師に強い確信と技量がなければできない話だろう。(ただし教員歴が長ければ教科書教材に代わる自主教材があるというケースがクロス集計の結果から推測できるが。）また、国語は教科書以外の副教材の必要性が他教科ほどない、という事情もあるだろう。

２）使いたい教科書（質問２）

表２　使いたい教科書

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

使いたい教科書	国語･小	国語･中	社会	算数	理科
教えるための性格が強い教科書	7.0	6.2	1.0	8.6	1.3
どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	35.2	31.4	14.6	35.2	15.9
自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	4.8	2.8	16.2	5.1	13.3
どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	5.4	2.2	17.5	6.0	13.7
教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書	45.7	55.9	49.5	44.1	53.7

※社会、算数、理科は小学校

「教材と学習材両方のバランスが保たれている教科書」を望む声が 45.7%（小学校)、55.9%（中学校）と最も多く、「どちらかというと教えるための教材としての性格が強い教科書」を望む声がそれに次いで 35.2%（小学校)、31.4%（中学校）である。

小学校の場合、他教科と比較すると、４教科とも教材と学習材のバランスが保たれている教科書を望む声がいちばん多く半数程度を占めているが、国語と算数の２教科は社会・理科の２教科と比べるとその比率は多少低くなり、その分教材としての性格が強い教科書を望む声の比率が高くなっている。

また「ふだんの授業での教科書の使い方」とのクロス集計を見ると、多数派である「教科書を主に使うが、その他の教材もところどころで使う。」と答えた教師が望む教科書像はほぼ全体の傾向と一致するが、「教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。」と答えた教師の望む教科書像は「バランスが保たれている教科書」よりも「教材の性格が強い教科書」だということがわかる。

中学校では、教えるための教材としての性格の教科書が小学校に比べて低くなり 31.4%となっているけれども、これはおそらくワークブックなどの用意による影響や家庭学習を課さない傾向が反映しているものと考えられる。

表３　「使いたい教科書」と「ふだんの授業での教科書の使い方」のクロス集計〈国語・小〉

（表中の数値は%）

	教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う	教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う
調査数（件）	78	225
教材と学習材両方のバランスが保たれている教科書	37.2	48.9
教材の性格が強い教科書（「どちらかというと…」も含めて）	60.3	37.8

ここで「教材」「学習材」という言葉が国語科の教科書でどのようにとらえられているのか考えてみたい。「読むこと」の学習でいえば、詳細な手引きがあってそれに沿って指導していけば読解力がつく、といったタイプは「教材」ととらえられるし、これに対して「学習材」となると、自分で課題を見つけ、追求し、解決する、といったタイプになるだろう。また「学習材」という考え方には、子どもの一連の学習の中における一つの材料というとらえ方があるだろう。つまり教科書教材を読むことは一つのきっかけであり、さらに別の文章を読み、相互を対比して自分の考えを深める、といった学習を展開する場合である。これに対して「教材」はそれを読むことそのものが学習の中心になるという考え方になる。

以上のようなとらえ方を前提として、国語科では教材としての性格を支持する声も一定程度あるという点を念頭に置くべきであろう。「教材」という従来の考え方に対して「学習材」という新しい考え方があり、それは「自ら学び自ら考える」という新しい学力観につながるものであるが、その方向性は認めるものの、一方で「教えるべきものは教える」という側面も重視しなければならない、というのが教師の思いなのだろう。

３）内容の構成やデザイン（質問３-Ａ）

①ページ数（Ａ-１）

表４　ページ数

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
国語・小	73.7	20.3	4.1	1.9
国語・中	70.8	14.3	13.7	1.2
社会	66.3	26.3	4.1	3.2
算数	64.8	33.7	1.0	0.6
理科	64.1	33.7	0.6	1.6

※社会、算数、理科は小学校

小学校の国語は、ページ数について「現行程度でよい」が 73.7%で最も高く、「増やす」が 20.3%、「減らす」が 4.1%という比率である。他教科と比較すると、社会では「現行程度でよい」66.3%「増やす」26.3%、算数では「現行程度でよい」64.8%「増やす」33.7%という比率になっており、国語以外の教科のほうがページ数増を望む傾向が強いと言える。

他教科と比べて分量を増やしてほしいという声がやや少ないという点にも、国語の特性が感じられる。教科書の分量が増えることを望む要素として、(a)教材を増やす、(b)説明を丁寧にする、(c)練習量を増やす、(d)資料を増やす、などが考えられるが、他教科に比べて(b)(c)(d)の要素が国語ではそれほど強く求められていないのだろう。

なお、ページ数について教員歴とのクロス集計を見ると、次のようになる。

表５　「ページ数」と「教員歴」のクロス集計〈国語・小〉

（表中の数値は%）

	～10 年	11～20 年	21～30 年	31 年～
調査数（件）	29	90	165	29
現行程度でよい	79.3	77.8	70.9	69.0
増やす	13.8	18.9	21.8	24.1

以上のように、教員歴が長くなるとページ数増を望む意見が強くなる傾向が見られる。また、得意科目とのクロス集計では、国語の授業が得意だと答えた教師は「現行程度でよい。」63.5%、「増やす」31.2%と、やはりページ数増を望む意見が強くなることがわかる。

表６　「ページ数」と「教員歴」のクロス集計〈国語・中〉

（表中の数値は%）

	～10 年	11～20 年	21～30 年	31 年～
調査数（件）	71	89	129	20
現行程度でよい	74.6	69.7	68.2	65.0
増やす	15.5	19.1	10.9	20.0

中学校の場合でも教職歴の長さが教材の長さを求める傾向が見られる。とくに経験年数の浅い教員の場合は，おそらくは教材の処理について不慣れなため，時間的に取り扱えない教材の増えることへの危惧がこうした反応につながっていると考えられる。

注目すべきは漸増ではなく，「21～30 年」の教員歴の教師が「増やす」ことに消極的である点である。中堅教員としての多忙がもしかすると新任教員に近い心理的抑制をもたらしているためとも考えられる。もしくは「ゆとり教育」の渦中で新任期を送った「11～20 年」の教員には，教材の不足が学力低下の原因となっているという観念が強く，増加を望んでいるという見方もできるかもしれない。

②カラーページの割合（A-２）

表７　カラーページの割合

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	教科書は全ページ､カラーがよい	現行教科書ほどカラーページは必要ない	図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい	無回答
国語・小	34.3	6.0	57.5	1.6
国語・中	19.6	11.5	68.0	0.9
社会	50.8	4.8	42.9	1.6
算数	39.0	7.3	53.0	0.6
理科	60.6	2.5	35.2	1.6

※社会、算数、理科は小学校

カラーページについては「必要な部分だけカラーであればよい」がいちばん多く、小学校は 57.5%、中学校では 68.0%である。

小学校の場合、社会や理科では「全ページ、カラーがよい」という意見の比率が「必要な部分だけカラーであればよい」を上回っているが、国語ではそうした傾向は見られない。４教科の中で「全ページ、カラーがよい」の比率がいちばん低いのが国語である。

国語では他教科よりもビジュアル面の工夫がそれほど求められていないと言えそうである。理科や社会の場合、写真や図表などはそれ自体が中心となる教材であり、カラーであることの必要性が高いが、国語の場合はあくまでも言葉が主体であって挿絵や図表はそれを補うものであり、カラーである必要性もそれほどないと考えられているからだろう。

中学校の場合、カラーページに対する支持はさらに低い。現行の教科書はほとんど全ページがカラーだと言ってよいが、全ページカラーを支持する（19.6%）のは２割を下回り、現行ほど必要ない（11.5%）、必要な部分だけカラーであればよい（68.0%）と比較して、中学校ではビジュアル化より内容の充実を求める傾向が強いことを物語っている。

③本文／発展的な学習内容／注、コラム、資料などの分量（A-３／A-４／A-５）

表８　本文の分量

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
国語・小	72.1	20.6	5.4	1.9
国語・中	64.3	24.5	9.3	1.9

表９　発展的な学習内容の分量

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
国語・小	63.8	21.6	12.4	2.2
国語・中	68.0	12.1	18.6	1.2
社会	58.7	32.1	7.0	2.2
算数	51.7	37.8	9.8	0.6
理科	52.4	40.6	5.4	1.6

※社会、算数、理科は小学校

表 10　注、コラム、資料などの分量

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
国語・小	61.3	32.7	3.5	2.5
国語・中	71.1	22.7	5.3	0.9

教科書の分量について、さらに「本文」「発展的な学習内容」「注、コラム、資料」と分類して質問している。

小学校の場合、「本文」についての回答の比率はＡ−１の「ページ数」の比率とほぼ同じである。「発展的な学習内容の分量」については、やはり「現行程度でよい」が 63.8%でいちばん多いが、「減らす」という回答が 12.4%と多少増えているのが目につく。他教科に比べて高い比率だが、国語では「学習指導要領の範囲を超える」発展的学習の必要性が他教科ほど感じられないということだろう。

これとは逆に「注、コラム、資料などの分量」では、「現行程度でよい」が 61.3%と多いが、「増やす」という回答が 32.7%と増えている。以前の子どもたちが理解できていた語彙が今の子どもたちは理解できないといった声が聞かれるので、同じ文章でも以前よりもっとていねいな注が必要だと感じているのかもしれない。

小学校と比較して中学校は現行のままでよいという意見が７割を占めており、大幅な変動は求められていないようである。

④さし絵、図、表、写真などの大きさ／文字の大きさ（Ａ−６／Ａ−７）

表 11　さし絵、図、表、写真などの大きさ（Ａ−６）

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
国語・小	84.4	10.8	2.2	2.5
国語・中	82.3	8.1	9.0	0.6

表 12　文字の大きさ（Ａ−７）

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
国語・小	93.3	3.2	1.6	1.9
国語・中	93.2	2.2	3.7	0.9

二つの質問とも「現行程度でよい」という意見が多数であり、小学校・中学校ともに同様の傾向を示している。小学校の場合、他教科と比較してみると国語では「さし絵、図、表、写真などを大きくする」という意見が少ないことが目を引く。

中学校も小学校とほぼ同じ意見が多数を占めている。

⑤判型（A－8）

表 13　判型

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
国語・小	85.4	11.4	1.3	1.9
国語・中	69.6	5.0	24.8	0.6

判型について、小学校では「現行程度がよい」が多数であり、A－6「さし絵、図、表、写真などの大きさ」の回答と同様の分布を示しているが、中学校では「現行程度がよい」がいちばん多いものの「小さくする」も 24.8%と比較的多い。これは現行の中学校国語科教科書の多くがＡ５判からＢ５判になったことへの反応で、現場では多少とまどいがあるように見受けられる。

４）堅牢性（質問３－Ｂ）

表 14　表紙の厚さ（Ｂ－１）

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	厚いハードカバーにする	薄くする	無回答
国語・小	98.7	0.6	0.3	0.3
国語・中	98.1	－	0.9	0.9

表 15　本文の用紙の厚さ（Ｂ－２）

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	厚くする	薄くする	無回答
国語・小	98.4	1.0	0.3	0.3
国語・中	94.7	1.6	2.8	0.9

表 16　製本（B－3）

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	厚くする	薄くする	無回答
国語・小	95.9	3.5	－	0.6
国語・中	95.0	3.4	0.6	0.9

堅牢性についての質問は、小学校では教科を特定せずにたずねているが、どの項目も「現行程度でよい」が大多数である。中学校の国語でも同様の分布を見せている。

5）書き込み、貼り付け、切り取りなど（質問3－C）

表 17　書き込み、貼り付け、切り取りなど

国語・小学校 N=315　国語・中学校 N=322

（表中の数値は%）

	国語・小	国語・中	社会	算数	理科
書き込み、貼り付けなどは現行の教科書程度あればよい	63.8	53.1	57.8	63.8	58.7
書き込み、貼り付けなどは現行教科書より増やしたほうがよい	16.8	14.9	24.4	19.7	24.1
書き込み、貼り付けなどは現行教科書より減らしたほうがよい	6.0	7.1	6.7	8.6	5.1
書き込み、貼り付けなどは必要ない	11.1	23.3	8.9	7.7	9.2
無回答	2.2	1.6	2.2	1.0	2.9

※社会、算数、理科は小学校

小学校では「現行程度あればよい」が 63.8%といちばん多く、「増やしたほうがよい」が 16.8%、逆に「減らしたほうがよい（あるいは必要ない)」という意見が 17.1%ある。４教科を比較すると、「現行程度あればよい」がいちばん多いのは同じだが、「増やしたほうがよい」という声は国語がいちばん少なく、「減らしたほうがよい（あるいは必要ない)」は国語がいちばん多いという結果である。

1）「ふだんの授業で教科書の使い方」とのクロス集計を見ると、「教科書だけを使う」と答えた教師は書き込みや貼り付けなどを「減らす」という意見が強く、「その他の教材もところどころ使う」と答えた教師は「増やす」という意見が強い傾向が見られる。また、2）「使いたい教科書」との比較では、「教材としての性格」を求める教師は「減らす」という意見が強く、「教材と学習材のバランス」を求める教師は、「増やす」という意見が強い傾向がある。

表 18　「書き込み、貼り付け、切り取りなどについて」と「ふだんの授業での教科書の使い方」「使いたい教科書」のクロス集計〈国語・小〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	書き込み、貼り付けなど		
		現行程度あればよい	増やしたほうがよい	減らしたほうがよい（あるいは必要ない）
教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う	78	69.2	12.8	17.9
教科書を主に使うが他の教材もところどころ使う	225	64.0	18.7	16.4
教材として性格が強い教科書	133	67.7	13.5	18.0
教材と学習材のバランスが保たれている教科書	144	63.9	18.1	16.7

（２）〈教科別の質問〉についての分析

１）小学校

①教科書への要望（質問４）

表 19　教科書への要望〈国語・小〉

N=315（表中の数値は%）

「話す・聞く」教材ではもっと児童の生活の場に即したものにしてほしい	24.1
「話す・聞く」教材ではもっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい	46.7
「書く」教材では実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい	30.2
「書く」教材では物語などの創作がもっと行えるようにしてほしい	19.4
文学的文章では定番教材を今後とも維持してほしい	55.9
文学的文章では長編の作品も教材にしてほしい	21.0
説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい	38.4
「読むこと」の教材では批判的な読解力が身につくような教材を充実させてほしい	19.7
漢字については教材の配列にしたがうだけでなく系統立てて学習できるようにしてほしい	26.7
漢字については振り仮名つきで多くの漢字を教科書に提出してほしい	10.8

※３項目選択

「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」という国語科の全領域・事項に関わる意見が例示されており、そこから国語教科書に特に望むものを３つ選ぶという質問になっている。それぞれの領域について要望はあるはずだが、３つと限定することで要望の強いものが浮かび上がることを期待している。ちなみに 315 名の回答者のほとんどが例示された中から３つ選んでいる。要望の強い順にあげると以下のようになる。

表 20　教科書への要望の順位〈国語・小〉

N=315（表中の数値は%）

(1)	文学的文章では定番教材を今後とも維持してほしい。	55.9
(2)	「話す・聞く」教材では、もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい。	46.7
(3)	説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい。	38.4
(4)	「書く」教材では、実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい。	30.2
(5)	漢字については教材の配列にしたがうだけでなく系統立てて学習できるようにしてほしい。	26.7

※３項目選択

文学的文章の定番教材の維持を半数以上の教師が望んでいる。また(1)(3)という「読む」領域で教科書に対する要望が強いことがわかる。ただ、同じ「読む」でも昨今PISA型として注目を集める「批判的な読解力がつくような教材」を望む声は意外に少ない。

ほかには「話す・聞く」領域で、「話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい」という要望が強いことが特筆される。

教員歴とのクロス集計を見ると次のようになる。

表 21「教科書への要望」と「教員歴」のクロス集計〈国語・小〉

（表中の数値は%）

	全体	～10年	11～20年	21～30年	31年～
調査数（件）	315	29	90	165	29
(1)文学的文章では定番教材を今後とも維持してほしい。	55.9	44.8	56.7	57.0	62.1
(2)「話す・聞く」教材では、もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい。	46.7	51.7	41.1	51.5	31.0
(3)説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい。	38.4	24.1	38.9	40.6	41.4
(4)「書く」教材では、実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい。	30.2	34.5	32.2	28.5	27.6
(5)漢字については教材の配列にしたがうだけでなく系統立てて学習できるようにしてほしい。	26.7	31.0	18.9	27.9	41.4

11～20 年と 21～30 年の教師の要望は上記の(1)(2)(3)という順序通りだが、10 年以下の教師は(2)の話す聞く教材の改善を求める声がいちばん多く、31 年以上の教師では(2)が少なくなって、その分(3)の説明文教材や(5)の漢字学習についての要望が多くなる。なお教師の得意教科の違い、使用している教科書の違いを見ても、上記の(1)(2)(3)という要望の順序は変わらない。

この質問でとりわけ注目すべきなのは、「文学的文章では定番教材を今後とも維持してほしい」という回答がいちばん多い点だろう。現行の学習指導要領では文学教材の詳細な

読解が批判され、「読むこと」よりも「話すこと・聞くこと」「書くこと」にもっと重きを置くこと、さらに「読むこと」でも文学教材ではなく説明文教材に重きを置くことが示唆されたわけだが、そうした状況の中で「文学的文章の維持」という要望がいちばん多かったという事実はさまざまなことを考えさせる。

学習指導要領の方向性を理解したうえで、文学教材の「詳細な読解」は改善しなければならないが、文学教材自体はやはり重視しなければならない、というのが教師の考えではないだろうか。自由記述の「文学作品で子どもたちの心のケアがなされる学習を大切にしていきたい」「すばらしい文学との出会いは一生の宝物になる」という意見にあるように、文学作品には国語だけに留まらない教育的価値があるという考えも背景にあるように思う。

また、ここでは文学的文章について「定番教材を維持してほしい」という要望が支持されていることも考えるべき点であろう。文学教材への要望としてこれと対をなすものを想定するなら、「定番作品ではなく、現代の子どもたちに合った新鮮な教材を入れてほしい。」ということになるだろうが、それよりも定番教材の維持を望む背景には、自分が扱いなれた教材を使いたいという思いもあるだろうし、子どもの心に届く力ということになると、やはり定番教材が強い、という思いもあるのではないだろうか。

もう一点ここで指摘したいのは、この回答がおそらく現行の学習指導要領に沿って行われた現実の教科書改訂に対する教師のとらえ方の反映だろうという点である。実際このところの改訂で教科書から文学教材の数が減っているわけだが、次の改訂でさらに数が減ったり定番教材がなくなったりすることを教師は望んでいないことが読み取れるだろう。

文学的文章についての要望がいちばん高く、説明文についての要望も第３位にあるということから、教科書では「読むこと」の領域が重視されているということも言える。説明文について例示した要望は「テーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい」というもので、それほど多くの教師が望んでいるわけではないが、これと対になる要望を想定すれば「文章構成よりも子どもの興味関心に訴えるテーマを大切にしてほしい」ということになり、こちらのほうに賛同する教師が相当数いるのではないかと推測される。

ただし同じ「読むこと」でも、新学習指導要領の一つの方向だと思われる「批判的な読解力」について、それが「身につくような教材を充実させてほしい」という要望は 19.7％と意外なほど多くない。国語が得意だと答えた教師でも 23.9％である。PISA型読解力として話題になっていることではあるが、現実には批判的読解力を育てることが急務であると考えている教師はそれほど多くないようである。批判的読解力を育てる前に基礎基本の定着をもっと図らなければならないと考える教師が多いのかもしれない。

「読むこと」以外の領域では、10 年以下の教師で「『話す・聞く』教材ではもっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい」という意見がいちばん多いのが目を引く。これは教員歴の短い教師に教材派が多いということと関連していると考えられる。「話す･聞く」学習では国語科として何を教えるかが難しいという声をよく聞くが、何を教えるかをはっきりさせることが「教えたい」と思う 10 年以下の教師にとって大きな問題なのであろう。

②古典教材（質問５）

表 22　古典教材〈国語・小〉

N=315（表中の数値は%）

遊びの中で古典に触れさせるようにしたい	90.8
原文の意味の理解ではなく音読や暗唱をさせればよい	36.8
原文の理解より「あらすじ」がわかればよいので現代語訳で読ませればよい	16.5
原文と現代語訳の丁寧な対照が必要である	28.9
古典作品の背景についての説明は必要である	35.2
無回答	1.6

※複数選択

新学習指導要領で小学校に古典教材が導入されることが予想されることから、どんな教材化を望むかをここでは質問している。「遊びの中で古典に触れさせるようにしたい」が90.8%であり、これがほとんどの教師の意見であることがわかる。

次いで多いのが「原文の意味の理解ではなく音読や暗唱をさせればよい」で 36.8%、その次が「古典作品の背景についての説明は必要である」の 35.2%だが、いずれもそれほど多数の声とは言えない。「音読や暗唱をさせればよい」というと「それでは意味はまったく理解しなくてよいのか」という疑問が頭を持ち上げるのだろう。

教員歴とのクロス集計を見ると、「音読や暗唱をさせればよい」という意見を教員歴 30 年までの教師は支持するが、31 年以上の教師はそうでもないという傾向が見て取れる。また教員歴が短い教師は「現代語訳で読ませればよい」と考える人もある程度いるが、教員歴が長くなるにしたがって「現代語訳との丁寧な対照」や「背景について説明」が必要だと考える人が多くなるように見受けられる。

表 23　「古典教材」と「教員歴」のクロス集計〈国語・小〉

（表中の数値は%）

	全体	～10 年	11～20 年	21～30 年	31 年～
調査数（件）	315	29	90	165	29
遊びの中で古典に触れさせるようにしたい	90.8	86.2	88.9	93.3	89.7
原文の意味の理解ではなく音読や暗唱をさせればよい	36.8	34.5	40.0	37.0	31.0
原文の理解より「あらすじ」がわかればよいので現代語訳で読ませればよい	16.5	24.1	14.4	17.0	10.3
原文と現代語訳の丁寧な対照が必要である	28.9	17.2	26.7	30.3	41.4
古典作品の背景についての説明は必要である	35.2	24.1	25.6	38.8	58.6

いずれにしても、ここでは「遊びの中で古典に触れさせるようにしたい」という意見が圧倒的に強いことに注目したい。「遊び感覚で楽しく古典に触れる」というのが今後の小学校における古典の教材化として心がけなければならない点であることは間違いないだろう。

２）中学校

①「読むこと」の教材（質問４）

表 24　「読むこと」の教材〈国語・中〉

N=322（表中の数値は%）

文学的文章の教材数をもっと増やしてほしい	40.1
漱石や鷗外などの近代古典の名作をもっと位置づけてほしい	42.9
現代の中学生の生活や心情に合うような新鮮な作品をもっと位置づけてほしい	40.4
わかりやすい作品より読み応えのある作品を位置づけてほしい	38.8
説明的文章の教材数をもっと増やしてほしい	12.7
説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい	56.2
図版やグラフなどを参照しながら内容を読み取るような説明文を位置づけてほしい	44.1
完璧で優れた文章よりも、批判的な読解力がつくような文章を教材にしてほしい	9.3
ブックトークや読書紹介の活動をもっと教科書に位置づけてほしい	9.0
読書案内でもっと多くの本を紹介してほしい	14.3
無回答	1.6

※複数選択

中学校では文学的文章への期待が依然大きいことがうかがえる。と同時にPISA型読解力の関係もあってか、説明的文章では構成に注目した教材が期待されていることが判明した。

②古典の扱い（質問５）

表 25　古典の扱い〈国語・中〉

N=322（表中の数値は%）

小学校に古典が入ってくるならば、中学校では現行より高度な古典教材が望ましい	18.0
小学校に古典が入っても、中学校では現行程度の古典教材でよい	64.3
古典教材に抵抗をなくすために、現代語訳をていねいにつけるべき	24.8
現代語訳があると古典教材を読む力が育たないので、訳注のみにすべき	27.3
古典の学習は音読・暗唱をしっかりやればよい	27.6
時代背景の説明などによって、もっと古典に対する興味付けを図ることが大切	65.8
無回答	0.9

※複数選択

古典教材については、小学校への導入という転機にあってもっと多様な要求を期待したけれども、実際は現行支持のいわば「様子見」の状態であることがうかがえる。逆にこのことは小学校での古典教育が整ってくれば、しだいに中学校の古典教育も変化してくる可能性も示唆しているといえよう。

③「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の教材（質問６）

表 26　「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の教材〈国語・中〉

N=322（表中の数値は%）

「話す・聞く」教材をもっと増やしてほしい	4.0
「話す・聞く」教材では、テーマや話題をもっと生徒の生活の場に即したものにしてほしい	29.2
「話す・聞く」教材では、もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい	44.4
「書く」教材をもっと増やしてほしい	5.0
「書く」教材では、実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい	31.7
「書く」教材では、詩や物語などの創作がもっと行えるようにしてほしい	15.2
「話す・聞く」や「書く」教材は、「読む」教材と関連させて扱えるようにしてほしい	47.5
「話す・聞く」や「書く」教材は、短い時間で扱える練習的な教材を位置づけてほしい	70.5
無回答	0.3

※複数選択

「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に関しては、文学的な創作に比べて「身につける」・「実用的」という実践的な側面が促されるべきだという期待が大きいという傾向がみられる。また技術・スキルの要素が短期間で身につけられる方法論への期待が大きいことも分かった。

④漢字や文法、その他の言語事項の扱い（質問７）

表 27　漢字や文法、その他の言語事項の扱い〈国語・中〉

N=322（表中の数値は%）

漢字は、読むことの教材の文脈の中で提出するほうがよい	48.8
漢字は、漢字学習の系統性を考慮して取り立て教材で扱うほうがよい	26.4
漢字は、振り仮名つきでもっと多くの漢字を教科書に提出してほしい	15.5
文法教材ではもっと練習問題を増やしてほしい	43.8
実際は副教材で指導するので、教科書の文法教材は簡略でよい	21.1
文法教材は何箇所かに分けて配置し、トピックごとに記述するものがよい	18.3
文法教材はどこか１箇所にまとめて設置し、体系的に記述するものがよい	50.3
言語事項の学習では、生徒の語彙を増やすことを重視したい	72.7
言語事項の学習では、外国語との比較で日本語の特質を考えさせるとよい	8.1
言語事項の学習では、コミュニケーションの問題を重視したい	20.8
無回答	0.3

※複数選択

（３）教師の自由記述から

１）小学校

小学校教師の「教科書について日頃感じていること」という自由記述を見ると、次のような意見が多い。

○必要以上にビジュアルを重視すべきではない。

○特に低学年では「遊び」の要素が多すぎる。「読み・書き・計算」の基礎をもっと重視してほしい。

○もっと内容、情報量を増やしてほしい。教師が選択できるようにするとよい。

これらは国語だけでなくすべての教科のついての意見だと考えられる。

一方、特に国語に関するものを抜き出してみると、文学作品をもっと重視してほしいという意見が多く見受けられる。

○文学教材を読み深める学習が少なすぎる。

○文学作品を増やし、子どもたちの心のケアがなされる学習を大切にしていきたい。

○子どもの心の内面に迫る文学教材を維持してほしい。すばらしい文学との出会いは一生の宝物になる

といった具合である。

ほかには次のような意見がある

○物語文の場合、(特に高学年においては) 挿絵は不要だと思う。

○「言葉の広場」などに文法の問題も載せてほしい。

○漢字の筆順が「今まで習った漢字」の中で増えるといい。

○漢字を教えるためのような単元があり、一度にたくさんの漢字を教えなくてはならな

いのはどうかと思う。
○説明文は知的好奇心をくすぐられるものを載せてほしい。
○PISAの学力テストを意識するならば、それに対応する教材を入れてほしい。
○児童が書き込んで学習できるような工夫をしてほしい。説明文など要約させるポイント、構成の図式化等も考えてほしい。
○国語の作文教材は読み取りのような感じで扱いにくい。

２）中学校

中学校の教師の教科書に対する自由記述を概観して多かった意見を集約すると以下の通りである。

○文学的価値の高い資料をもっとのせてほしい。
○近代文学作品が、１学年の教科書では、全くない。文学作品は、生徒たちにとってあまり魅力のないものなのだと聞くが、日本人のものの考え方や感じ方を探るうえで、欠かせないものだと思うので、少々残念である。
○文学教育の衰退を感じます…。
○文学的文章の読解の時間が少ないと感じます。やはり優れた表現に触れるという時間を設定することは大切であると思います。
○……国語の教科書に載っていた文学作品だから大人になっても覚えているということもあります。易しい作品より、心に残る文章にできるだけふれさせて、今後の読書につなげていきたいと考えています。
○「読むこと」の文章が新しくなるたびに軽くなる傾向は好ましくない。学び方の訓練と同時に文章としての格調や文の美しさも母国語として学ばせるものが教科書の役割と考えるから。
○文章が現代の話しことばに近いものが多く、正しい日本語をおさえるには美しい文章により多く出会わせたい。

小学校と同様に、文学的文章の充実を求める声が多く見られる。その一方では、

○現代の中学生が共感を持って読み、考えられるような作品を多く取り入れてほしい。

という見解もあり、名作と最近の話題作との取り合わせを求めている「不易流行」の傾向を読み取ることができる。

また教科書の判の大きさについて、

○特に国語だけかもしれませんが教科書がＡ判からＢ判となり子どもたちの手に取って読むという重さ、大きさにふさわしくないのではないかと思います。
○範読しながり机間巡視するために、もう少し小さくしてほしい。
○前回の改訂から教科書のサイズが大きくなったが、大きくする必要がどこにあったのかわからない。……
○国語の教科書が大きくなって、使いにくくなったと感じている。私個人としては、以前の大きさの方が使いやすさの点から言っても、良かったと思う。
○教科書が大きすぎて、生徒が扱いづらく、教科書の上でノートに字を書く子が多い。
○大判（Ｂ５）の教科書が多くなって、毎日持ち運びするのが苦痛の生徒が多くなって

います。内容は薄めず本は小さく薄くしてほしい。教科書を手に机間巡視をするのも疲れます。

○机のサイズが大きくならないのに教科書が大きくなり、授業中の作業が困難になった。紙質も考え、もっと小型化軽量化を計ってほしい。……

○小学校高学年、中学校の国語Ｂ５はなじまない　手の中におさまりやすい（愛着のある)、従来通りのＡ５がよい

というように、大判への移行に対する抵抗感が中学校では強いことがわかる。

内容面からは、

○……教科書が絵本化して、さし絵や図が多く、またカラー版で色鮮やかすぎると思います。もっと文字を中心にそこから内容を読み取り、想像力を広げることができるような教材にしてほしいと思います。せめて一作品は、さし絵など一切ないものを強く希望します。「わかりやすい」ということも大切ですが「難しい」というより「読みごたえのある」作品にじっくり向き合わせたいです。文字ばなれが進み、携帯小説のような安易な文章に流れがちな子ども達に、教科書の中でしか出会うことのない作品に出会わせることが大切なのではないでしょうか。

○教科書の装訂が、最近、低レベル化している。カラー挿絵や、大きすぎる挿絵が多すぎて、かえって生徒の想像力を退化させているように感じる。

という文字重視の見解もある一方で、一部にはビジュアル化への歓迎の意見もみられる。

○教科書の内容は、ずい分わかりやすく、親切になったと思う。ビジュアル化し便覧のように見やすい大きさ、しかし、基本的なテキストとして本文の価値が安定しているものが、教えやすいと思います。

（４）国語教科書に対する保護者の意見

１）小学校

「保護者と教科書」については本報告書の別項目で述べているが、国語教科書に対する保護者の意見をここで分析しておきたい。

質問１の「教科書への関心」で保護者が「じっくり見たことがある」という回答でいちばん多いのが国語（12.0％）である。さらに、次の質問２の「生涯学習と教科書」では、「自分自身の興味関心や勉強のために読んだり見たりすることがある」と回答した保護者が国語では 51.4％にも上っている。

保護者の「教科書の編集はどのような工夫をしたらよいか」「教科書について日頃感じていること」についての自由記述を見ると、次のような意見が多い。

○絵やマンガ、カラーページが多すぎる。もっと言葉で説明すべき。

○親が教えられるように、教科書を読めば大切なことがわかるようにしてほしい。

○内容が薄いと思う。もっと濃くしてほしい。

これらは必ずしも国語科に対しての意見とは言えないかもしれないが、教師の自由記述に見られる意見と重なる面があり、国語科においても考慮すべき点だと思われる。

特に国語に限った意見というのはあまり見られないが、漢字学習についてもっと工夫してほしいという意見が複数見受けられる。

２）中学校

まったく国語科の教科書に接したことがないという保護者（30.8%）の数をどのように判断すべきか意見が分かれるところであろうが、約７割の保護者が教科書を見ているということは、教科書への関心度の高さの表れといえよう。とくに国語科にクロス集計すると、じっくりと見たことがある（79.6%）少し見たことがある（59.9%）めくる程度見たことがある（24.0%）となっており、教科書の中でも保護者が国語科の教科書に高い関心を持っていることが窺える。

内容についてはよくできているのでいまのままでよい（14.7%）・子どもが満足しているのでいまのままでよい（15.3%）とする肯定的な意見が約３割を占めており、内容について分からないとする意見（41.8%）をのぞいた約半数が満足度を持っていることが分かる。

また自由記述においては、

○写真や図が多く文章が少ない。（まるで絵本みたい。）その割に薄い。

○資料集のような教科書が増えていることに疑問を感じる。

○自分達が使っていた物と比べ大きさも異なりカラーページがかなり多いということは感じていました。科目によってはカラーページの方が見やすいものもありますが若干多すぎるような気もします。

というようにビジュアル化よりも文字情報の充実への期待が高いし、文学的文章の充実を望む声も教師と同じく見られた。

○文学教育の衰退を感じます…言語教育やコミュニケーションなどの重要性も分かりますが、やはりすぐれた言葉、文章にふれさせるところから始めるべきだと考えています。短歌や俳句でも、現代的なものも親しめてよいのですが、定番中の定番の作品がなぜ無いのかが疑問です。

また、生徒の教科書を含めた教具類の運搬への負担を危惧する声もあり、健康面からもこれらの精選が求められる時期にあることも示唆している。

○全科目、Ｂ５判になり、生徒たちの持ち運び、登下校の負担は増えている。体格の小さい低学年の子にとって、制カバン満パイの教科書は、毎日５kg～８kg ほどにもなり、かなり重い。だいたい制カバンはＡ５判の時代に定められたものであるから、体操服・弁当・水筒・スパイク・部活道具…入りきらなくなってきている。

古典教育の充実への期待もあり，時代に関わりなく名作と言われるものについては常識として定着させていく工夫を古典教育に望む意見もある。

○日本人としてのコモン・センスが育つ内容が欲しい。名作、古典等は、しっかり教科書で学習させたいと思うが、目新しさを狙った作りになってしまって残念である。

（石塚 修・金子 哲）

１．２　社会

ここでは、教師の社会科教科書に対する現状認識と要望等を把握するために、小学校と中学校との比較、中学校における三分野（各分野を、地理、歴史、公民と略称する）間の比較を中心に、調査結果を分析する（回答数は、小学校 315 人、中学校 321 人)。また、平成 4～6 年度に実施した調査研究*（以下、平成 4 年調査と略称する）と重複する調査項目については、これとの比較も行い、教師の社会科教科書観の変容等についても考察する。

＊『「学習材」としての教科書の機能に関する基礎的研究』（平成 6 年度科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書：研究代表者　細野二郎)、平成 7 年 3 月、pp.53-72、及び朝倉隆太郎、山本友和他『「教科書に関する調査」調査結果報告書　Ⅱ．社会（文部省科学研究費補助)』平成 6 年 3 月、全 99p.を参照のこと。なお、この研究における質問紙調査は平成 4 年の 11 月から 12 月に実施され、社会科についての教師対象調査の回答数は、小学校で 142 人、中学校で 94 人である。

（１）社会科教科書の使われ方と教科書観

１）授業における社会科教科書（質問１）

ふだんの授業での社会科教科書の使い方について、表１中の①～⑤から一つだけ選んでもらった。表中の数値は校種別、分野別の選択率を示している。

表１　ふだんの授業での社会科教科書の使い方

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

ふだんの授業での社会科教科書の使い方	小	中全体	地理	歴史	公民
①教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う	4.1	2.3	1.6	2.5	2.8
②教科書を主に使うが､その他の教材もところどころ使う	66.3	66.1	58.3	71.3	68.8
③教科書とその他の教材を半々程度使う	22.9	22.0	26.5	19.0	20.6
④教科書をところどころ使うが､その他の教材を主に使う	4.1	8.0	11.8	6.2	5.9
⑤教科書はほとんど使わず、その他の教材を使う	－	0.7	1.2	0.6	0.6

※１項目選択。「無回答」は省略。

他の教科と比して、小学校社会科では「教科書」の他に「その他の教材」を使用する傾向が顕著であった。すなわち、小学校では、①「教科書だけ」の社会科の選択率は、4.1%に過ぎず、国語（24.8%)、算数（25.7%)、理科（22.5%）と比して極めて低かった。また、③「教科書とその他の教材を半々程度」が他の３教科においては 10%以下であったのに対し、社会科では 22.9%もあり、相対的に高率であった。

中学校社会科では､①｢教科書だけ｣は三分野全体で 2.3%(地理で 1.6%､歴史で 2.5%､公民で 2.8%）と低い選択率であり、また③「教科書とその他の教材を半々程度」は三分野全体で 22.0%の選択率であり、小学校社会科と同様な傾向を示した。

中学校の三分野間でいえば､②｢教科書を主に｣の選択率が歴史(71.3%)や公民(68.8%)

と比して、地理では58.3%と相対的に低く、④「教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う」は11.8%と相対的に高い選択率であり（歴史は6.2%、公民は5.9%）、教科書のみに頼らない傾向が顕著であった。これは、中学校地理的分野においては学習対象の地域が選択的にならざるを得ないことによるものと考えられる。

先述の平成4年調査では、児童・生徒を対象に教科書の使用頻度（4段階尺度、中間値は2.50）を調査しているが、今回の調査結果は、それとも対応している。すなわち、平成4年調査では、小・中学校とも「教科書」（小3.56、中3.58）が最もよく使われているものの、「全員がもっている資料集」（小2.85、中2.77）と「教師作成のプリント」（小2.75、中3.19）が中間値を上回っただけでなく、特に中学校の「教師作成のプリント」の使用頻度は「教科書」と並んで極めて高いという結果であった。

したがって、こうした傾向は、社会科が内容教科であり、教授・学習内容の裏付けとなる多種多様な資料を必要としていること、さらには調査活動が学習において重要な位置を占めていること等によるためであると考えられる。

２）教師の教科書観（質問２）

授業で使いたい社会科教科書、すなわち教師の教科書観について、表２中の①～⑤から一つだけ選んでもらった。表中の数値は校種別、分野別の選択率を示している。

表２　授業で使いたい社会科教科書

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

授業で使いたい社会科教科書	小	中全体	地理	歴史	公民
①教えるための教材としての性格が強い教科書	1.0	4.5	4.0	5.3	4.0
②どちらかというと教えるための教材の性格が強い教科書	14.6	29.5	25.9	33.3	29.3
③自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	16.2	9.3	12.1	7.5	8.4
④どちらかというと学習材の性格が強い教科書	17.5	7.2	9.0	5.3	7.2
⑤教材、学習材両方の性格のバランスがとれた教科書	49.5	48.9	48.3	48.3	50.2

※１項目選択。「無回答」は省略。

小学校の社会科では、理科とともに、教科書を「自ら学習するための学習材」と捉える傾向が顕著であった。すなわち小学校では、①「教えるための教材」と②「どちらかというと教えるための教材」を合わせた社会科の選択率は計 15.6%に過ぎず、国語（計42.2%）、算数（計43.8%）と比して低かった（理科は計17.2%）。さらに③「自ら学習するための学習材」と④「どちらかというと学習材」を合わせた選択率は計33.7%であり、国語（計10.2%）、算数（計11.1%）と比して高かった（理科は計27.0%）。

しかしながら、こうした傾向は、中学校社会科になると見られなくなる。

すなわち小学校社会科では、①「教えるための教材」と②「どちらかというと教えるための教材」を合わせた選択率が計15.6%、③「自ら学習するための学習材」と④「どちらかというと学習材」を合わせた選択率が計33.7%の選択率であったのに対し、中学校社会

科では、前者が三分野全体で計 34.0％（地理 29.9％、歴史 38.6％、公民 33.3％）、後者が三分野全体で計 16.5％（地理 21.1％、歴史 12.8％、公民 15.6％）の選択率であり、相反する傾向を示した。

教師の教科書観（教科書の性格把握）については、平成 4 年調査でも分析しているが、今回のこうした調査結果とは大きく異なっている。すなわち、平成 4 年調査では、社会科教科書がどうあるべきか（理念）については、「教えるための教材（教師が指導するための教材)」が小学校で 2.60、中学校で 2.72 の平均評価点（中間値は 3.0)、「自ら学習するための学習材（児童生徒が使用する学習材)」が小学校で 3.98、中学校で 3.88 平均評価点（中間値は 3.0）であり、小学校と中学校で大きな差はない。また、社会科教科書の実態（実際）をどのように捉えているかのデータにおいても同様の傾向を示し、前者については小学校で 9.9％、中学校で 10.9％、後者については小学校で 29.7％、中学校で 36.9％の選択率であった。

今回の調査で、中学校の選択率に変化が生じた理由として考えられるのは、平成 10 年版の学習指導要領で「生きる力」が標榜され、中学校の社会科教科書において学び方を重視する傾向が見られるようになったことへのある種の反発である。換言すれば、「もっと教えたい」との中学校教師の本音が、そこには垣間見られる。

（２）教科書の体裁（質問３）

現行の社会科教科書の体裁についての教師の意見に関しては、量（数）の観点（表３参照）と大きさの観点（表４参照）に大別して分析することにする。

１）量（数）の観点から

①ページ数（A-１）

表３－１　ページ数

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は％）

	現状程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	66.3	26.3	4.1	3.2
中学校地理	57.9	35.8	5.3	0.9
歴史	51.4	42.4	5.6	0.6
公民	66.0	29.6	3.1	1.2

※１項目選択

小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高い。ただし「増やす」の選択率については、小学校社会科の 26.3％に比して、中学校（地理 35.8％、歴史 42.4％、公民 29.6％）では高くなる傾向がある。特に歴史ではその傾向が顕著である。なお、中学校社会科における「増やす」の選択率は、中学校理科（39.3％）とともに、他教科（国語

14.3%、数学 29.6%、英語 13.8%）と比べて相対的に高くなっている。これは、内容教科であるという社会科の性格によるものと考えられる。

②カラーページの割合（A-2）

表３－２　カラーページの割合

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	全ページ、カラー	現状ほど必要ない	必要部分だけカラー	無回答
小学校	50.8	4.8	42.9	1.6
中学校地理	46.1	10.9	42.4	0.6
歴史	41.1	12.1	46.4	0.3
公民	39.6	11.2	48.0	1.2

※１項目選択

小学校社会科では「全ページ」（50.8%）が「部分」（42.9%）を上回っている。中学校では、地理で「全ページ」（46.1%）が「部分」（42.4%）を上回っているものの、「全ページ」対「部分」の割合は歴史では 41.1%対 46.4%、公民では 39.6%対 48.0%であり、「部分」が「全ページ」を上回っている。中学校では、地理・歴史・公民の三分野すべてで「現状ほど必要ない」が小学校よりも増えていることをも踏まえるならば、小学校と比して中学校では、カラーページ化にさほどこだわっていない傾向がうかがえる。これは、「カラーページや資料、図、写真などが増えたが、その分、本文を短くする必要からか、必要な説明や流れが省かれているように思われ」（中学校社会科教師の自由記述から引用）といった中学校教師の危惧によるのではないかと考えられる。

③本文の分量（A-2）

表３－３　本文の分量

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	70.5	22.2	5.4	1.9
中学校地理	52.0	41.7	5.3	0.9
歴史	45.2	46.7	7.5	0.6
公民	59.2	35.8	3.7	1.2

※１項目選択

「ページ数」と同様な傾向が、「本文の分量」においても見られる。

すなわち、小学校社会科における「増やす」は 22.2%に過ぎないが、中学校になると、「増やす」は地理 41.7%、歴史 46.7%、公民 35.8%と、選択率が高くなっており、特に歴史においては、「現状程度でよい」を上回っている。

④発展的な学習内容の分量（A-４）

表３－４　発展的な学習内容の分量

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	58.7	32.1	7.0	2.2
中学校地理	62.6	23.7	13.4	0.3
歴史	62.0	24.6	13.4	-
公民	63.2	23.7	12.5	0.6

※１項目選択

小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高いが、中学校と比して小学校では、「現状程度でよい」の選択率が若干、低い。また、中学校よりも小学校のほうが「増やす」の選択率が高く、「減らす」の選択率が低いという傾向が見られる。

中学校より小学校の方が「増やす」の指摘率が高いということは、小学校には比較的、余裕があることを意味している。

⑤注、コラム、資料などの分量、及び、さし絵、図、表、写真などの数（A-５、A-６）

表３－５　注、コラム、資料などの分量

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	47.9	47.6	2.5	1.9
中学校地理	64.2	26.8	8.7	0.3
歴史	64.8	25.5	9.7	-
公民	65.7	26.2	7.5	0.6

※１項目選択

表３－６　さし絵、図、表、写真などの数

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	66.0	31.4	1.0	1.6
中学校地理	70.4	22.4	6.9	0.3
歴史	71.0	23.1	5.9	－
公民	73.5	19.6	6.2	0.6

※１項目選択

「注、コラム、資料などの分量」については、小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高い。ただし、小学校社会科では「現状程度でよい」と「増やす」の選択率が拮抗しているのに対し（47.9%対 47.6%）、中学校では三分野とも「増やす」が２割台であり、選択率が低くなる傾向がある。

「さし絵、図、表、写真などの数」については、小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高いものの、「増やす」の選択率は中学校になると低くなる傾向があり、「注、コラム、資料などの分量」の調査結果と同様な傾向を示している。

「注、コラム、資料などの分量」及び、「さし絵、図、表、写真などの数」において「増やす」の選択率が中学校になると低くなっているのは、前述の「カラーページの割合」の分析において引用した中学校社会科教師の危惧、すなわち、「これらのことを増やすことが本文の記述を削減することにつながる」との警戒心によるのではないかと考えられる。

なお、平成 4 年調査では、「統計、図表、写真、絵、文書など」についての期待度を５段階尺度（中間値は 3.00）で尋ねているが、その結果は小学校で 4.57、中学校で 4.67 であり、校種による差はあまりなかった。

今回の調査では、前述した「ページ数」や「本文の分量」について、「増やす」の選択率は小学校で低く、中学校で高いという傾向があり、「注、コラム、資料などの分量」及び「さし絵、図、表、写真などの数」については、それとは逆の傾向が見られた。

これらのことを踏まえるならば、現行の社会科教科書に対して中学校教師は、補助教材や資料よりも本文そのものの充実を求めているといえ、そこに平成 4 年調査の結果と比しての変化が見いだせる。

⑥観察、見学、調査、資料活用など調べ学習の数（A-９）

表３－７　観察、見学、調査、資料活用など調べ学習の数

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	62.2	28.9	7.0	1.9
中学校地理	51.4	10.0	38.3	0.3
歴史	62.0	7.2	30.8	－
公民	61.4	9.7	28.3	0.6

※１項目選択

小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高いが、「増やす」と「減らす」の選択率は、小学校と中学校で相反する傾向が見られ、中学校になると三分野とも、「増やす」の割合が低くなり、「減らす」の割合が高くなる。「増やす」対「減らす」の割合は小学校社会科で28.9%対 7.0%であるが、中学校では地理で10.0 %対38.3%、歴史で7.2%対 30.8%、公民で 9.7%対 28.3%となる。

調べ学習をさほど重視していないという傾向が、中学校では見て取れる。

⑦書き込み、貼り付け、切り取りなどについて（C）

表３－８　書き込み、貼り付け、切り取りなど

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	必要ない	無回答
小学校	57.8	24.4	6.7	8.9	2.2
中学校地理	48.0	16.5	12.1	21.8	1.6
歴史	51.4	12.8	11.2	23.4	1.2
公民	50.2	14.6	10.6	22.7	1.9

※１項目選択

小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高いが、増減に関しては、「観察、見学、調査、資料活用など調べ学習の数」と同様な傾向が、「書き込み、貼り付け、切り取りなど」においても見られる。

小学校社会科では、「増やす」対「減らす」対「必要ない」の割合は、24.4%対 6.7%対 8.9%であり、「増やす」の率が高い。しかし中学校社会科では、「増やす」対「減らす」対「必要ない」の割合は、地理で 16.5%対 12.1%対 21.8%、歴史で 12.8%対 11.2%対 23.4%、公民で 14.6%対 10.6%対 22.7%であり、三分野とも「必要ない」が最も多い。

調べ学習と同様、書き込み等の作業について、中学校社会科教師はさほど重視していないという傾向が見て取れる

２）大きさの観点から

①さし絵、図、表、写真などの大きさ（A-６）

表４－１　さし絵、図、表、写真などの大きさ

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	71.4	26.3	0.6	1.6
中学校地理	75.4	17.1	6.9	0.6
歴史	76.3	15.0	8.4	0.3
公民	77.9	13.4	7.8	0.9

※１項目選択

小学校、中学校とも、「現状程度でよい」の選択率が最も高い。

小学校社会科、中学校の三分野とも、「大きくする」の選択率の方が「小さくする」を上回っているが、その差は、中学校になると縮まってくる。

②文字の大きさ（A-７）

表４－２　文字の大きさ

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	94.0	2.9	1.6	1.6
中学校地理	95.6	0.9	3.1	0.3
歴史	95.3	0.9	3.7	-
公民	94.7	0.9	3.7	0.6

※１項目選択

「大きくする」の指摘率は、中学校になると若干低くなるが、「現状程度でよい」の選択率が、小学校社会科、中学校の三分野とも９割以上を占めており、現状肯定が圧倒的多数である。

③判型（A－８）

表４－３　判型

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	81.9	15.2	1.3	1.6
中学校地理	87.5	6.9	4.7	0.9
歴史	86.9	6.9	5.6	0.6
公民	86.9	6.9	5.0	1.2

※１項目選択

「さし絵、図、表、写真などの大きさ」と同様な傾向が、「判型」においても見られる。小学校、中学校とも、現状肯定率が高い。小学校社会科、中学校の三分野とも、「大きくする」の選択率の方が「小さくする」を上回っているが、その差は、中学校になると縮まってくる。

（３）社会科教科書の現状と望ましいあり方（小学校：質問６、中学校：質問４）

１）社会科教科書の現状

社会科教科書の現状について、表５中の①～⑤の５項目を提示し、項目毎に「同感するか否か」の評価をしてもらった。これらの項目は、児童・生徒の「生きる力」を培うための要件ともなりうるものであり、社会科学習への児童・生徒の取り組みを能動的なものとするための配慮ともいえるものである。測定の尺度は「全く同感」「まあ同感」「どちらともいえない」「まあ同感しない」「全く同感しない」の５段階であり、平均評価点の中間値は、3.0 である。表中の数値は校種別、分野別の平均評価点を示している。

表５　社会科教科書の現状

社会科教科書の現状	小	中全体	地理	歴史	公民
①主体的、能動的な学びを促す配慮	3.4	3.3	3.4	3.2	3.3
②学習を発展させるための手だての表示	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4
③個人差に応じた指導にも対処できる配慮	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4
④身近な地域を取り上げるための配慮	3.0	3.2	3.5	3.1	2.9
⑤他教科との関連づけ	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8

※表中の数値は平均評価点。中間値は 3.0。

小学校、中学校とも①「主体的、能動的な学び」（小 3.4、中 3.3）と②「学習を発展させるための手だて」（小 3.4、中 3.4）に同感し、③「個人差に応じた指導」（小 2.5、中

2.4）に同感していないという傾向がある。また、中学校の三分野のうち、身近な地域の学習が組まれている地理で、④「身近な地域を取り上げるための配慮」（3.5）が比較的、高い評価点を示している。

平成４年調査では、上記の５項目のうち、④を除いた４項目について同様な質問をしている。この調査での小学校と中学校の平均評価点（中間値は 3.0）を示すと、次のようになる。

①「主体的、能動的な学び」：小で 3.4、中で 3.0

②「学習を発展させるための手だて（参考書等の明示)」：小で 2.6、中で 2.4

③「個人差に応じた指導」：小で 2.5、中で 2.5

⑤「他教科との関連づけ」：小で 2.6、中で 2.5

今回の調査結果からすると、小学校、中学校とも、平成４年調査で不十分と指摘されていた②「学習を発展させるための手だて」で改善が大いに進み、⑤「他教科との関連づけ」についても改善が見られる。このことは、「生きる力」の育成、すなわち、「学び方を学ぶ学習の充実を図り、自ら学び、自ら考える力を育成する」という平成 10 年版の学習指導要領の趣旨を踏まえた教科書が作成されていることを示唆している。ただし、③「個人差に応じた指導」に関しては、依然として改善されてはいない。

２）社会科教科書の望ましいあり方

最も望ましいと思われる社会科教科書のあり方について、表６中の①～⑤の項目から一つだけ選んでもらった。表中の数値は校種別、分野別の選択率を示している。

小学校では、①の「主体的、能動的な学び」が極めて高率（59.0%）であり、次いで④の「身近な地域の取り上げ」が 20.3%、②の「学習を発展させるための手だて」が 10.5%であった。③の「個人差に応じた指導」と⑤の「他教科との関連づけ」の選択率は低い。

また、中学校の選択率は①の「主体的、能動的な学び」が三分野全体で 44.0%（地理 43.0%、歴史 43.6%、公民 45.5%)、次いで②の「学習を発展させるための手だて」が 21.7%（地理 14.0%、歴史 24.6%、公民 26.5%)、③の「個人差に応じた指導」が 11.4%（地理 9.7%、歴史 15.0%、公民 9.7%)、④の「身近な地域の取り上げ」が 11.3%（地理 24.3%、歴史 5.9%、公民 3.7%)、⑤の「他教科との関連づけ」が 7.5%（地理 5.0%、歴史 6.9%、公民 10.6%）であった。

表６　社会科教科書の望ましいあり方

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

社会科教科書の望ましいあり方	小	中全体	地理	歴史	公民
①主体的、能動的な学びを促す配慮	59.0	44.0	43.0	43.6	45.5
②学習を発展させるための手だての表示	10.5	21.7	14.0	24.6	26.5
③個人差に応じた指導にも対処できる配慮	4.4	11.4	9.7	15.0	9.7
④身近な地域を取り上げるための配慮	20.3	11.3	24.3	5.9	3.7
⑤他教科との関連づけ	3.2	7.5	5.0	6.9	10.6

※１項目選択。「無回答」は省略。

小学校と中学校を比較すると、①の「主体的、能動的な学び」はともに高率であるが、２位以下で大きな違いが見られる。すなわち、中学校では②の「学習を発展させるための手だて」や③の「個人差に応じた指導」の選択率が小学校に比して高く、④の「身近な地域の取り上げ」が地理を除いて低いという結果であった。学習内容の厳選という事態を受けて、中学校社会科教師が苦慮している様子がうかがえる。

中学校の三分野間の比較では、①の「主体的、能動的な学び方」の選択率が三分野とも最も高いが、地理では前記の「教科書の現状」と同様、④の「身近な地域の取り上げ」の選択率も高い。これは、地域の地理的事象を取り上げるという地理の学習内容の特性によるものだと考えられる。また②の「学習を発展させるための手だて」とともに、歴史では③の「個人差に応じた指導」が、公民では⑤の「他教科との関連づけ」が、比較的高い選択率である。これは、歴史では習得すべき事項・知識が多い、公民では現代社会の諸事象を扱うために広範な考察を必要とする、といったことによると考えられる。

社会科教科書の望ましいあり方については、平成４年調査でも質問しているが、上記の①と③については４項目から１項目選択、②と⑤については３項目から１項目を選択させたため、選択率そのものを今回の調査データと比較することは出来ない。しかしながら、各項目についての校種別比較は可能である。上記の４項目のうち、小・中学校間で逆転現象が見られるのは②と③である。

平成 4 年調査では、②「学習を発展させるための手だて（参考書等の明示)」は小学校 13.6%、中学校 11.7%、③「個人差に応じた指導」は小学校 9.1%、中学校 4.8%であり、小学校の選択率の方が高かった。しかしながら今回の調査では、②と③については中学校での選択率のほうが小学校よりも高いという結果であった。前述した理由と同様、学習内容の厳選という事態への対応を望む中学校教師の新たな声であると受け止めたい。

（４）教科書が果たしている役割（小学校：質問７、中学校：質問５）

１）学習指導における社会科教科書の役割についての評価

社会科の学習指導において社会科教科書が果たす役割について、表７中の①～④の４項目について、それぞれ「役立ったかどうか」の評価をしてもらった。ここで示した４項目は、指導要録において示されている社会科の評価についての４観点と対応しており、社会科授業と社会科教科書との整合性を問う評価ともなる。測定の尺度は「とても役立った」「まあ役立った」「どちらともいえない」「まあ役立たなかった」「全く役立たなかった」の５段階であり、平均評価点の中間値は、3.0 である。表中の数値は校種別、分野別の平均評価点を示している。

表７　学習指導における社会科教科書の役割

学習指導における社会科教科書の役割	小	中全体	地理	歴史	公民
①児童・生徒の興味・関心を引き、学習意欲を促す。	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4
②多様な思考や主体的な判断力を促す。	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2
③資料活用や情報処理の能力を育成する。	3.6	3.3	3.5	3.2	3.3
④基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図る。	3.6	3.4	3.2	3.5	3.5

※表中の数値は平均評価点。中間値は 3.0。

全項目において、小学校、中学校とも、平均評価点を上回っており、学習指導における社会科教科書の役割についての評価は高いといえる。

小学校と中学校を比較すると、全般的に小学校の評価点のほうが高い。

中学校の三分野間でいえば、地理では、他の分野と比して③の「資料活用や情報処理の能力の育成」の評価が高く、④の「基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化」が低い。これは地域・国を選択的に取り扱って学習するという地理的分野のあり方によるものと考えられる。

平成４年調査では、上記の４項目のうち①と④について同様な質問をしている。この調査での小学校と中学校の平均評価点（中間値は 3.0）を示すと、次のようになる。

①「児童・生徒の興味・関心、学習意欲の促し」：小で 3.5、中で 2.9

④「基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化」：小で 3.6、中で 3.6

今回の調査結果からすると、平均評価点を下回っていた中学校の①「児童・生徒の興味・関心、学習意欲の促し」に、大きな改善が見られる。これによって、社会科の観点別評価と対応しているすべての項目に対して、小学校と中学校を通して、社会科教科書が役立つとされたことになる。

２）社会科教科書の役割として期待すること

今後の社会科教科書に最も期待するものは何かを、表８中の①～④の項目から一つだけ選んでもらった。表中の数値は校種別、分野別の選択率を示している。

社会科の観点別評価との対応でいえば、小学校では、④「知識・理解」（28.9％）、②「思考・判断」（25.1％）、③「資料活用能力」（22.2％）、①「興味・関心・意欲」（19.7％）の順であった。中学校全体では、④「知識・理解」（44.7％）、②「思考・判断」（18.5％）、①「興味・関心・意欲」（17.8％）、③「資料活用能力」（16.2％）の順であった。

表８　今後の社会科教科書に期待すること

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

今後の社会科教科書に期待すること	小	中全体	地理	歴史	公民
①児童・生徒の興味・関心を引き、学習意欲を促す。	19.7	17.8	20.6	19.3	13.4
②多様な思考や主体的な判断力を促す。	25.1	18.5	4.7	16.5	34.3
③資料活用や情報処理の能力を育成する。	22.2	16.2	37.7	4.7	6.2
④基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図る。	28.9	44.7	34.3	56.7	43.0

※１項目選択。「無回答」は省略。

小学校と中学校を比較すると、３位と４位が逆転しているものの、④「知識・理解」がともに１位であることに変わりがなく、とりわけ中学校でのその選択率は 44.7%と高率である。いわゆる「新しい学力観」により、④の「知識・理解」ではなく、①の「興味・関心・意欲」の評価を重視することが求められたのであるが、教師側の意識は、「知識・理解」重視にある。

中学校の三分野間を比較すると、その傾向に大きな違いが見られる。

地理では④「知識・理解」（34.3%）よりも③「資料活用能力」（37.7%）の選択率が高く、②「思考・判断」（4.7%）の選択率は極めて低い。これらから、地理では技能重視の特徴が見て取れる。

歴史では④「知識・理解」（56.7%）の選択率がとりわけ高く、③「資料活用能力」（4.7%）の選択率は極めて低い。これらからは、習得すべき事項・知識が多いという歴史学習の特性と、教科書とともに歴史資料集を用いて学習を進めているという実態をうかがい知ることができる。

公民では、②「思考・判断」（34.3%）の選択率が高く、③「資料活用能力」（6.2%）の選択率が極めて低い。「資料活用能力」の選択率が低いのは、教科書とともに公民資料集を使っていることの表れと考えられる。「思考・判断」の選択率が高いのは、公民では現代社会の諸事象・諸問題を学習するため、問題解決学習的思考・判断が必要となるからではないかと考えられる。

（５）教科書の使用状況と充実を期待する場面（小学校：質問８、中学校：質問６）

１）社会科教科書を使用している場面

社会科教科書の使用を重視している授業の場面について、表９中の①～⑥の６場面から二つ選択してもらった。この六つの場面は、授業・学習計画の段階から始まり、授業・学習展開とまとめを経て、振り返り（評価）をさせる段階までを示している。表中の数値は各場面における校種別、分野別の選択率を示している。

社会科教科書の使用を重視している場面は、小学校社会科では③、②、④、⑤、①、⑥の順であり、中学校の三分野全体では⑤、③、②、④、①、⑥の順である。順位からすれば、小学校で４位（30.5%）に位置する⑤「学習のまとめ」の場面が、中学校では第１位（45.2%）となっているのが目立つ。これは中学校の社会科学習では既習事項・知識の定

着化を図ろうとする傾向があるためだと考えられる。

表９　社会科教科書の使用を重視している場面

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

社会科教科書の使用を重視している場面	小	中全体	地理	歴史	公民
①指導計画・学習指導立案の場面	22.9	34.2	35.5	33.6	33.3
②学習の動機付けの場面	39.4	37.8	41.1	38.3	34.0
③学習課題・問題の設定の場面	44.1	40.1	44.9	37.4	38.0
④学習課題・問題の追求の場面	35.6	35.9	34.0	36.4	37.4
⑤学習のまとめの場面	30.5	45.2	38.0	48.9	48.6
⑥学習を自己評価させる場面	1.3	1.6	1.2	0.6	2.8

※２項目選択。「無回答」は省略。

⑥の「学習の自己評価」の場面は小学校、中学校ともに、きわめて低率（小 1.3%、中 1.6%）である。自己評価という観点において教科書は、まったく機能していないということになる。また⑥以外には、小学校の①「指導計画・学習指導立案」の場面の選択率が 22.9%と低いことが目立つ。中学校教師と比して、教科書に頼らず柔軟に指導計画を立てているという傾向が小学校教師に若干、見て取れる。

中学校の三分野間でいえば、地理では、他の分野と比して③の「学習課題・問題の設定」の場面の選択率が高く、⑤の「学習のまとめ」の場面の選択率が低いという傾向がある。これは地域・国を選択的に取り扱って調べ学習をしていくという学習がなされていることによると考えられる。

２）社会科教科書に充実を期待する場面

今後の社会科教科書に充実を期待する場面を、表 10 中の①～⑥から二つ選択してもらった。表中の数値は校種別、分野別の選択率を示している。

表 10　今後の社会科教科書に充実を期待する場面

小学校 N=315　中学社会 N=321

（表中の数値は%）

今後の社会科教科書に充実を期待する場面	小	中全体	地理	歴史	公民
①指導計画・学習指導立案の場面	9.2	8.6	10.3	7.5	8.1
②学習の動機付けの場面	46.7	44.4	45.2	45.8	42.4
③学習課題・問題の設定の場面	44.8	43.2	46.7	42.4	40.5
④学習課題・問題の追求の場面	51.7	47.6	44.5	48.9	49.2
⑤学習のまとめの場面	29.8	41.1	38.3	41.7	43.3
⑥学習を自己評価させる場面	11.4	8.8	9.0	8.1	9.3

※２項目選択。「無回答」は省略。

上位３位までの選択率の順位は、小学校と中学校で変わらず、④「学習課題・問題の追求」の場面（小 51.7%、中 47.6%）、②「学習の動機付け」の場面（小 46.7%、中 44.4%）、③「学習課題・問題の設定」の場面（小 44.8%、中 43.2%）、の順である。換言すれば、「導入」と「展開」の学習活動の場面における期待が大きいといえる。

選択率が低いのは①「指導計画・学習指導立案」と⑥「学習の自己評価」の場面であるが、前記の「使用を重視している場面」の結果（表９参照）と比べると、必ずしも軽視されてはいなかった「指導計画・学習指導立案」の場面への期待度が低くなり、逆に、まったく軽視されていた「学習の自己評価」の場面への期待度が高くなっていることに気付く。こうした結果を踏まえるならば、「学習を自己評価させる場面」を教科書に取り入れる工夫も必要になってくるように思われる。

小学校と中学校を比較すると、⑤「学習のまとめ」の場面への期待度の差が 10%以上開いていることに気付く。これは前記の表９の分析結果の考察と同様、中学校の社会科学習では既習事項・知識の定着化を図ろうとする傾向があるためだと考えられる。

中学校の三分野間でいえば、調べ学習をしていくことが多いためか、地理では、前記の表９の分析結果の考察と同様、他の分野と比して③の「学習課題・問題の設定」の場面の選択率が高く、⑤の「学習のまとめ」の場面の選択率が低いという傾向も見られる。ただし、「使用を重視している場面」への回答（表９参照）と比して、その差は縮まっている。

なお、平成４年調査では、上記の６項目のうち②、③、④、⑥の段階（場面）について「今後の社会科教科書に期待するか否か」を５段階尺度で尋ねている。小学校と中学校の平均評価点（中間値は 3.0）を示すと、次のようになる。

②「学習の動機付け」：小で 4.54、中で 4.41

③「学習課題・問題の設定」：小で 4.28、中で 4.30

④「学習課題・問題の追求」：小で 4.10、中で 4.12

⑥「学習の自己評価」：小で 3.84、中で 3.76

今回の調査では６項目から２項目選択、平成４年調査では各項目について５段階尺度で回答と、調査方法が異なるため、両調査の結果そのものを比較することは適切であるとはいえない。だが、期待度の順位については考察できる。すなわち、平成４年調査では、小学校、中学校とも、②、③、④、そして⑥の順位であったが、今回の調査では小学校、中学校とも④、②、③、そして⑥の順位になっている。④「学習課題・問題の追求」への期待度が②「学習の動機付け」への期待度を上回るようになったのは、「自ら学び、自ら考える力を育成する」という平成 10 年版の学習指導要領の趣旨に沿っているからではないかと考えられる。

（６）教科に対する自由記述から

教師の自由記述のうちから、社会科の内容にかかわる指摘を抽出し、典型的な意見と考えられるものを提示すると、おおよそ次の通りである。

小学校の社会科学習、とりわけ地域学習では、通常、市町村ないしは都道府県で作成した地域副読本を使用している。しかしながら、全国版教科書に対しても、「社会等、地域に合わせた教科書があると使いやすい」「中学年の社会の教科書は参考程度に使用、－（中略）

ー地域版の教科書があったり、地域資料が付いていたりすると更に良い」といった要望が、依然として見られる。

中学校地理的分野に関しては、「３つの県だけ学習すればよいという、今の地理の教科書では、日本の地域について無理解な日本人を育てることしかできない」「『教科書は、生徒が自学自習するための教材』という視点で見ると、地理の教科書については『読んで理解する』部分が少ないように思われる」「地理：調べ学習にかたよっている」といった批判が目立つ。「より多くのことを教えたい。もっと知識を」という中学校教師の本音がうかがえる。

歴史的分野に関しては、「網羅的である」「１ページに多くの事項が混在している部分があり教えにくい時がある」「内容が飛んでいて理解しにくいところがある」といった、より丁寧な記述を要望する声が多い。「改訂の度に特に歴史ですが内容が削減されているように感じます」といった指摘をも踏まえるならば、「詳しく、丁寧な」教科書を望んでいるといえる。

公民的分野に関する記述は、地理的分野や歴史的分野に比して少ない。現代社会の諸事象､諸問題を学習するということを受けて、「もっと現代社会のかかえる問題を指摘するような内容がほしい」「生徒にとってもう少し身近に感じられる資料を」といった学習問題の設定・追求にかかわる要望が見られるのみである。

（山本友和）

（７）教師の属性と社会科教科書観

１）小学校教師と社会科教科書

小学校教師に対する調査では、回答者は「教務主任と第５学年の学年主任の先生（またはこれに代わることのできる先生)」と指定した。回答者自身の教員歴を見ると、10 年以下 9.2％（29 名)、11～20 年 28.6％（90 名)、21～30 年 52.4％（165 名)、31 年以上 9.2％（29 名）である。ただし、中学・高等学校や特別支援学校での経験を持つ教師が２割程度いるため、小学校経験 10 年以下の教師もほとんどは中堅からベテランに当たると思われる。また、得意な教科を挙げてもらうと（複数回答)、算数が６割を超えて最も多く、体育、国語、理科が３割前後でそれに続く。社会を得意とした教師は 26.0％で、今回の調査対象とした教科の中では最も少なかった。

こうした教師の属性は、社会の教科書観にどのように影響しているだろうか。

小学校の経験年数による差がはっきり表れたのは、観察、見学、調査、資料活用など「調べ学習」の扱いについてである。近年の小学校社会科の教科書は、児童の「調べ学習」を重視して観察、見学、調査、資料活用などの学習活動を示す場合が多くなっている。こうした「調べ学習」の数について､全体では「現行程度でよい」が 62.2％、「増やす」が 28.9％であるが、小学校での教員歴が長いほど､「増やす」の回答率が高くなっている。

「調べ学習」の扱いについては、教科書を教師が教えるための「教材」と見るか、児童が自ら学習するための「学習材」と見るかの教科書観による違いも大きい。「教材」としての教科書を求める教師は､「調べ学習」について「現行程度でよい」とする回答が多いが、

「学習材」としての教科書を求める教師は、「現行程度」が半数を割り、「増やす」との回答がそれに迫っている。社会科が「得意」と答えた教師には、「教材」としての教科書よりも「学習材」としての教科書を求める傾向が強い。教員歴による教科書観の差はそれほど明確ではないが、「教材」を求める比率は教員歴が短い層が優勢で、「学習材」は教員歴の長い層が優勢と見ることができる。

社会科が得意であったり、経験を積んで社会科指導に習熟した教師ほど、「調べ学習」など児童が自ら行う学習を重視する傾向があり、教科書での「調べ学習」も増やす必要を感じているととらえることができるのではないだろうか。

表 11　小学校教師と社会科教科書

（表中の数値は%）

観察、見学、調査、資料活用など調べ学習の数（質問３−Ａ−９）

	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	315	62.2	28.9	7.0	1.9
教員歴　小学校					
～10 年	29	75.9	10.3	10.3	3.4
11～20 年	90	64.4	25.6	10.0	−
21～30 年	165	58.8	32.7	5.5	3.0
31 年～	29	58.6	37.9	3.4	−
無回答	2	100.0	−	−	−
教材・学習材　社会（質問２）					
教えるための性格が強い教科書	3	33.3	33.3	33.3	−
どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	46	73.9	17.4	8.7	−
自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	51	49.0	45.1	3.9	2.0
どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	55	47.3	43.6	7.3	1.8
教えるため、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書	156	69.9	22.4	7.1	0.6
無回答	4	25.0	−	−	75.0

教材・学習材　社会（質問２）

	調査数（件）	教えるための性格が強い教科書	どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	教えるため、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書	無回答
全体	315	1.0	14.6	16.2	17.5	49.5	1.3
教員歴　小学校							
～10 年	29	－	17.2	3.4	24.1	51.7	3.4
11～20 年	90	2.2	16.7	13.3	17.8	48.9	1.1
21～30 年	165	0.6	14.5	19.4	16.4	47.9	1.2
31 年～	29	－	6.9	17.2	17.2	58.6	－
無回答	2	－	－	50.0	－	50.0	－

２）中学校教師と社会科教科書

中学校は小学校と異なり教科担任制であるため、教師の「得意教科」の違いは基本的に問題にならない。中学校社会科の調査では、回答者は「社会科主任の先生（またはこれに代わることのできる先生)」と指定し、地理・歴史・公民の全分野について回答してもらった。回答者の教員歴は、10 年以下 22.7%（73 名)、11～20 年 35.2%（113 名)、21～30 年 31.2%（100 名)、31 年以上 8.1%（26 名）である。小学校・高等学校や特別支援学校での経験を持つ教師が２割程度いるため、中学校経験 10 年以下の教師が若手とは限らないが、全体的に小学校の調査より教師の経験年数が少ない傾向がある。

中学校社会科で教員歴による意識の差が明確なのは、教科書の分量に関する質問である。地理・歴史・公民の三分野を通して経験年数が増えるほど、ページ数・本文の分量を「増やす」と答える比率が高くなる。特に 31 年以上の層は、すべてにわたって「増やす」が過半数を超えている。同様の傾向は、「注、コラム、資料などの分量」についても当てはまる。一方で、観察、見学、調査、資料活用など「調べ学習」の扱いについては、31 年以上の層に「減らす」とする比率が高く、地理・歴史では「現行程度」と同数となっている。これも、「調べ活動」よりも教える内容を充実させたいという意味ととらえれば、学習内容を増加させる要望がベテランほど強いと見なすことができよう。

表 12　中学校教師と社会科教科書

（表中の数値は％）

ページ数（Ａ－１）

		地理的分野				歴史的分野				公民的分野			
	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	321	57.9	35.8	5.3	0.9	51.4	42.4	5.6	0.6	66.0	29.6	3.1	1.2
教員歴～10 年	73	60.3	35.6	2.7	1.4	57.5	35.6	6.8	－	64.4	27.4	5.5	2.7
11 年～20 年	113	59.3	29.2	10.6	0.9	50.4	40.7	8.0	0.9	71.7	23.0	4.4	0.9
21 年～30 年	100	58.0	38.0	3.0	1.0	52.0	43.0	4.0	1.0	66.0	32.0	1.0	1.0
31 年～	26	42.3	57.7	－	－	42.3	57.7	－	－	46.2	53.8	－	－
無回答	9	66.7	33.3	－	－	33.3	66.7	－	－	66.7	33.3	－	－

本文の分量（Ａ－３）

全体	321	52.0	41.7	5.3	0.9	45.2	46.7	7.5	0.6	59.2	35.8	3.7	1.2
教員歴～10 年	73	58.9	38.4	1.4	1.4	49.3	42.5	8.2	－	64.4	30.1	2.7	2.7
11 年～20 年	113	51.3	36.3	11.5	0.9	47.8	39.8	11.5	0.9	67.3	24.8	7.1	0.9
21 年～30 年	100	50.0	47.0	2.0	1.0	41.0	53.0	5.0	1.0	50.0	47.0	2.0	1.0
31 年～	26	38.5	57.7	3.8	－	42.3	57.7	－	－	42.3	57.7	－	－
無回答	9	66.7	33.3	－	－	33.3	66.7	－	－	66.7	33.3	－	－

観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数（Ａ－９）

全体	321	51.4	10.0	38.3	0.3	62.0	7.2	30.8	－	61.4	9.7	28.3	0.6
教員歴～10 年	73	49.3	9.6	39.7	1.4	63.0	4.1	32.9	－	56.2	11.0	30.1	2.7
11 年～20 年	113	53.1	5.3	41.6	－	61.9	6.2	31.9	－	64.6	7.1	28.3	－
21 年～30 年	100	53.0	13.0	34.0	－	67.0	8.0	25.0	－	65.0	11.0	24.0	－
31 年～	26	42.3	15.4	42.3	－	46.2	7.7	46.2	－	50.0	7.7	42.3	－
無回答	9	55.6	22.2	22.2	－	44.4	33.3	22.2	－	55.6	22.2	22.2	－

授業と教科書の関係、教えるための「教材」重視か、生徒が自ら学習するための「学習材」重視かといった教科書観については、教員歴による違いはあまり見られなかった。小学校と比較すると「教材」としての教科書観が全体としては優勢に思われるが、それは経験年数にはあまり影響されていない。

授業観、教科書観に経験の影響が少ないのは、中学校が教科担任制で、どの教師も社会科が専門であり、社会科指導への一定の考え方が共有されているからではないだろうか。中学校では学習内容をしっかりと教えることが小学校より重視されている。この傾向に経験年数による差は認められない。それにもかかわらず、ベテランの教師ほど教科書の内容の増加を望む傾向が顕著である。その理由はおそらくこうだろう。社会科の教科書は、改訂を重ねるたびに内容の精選が図られてきた傾向がある。ベテランの教員ほど、以前の教科書に比べて内容がだんだん薄くなっていることを実感していると思われる。以前教えていたことと現在の教科書とを比較して、内容を増やしたいという思いを強くしているのではないだろうか。

（渡辺能理夫）

１．３　算数・数学

以下、（１）～（４）は対教師調査、（５）は対保護者調査の結果に基づいてまとめたものである。

（１）ふだんの授業での教科書の使い方（質問１）

質問１では、教科書を教えるのか、教科書で教えるのか等、教師のふだんの授業での教科書の使い方を聞いている。その結果は表１の通りである。

表１　ふだんの授業での教科書の使い方

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

ふだんの授業での教科書の使い方	算数	数学	国語	社会	理科
教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う	25.7	5.2	24.8	4.1	22.5
教科書を主に使うがその他の教材もところどころ使う	68.3	74.4	71.4	66.3	61.3
教科書とその他の教材を半々程度使う	3.2	10.7	0.6	22.9	9.5
教科書をところどころ使うがその他の教材を主に使う	1.6	7.3		4.1	2.5
教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う		1.5			

※国語、社会、理科は小学校

「教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う」は、算数 25.7%、数学 5.2%であった。算数では４人に１人の教師が、いわゆる「教科書を教える」授業を行っている。また、「教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う」は、算数 68.3%、数学 74.4%で、２つを合わせると、算数 94.0%、数学 79.6%であった。ふだんの授業での教科書使用の割合は、どちらも高いが、算数が数学よりも高くなっている。その分、「教科書とその他の教材を半々程度使う」は、算数 3.2%、数学 10.7%で、数学の方が高い。なお、算数と国語が教科書の使い方において、同じような傾向を示している。いずれにしても算数、数学とも、「授業で教科書を中心に教える」割合は高くなっており、教科の主たる教材として児童生徒の学習や教師の指導に直接大きなウエイトを占めている。

（２）使いたい教科書（質問２）

質問２では、教師の教科書観（使いたい教科書）について聞いている。その結果は表２の通りである。

表２　使いたい教科書

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

使いたい教科書	算数	数学	国語	社会	理科
教えるための性格が強い教科書	8.6	5.8	7.0	1.0	1.3
どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	35.2	19.2	35.2	14.6	15.9
自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	5.1	9.5	4.8	16.2	13.3
どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	6.0	8.8	5.4	17.5	13.7
教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスのとれた教科書	44.1	55.8	45.7	49.5	53.7

※国語、社会、理科は小学校

「教えるための性格が強い教科書」は、算数 8.6%、数学 5.8%であった。また、「どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書」は、算数 35.2%、数学 19.2%で、２つを合わせると、算数 43.8%、数学 25.0%であった。一方、「教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書」は算数 44.1%、数学 55.8%であった。

算数では、「教え込みの性格の強い教科書」と「学習材とのバランスが保たれている教科書」を望む割合がそれぞれ 43.8%、44.1%と拮抗しているが、数学では、それぞれ 25.0%、55.8%で、「学習材とのバランスがとれている教科書」を望む割合の方が高い。算数から数学へと抽象度が強まるにつれ、このような傾向にあるものと思われるが、児童・生徒の発達段階に応じて教科書の性格も変わっていくものと思われる。なお、質問１と同様、算数と国語が教師の「使いたい教科書」で同じような回答結果を示している。

（３）教科書の体様（質問３）

ここでは、主として、教科書の体様に関する教師の要望についてまとめる。平成 14 年度版の教科書からオールカラー化、判型の大判化等教科書の仕様が大きく変わったことに対する教科書のありかた、要望について聞いている。

１）教科書の内容の構成やデザイン（質問３-Ａ）

①ページ数（Ａ-１）

表３　ページ数

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
算数教科書	64.8	33.7	1.0	0.6
数学教科書	68.3	29.6	1.8	0.3

算数、数学とも「現行程度でよい」、「増やす」の割合は、それぞれ 2/3、1/3 程度になっている。学習内容が厳選されて、教科書のページ数が薄くなっているということがいろいろなところで指摘されており、「増やす」という意見がもっと多いかと予想されたが、この結果では、「現行程度でよい」という現状肯定率の方が高い。指導時数が減って現行の教科書を消化するのもやっとという現状での現場の事情が起因しているものと思われる。また、ページ数が増えて教科書が重くなることの不安も想定される。ただ、「増やす」が算数、数学とも 1/3 程度を占めていることは注視する必要がある。

自由記述の中で、教師から次のような意見が出されている。（一部抜粋）

＜小学校教師＞

・小学校の教科書も中学校並みに厚くして、内容を教師が選択して授業で使うものにしてほしい。２倍の量にしてもよいくらい。子ども達は、すでに社会的環境の中で身につけているから、教科書の中味が薄すぎるのです。もっともっと高度な内容が欲しい。
・もっと教材を多くすべき。分量を多くしてもよい。日本の教科書は薄っぺらすぎる。多くして選択性にするとよい。
・学習への興味を引き出し、自ら先に進んでゆける教科書、わからなければ、繰り返し何度でも学習すれば理解できる教科書でありたい。厚くすべきである。

＜中学校数学教師＞

・教科書は軽くて問題数が多いほうがよい。そのためにはサイズを小さくし字を小さくするとよい。生徒はカバンが年毎に重くなっている。
・説明が分かりにくいところが…まずは、どの生徒でも分かる教科書であってほしい。分厚くてもいいから、応用力を高める問題も多く扱ってほしい。
・問題練習の量を増やす（図形の単元）。そのために、価格が高くなり、ページ数が増えるのはやむをえない。

②カラーページの割合（A-２）

表４　カラーページの割合

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	全ページ、カラー	現行ほど必要ない	必要な部分だけカラー	無回答
算数教科書	39.0	7.3	53.0	0.6
数学教科書	24.7	11.9	62.8	0.6

算数、数学とも「図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい」が、算数で 1/2、数学で 2/3 程度占めている。一方、「教科書は全ページカラーがよい」が算数で 39.0%あるものの、数学では 24.7%であった。平成 14 年度の教科書から小学校、中学校の教科書とも全教科でカラー化が進められたが、算数、数学の教科書については、「全ページカラー化」よりも、効果的な場面で「必要な部分だけカラーであればよい」という意見が多かった。これは、算数以上に数学の教科書に求められている。

自由記述の中で、教師から次のような意見が出されている。（一部抜粋）

＜小学校教師＞

・必要以上にビジュアル重視になっているように思う。これ以上、カラフルにしたり絵や写真（社会科資料以外）を大きくしたりする必要はない。

・教科書はカラーを減らし、安くすべきだと思う。

＜中学校数学教師＞

・ひと昔前に比べて、カラー、さし絵が多く、とっつきやすくなっていると感じます。中学校では、もう少し、少なくてもいいかと思いますが、小学校の教科書を見ると、さし絵がすごく多いのでこの程度はいるのかも……

・カラフルで見やすく要点を押さえているのでよい。

・重要箇所のカラー刷りはとても見やすい。

・カラーページやキャラクターの利用で親しみやすくなった。

・授業の中で、キャラクター等を見ていることはない。昔よりだいぶカラーが増え、絵本の様であるが、その分大事なところの色刷りが目立たない。

・カラーページ、キャラクターなどで、数学という堅い（？）イメージをやわらげようとしているのかもしれないが、本質的な部分がしっかりしていれば必要ないと考える。

・カラーを多用し、重要度がわからない。キャラクターが多すぎる。

③本文の分量（A-３）

表５　本文の分量

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
算数教科書	71.7	27.3	0.0	1.0
数学教科書	68.9	27.4	3.4	0.3

算数、数学とも「現行程度でよい」、「増やす」の割合は、それぞれ 70%程度、30%程度になっている。学習内容が厳選されて、本文の分量が少なくなっているということがいろいろなところで指摘されており、ページ数と同様、「増やす」という意見がもっと多いかと予想されたが、この結果では、「現行程度でよい」という現状肯定率の方が高い。これも、ページ数の場合の指摘と同様に、指導時数が減って現行の教科書を消化するのもやっとという現状での現場の事情が起因しているものと思われる。ただ、「増やす」が算数、数学とも 27%程度を占めていることは注視する必要がある。

④発展的な学習内容の分量（A-４）

表６　発展的な学習内容の分量

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
算数教科書	51.7	37.8	9.8	0.6
数学教科書	58.5	35.7	5.5	0.3

「現行程度でよい」、「増やす」の割合は、それぞれ算数で 51.7%、37.8%、数学で 58.5%、35.7%であった。学習指導要領の一部改正に伴い、学習内容に示されていない内容も教科書で一定の条件付き（分量は本文ページの 10%程度）で取り上げられることが可能になった。算数、数学とも「増やす」という意見が 1/3 強を示しており、現行の学習内容の厳選の影響が出ているものと思われる。新しい学習指導要領では、算数・数学とも学習内容が現行に比べて大幅に増えるため、発展的な学習内容の質・量の両面で、さらなる改善工夫が求められる。

参考までに、縦軸に質問１の「ふだんの授業での教科書の使い方」を、横軸には「発展的な学習内容の分量」をとって、これらの関係をクロス集計した結果を表７－１、表７－２に示しておく。

なお、質問１の「教科書の使い方」の回答の選択肢は以下に示す１～５の５肢あるが、表７－１、表７－２では、１、２を「教科書中心」としてまとめ、３を「教科書と他の教

材が半々」とし、４、５を「他の教材中心」としてまとめて、おおまかに回答の傾向をとらえることにしてある。(以下、表 12－１、12－２も同様)

1. 教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。
2. 教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。
3. 教科書とその他の教材を半々程度使う。
4. 教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。
5. 教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。

表７－１　「算数教科書の使い方」と「発展的な学習内容の分量」との関係

N=315（表中の数値は%）

発展的な学習内容の分量 / 算数教科書の使い方		現行程度	増やす	減らす	無回答
		51.7	37.8	9.8	0.6
教科書中心	94.0	48.9	35.2	9.5	0.3
教科書と他の教材が半々	3.2	1.6	1.3	0.3	
他の教材中心	1.6	0.6	1.0		
無回答	1.3	0.6	0.3		0.3

表７－２　「数学教科書の使い方」と「発展的な学習内容の分量」との関係

N=328（表中の数値は%）

発展的な学習内容の分量 / 数学教科書の使い方		現行程度	増やす	減らす	無回答
		58.5	35.7	5.5	0.3
教科書中心	79.6	49.7	25.0	4.6	0.3
教科書と他の教材が半々	10.7	4.9	5.2	0.6	
他の教材中心	8.8	3.4	5.2	0.3	
無回答	0.9	0.6	0.3		

表７－１、表７－２から、教科書中心の授業を行っている教師に限定した場合、算数教科書については、現行程度が 52.0%、増やすが 37.4%となっている。数学教科書については、現行程度が 62.4%、増やすが 31.4%となっている。

自由記述の中で、教師から次のような意見が出されている。(一部抜粋)

＜小学校教師＞

・算数科は、台形の面積の公式など発展的な学習課題を増やしてほしい。
・発展的内容を多く載せているものやそうでないものなどいろいろあってもよいかと思う。

＜中学校数学教師＞

・発展的な学習については、「取り組んでもよい」などと曖昧な取り扱い方をしていて困っています。するならする！！しなくてもよいならいっそのこと削除するなどして下さい。しかし、これは教育課程との関係もありますが。

・平成 18 年度の改訂で削除された内容が発展問題に入り、授業で触れることができて使いやすくなった。
・とりくんでみよう（発展問題）の問題のなかに見方・考え方の問題を充実させて欲しいと願う。

⑤注、コラム、資料などの分量（A－５）

表８　注、コラム、資料などの分量

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
算数教科書	68.3	25.4	6.0	0.3
数学教科書	68.9	27.1	3.7	0.3

算数、数学とも「現行程度でよい」、「増やす」の割合は、それぞれ 70%程度、25%程度になっている。この結果では、「現行程度でよい」という現状肯定率が高い。算数、数学ともすべてＢ５判になり、現在の教科書で、注、コラム、資料などの数が適度に取り上げられているが、「増やす」も 25%程度あり、今後、増やしていく必要があるものと思われる。

⑥さし絵、図、表、写真などの大きさ（A－６）

表９　さし絵、図、表、写真などの大きさ

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
算数教科書	83.8	13.7	1.9	0.6
数学教科書	84.1	6.4	9.5	

算数、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 83.8%、84.1%になっている。この結果では、「現行程度でよい」という現状肯定率が非常に高い。算数、数学ともすべてＢ５判になり、現状で見やすい大きさになっているものと思われる。ただ、「小さくする」という割合が算数で 1.9%、数学で 9.5%になっているが、一部に校種に応じた大きさが望まれているものと思われる。

⑦文字の大きさ（A-７）

表 10 文字の大きさ

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
算数教科書	95.6	2.2	1.3	1.0
数学教科書	96.6	0.6	2.7	

算数、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 95.6%、96.6%になっている。この結果では、「現行程度でよい」という現状肯定率が極めて高い。算数、数学ともすべてＢ５判になり、現状で見やすい文字の大きさになっているものと思われる。

⑧判型（A-８）

表 11　判型

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
算数教科書	85.1	12.7	1.3	1.0
数学教科書	80.8	5.8	13.4	

算数、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 85.1%、80.8%になっている。算数、数学ともすべてＢ５判になり、「現行程度でよい」という現状肯定率が非常に高い。一方、「小さくする」は算数では 1.3%と極めて低いが、数学では 13.4%になっている。数学で旧来のＡ５判を望む声が一部にあることを示している。

自由記述の中で、教師から次のような意見が出されている。（一部抜粋）

＜小学校教師＞

・判型が大きくても机は小さいのだから、判型は可能な限り、小さくしてほしいです。（あるいは机は大きくしてほしい）

＜中学校数学教師＞

・以前使っていた小さい教科書より今の教科書の方が大きくて使いやすいと思う。

・大きすぎて持ち運びにくい。

・現在の教科書はＢ５判になって文字も大きくなりカラーも多くて見やすくなったが、大きくなった分、重たくなり、生徒の登下校時の負担が増しているのが心配である。

・Ｂ５は大きいと思います。Ａ５サイズ（昔のもの）が良いと思います。

⑨定着のための練習問題の数（A－９）

表 12　定着のための練習問題の数

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
算数教科書	36.8	61.9	1.0	0.3
数学教科書	23.5	74.1	0.9	1.5

算数、数学とも「増やす」の割合は、それぞれ 61.9%、74.1%になっており、「現行程度でよい」という割合を、それぞれ大きく上回っている。他の項目では、現状を肯定する意見の割合が高いが、この項目では逆転している。基礎・基本の徹底、定着をはかるための繰り返し練習という観点からすると、現在の教科書では練習問題が少ないとする声が多数を占めている。この割合は数学においてより顕著である。

自由記述の中で、教師から次のような意見が出されている。(一部抜粋)

＜小学校教師＞

・もっと教材を多くすべき。分量を多くしてもよい。日本の教科書は薄っぺらすぎる。多くして選択制にするとよい。

＜中学校数学教師＞

・練習問題の量が少ないと思います。授業数が少なくなり、演習の時間が十分にとれないことも事実ですが、余裕がある生徒には、どんどん解かせたいと考えています。

・数学の教科書については内容がよく考えているもので十分に活用させていただいています。問題の数は不足していると思われるのでプリント、ワークブック等で対応していますが、もう少し練習問題の量が多くあればありがたいです。

・練習問題の量が少なく感じる。考える力をつけるような問題を増やしてほしい。

→自由記述した 108 名の先生方の内、実に 38 名の先生方が、「練習問題が少ない」ことを指摘している。

参考までに、縦軸に質問１の「ふだんの授業での教科書の使い方」を、横軸には「定着のための問題の数」をとって、これらの関係をクロス集計した結果を表 12－１、表 12－２に示しておく。

表 12－１　「算数教科書の使い方」と「定着のための練習問題の数」との関係

N=315（表中の数値は%）

定着の練習問題の数 算数教科書の使い方		現行程度 36.8	増やす 61.9	減らす 1.0	無回答 0.3
教科書中心	94.0	34.6	58.4	1.0	
教科書と他の教材が半々	3.2	0.6	2.5		
他の教材中心	1.6	1.0	0.6		
無回答	1.3	0.6	0.3		0.3

表 12－２　「数学教科書の使い方」と「定着のための練習問題の数」との関係

N=328（表中の数値は%）

定着の練習問題の数 数学教科書の使い方		現行程度 23.5	増やす 74.1	減らす 0.9	無回答 1.5
教科書中心	79.6	18.9	58.8	0.6	1.2
教科書と他の教材が半々	10.7	2.1	8.2		0.3
他の教材中心	8.8	2.4	6.1	0.3	
無回答	0.9		0.9		

表 12－１、表 12－２から、教科書中心の授業を行っている教師に限定した場合、算数教科書については、現行程度が 36.8%、増やすが 62.1%となっている。数学教科書については、現行程度が 23.7%、増やすが 73.9%となっている。算数・数学教科書での「定着をはかる練習問題の数」を増やすことが強く望まれており、これは数学教科書についてより顕著である。

⑩さし絵、キャラクターなどの数（A-10）

表 13　さし絵、キャラクターなどの数

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
算数教科書	76.5	7.0	16.2	0.3
数学教科書	72.0	1.5	25.0	1.5

算数、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 76.5%、72.0%になって大勢を占めている。ただ、数学で「増やす」が 1.5%に比べて「減らす」が 25.0%と高く、現状でも多いとする意見が 1/4 もあり、留意する必要がある。

自由記述の中で、教師から次のような意見が出されている。(一部抜粋)

＜小学校教師＞

・もっと学びの本らしくても良い。写真や絵が多すぎて雑誌をめくっているようなものもある。ページの焦点が定まらず大事な事が書いてあるのかないのかも、子どもたちはわからないページも多いと思う。

＜中学校数学教師＞

・以前に比べてかなり親切になった。カラーページやキャラクターの利用で親しみやすくなった。

・中学生の使う教科書にしては、イラストや絵が多く、文字も大きすぎると思います。教科書と参考書とは異なって当然であり、その点を変えて価格が安くできるのならぜひそうしてほしい。

・教科内容ではなく、さし絵ばかりに興味がいき、教科書ではなく、絵本のイメージが強い！

・キャラクターが問のヒントを与える構成が目につくが、キャラクターは、極力、使わない方がよいと思う。

２）堅牢性（質問３-Ｂ）

①表紙の厚さ（Ｂ-１）

表 14　表紙の厚さ

小学校 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	厚いハードカバー	薄くする	無回答
小学校教科書	98.7	0.6	0.3	0.3
数学教科書	97.0	0.6	1.2	1.2

小学校（教科全体)、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 98.7%、97.0%になって大勢を占めている。現行程度で問題ないといえる。

②本文の用紙の厚さ（Ｂ-２）

表 15　本文の用紙の厚さ

小学校 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	厚くする	薄くする	無回答
小学校教科書	98.4	1.0	0.3	0.3
数学教科書	96.6	0.6	1.5	1.2

小学校、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 98.4%、96.6%になって大勢

を占めている。現行程度で問題ないといえる。

③製本（B－3）

表 16　製本

小学校 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	頑丈にする	簡易にする	無回答
小学校教科書	95.9	3.5	－	0.6
数学教科書	97.0	1.8	－	1.2

小学校、数学とも「現行程度でよい」の割合は、それぞれ 95.9%、97.0%になって大勢を占めている。現行程度で問題ないといえる。

3）書き込み、貼り付け、切り取りなど（質問3－C）

表 17　書き込み、貼り付け、切り取りなど

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やしたほうがよい	減らしたほうがよい	必要ない	無回答
算数教科書	63.8	19.7	8.6	7.0	1.0
数学教科書	58.2	18.3	11.3	11.0	1.2

「現行程度でよい」と「増やした方がよい」を合わせると算数で 83.5%、数学で 76.5%になっている。また、「減らしたほうがよい」と「必要ない」を合わせると算数で 15.6%、数学で 22.3%になっている。算数、数学とも、ほぼ同じような傾向を示しているが、算数の方が数学よりも必要度がやや高いといえる。教科書での取り上げ方は、教科書発行者によってばらつきはあるが、教師の受け止め方も、特に数学では、ばらつきがあるように思われる。

自由記述の中で、教師から改善点も踏まえて、次のような意見が出されている。

（一部抜粋）

＜小学校教師＞

・サブノート的に書き込みしていけるページがあるとよい。
・書き込み部分が鉛筆では書きづらい点、1年生算数など直接おはじきを置く場合、教科書が浮いて置きづらい点等、改善できるとよいのですが。
・貸与制を行った方が下級生に引き継ぐために大切に扱うのではないかと思う。それができなければ書き込むところを多くして自分の教科書として大切に扱うようにしても…と思う。

・上下に分けて切り目を入れる算数の教科書はなくてもいいと思います。
・書き込みのスペースが小さく、児童がかきにくい。(児童は文字を大きく書くので)

＜中学校数学教師＞

・貼り付け、切り取りなどのページを増やしてほしい。
・数学的活動をささえる補助的な教具がさし込んであるとよいと思う。自分で作っているのでかまわないが、思考をささえるためにも関心をひくためにも有効だと考えます。
・切り取ったり貼り付けたりと、工夫されている点ありがたい。
・付録的なものは必要ないと思います。
・切り取り式の教材は、いらないと思います。
・書き込みしやすい紙質に
・書き込めるページはよい。
・切り取って使う教材などは、教科書本体とは別にしてほしい。適宜、教員が配布する形の方がよい。

（４）教科書の内容への要望（小学校：質問９、中学校：質問４）

ここでは、主として、教科書の内容に関する教師の要望についてまとめる。

質問項目は以下の６つである。問①～④が算数教科書、数学教科書に共通であり、問⑤、⑥は数学教科書についてだけ聞いている。

問①　教科書の程度
問②　作業的・体験的な活動など算数的（数学的）活動
問③　答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを答えさせる記述式の問題
問④　習熟度別指導への対応
問⑤　生徒に身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力
問⑥　教科書の改善・充実でもっとも重要な内容

以下、１）～６）は各問ごとの考察、７）は「基礎・基本のなかで重視している力」との関係についての考察である。

１）教科書の難易度 ―問①の結果―

表 18　教科書の程度

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度	現行より難しく	現行より易しく	無回答
算数教科書	71.7	26.0	1.9	0.3
数学教科書	67.4	29.3	1.5	1.8

算数、数学教科書とも、およそ７割が現行程度の難易度でよいと回答していて、記述の

難易度についてはよい評価を得ていると判断できる。

それ以外の回答のほとんどは「現行より難しい方がよい」であり、算数、数学教科書それぞれで 26.0%、29.3%ある。「現行より易しく」という回答はほとんどない。この結果は、教科書編集に関する回答というより、平成 10 年度版学習指導要領での教育課程において算数・数学科の指導内容が従前に比較して大幅に削減、縮減された結果に基づくものであると推測される。

２）作業的・体験的な活動など算数的（数学的）活動 ―問②の結果―

表 19　作業的・体験的な活動など算数的（数学的）活動

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度	増やす	減らす	無回答
算数教科書	51.1	47.6	1.0	0.3
数学教科書	50.3	43.9	4.6	1.2

数学的活動の分量については、算数、数学教科書とも、「現行程度でよい」と「増やす」という回答がおよそ５割であり、意見が分かれた結果になった。「減らす」という回答はほとんどない。

３）答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを答えさせる記述式の問題 ―問③の結果―

表 20　考え方や理由などを答えさせる記述式の問題

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	現行程度	増やす	減らす	無回答
算数教科書	36.5	62.2	1.0	0.3
数学教科書	40.2	57.3	0.9	1.5

考え方や理由などを答えさせる記述式の問題については、算数、数学教科書とも、およそ６割が「増やす」と回答している。この結果は、教師が学習の結果だけではなくその過程をも評価したいと考えているとともに、自分の考えやそれに至るまでの過程を表現することを価値あるものと考えている現状が回答に現れたということができる。

「現行程度でよい」という回答は、算数、数学教科書とも、およそ４割程度あった。

なお、この問いに対して６割が「増やす」と回答している一方で、数学教科書だけを対象にした問⑤の結果を示した表 22 によれば、「生徒に身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力」として「説明するなどの表現力」をあげた回答は 10.4%にとどまっている。

４）習熟度別指導への対応 ―問④の結果―

表 21　習熟度別指導への対応

算数 N=315　数学 N=328

（表中の数値は%）

	教科書でも必要	教科書では不必要	どちらともいえない	無回答
算数教科書	54.6	27.9	16.8	0.6
数学教科書	40.2	36.6	22.0	1.2

習熟度別指導への対応については、算数教科書と数学教科書では異なった結果になった。算数教科書では「教科書でも必要」という回答が 54.6%あり、「教科書では不必要」という回答のおよそ２倍になっている。これに対して数学教科書では、「必要」「不必要」がいずれも 40%程度と判断が分かれている。

この結果は、特に算数の場合、授業が習熟度別に行われることが近年多くなっているという現状が反映されたと考えられる。ここで回答結果に基づいて習熟度別指導にも対応できる教科書編集の方向を策定してみると、全国各地で同一学校では同一の教科書を手にして授業が行われているという日本の状況において、この上更に習熟度別指導にも対応した教科書づくりを目指すことには厳しいものがあろう。思い切って教科書そのものを的確な水準別に複数種用意し、それに基づく算数指導を考える方が適切かもしれない。

その一方で、算数の学習が中学校数学の学習の基礎的・基本的な部分を支えていることを考慮すると、個に応じた指導が行われるのは当然ではあるものの、徒に小学校段階からそれが行われ内容の理解や能力の育成の成果に個人差が大きく現れすぎると、中学校数学科での学習指導に対応できない多くの子ども達を生み出すことになりはしないかという危惧もある。

数学教科書については、「教科書でも必要」「教科書では不必要」がいずれも 40%程度あり、判断が分かれた。その理由として、従来から中学校数学科での学習指導が習熟度別の定着のための練習プリントを用意して行われていたり、選択教科としての数学の指導等を通して習熟の程度に応じた指導が行われていたりという土壌があるために、習熟度別指導への教科書の対応に関する教師側の要求はそれほど高くならなかったことがあげられよう。

参考までに、縦軸に質問１の「授業での教科書の使い方」を、横軸には「習熟度別指導への対応」をとって、これらの関係をクロス集計した結果を表 21－１、表 21－２に示しておく。

表 21－１　「算数教科書の使い方」と「習熟度別指導への対応」との関係

N=315（表中の数値は%）

習熟度別指導への対応 / 算数教科書の使い方		教科書でも必要	教科書では不必要	どちらともいえない	無回答
		54.6	27.9	16.8	0.6
教科書中心	94.0	51.1	26.0	16.5	0.3
教科書と他の教材が半々	3.2	1.9	1.3		
他の教材中心	1.6	1.0	0.3	0.3	
無回答	1.3	0.6	0.3		0.3

表 21－２　「数学教科書の使い方」と「習熟度別指導への対応」との関係

N=328（表中の数値は%）

習熟度別指導への対応 / 数学教科書の使い方		教科書でも必要	教科書では不必要	どちらともいえない	無回答
		40.2	36.6	22.0	1.2
教科書中心	79.6	32.0	28.4	18.3	0.9
教科書と他の教材が半々	10.7	4.0	4.6	1.8	0.3
他の教材中心	8.8	3.4	3.7	1.8	
無回答	0.9	0.9			

表 21－１、表 21－２から、教科書中心の授業を行っている教師に限定した場合は、算数教科書についてはその 54.4%が、数学教科書についてはその 40.2%が、教科書の「習熟度別指導への対応」を望んでいることが読みとれる。

５）身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力 ―問⑤の結果―

中学校数学教師だけを対象とした「生徒に身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力」に関する回答の結果は、表 22 の通りである。「問題解決力」と「論理的な思考力」がともに 40%を超えていて、「説明するなどの表現力」は 10.4%にとどまっている。

表 22　基礎・基本のなかでもっとも重視している力

N=328（表中の数値は%）

問題解決力	47.3
論理的な思考力	41.2
説明するなどの表現力	10.4
無回答	1.2

６）教科書の改善・充実でもっとも重要な内容 ―問⑥の結果―

「教科書の改善・充実でもっとも重要な内容」に関する回答の結果は、表 23 の通りである。この問いも中学校数学教師だけを対象にしている。「練習問題の充実」が 39.0%と最も多く、「思考力を養う問題の充実」が 33.5%、「導入教材の充実」が 26.2%と続いている。

表 23　教科書の改善・充実でもっとも重要な内容

N=328（表中の数値は%）

導入教材の充実	26.2
思考力を養う問題の充実	33.5
練習問題の充実	39.0
無回答	1.2

７）数学教師の数学観と教科書編集に対する考え方との関係

中学校数学教師を対象とした「問⑤生徒に身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力」に関する問いは、教科書編集に関する考えを直接聞いたものではなく、数学教師の数学観・授業観が回答に反映される問いと考えることができる。既に表 22 に示した問⑤の結果によれば、生徒に身につけさせたい基礎・基本の力として「問題解決力」、「論理的な思考力」を最も重視する教師はいずれも 40%を超えていて、「説明するなどの表現力」は 10.4%にとどまっている。

ここでは、「重視している力」の違いが、教科書編集に対する考え方の違いとして現れるかどうかをクロス集計の結果に基づいて分析してみる。

①「重視している力」と「教科書の使い方」との関係

縦軸に「もっとも重視している力」を、横軸には質問１の「授業での教科書の使い方」をとって回答の分布を調べてみると、表 24 を得る。

表 24　「基礎・基本のなかで重視している力」と「教科書の使い方」との関係

N=328（表中の数値は%）

教科書の使い方 / 基礎･基本のなかで重視している力		教科書中心	教科書と他の教材が半々	他の教材中心	無回答
	79.6	10.7	8.8	0.9
問題解決力	47.3	38.1	5.2	3.7	0.3
論理的な思考力	41.2	31.4	4.6	4.6	0.6
説明するなどの表現力	10.4	9.1	0.6	0.6	
無回答	1.2	0.9	0.3		

表 24 の結果から、次のことが指摘できる。

ア)「もっとも重視している力」の違いと「授業での教科書の使い方」の違いとの間には、顕著な傾向はみられなかった。

イ)「問題解決力」を重視し「教科書中心」の授業を行っているとした回答は、全体の38.1%(「問題解決力」を重視するとした回答の内の80.5%)ある。また、「論理的な思考力」を重視し「教科書中心」の授業を行っているとした回答は、全体の31.4%(「論理的な思考力」を重視するとした回答の内の76.2%)ある。「問題解決力」あるいは「論理的な思考力」の育成を重視する数学教師の内のおよそ８割が「教科書中心」の授業を行っていることが分かる。なお、教科書をどのように使うと「問題解決力」や「論理的な思考力」の育成が的確になされるかについては、今回の調査からは分からない。

②「重視している力」と「発展的な内容の分量」との関係

縦軸に「もっとも重視している力」を、横軸には「教科書の体様」に関する質問３のA-４の「発展的な学習内容(学習指導要領の範囲外のもの)の分量」をとって回答の分布を調べてみると、表25を得る。

表25　「基礎・基本のなかで重視している力」と「発展的学習の内容の分量」との関係

N=328(表中の数値は%)

発展的な内容の分量 基礎･基本のなかで 重視している力		現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
	58.5	35.7	5.5	0.3	
問題解決力	47.3	29.6	14.9	2.7	
論理的な思考力	41.2	21.3	18.0	1.5	0.3
説明するなどの表現力	10.4	6.4	2.7	1.2	
無回答	1.2	1.2			

表25の結果から、次のことが指摘できる。

ア)「問題解決力」を重視していて「発展的学習の内容の分量」は「現行程度でよい」とした回答は、全体の29.6%(「問題解決力」を重視するとした回答の内の62.6%)ある。この値は、「問題解決力」を重視していて「発展的学習の内容の分量」は「増やす」とした回答(全体の14.9%)の２倍に相当する。「問題解決力」の育成をねらうことが「発展的学習の内容の分量」を増やすことにはつながらないことを示している。

イ)「論理的な思考力」を重視しているとした者の「発展的学習の内容の分量」に関する回答は、「現行程度でよい」(全体の21.3%)と「増やす」(全体の18.0%)とにほぼ同程度に分かれた。「論理的な思考力」は、発展的な学習だけでなく、日々の授業における意図的な指導によって育成が可能であることを暗示している。

③「重視している力」と「教科書改善で重要な内容」との関係

縦軸に「もっとも重視している力」を、横軸には「問⑥教科書の改善・充実でもっとも重要な内容」をとって回答の分布を調べてみると、表26を得る。

表 26　「基礎・基本のなかで重視している力」と「もっとも重要な内容」との関係

N=328（表中の数値は%）

基礎･基本のなかで重視している力 ＼ 重要な内容		導入教材の充実	思考力を養う問題の充実	練習問題の充実	無回答
		26.2	33.5	39.0	1.2
問題解決力	47.3	14.9	11.0	21.3	
論理的な思考力	41.2	7.9	19.5	13.7	
説明するなどの表現力	10.4	3.4	3.0	4.0	
無回答	1.2				1.2

表 26 の結果から、次のことが指摘できる。

ア)「問題解決力」を重視し「導入教材の充実」を教科書の改善点としてあげた回答は、全体の 14.9%（「問題解決力」を重視するとした回答の内の 31.5%）ある。「問題解決力」を育成するには的確な「導入問題」を用意して問題解決的な授業を行うことが不可欠であるが、この 14.9%という値が、教科書の導入教材は現行のものでよいという判断に基づくものなのか、導入教材は教師それぞれが持っているので他の部分の教科書記述の改善を望んだ結果なのかは、今回の調査からは分からない。

イ）育成を重視する力として「問題解決力」をあげながら、教科書の「練習問題の充実」が重要とした回答が、全体の 21.3%（「問題解決力」を重視するとした回答の内の 45.0 %）ある。この回答の中には、「問題解決力」をわかりきった問題を解決することとして回答した者もいたと推測される。

ウ)「論理的な思考力」を重視し「思考力を養う問題の充実」を教科書の改善点としてあげた回答は、全体の 19.5%（「論理的な思考力」を重視するとした回答の内の 47.3%）ある。この結果は、「論理的な思考力」を重視していて、「思考力を養う問題の充実」を教科書改善に望んでいる中学校数学科教員が全体のおよそ２割いるということを示している。

（５）対保護者調査における算数・数学教科書に関する結果

ここでは、対保護者調査において、算数・数学教科書に関する回答を中心にまとめる。

１）の「教科書への関心」、２）の「保護者自身による教科書の使われ方」については、算数・数学教科書に関する問いである。３）は、体様（教科書のページ数、カラーページの分量）について、教科書一般の回答結果を算数・数学教科書と比較してまとめることにする。

１）教科書への関心（質問１）

質問１では、保護者が教科書等を見る頻度を教科別に聞いている。保護者の教科書への関心度をみるこの問いに関する結果は、表 27 の通りである。また、表 27 の項目ア、イ、ウを合計した割合を、教科別に高い順に示すと、小学校、中学校で次のようになっている。

＜小学校＞国語（91.5%）、算数（88.0%）、社会（76.4%）、理科（74.9%）、
地図帳（71.6%）、音楽（64.0%）、図画工作（63.2%）、書写（53.0%）、家庭（51.8%）、
保健（48.2%）、道徳（42.0%）
＜中学校＞英語（73.6%）、数学（69.6%）、社会（69.2%）、国語（67.8%）、
理科（62.2%）、地図帳（59.7%）、音楽（46.3%）、技術・家庭（42.5%）、美術（40.1%）、
保健体育（38.5%）、書写（33.6%）、道徳（29.8%）

表 27　教科書への関心

小学校（算数）N=1054　中学校（数学）N=1061

（表中の数値は%）

教科書への関心	算数	数学
ア　じっくり見たことがある	11.3	5.6
イ　勉強を教えるときなど､少し見たことがある	49.1	24.5
ウ　ぱらぱらとめくる程度に見たことはある	27.6	39.5
エ　まったく見たことがない	11.6	29.0
オ　無回答	0.4	1.4

小学校の保護者の 88.0%、中学校の保護者の 69.6%が、何らかの形で算数、数学それぞれの教科書をみていることになる。その割合は、小学校に比べて中学校で 20%ほど下がるものの、算数・数学の教科書への関心度はいずれも高いということができる。一方、保護者のおよそ 30%は、数学の教科書をまったく見ていないことも明らかになった。

なお、教科全般の中では、算数の教科書は国語の教科書に次いで、数学の教科書は英語の教科書に次いで、保護者に読まれ見られている。

２）保護者自身による教科書の使われ方（質問２）

質問２では、保護者が「自分自身の興味関心や勉強のために」教科書等を読んだり見たりするかどうかを複数回答も可として聞いている。

小学校保護者の 45.0%が算数教科書を、中学校保護者の 27.3%が数学教科書を、自分自身のために見ているという回答結果であった。子どもの教育のために使われるとともに、保護者自身にとっての参考書のように使われることもあるのであろう。

３）体様（質問７）

教科書の体様のうち、特にページ数、カラーページの分量について、教科書一般の回答結果を算数・数学教科書と比較してまとめておく。

①ページ数（A）

表 28　ページ数

小学校 N=1054　数学 N=1061

（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校保護者	71.8	26.0	0.9	1.3
中学校保護者	74.7	18.3	4.9	2.1

教科書全般について「ページ数を増やす」とした回答は、小学校保護者で 26.0%、中学校保護者で 18.3%あった。これを、対教師調査の結果（算数教科書 33.7%、数学教科書 29.6%）と比べると、「ページ数を増やす」という意見は保護者の方が教師の割合よりも全体に下回っている。これは、保護者の自由記述の中にも多く見受けられるように、ページ数が増えて教科書が重くなりカバンが重くなることへの懸念が現れたということができるであろう。

中学校の保護者から、「教科書が非常に重く通学の負担となっている」という意見がある。教育内容が厳選されている今日の教科書に対してでさえ、このような指摘が多くある。新学習指導要領に基づく教育課程では、教科の指導時間数が増え、内容も増えることから、算数・数学教科書のページ増は避けられないが、このような指摘があることを十分に踏まえた新たな教科書づくりが求められている。

②カラーページの割合（C）

表 29　カラーページの割合

小学校 N=1054　中学校 N=1061

（表中の数値は%）

	全ページ、カラー	現行ほど必要ない	必要な部分だけカラー	無回答
小学校保護者	25.8	19.0	52.8	2.5
中学校保護者	17.1	15.9	64.4	2.6

教科書全般について「必要な部分だけカラー」でよいとした回答は、小学校保護者で 52.8%、中学校保護者で 64.4%あった。これを、対教師調査の結果（算数教科書 53.0%、数学教科書 62.8%）と比べると、ほぼ同様の結果になっている。また、「現行ほど必要ない」とした回答は、小学校保護者で 19.0%、中学校保護者で 15.9%あり、対教師調査の結果（算数教科書 7.3%、数学教科書 11.9%）よりやや多くなっている。黒インク１色の教科書の時代に育った保護者にとって、オール４色化は美しく驚きであり戸惑いもある。その一方、カラー化を評価しながらもここまでカラー化が必要なのかといったことが結果に現れたのであろう。

自由記述の欄には、保護者から次のような意見が述べられている。その中には、カラー化に警鐘を鳴らす意見が多く見受けられる（一部抜粋）。

＜小学校保護者＞

・昔にくらべて、わかりやすく、カラーページが多いので勉強しやすいと思います。
・昔の教科書にくらべて、イラストやカラーが多いと思います。想像力をつけるにはもっと減らしてもいいと思います。
・教科によって全ページカラーも見やすくてよいが、従来より内容が減っていることも考えると必要ない部分（カラーでなくても）もあるかと思う。

＜中学校保護者＞

・学年、年齢などにもよるが、カラー部分が無駄に多いのではないか？カラー＝子どもの興味、関心にはならないと思う。
・カラーは必要な部分だけで十分だと思う。

（６）おわりに

１）まとめにかえて

OECDによるPISA調査の影響もあって、このところ数学的リテラシーに関する議論が喧しい。価値観が多様化し高度に情報化した社会において児童生徒が身に付けるべき知識や能力の重要性が声高に叫ばれている中にあって、すべての子ども達が一律に手にする教科書の占める位置は極めて大きい。日本の教科書の場合、その内容や程度は学習指導要領に示されているものの、それに基づいてどのような算数・数学学習における子ども像を想定しどのような編集方針によって教科書を作成するかは、各教科書会社に依存する部分も少なくない。

今回の調査によって教科書への要望もいくつか浮き彫りになったが、その中には、例えば「書き込み・貼り付け・切り取りの分量」の結果のように、「増やしたほうがよい」と「減らしたほうがよい」とに分かれたものもある。この場合、教科書の対応は、どちらの意見に組みするかによって正反対のものになる。調査結果を的確に解釈することが望まれる。

今回の調査を通して、特に算数・数学教科書はふだんの授業でよく使われていることが明らかになった。それだけに、教科書の役割には大きなものがあり、また、よりよい教科書作りが期待されていることを銘記したい。

なお、算数・数学教科書に関して前項までに述べてきたことの概要については、次章「教科書改善への提言」の算数・数学の項にまとめてあるので、参照していただきたい。

２）今後の課題

今回、調査を実施し、結果を分析しまとめる中で、教科書研究の課題がいくつか浮き彫りになった。その中でも特に、今後の算数・数学教育の実践・研究に一層貢献する教科書記述のあり方に関する研究課題を３点ほど挙げておく。

①　ただ読んですませるのではなく、子ども達に実際に算数的活動・数学的活動を促す教科書記述のあり方はどのようにすることが好ましいのかについての検討。

これに関する追究は、学習の過程を一層豊かなものにし、子ども達の算数・数学への興

味・関心の喚起や態度を育成することに大きく貢献する。

② 教科書の単元や項の導入問題を使って授業を展開する場合、実際にどのようなかたちで「問題」の提示をするのが好ましいのかについての検討。

これに関する追究は、授業を構想し実施する上で大きな役割を演じる「問題」の適否や、それに対する子どもの思考の分析等を含む学習過程の研究に大きく貢献する。これについては、数学の内容に応じて細かく検討する必要がある。

③ 算数・数学で育成すべき能力に関する内容を、いかに教科書に明示的に記述するかについての検討。

これに関する追究は、概念理解と能力形成との両者から目標や内容をとらえるという算数・数学教育の今日的な方向の実現に向けて、その方策の研究に大きく貢献する。これについては、例えば文字式の理解とともに演繹的推論能力の育成を目指す、図形の証明の学習においてコミュニケーション能力の育成を目指す、というように、理解すべき数学的概念と育成すべき能力とに応じて細かく検討する必要がある。

（國宗 進・森田浩一）

１．４　理科

（１）理科の特性と教科書

理科の学習対象は自然の事物・現象である。観察や実験を通して事実を明らかにし、それを知識とするだけでなく、学んだ知識を生かして、未知の世界をさらに知り、技術の力で創造的な活動をする基礎を培うものである。知識・理解をもととする基礎学力のみではなく、いかに日常生活とのかかわりで生きて働く力としうるかが真の理科学力である。

理科の教科書は、主に次のような特徴を持っている。一つは情報機能、二つは学習支援のためにある。学習指導要領に示された内容を十分分析した上で、素材としての自然の事物・現象を選び出し、実際に見られる事物・現象を学びの対象とするため、写真・図などを生かした表現を工夫し、現実の事象にひそむ不思議さ疑問を出発点として、学習意欲を喚起する機能が求められ、観察や実験を通して問題を解決していく学習過程に大きな役割を果たしている。

我が国の子どもたちのまわりは、素材にあふれ、実験器具や道具も整い、観察や実験方法にも、多様で自由度の許された恵まれた学習環境が保障されている。これが理科の学力形成前半で大いに寄与している。ところが学力形成後半、すなわち日本型理科学力の弱点である論理性の欠如や、疑問を持ったり、問題意識を持つことの弱さが、PISAによる国際調査の結果で指摘されている。実験をなぜするのか、このことから何がわかるのか、この現象はどのように他に影響を及ぼすかなど、知識を使って説明する能力、予測する能力、自然をどのように解釈するかの力に弱さが見られる。

理科における教科書の役割は、理科学力形成のうち、自然を読み解く力すなわち自然の事物・現象にひそむ因果関係と科学概念（知識）形成を確かなものにするためにある。観察や実験の「体験」が前半とすると、「思考」による解釈や説明を可能とする理科学力の後半に子ども自身の確かな手ごたえを感じていくことが必要であろう。

本調査では、理科学習の特質を踏まえた上で、主として教科書のつくりに関する質的量的両面から、教師に問いかけたものである。

（２）調査項目の観点

質問１と質問２は、各教科に共通の質問項目である。教科書が各教科の授業にどう位置づけられているかを探り出そうとしている。教科によって、また小学校や中学校という校種によって、その位置づけの違いがあるかどうかを調べたいと考えた。

質問３では、教科書の体様（ページ数、大きさ、文字や写真の分量や大きさ、堅牢性など）について質問している。これも、各教科に共通の質問事項であるが、理科では、教科書に載せるイラストや写真などの情報が重要であることから「さし絵、図、表、写真などの数」という設問を追加し、中学校においては第一分野、第二分野に分けて質問した*。

質問４（小学校では質問 10）では、観察、実験についての質問を行った。言うまでもなく、観察、実験は理科学習特有の活動であり、観察、実験は教科書の重要な構成要素となっている。そこで、教科書に紹介している観察、実験がどのように実施されているか、ま

た操作手順などがわかりやすく記載されているか、安全面での配慮は十分なされているかなどを質問している。

質問５（小学校では質問 11）は、教材、資料などについての質問である。理科では、身の回りの自然の現象を理解し、解明することが求められる。また、科学的な原理、法則を理解することや、社会の中でそれらがどのように活用されているかなどを学習する。そこで、児童生徒の興味や関心を高めるためにも、また学習の意欲を高めるためにも、自然の現象、科学技術との関連などについての記載が、教科書を使って学習を進めていく上で大きな役割を担っている。これらが、適切に掲載されているか、教師にとって扱いやすくなっているかを探り出す質問とした。

質問６は、自由研究に関する質問である。理科では、児童生徒の主体的な自然探究の意欲や方法の習得が求められる。その方法の一つとして、夏休みなどに行われる自由研究があり､教科書にもそこに焦点を絞って自由研究のテーマなどが記載されている｡これらが、どのようにとらえられているかを中学校の教師に対して質問した。

なお、各項目について、回答者の経験年数別の集計結果、小学校における理科を得意とする教師とそうでない教師による回答の違いを集計した結果、これらも算出している。顕著な傾向が見られた場合などには、これらの結果も合わせて紹介をしていく。さらに、回答者には自由記述による意見もお願いした。これらも必要に応じて紹介していきたい。

＊中学校の理科教科書は、物理・化学分野からなる第一分野と、生物・地学分野からなる第二分野の分冊となっている。

（３）教師と教科書

１）ふだんの授業での教科書の使い方（質問１）

４教科同一の設問である。

表１　ふだんの授業での教科書の使い方〈教師〉

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

ふだんの授業での教科書の使い方	小学校	中学校
教科書だけを使って，その内容を逐一取り扱う	22.5	3.4
教科書を主に使うが，その他の教材もところどころ使う	61.3	73.6
教科書とその他の教材を半々程度使う	9.5	12.0
教科書をところどころ使うが，その他の教材を主に使う	2.5	8.3
教科書はほとんど使わずに，その他の教材を使う	－	1.5
無回答	4.1	1.2

小学校では、項目の選択割合が、国語科、算数科と同じ傾向であり、教科書重視の傾向である。中学校では、教科書だけという教師は大幅に減少する。教科書重視の傾向に変わりはないが、その他の教材のウエイトも高くなる。これは、小学校教員の全科制指導の下

で理科の授業が行われていることに由来している。観察や実験などの活動も行う際どのような授業展開を図っていくのかについて、教科書の持つ重要性、理科における教科書の機能から考えても、妥当である。

２）使いたい教科書（質問２）

小学校では、項目の選択割合が、社会科と同じ傾向であり、教科書観分散の傾向である。

中学校にあっては、理科の内容が、科学的な概念形成を本格的に学ばなければならないスタートであると考えると、どちらかというと教えるための教材としての性格が強まることが理由の一つと考えられる。小学校と中学校の半数の教師が、共に学習材的な機能とのバランスに期待を寄せる傾向が見られることから、教科書の構成や取り上げる観察や実験の教材選択、教科書における情報の質に工夫が求められていることを意味していると考えられる。

表２　使いたい教科書〈教師〉

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は％）

使いたい教科書	小学校	中学校
教えるための性格が強い教科書	1.3	4.0
どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	15.9	28.2
自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	13.3	6.7
どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	13.7	9.5
教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書	53.7	50.3
無回答	2.2	1.2

３）体様（質問３）

①ページ数（A－１）

表３　ページ数〈教師〉

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は％）

		現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	平均	67.2	28.5	2.5	1.8
	理科	64.1	33.7	0.6	1.6
中学校	平均	63.5	29.2	6.3	1.0
	理科	57.7	39.3	1.2	1.8

“現行程度でよい”という意見は全教科の平均が 60%台であり、十分な満足が得られてなく改善が求められていると思える。理科では、小学校 64.1%、中学校 57.7%が“現行程度でよい”としており、この点は他教科の数値と変わらないが、“増やす”を望む意見の割合が高い。“減らす”と要望する教師はわずかである。

この「ページ数」については、経験年数の違いによって意見が異なるようすが見て取れるので紹介しておく。下表の小中学校の集計を見て分かるように、経験年数が 10 年以下の教師では“現行程度でよい”の割合が高く、11 年以上の経験のある教師からは“増やす”の要望が高くなっている。また、これは、小学校の調査における理科を得意科目とする教師とそうでない教師との意見の違いにも同様に現れている。

表４－１　経験年数とページ数に対する意見〈小学校〉

（表中の数値は%）

経験年数	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	315	64.1	33.7	0.6	1.6
～10年	29	79.3	17.2	0.0	3.4
11～20年	90	66.7	33.3	0.0	0.0
21～30年	165	59.4	38.2	0.6	1.8
31年～	29	65.5	27.6	3.4	3.4
無回答	2	100.0	0.0	0.0	0.0

表４－２　経験年数とページ数に対する意見〈中学校〉

（表中の数値は%）

経験年数	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	326	57.7	39.3	1.2	1.8
～10年	73	71.2	27.4	1.4	0.0
11～20年	115	53.0	42.6	0.9	3.5
21～30年	105	54.3	42.9	1.0	1.9
31年～	26	57.7	38.5	3.8	0.0
無回答	7	42.9	57.1	0.0	0.0

表４－３　理科が得意・そうでないとする教師とページ数〈小学校〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	315	64.1	33.7	0.6	1.6
理科得意	92	52.2	46.7	1.1	0.0
理科以外	218	69.7	28.0	0.5	1.8
無回答	5	40.0	40.0	0.0	20.0

②カラーページの割合（A-２）

表５　カラーページの割合〈教師〉

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		全ページがカラーページがよい	現行ほどカラーページは必要ない	重要なポイントなど必要な部分のみカラーページがよい	無回答
小学校	平均	46.2	5.2	47.1	1.5
	理科	60.6	2.5	35.2	1.6
中学校	平均	36.3	11.6	51.2	0.8
	理科	31.9	12.3	54.6	1.2

小学校理科では全ページをカラーページにして欲しいという意見が 60%を越える。他教科に比べても、中学校とも比べても極めて高いことがわかる。いっぽう、中学校においては 31.9%に留まり、他教科と同じ程度の要望となっている。理科は観察や実験などの体験を重視した学習が進められる。しかし、体験が不可能な場合は教科書に掲載された図や写真でそれを補うことが多い。そのため、教科書には精度の高いイラストや写真が求められると考えられているが、特に中学校においては、現行教科書ほどのカラー化は要望されていない結果となっている。

なお、経験年数別、小学校の理科を得意・そうでないの違いからは、カラーページ数の割合について意見の大きな違いは見られなかった。

③本文の分量（A-３）

“現行程度でよい”とする意見は小学校の平均で 69.7%、中学校で 57.6%である。特に中学校では本文の分量に改善を求める気持ちが読みとれる。理科についても同様の傾向にある。改善の方向は、ほとんどが“増やす”ことを望んでいる。この点が他教科に比べて異なるところである。

このことについては、経験年数別では大きな差異は見られず、どの経験年数でも同じ意見を持っているようであった。

表６－１　本文の分量

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	平均	69.7	26.0	2.7	1.6
	理科	64.4	34.0	0.0	1.6
中学校	平均	57.6	35.4	6.1	0.9
	理科	52.1	45.4	1.5	0.9

しかし、小学校における理科を得意・そうでないとする教師間では違いが見られ、得意とする教師の“増やす”という要望が見られた。

表６－２　理科が得意・そうでないとする教師と本文の分量〈小学校〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	315	64.4	34.0	0.0	1.6
理科得意	92	54.3	45.7	0.0	0.0
理科以外	218	69.3	28.9	0.0	1.8
無回答	5	40.0	40.0	0.0	20.0

④発展的な学習の分量（A-４）

表７　発展的な学習の分量

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	平均	56.7	33.0	8.7	1.7
	理科	52.4	40.6	5.4	1.6
中学校	平均	61.9	25.4	12.2	0.5
	理科	52.5	38.0	9.2	0.3

発展的学習の分量は、全教科を通じて改善の方向が求められている。理科では小中学校とも“現行程度でよい”を支持するのは 50%台に留まる。“増やす”ことを望むのは小中学校ともに 40%ほどで他教科に比べても数値は高い。しかし、“減らす”とする意見も小学校で 5.4%、中学校で 9.2%を示し、少ないわけではない。小学校では平成 17 年度、中学校では平成 18 年度の教科書から導入された発展的学習については、その歴史も浅く、その意義や役割に使う側と作る側とで十分な共通理解が得られていないと思われる。

なお、経験年数別に見ても大きな意見の相違は見られないが、小学校では経験年数 10 年以下の教師や、理科を得意としない教師からは、発展学習の増加を望まない傾向がわずかに見受けられた。

⑤注、コラム､資料などの分量（A-５）

理科では“現行程度でよい”は 50%台で、改善を望む声が高い。この数値は他教科と比べて大きな差はない。“増やす”の数値が他教科に比べて高いことから、“増やす”方向が求められていることがわかる。

表８－１　注、コラム､資料などの分量

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	平均	57.5	37.5	3.4	1.7
	理科	52.4	44.1	1.6	1.9
中学校	平均	64.0	29.7	5.9	0.4
	理科	56.4	41.4	1.8	0.3

小中学校における経験年数別による違いはあまり見られない。しかし，小学校での得意・そうでないとする教師間では，得意とする教師の“増やす”とそうでない教師の意見がわずかであるが分かれている。

表８－２　理科が得意・そうでないとする教師と注、コラム、資料などの分量〈小学校〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
全体	315	52.4	44.1	1.6	1.9
理科得意	92	41.3	54.3	3.3	1.1
理科以外	218	57.3	39.9	0.9	1.8
無回答	5	40.0	40.0	0.0	20.0

⑥さし絵、図、写真などの大きさ（A-６）

“現行程度でよい”とする意見が小中学校とも平均で80%程度であり、概ね満足されている。理科も同様である。変更を求める声は、小学校では“大きくする”方向が強い。中学校では“小さくする”との意見も多く、要望は分かれている。

表９　さし絵、図、写真などの大きさ

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	平均	79.0	17.9	1.4	1.7
	理科	76.2	21.0	1.0	1.9
中学校	平均	80.0	11.5	8.1	0.4
	理科	79.8	13.5	6.4	0.3

この項目については、経験年数別、理科の得意・そうでないとする教師による意見の違いはほとんど見られない。

⑦文字の大きさ（A－7）

表 10　文字の大きさ

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	平均	94.6	2.5	1.4	1.5
	理科	95.6	1.6	1.3	1.6
中学校	平均	95.0	1.4	3.3	0.4
	理科	93.9	1.2	4.3	0.6

“現行程度でよい”とする意見が小中学校とも 90%以上であり、現行を支持する声が高い。わずかにある改善の要望は、中学校では“小さくする”方向である。

⑧判型（A－8）

表 11　判型（大きさ）

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	平均	83.7	13.7	1.0	1.6
	理科	82.2	15.6	0.3	1.9
中学校	平均	85.2	5.9	8.3	0.6
	理科	89.9	6.1	3.4	0.6

教科書の判型（大きさ）は、小学校理科では全社がＢ５判の教科書を出版し、中学校理科では４社がＢ５判、１社が変形版（Ｂ５判より大きい）を出版している。“現行程度でよい”が全体を通して 80%以上の数値で、ほぼ支持されている。その中で、小学校理科では“大きくする”という意見が 15.6%ある。いっぽう、中学校理科では“現行程度でよい”がほぼ 90%で高い数値であるが、改善の方向としては“大きくする”と“小さくする”に分かれている。

⑨さし絵、図、表、写真などの数（A－９）

表 12　さし絵、図、表、写真などの数

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校		56.8	40.6	1.0	1.6
中学校	一分野	75.5	17.8	5.8	0.9
	二分野	69.0	26.1	3.7	1.2

この質問は他教科では行わず、理科のみで行ったものである。また、中学校理科については第一分野・第二分野で分けて質問した。小学校では“現行程度でよい”が 56.8%で改善を求めている。改善の方向は“増やす”である。いっぽう、中学校では分野によって多少違っている。第一分野では“現行程度でよい”が比較的高く、“減らす”という意見も少なくない。第二分野では第一分野で見られた傾向は弱く、“増やす”を要望する声が高い。

これについては、経験年数や理科の得意・そうでないとする教師による違いは見られなかった。

⑩堅牢性（B）

ア　表紙の厚さ（B－１）

表 13－１　堅牢性〈表紙の厚さ〉

小学校 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	厚いハードカバーにする	薄くする	無回答
小学校		98.7	0.6	0.3	0.3
中学校	平均	97.7	0.8	1.0	0.6
	理科	98.2	1.5	0.3	0.0

イ　本文の用紙の厚さ（Ｂ－２）

表 13－２　堅牢性〈本文の用紙の厚さ〉

小学校 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は％）

		現行程度でよい	厚くする	薄くする	無回答
小学校		98.4	1.0	0.3	0.3
中学校	平均	95.5	1.2	2.7	0.6
	理科	95.7	1.2	3.1	0.0

ウ　製本（Ｂ-３）

表 13－３　堅牢性〈製本〉

小学校 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は％）

		現行程度でよい	頑丈にする	簡易にする	無回答
小学校		95.9	3.5	0.0	0.6
中学校	平均	96.1	2.8	0.4	0.6
	理科	97.2	2.5	0.0	0.3

理科の教科書は観察・実験などの活動にも活用される。その場合には理科実験室や野外で使用されることもある。水や薬品にさらされることや携帯して使用されることも想定される。そのため、堅牢性については他教科にない特別な要望を求められると考えられるが、“現行程度でよい”という意見が高かった。

なお、自由記述の回答の中で、中学校教師より教科書の紙質についての意見がいくつか見られたので紹介しておく。「紙の質がつるつるとしており、えんぴつで書いたり消したりできない。」「紙質がツルツルしていて使いづらい。」など。また、紙質の良さが教科書を重くしていることで、紙質を落としてでも軽量化を望む声もあった。

⑪書き込み、貼り付け、切り取りなど（C）

表 14　書き込み、貼り付け、切り取りなど

小学校理科 N=315　中学校理科 N=326

（表中の数値は%）

		現行程度でよい	増やしたほうがよい	減らしたほうがよい	必要ない	無回答
小学校	平均	61.0	21.3	6.6	9.0	2.1
	理科	58.7	24.1	5.1	9.2	2.9
中学校	平均	52.8	15.5	9.9	20.4	1.2
	理科	44.8	14.7	9.5	30.4	0.6

“現行程度でよい”は、小学校理科で 58.7%、中学校理科で 44.8%となっている。“必要ない”という意見は小学校理科で 9.2%、中学校理科で 30.4%である。「書き込み、貼り付け、切り取りなど」については、小中学校どちらも意見が分かれていると判断できる。小学校と中学校を比べた場合は、中学校のほうが“減らしたほうがよい”や“必要ない”の意見が高い。また、他教科との関係では、中学校において“必要ない”の高さが際だっている。

4）観察・実験（小学校：質問 10　中学校：質問４）

①教科書に載っている観察・実験の実施

表 15　教科書に載っている観察・実験の実施

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

		ほぼ実施している	一部実施している	あまり実施していない	無回答
小学校		87.6	9.8	0.0	2.5
中学校	一分野	90.5	8.6	0.0	0.9
	二分野	81.6	17.2	0.3	0.9

教科書に載っている観察・実験は，小中学校ともに 80～90%が“ほぼ実施している”と答えている。理科においては，観察・実験が主要な学習活動であり，教科書に掲載された観察・実験が活用されていることがわかる。

②教科書に載っていない観察・実験の取り上げ状況

表 16　教科書に載っていない観察・実験の取り上げ状況

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

		積極的に取り上げている	必要に応じて取り上げている	ほとんど取り上げていない	無回答
小学校		7.0	61.0	29.5	2.5
中学校	一分野	9.2	72.4	13.8	4.6
	二分野	5.5	71.5	18.7	4.3

多くの教師が必要に応じて教科書に載っていない観察・実験を取り上げている状況がわかる。特に中学校では“積極的に取り上げる”または“必要に応じて取り上げる”が 80%ほどである。いっぽう中学校に比べると、小学校では教科書に掲載された観察・実験のみに依存する傾向が高い。小学校が理科専科制でないためと思われる。

また、観察・実験の実施状況に関しての回答者の自由記述で、地域性の問題から実施されにくい状況がかいま見られた。たとえば「社会・理科は地域実態、教材化もあり、全国をブロック分けした内容編成をして欲しい」「社会、理科など、地域の実態と合わない箇所が多々あるので……」などの意見があり、この地域性の問題から、おそらく生物・地学系の観察には実施の難しさがあると考えられる。

③観察・実験手順の記述

表 17　観察・実験手順の記述

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	適切でわかりやすい	少しわかりにくい	わかりにくい	無回答
小学校	74.6	22.5	0.6	2.2
中学校	69.0	28.8	2.1	0.0

観察・実験手順の記載については、“少しわかりにくい”または“わかりにくい”と答えているのが小学校で 23.1%中学校で 30.9%である。現行でも丁寧な記述がなされていると思われるが、小中学校ともさらに分かりやすい記述への改善が求められている。

④安全面での配慮の提示について

安全面についての記述は、小中学校ともに 10%程度が“不適切である”としている。その理由としては、“説明が足りない”ことがあるようだ（表 18－２参照）。また、自由記述の回答のなかでも「実験手順などでは“してはいけない”とあるだけでどうしてが欠けていることが多いように思います」「安全面への記述が全体に小さく、見落としがちである」

などの指摘がある。

表 18－１　安全面での配慮の提示

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	適切である	不適切である	無回答
小学校	86.7	10.8	2.5
中学校	88.0	11.7	0.3

表 18－２　安全面での配慮の提示が不適切な理由

（表中の数値は%）

	多すぎる	少なすぎる	説明が足りない	無回答
小学校	0.0	26.5	70.6	2.9
中学校	0.0	31.6	68.4	0.0

また、経験年数別に見てみると、小中学校ともに経験年数が 10 年以下の教師からは“不適切である”との意見が多くなっている。経験年数の浅い教師にも指導しやすい安全面の記述が必要であろう。

表 18－３　経験年数と安全面の配慮に対する意見〈小学校〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	適切である	不適切である	無回答
全体	315	86.7	10.8	2.5
～10年	29	75.9	17.2	6.9
11～20年	90	88.9	10.0	1.1
21～30年	165	88.5	10.3	1.2
31年～	29	82.8	10.3	6.9
無回答	7	0	100.0	0

表 18－４　経験年数と安全面の配慮に対する意見〈中学校〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	適切である	不適切である	無回答
全体	326	88.0	11.7	0.3
～10年	73	76.7	23.3	0.0
11～20年	115	86.1	13.0	0.9
21～30年	105	96.2	3.8	0.0
31年～	26	92.3	7.7	0.0
無回答	7	100.0	0	0.0

５）教材・資料（小学校：質問 11　中学校：質問５）

①生徒の興味・関心を高める内容の掲載

学習意欲を高めるにあたって、児童・生徒の興味・関心に訴える記事を載せることは大きな意味を持つ。教科書の重要な要素として現場の教師からも強く求められる。それらの記載について、小中学校とも 80%程度が“適切である”と判断しており、概ね要望に応えられているように思える。そのうえで、改善の要望は中学校のほうが強く、もっと増やすことと適切なテーマを模索する必要があるようだ。このことを経験年数別に見てみると、経験の浅い教師ほど「興味・関心を高める内容の掲載」をより充実して欲しいと考えているようである。

表 19－１　生徒の興味・関心を高める内容の掲載

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	適切である	不適切である	無回答
小学校	80.6	16.5	2.9
中学校	77.6	21.5	0.9

表 19－２　生徒の興味・関心を高める内容の掲載が不適切とする理由

（表中の数値は%）

	多すぎる	少なすぎる	テーマが適切でない	無回答
小学校	1.9	80.8	17.3	0.0
中学校	0.0	65.7	32.9	1.4

表 19－３　経験年数と生徒の興味・関心を高める内容の掲載〈中学校〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	適切である	不適切である	無回答
全体	326	77.6	21.5	0.9
～10年	73	68.5	30.1	1.4
11～20年	115	76.5	22.6	0.9
21～30年	105	81.9	17.1	1.0
31年～	26	88.5	11.5	0.0
無回答	7	85.7	14.3	0.0

②新しい科学の知見や先端技術に関することの掲載

表 20－１　新しい科学の知見や先端技術に関することの掲載

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	適切である	不適切である	無回答
小学校	71.1	26.3	2.5
中学校	79.1	20.2	0.6

表 20－２　新しい科学の知見や先端技術に関することの掲載が不適切とする理由

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	多すぎる	少なすぎる	テーマが適切でない	無回答
小学校	1.2	90.4	7.2	1.2
中学校	1.5	89.4	9.1	0.0

小学校で 26.3%、中学校で 20.2%が“不適切である”と答えている。その理由は小中学校ともに“少なすぎる”ことを挙げている。教科書は通常３～４年で改訂される。そのため、他の媒体からもたらされる情報に比べて遅れた内容となってしまう。また科学的に確定されたことから大きく踏み出した記載ができない。つまり仮説段階での情報を紹介しにくいことがあり、最先端の情報を掲載しにくい側面がある。このように教科書という書籍の特質から、現場の要望に応えきれないところがあるが、最新の科学的情報を載せる努力が求められている。

③環境や環境の保護に関することの掲載

表 21－１　環境や環境の保護に関することの掲載

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	適切である	不適切である	無回答
小学校	74.0	23.5	2.5
中学校	75.2	24.2	0.6

表 21－２　環境や環境の保護に関することの掲載が不適切とする理由

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	多すぎる	少なすぎる	テーマが適切でない	無回答
小学校	2.7	85.1	12.2	0.0
中学校	1.3	87.3	8.9	2.5

小学校で 23.5%、中学校で 24.2%が“不適切である”と答えている。その理由は、“少なすぎる”ことにあるようだ。前問の「新しい科学の知見や先端技術に関する記載」と同じ結果となっている。環境に関わることは、この数年間で大きな社会的な潮流となり、数年前に検定を受けている教科書では現在求められている情報に応えられないという側面が現れたのだろう。

④日常生活との関連

表 22－１　日常生活との関連

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	適切である	不適切である	無回答
小学校	69.2	28.3	2.5
中学校	62.3	37.1	0.6

表 22－２　日常生活との関連が不適切とする理由

小学校 N=315　中学校 N=326

（表中の数値は%）

	多すぎる	少なすぎる	テーマが適切でない	無回答
小学校	1.1	85.4	13.5	0.0
中学校	1.7	89.3	9.1	0.0

小学校で 28.3%、中学校で 37.1%が“不適切である”と答えている。これも“少なすぎる”ことが理由となっている。数値から見て、前々問の「新しい科学の知見や先端技術に関する記載」や前問の「環境や環境の保護に関する記載」と同じ傾向だが、より強く改善が求められている。

６）自由研究のテーマ例（中学校のみ：質問６）

表 23　自由研究のテーマ例

N=326（表中の数値は%）

		大いに参考になっている	少し参考になっている	あまり参考にならない	無回答
中学校	一分野	5.5	64.4	27.6	2.5
	二分野	5.5	64.4	27.6	2.5

第一分野と第二分野で別項目として質問を行ったが、結果は同じであった。70%ほどの教師が参考にしていることがわかる。

（福地昭輝・藤川 広）

１．５　英語

（１）教師への調査の分析

１）ふだんの授業での教科書の使い方（質問１）

中学校の英語教師に「ふだんの授業での教科書の使い方」について尋ねたところ、下記の表に示した結果を得た。最も多い教科書の使い方は 71.1%を占め、「教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う」というものである。〈以下この使い方をＡとする。〉次に多い教科書の使い方は 19.3%を占め、「教科書とその他の教材を半々程度使う」と言うものである。〈以下この使い方をＢとする。〉さらに、7.1%を占める教科書の使い方は「教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う」というものである。〈以下この使い方をＣとする。〉教科書への依存度から言えば、Ｃ、Ａ、Ｂの順になる。それに対して、「教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う」という教科書の使い方は、わずか、0.9%に過ぎず、さらに、「教科書はほとんど使わず、その他の教材を使う」という教科書の使い方は皆無であり、これら２項目については、以下の分析では無視することとする。

表１　ふだんの授業での教科書の使い方

N=326（表中の数値は%）

教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う	7.1	C
教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う	71.5	A
教科書とその他の教材を半々程度使う	19.3	B
教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う	0.9	－
教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う	－	－
無回答	1.2	－

２）使いたい教科書の特性：教材か学習材か（質問２）

次に、英語教師に「使いたい教科書の特性」について尋ねたところ、下記の表に示した結果を得た。最も多く望まれた教科書の特性は 59.5%を占め、「教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書」というものである。〈このあり方をａとする。〉次に、多く望まれた教科書の特性は 21.8%を占め、「どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書」というものである。ここに、4.9%を占める「教えるための教材としての性格がより強い教科書」を加えて、ｂグループを作ることとする。さらに、6.7%を占める「自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書」および 5.8%を占める「どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書」を加えて、ｃグループとする。教材か学習材かという観点からいうと、教材としての特性を望むｂグループは合わせて 26.7%で、逆に、学習材としての特性を望むｃグループは合わせて 12.6%であり、両方のバランスが保たれている教科書を望むａグループが 59.5%と最も多い。

表２　使いたい教科書

N=326（表中の数値は%）

教えるための性格が強い教科書	4.9	b
どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	21.8	
自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	6.7	c
どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	5.8	
教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書	59.5	a
無回答	1.2	－

３）使いたい教科書の特性から見た教科書の使われ方（質問２と質問１のクロス分析）

＊『教材・学習材のバランスの取れた教科書』を望む教師〈ａグループ〉が 59.5%（194人）と最も多く、これらの教師は「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」というＡの使い方をしている場合が圧倒的である（73.2%）。「教科書と他の教材を半々使う」というＢの使い方は 19.1%である。わずかではある（1.5%）が、「その他の教材を使う」という教師がいる。

＊『どちらかというと教えるための教材としての教科書』を望む教師が 21.8%（71 人）と次に多く、この場合、「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」と言う使い方をしている場合が圧倒的である（80.3%）。「教科書と他の教材を半々使う」という使い方は 11.3%である。ここでも、ＡとＢの使い方が 90%を越える。それでも、「教科書だけを使う」という使い方は多くはない（8.5%）。

＊『どちらかというと教えるための教材としての教科書』を望む教師に『教えるための教材としての教科書』を望む教師を加えると、すなわち、ｂグループであるが、26.7%（87人）であるが、「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」と言う使い方をしているＡの使い方が圧倒的である（74.7%）。「教科書と他の教材を半々使う」という使い方は 13.8%である。ここでも、ＡとＢの使い方が 90%に近い。それでも、「教科書だけを使う」という使い方は多くはない（11.5%）。

＊『どちらかというと学習するための学習材としての教科書』を望む教師は 5.8%（19 人）に過ぎず、「教科書と他の教材を半々使う」という使い方は 52.6%であり、「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」と言う使い方をしている場合は 47.4%である。

＊『どちらかというと学習するための学習材としての教科書』を望む教師に、『学習するための学習材としての教科書』を望む教師を加えると、すなわち、ｃグループであるが、12.6%（41 人）に過ぎない。「教科書と他の教材を半々使う」というＢの使い方は 31.7%であり、「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」と言うＡの使い方をしている場合は 63.4%である。注目されるのは、Ｂの使い方よりＡの使い方が２倍という点であるが、ここでも、ＡとＢを合わせた使い方が 90%を越える。それでも、「教科書だけを使う」という使い方がされている（4.9%）。

表３　「普段の授業での教科書の使い方（質問１）」と「使いたい教科書（質問２）」

（表中の数値は%）

		調査数（件）	教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う（C）	教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う（A）	教科書とその他の教材を半々程度使う（B）	教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う	教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う	無回答
－	全　体	326	7.1	71.5	19.3	0.9	－	1.2
b	教えるための教材としての性格が強い教科書	16	25.0	50.0	25.0	－	－	－
	どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書	71	8.5	80.3	11.3	－	－	－
c	自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	22	9.1	77.3	13.6	－	－	－
	どちらかというと自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	19	－	47.4	52.6	－	－	－
a	教えるため､自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書	194	5.7	73.2	19.1	1.5	－	0.5
－	無回答	4	－	－	25.0	－	－	75.0

４）内容の構成やデザイン（質問３－Ａ）

＊英語の教師たちは「ページ数」について､「現行程度でよい」という回答が 72.1%で､「増やす」と「減らす」はほぼ同じ比率で、13.8%と 13.2%である。

「本文の分量」については、「現行程度でよい」という回答が 61.3%で、「増やす」は 26.1%で、「減らす」は 12.3%である。「注、コラム、資料などの分量」について、「現行程度でよい」という回答が 57.1%で､「増やす」は 37.7%で､「減らす」はわずか 4.6%である。この３つの質問から言えることは、３つの「分量」については「現行程度でよい」が「本文の分量」と「注、コラム、資料などの分量」をやや増やすことを望む教師が多いということである。

＊「文字の大きさ」については､「現行程度でよい」という回答が 95.4%で､「大きくする」はわずか 2.8%で､「小さくする」もわずか 1.8%である。「さし絵、図、表、写真などの大きさ」については､「現行程度でよい」という回答が 84.0%で､「大きくする」はわずか 7.1%で､「小さくする」もわずか 8.6%である。すなわち､「文字の大きさ」と「さし絵、図、表、写真などの大きさ」については、英語教師たちは異義がないと言える。

＊「練習問題、体験学習の数」については､「現行程度でよい」という回答が 43.6%で､「増やす」は 48.2%で､「減らす」は 5.2%である。「発展的な学習内容の分量」については、「現行程度でよい」という回答が 66.6%で､「増やす」は 19.9%で､「減らす」は 12.9%

である。すなわち、「練習問題、体験学習の数」を増やすべきであると考えている教師が半数近くいる一方、「発展的な学習内容の分量」については、「増やす」「減らす」は共にほぼ同じ比率であり、多くの教師は「現行程度でよい」という。

５）堅牢性（質問３−Ｂ）

＊「判型」「表紙の厚さ」「本文の用紙の厚さ」「製本」といった装丁に関わる項目は、ほとんど、「現行程度でよい」で、それぞれ、順に 94.8%、97.5%、96.6%、96.0%である。したがって、教師たちは満足していると言える。

６）教科書への要望（質問４、５、６、７、８）

＊「『聞く・話す』の構成」について、「『読む・書く』とのバランスをとってほしい」という回答がもっとも多く、38.3%であり、「今程度でよい」は 31.9%である。続いて「もっと基礎学力がつくように構成してほしい」という回答が 21.8%である。それに対して、「もっと重点化すべき」と言う回答は 7.4%にとどまっている。

＊「900 語程度の語彙数」について、「今程度でよい」は 49.4%で最も多いが、「目減りを考慮して多く出して、学べるようにすべき」が 30.7%と続く。逆に、「もっと精選、減らして確実に定着させるべき」は 12.3%を数える。「語彙数制限は必要ない」と言う回答はごくわずかで 6.7%にすぎない。

＊「言語事項の扱い」について、「今程度でよい」という回答が 65.3%で最も多い。他方、「教えること少なすぎる。もっとおしえるべき」と「もう少し自由度があるほうがよい」という回答が 11.7%と 11.3%とほぼ同じ比率である。「教えることが多すぎる。もっと精選すべき」という回答はわずかで 9.8%にすぎない。

＊「今後の英語教科書の望ましい方向」について、「英語には音声が必須だから、ＣＤを教科書に付けて欲しい」とする回答が半数を占め、50.3%である。つづいて、「今程度に教わることが前提でよい」という回答は 26.1%で、「詳しい説明をつけるなど、自学できるようにすべき」が 23.3%である。

＊「教科書の習熟度別学習への対応」について、「指導上で対応すべき」という回答が 54.0%と半数を占め、「教科書で扱わなくてもよい」の 22.1%を加えると、４分の３の回答になる。それに対して、「積極的に対応すべき」は 23.6%である。

表４　今後の英語教科書の望ましい方向（質問７）

N=326（表中の数値は%）

詳しい説明をつけるなど、自学できるようにすべき	23.3
今程度に、教わることが前提でよい	26.1
英語には音声が必須だから、ＣＤを教科書に付けて欲しい	50.3
無回答	0.3

表５　教科書の習熟度別学習への対応（質問８）

N=326（表中の数値は%）

積極的に対応すべき	23.6
教科書で扱わなくてもよい	22.1
指導上で対応すべき	54.0
無回答	0.3

７）「普段の授業での教科書の使い方」と「教科書への要望」のクロス分析

３）のクロス分析と同じように、英語教師の教科書の使い方は３つのタイプに分けることが出来る。すなわち、「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」というＡの使い方をしている場合が圧倒的である（71.5%）。「教科書と他の教材を半々使う」というＢの使い方は 19.3%である。「教科書だけを使う」という教師が 7.1%いる。これをＣの使い方とする。これらＡ、Ｂ、Ｃの使い方をする教師が「『聞く・話す』の構成」「語彙数」「言語事項」「望ましい教科書」「習熟度学習」について、どのような反応をしているかを分析する。ここでは、「教科書をところどころで使うが、他の教材を主に使う」教師は 0.9%（3人）に過ぎず、分析の対象とはしない。

①『教科書を主に、ところどころで他の教材を使う』というＡの使い方をする教師、71.5%（233 人）

＊「４つの活動のバランス」について、これらの教師の内、33.5%が「現行程度で良い」と考えており、39.1%が「バランスを取る」べきであると考えている。「基礎学力の定着をはかる」べきと考えている教師は 20.6%である。「もっと重点化すべき」と考えている教師は 6.0%に過ぎない。

＊「語彙数」について、これらの教師の内、49.8%が「現行程度で良い」と考えており、30.9%が「増やす」べきであると考えている。「減らす」べきと考えている教師は 11.2%である。「制限を廃止」を主張している教師は 7.3%に過ぎない。

＊「言語事項」について、これらの教師の内、66.5%が「現行程度で良い」と考えており、10.7%が「増やす」べきであると考えている。「減らす」べきと考えている教師は 9.9%である。「もっと自由である」べきと考えている教師は 11.2%である。

＊「望ましい教科書」について、これらの教師の内、27.5%が「現行程度で良い」と考えており、49.8%が「ＣＤがほしい」と考えている。「自学できるようにする」べきと考えている教師は 22.3%である。

＊「習熟度別指導」について、これらの教師の内、57.1%が「指導上での対応」と考えており、20.6%が「教科書で取り扱わなくて良い」と考えている。他方、「積極的に対応する」べきと考えている教師は 22.3%である。

②『教科書と他の教材を半々使う』というＢの使い方をする教師、19.3%（63 人）

＊「４つの活動のバランス」について、これらの教師の内、30.2%が「現行程度で良い」と考えており、36.5%が「バランスを取る」べきであると考えている。「基礎学力の定

着をはかる」べきと考えている教師は 22.2%である。「もっと重点化すべき」と考えている教師は 11.1%に過ぎない。

＊「語彙数」について、これらの教師の内、47.6%が「現行程度で良い」と考えており、34.9%が「増やす」べきであると考えている。「減らす」べきと考えている教師は 11.1%である。「制限を廃止」を主張している教師は 4.8%に過ぎない。

＊「言語事項」について、これらの教師の内、65.1%が「現行程度で良い」と考えており、12.7%が「増やす」べきであると考えている。「減らす」べきと考えている教師は 7.9%である。「もっと自由である」べきと考えている教師は 12.7%である。

＊「望ましい教科書」について、これらの教師の内、22.2%が「現行程度で良い」と考えており、54.0%が「ＣＤがほしい」と考えている。「自学できるようにする」べきと考えている教師は 23.8%である。

＊「習熟度別指導」について、これらの教師の内、44.4%が「指導上での対応」と考えており、31.7%が「教科書で取り扱わなくて良い」と考えている。他方、「積極的に対応する」べきと考えている教師は 22.2%である。

③『教科書だけを使う』というＣの使い方をする教師、7.1%（23 人）

＊「４つの活動のバランス」について、これらの教師の内、21.7%が「現行程度で良い」と考えており、30.4%が「バランスを取る」べきであると考えている。「基礎学力の定着をはかる」べきと考えている教師は 34.8%である。「もっと重点化すべき」と考えている教師は 13.0%に過ぎない。

＊「語彙数」について、これらの教師の内、47.8%が「現行程度で良い」と考えており、17.4%が「増やす」べきであると考えている。「減らす」べきと考えている教師は 30.4%である。「制限を廃止」を主張している教師は 4.3%に過ぎない。

＊「言語事項」について、これらの教師の内、60.9%が「現行程度で良い」と考えており、17.4%が「増やす」べきであると考えている。「減らす」べきと考えている教師も 17.4%である。「もっと自由である」べきと考えている教師は 4.3%のみである。

＊「望ましい教科書」について、これらの教師の内、26.1%が「現行程度で良い」と考えており、47.8%が「ＣＤがほしい」と考えている。「自学できるようにする」べきと考えている教師も 26.1%である。

＊「習熟度別指導」について、これらの教師の内、47.8%が「指導上での対応」と考えており、13.0%が「教科書で取り扱わなくて良い」と考えている。他方、「積極的に対応する」べきと考えている教師は 39.1%である。

以上のことから言えることは、Ａ、Ｂ、Ｃの使い方の違いにもかかわらず、「４つの活動のバランス」「語彙数」「言語事項」「望ましい教科書」に関して、どのグループでも、多くの教師が「現行のあり方」を肯定的に捉えている、と言える。また、「ＣＤがほしい」と考えている教師はどのグループでも多く、「習熟度別指導」に関してもどのグループでも指導上で配慮すべきこととしている教師が多い。

しかし、『教科書だけを使う』というＣの使い方をする教師グループ、7.1%（23 人）にすぎないが、ＡとＢの使い方をする教師グループとは次の点で大いに異なった反応を示す。

すなわち、「４つの活動のバランス」に関して、ＡとＢグループに比べて「もっと重点化すべき」「もっと基礎力がつくように構成すべき」であると言い、「語彙数」に関しても、「多く出して、学べるようにすべき」ではなく、「もっと精選、減らして確実に定着させるべき」であると言う。「習熟度別指導」に関しても「積極的に対応すべき」であると主張する。ＡとＢのグループでは「言語事項」に関して、「もう少し自由度があるほうが良い」との反応があり、「習熟度別指導」に関しては「指導上で対応すべき」であると言う教師が過半数を占める。また「ＣＤを教科書に付けて欲しい」と望む教師も過半数を占める。

表６　普段の授業での教科書の使い方（質問１）と教科書への要望

（表中の数値は％）

教科書の構成（質問４）

	調査数（件）	教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う（Ｃ）	教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う（Ａ）	教科書とその他の教材を半々程度使う（Ｂ）	教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う	教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う	無回答
全体	326	7.1	71.5	19.3	0.9	－	1.2
もっと重点化すべき	24	12.5	58.3	29.2	－	－	－
今程度でよい	104	4.8	75.0	18.3	1.0	－	1.0
「読む」「書く」とのバランスをとってほしい	125	5.6	72.8	18.4	0.8	－	2.4
もっと基礎力がつくように構成してほしい	71	11.3	67.6	19.7	1.4	－	－
無回答	2	－	100.0	－	－	－	－

語彙数（質問５）

目減りを考慮して多く出して、学べるようにすべき	100	4.0	72.0	22.0	1.0	－	1.0
今程度でよい	161	6.8	72.0	18.6	1.2	－	1.2
もっと精選、減らして確実に定着させるべき	40	17.5	65.0	17.5	－	－	－
語彙数制限は必要ない	22	4.5	77.3	13.6	－	－	4.5
無回答	3	－	66.7	33.3	－	－	－

言語項目（質問６）

教えることが多すぎる。もっと精選すべき	32	12.5	71.9	15.6	－	－	－
今程度でよい	213	6.6	72.8	19.2	0.9	－	0.5
教えることが少なすぎる。もっと教えるべき	38	10.5	65.8	21.1	－	－	2.6
もう少し自由度があるほうがよい	37	2.7	70.3	21.6	2.7	－	2.7
無回答	6	－	66.7	16.7	－	－	16.7

望ましい教科書（質問７）

詳しい説明をつけるなど、自学できるようにすべき	76	7.9	68.4	19.7	－	－	3.9
今程度に、教わることが前提でよい	85	7.1	75.3	16.5	1.2	－	－
英語には音声が必須だから、ＣＤを教科書に付けて欲しい	164	6.7	70.7	20.7	1.2	－	0.6
無回答	1	－	100.0	－	－	－	－

習熟度別学習（質問８）

積極的に対応すべき	77	11.7	67.5	18.2	－	－	2.6
教科書で扱わなくてもよい	72	4.2	66.7	27.8	－	－	1.4
指導上で対応すべき	176	6.3	75.6	15.9	1.7	－	0.6
無回答	1	－	－	100.0	－	－	－

８）教科書制度（質問９、10、11）

＊「無償制」について、72.1％の英語教師は「国が負担すべき」といい、16.6％は「国または自治体が負担すべき」といい、合わせると、88.7％になる。それに対して、5.2％は「一部を保護者が負担すべき」、4.6％は「一部または全額を保護者が負担すべき」そして 1.5％は「全額を保護者が負担すべき」と言い、合わせると、11.3％となる。「無償制」維持がやく９割である。

＊「給与制」について、54.9％の英語教師は「いまのままの給与制がいい」といい、14.1％は「どちらかというと給与制がいい」といい、合わせると、69.0％になる。それに対して、1.5％は「貸与制がいい」、6.1％は「どちらかというとか貸与制がいい」と言い、合わせると、7.6％となる。「給与制」維持がやく７割である。一方、「教科によっては、貸与制も考えられる』が 23.3％あることは注目される。

＊「定価」について、70.2％の英語教師は「定価は妥当である」と考えており、27.3％は「一般書に比べて安い」としており、「高い」と考えている教師は 2.5％に過ぎない。「妥当な定価」については、「500～1,000 円」が 59.8％で、「500 円未満」は 29.8％である。合わせると、89.6％である。「1,000 円以上」は 4.0％である。

＊「よりよい教科書作りのための、あるべき定価」について尋ねたところ、53.7％の英語教師は「国が定めてよい」と答えている。17.2％が「定価はもっと高くてよい」と言い、

逆に 14.4%が「定価はもっと安くしたほうがよい」と言う。「定価は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい」と言う回答が 12.0%あることは注目される。

（２）教師への自由記述の分析

調査に答えていただいた英語教師の内、58.0%（189 人）の教師から「自由記述」を得ている。これらの記述から次のようにまとめられるコメントを得ることが出来た。

＊「読む題材内容をもっと生徒が興味を持てる内容にすべきである」というコメントに代表される教材（題材）である。「もっと魅力・感動のある教材」とか、「興味を持って飽きずに読める長文」とか、「じっくり読めるような内容の文章」といったコメントである。いただいた 326 のコメントのうち、重なりもあるが、36 がこのようなコメントである。さらに、この 36 のコメントのうち、16 は次のような改善のための提案である。

「国際的な話題、文化のわかる話題、考えさせられる話題」
「平和・人権・環境問題など、さらに工夫して入れたい」
「伝記物や、有名な物語など」
「時代の流れや変化に対応した内容」

＊「文法〈基本文〉の配列を教えやすく系統的にかえてほしい」というコメントに代表される文法事項である。「文法事項の説明は、もう少し詳しく載せてほしい」とか、「現在の教科書は、口語が多すぎて説明するだけで時間が割かれます。基礎的・基本的内容で、本文を構成すべきだ」とか、「自然な英語を重視するあまり、基本文や本文の表現が教えにくい、学びにくい状態になっている」といったコメントが 28 に及ぶ。文法中心のアプローチと会話中心のアプローチの対立が読み取れる。

＊「書く力を伸ばす箇所が少ない」というコメントに代表される「４活動のバランス」である。「コミュニケーションが重視されるあまり、むしろ書くことの活動が薄れている気がします」とか、「リスニングをもう少しレベルを上げる」とか、「Let’s practice/Let’s communicate.など、Let's を多用しすぎ」とか、「フォニックス指導が出来るように充実させてほしい」とか、「ＣＤの速度が遅すぎて、使い物にならない」といったコメントが 15 を数える。

＊「単語の数が少なすぎる」「新出語句の出し方が悪い」といったコメントに代表される「英単語」である。「扱う単語や話題を、生徒の身近なものにしてほしい」とか、「単語の発音記号をかいてほしい」とか、「語彙数は現行のまま、もっと多くの英文を読めるような配慮を望みたい」といったコメントが 11 ある。

＊「練習問題が少ない」といったコメントに代表される「練習問題」に関わることである。「練習問題を増やしてほしい」とか、「もっと文法の練習問題や、本文に関する内容確認ドリルなどがありもっと書き込みをして普段から自学できる教科書が理想に感じる」といったコメントが 10 を数える。

（３）保護者への調査の分析

１）教科書への関心について（質問１）

保護者への調査は教科別に行なわれたのではなく、道徳も含んで、すべての教科について尋ねている。英語の教科書に対する関心（手にとって見た）は、他の教科に比べて最も多く、「じっくり見た」「少し見た」「ぱらぱらとめくる程度」を合わせると 73.6%（781 人／1061 人）の保護者が（手にとって見た）と回答していることからもうかがえる。

中でも「じっくり見たことがある」と回答している比率は他の教科に比べて最も多く、8.7%であり、関心の高さがわかる。

２）教科書への「関心」、と、教科書の内容への「満足度」との関わり（クロス分析）

＊教科書への「関心」については『ばらばらとめくる程度』の保護者が最も多い（42.5%）が、これらの保護者は教科書の「内容」についてあまり考えたことがなく 44.1%であるが、「興味関心に応えられる内容」に変えるべきであると答えている（23.5%）。

＊『全く見ていない』保護者（24.8%）では、当然、教科書の「内容」についてあまり考えたことがないとの答えが最も多く（58.6%）、「子どもが満足しているのでいまのままでよい」と言う答えがそれに次ぐ（17.5%）。

＊『少し見たことがある』保護者（22.4%）では、「内容をかえたほうがよい」と考える保護者が多く 33.6%であるが、他方「内容はよくできているのでいまのままでよい」とする保護者もかなりいる（20.2%）。

＊『じっくり見たことがある』と答えている保護者は多くはない（8.7%）が「内容をかえたほうがよい」と考える保護者が多い（40.2%）のであるが、他方「内容はよくできているのでいまのままでよい」とする保護者もかなりいる（28.3%）。

＊以上のことから言えることは、保護者の英語教科書への「関心」は、他の教科にくらべて、かなり高いが、教科書への「関心」を持っている保護者の間では、「内容をかえたほうがよい」と考える保護者と、「いまのままでよい」とする保護者が共存している、と言える。

表７　中学校保護者「英語教科書への関心（質問１）」と「教科書の内容（質問６）」

（表中の数値は%）

	調査数（件）	内容はよくできているので、いまのままでよい	すぐれた参考書や問題集のように編集を工夫し興味関心にこたえられる内容にかえたほうがよい	内容はよくわからないが、子どもが満足しているのでいまのままでよい	内容についてあまり考えたことがないのでわからない	無回答
じっくり見たことがある	92	28.3	40.2	9.8	17.4	4.3
勉強を教えるときなど、少し見たことがある	238	20.2	33.6	14.7	28.6	2.9
ぱらぱらとめくる程度に見たことはある	451	13.7	23.5	15.1	44.1	3.5
まったく見たことがない	263	6.8	13.7	17.5	58.6	3.4
無回答	17	11.8	17.6	23.5	35.3	11.8

（４）保護者の「自由記述」の分析

保護者の自由記述は多岐にわたる。中学校の英語の教科書に関するものは限られたもので、以下の自由記述がすべてである。

「英語や国語、数学の教科書を見て思ったのが、例題＝答えが書いていないこと。何通りかの例題と答えがあったほうが教えやすいし、要点など大事なことをもっとのせてほしいです。子どもに教える時、教科書だけで見て教えるのは難しいですね。」
「英語の教科書が自分たちのときとはやや表現が異なっており理解しにくいようにおもわれた。」
「英語は単語が少なすぎる。」
「ガイドみたいな２冊目の本があっても良いのでは。英語など下段に訳が記してあったりすることもあるが数学や理科なども考えるガイドや問題がある別冊があって良いのでは。すべてが家庭教師や他でおぎなえないから。お金の面や時間でわからないままの子もいるから。」
「英語は中１で口語文がいきなりでてきても初めての子どもは理解できず英語嫌いになってしまう。以前のように文法も教えるのが良いと思う。わからないことを積み重ねても意味がない。」
「数学と英語は先生によって教え方レベル話術が違う為学力に差がつくことが多いと思うので子どもたちが興味をもつような見た目！楽しく感じるようにしてほしい。内容につい

ても新人の先生でもマニアル通り教えられるように先生のレベルがと統一できる教科書にしてほしい。」
「子供が後から見て復習しやすくして欲しい。〈特に英〉」
「基礎重視でなく基本から応用の流れが悪い　とくにえいごはテストや会話中心の教科書とのズレありヒヤリングと文法をわけてみてはどうか。」
「特に英語の教科書は英会話テキストのようだがもう少し文法の記述を増やし何を学習しているかをわかりやすくすべきである。」

（加藤幸次・堤 隆夫）

２．教科全体の視点から

前項において各教科別に教師の回答分析と考察を行なったが、以下においては、重複するが、主な点を整理してみることにする。(教科書の体様と教科書制度については、ⅣとⅤで考察しているのでここではそれについては省略する。)

２．１　ふだんの授業での教科書の使われ方（質問１）

教師に「ふだんの授業での教科書の使い方についてもっとも近いのはどれですか。」と聞いたところ、小学校、中学校いずれも「教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う」の指摘率が全体としてもっとも高かったが（小学校 66.8%、中学校 72.1%)、校種、教科による違いがみられる。

小学校では、国語、算数、理科では「教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う」の指摘率が２割を超えているのに対して（国語 24.8%、算数 25.7%、理科 22.5%)、社会の場合は、「教科書だけ」は 4.1%で、「教科書とその他の教材を半々程度使う」が 22.9%であった。

中学校では、「教科書だけ」は、国語が 10.2%で比較的指摘率が高かったが、他の教科は「半々程度」の指摘率が「(教科書を）ところどころ」の指摘率を上回っている。なかでも社会科、特に、地理的分野で「半々程度」の指摘率が高い。(地理的分野 26.5%、歴史的分野 19.0%、公民的分野 20.6%、数学 10.7%、理科 12.0%、英語 19.3%）地理的分野の場合には、「教科書をところどころ使うがその他の教材を主に使う」が 10%を上回っている。(11.8%)

２．２　教師が使いたい教科書（質問２）

「教科書は教師が児童（生徒）に教えるための教材と、児童（生徒）が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。」という質問に対する回答は、小学校、中学校いずれも「両方のバランスが保たれた教科書」の指摘率が全体として高かったが（小学校 48.3%、中学校 52.6%)、「どちらかというと教えるための教材としての性格がより強い教科書」がよいとする者もかなり多い。

小学校では、「教えるための教材」の指摘率は、社会と理科は 10%台であるが（それぞれ 14.6%、15.9%)、国語と算数は３割を超えている。(いずれも 35.2%)

中学校では、「教えるための教材」の指摘率が比較的低かったのは数学と英語で(19.2%、21.8%)、他は３割前後であった。(国語 31.4%、地理的分野 25.9%、歴史的分野 33.3%、公民的分野 29.3%、理科 28.2%)

２．３　教科固有の視点から

（１）国語

１）「話す・聞く」、「書く」、「読む」など

①小学校（質問４）

「話す・聞く」、「書く」、「読む」などについて、10 の選択肢から３つ選んでもらった結果を指摘率の高い順に示すと次のようである。

・文学的文章では定番教材を今後とも維持してほしい……55.9%
・「話す・聞く」教材ではもっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい……46.7%
・説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい……38.4%
・「書く」教材では実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい……30.2%
・漢字については教材の配置にしたがうだけでなく系統立てて学習できるようにしてほしい……26.7%
・「話す・聞く」教材ではもっと児童の生活の場に即したものにしてほしい……24.1%
・文学的文章では長編の作品も教材にしてほしい……21.0%
・「読むこと」の教材では批判的な読解力が身につくような教材を充実させてほしい……19.7%
・「書く」教材では物語などの創作がもっと行なえるようにして欲しい……19.4%
・漢字については振り仮名つきで多くの漢字を教科書に提出してほしい……10.8%

②中学校（質問６）

「話すこと・聞くこと」と「書くこと」についての各選択肢への指摘率を高い順に示すと次のようであった。（あてはまるもすべてに○）

・「話す・聞く」や「書く」教材は、短い時間で扱える練習的な教材を位置づけてほしい。……70.5%
・「話す・聞く」や「書く」教材は、「読む」教材と関連させて扱えるようにしてほしい。……47.5%
・「話す・聞く」教材では、もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい。……44.4%
・「書く」教材では、実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい。……31.7%
・「話す・聞く」教材では、テーマや話題をもっと生徒の生活の場に即したものにしてほしい。……29.2%
・「書く」教材では、詩や物語の創作がもっと行なえるようにしてほしい。……15.2%
・「書く」教材をもっと増やしてほしい。……5.0%
・「話す・書く」教材をもっと増やしてほしい。……4.0%

「読むこと」の教材についての中学校教師の各選択肢への指摘率を高い順に示すと次のようであった。（あてはまるものすべてに○）

・説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい。……56.2%

・図版やグラフなどを参照しながら内容を読み取るような説明文を位置づけてほしい。……44.1%
・漱石や鴎外などの近代古典の名作をもっと位置づけてほしい。……42.9%
・現代の中学生の生活や心情に合うような新鮮な作品をもっと位置づけてほしい。……40.4%
・文学的文章の教材数をもっと増やしてほしい。……40.1%
・わかりやすい作品より読み応えのある作品を位置づけてほしい。……38.8%
・読書案内でもっと多くの本を紹介してほしい。……14.3%
・完璧で優れた文章よりも、批判的な読解力がつくような文章を教材にしてほしい。……9.3%
・ブックトークや読書紹介の活動をもっと教科書に位置づけてほしい。……9.0%

２）古典の扱い

①小学校（質問５）

「新しい学習指導要領では、小学校でも古典の教材を扱うようになると予想されます。小学校における古典の扱いについての先生のご意見に合うものはどれですか。」という質問についての小学校教師の指摘率を高い順に示すと次のようである。(あてはまるものすべてに○)

・「百人一首で遊ぶ」など、遊びの中で古典にふれさせたい。……90.8%
・原文の意味の理解ではなく音読や暗唱をさせればよい……36.8%
・古典作品の背景についての説明は必要である。……35.2%
・原文と現代語訳の丁寧な対照が必要である。……28.9%
・原文での理解より「あらすじ」がわかればよいので現代語訳で読ませればよい。……16.5%

②中学校（質問５）

また、「新しい学習指導要領では小学校から古典を扱うようになると予想されますが、中学校の古典の扱いはどうすべきでしょうか。」という質問に対する中学校国語科教師の各選択肢への指摘率を高い順に示すと次のようであった。(あてはまるものすべてに○)

・時代背景の説明などによって、もっと古典に対する興味付けを図ることが大切……65.8%
・小学校に古典が入っても、中学校では現行程度の古典教材でよい。……64.3%
・古典の学習は音読・暗唱をしっかりやればよい。……27.6%
・現代語訳があると古典教材を読む力が育たないので、訳注のみにすべき。…27.3%
・古典教材に抵抗をなくすために、現代語訳をていねいにつけるべき。……24.8%
・小学校に古典が入ってくるならば、中学校では現行より高度な古典教材が望ましい。……18.0%

３）漢文や文法、その他の言語事項の扱い（質問７）

中学校における漢字や文法、その他の言語事項の扱いについての中学校国語科教師の各

選択肢への指摘率を高い順に示すと次のようであった。(あてはまるものすべてに○)

・言語事項の学習では、生徒の語彙をふやすことを重視してほしい。‥‥‥‥72.7%
・文法教材はどこか１箇所にまとめて設置し、体系的に記述するものがよい。‥50.3%
・漢字は、読むことの教材の文脈の中で提出するほうがよい。‥‥‥‥‥‥‥48.8%
・文法教材ではもっと練習問題を増やしてほしい。‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥43.8%
・漢字は、漢字学習の系統性を考慮した取り立て教材で扱うほうがよい。‥‥26.4%
・実際には副教材で指導するので、教科書の文法教材は簡略でよい。‥‥‥‥21.1%
・言語事項の学習では、コミュニケーションの問題を重視したい。‥‥‥‥‥20.8%
・文法教材は何箇所かに分けて配置し、トピックごとに記述するものがよい。‥18.3%
・漢字は、振り仮名つきでもっと多くの漢字を教科書に提出してほしい。‥‥15.5%
・言語事項の学習では、外国語との対比で日本語の特質を考えさせるとよい。‥8.1%

（２）社会科

１）内容などの現状について（小学校：質問６、中学校：質問４）

社会科教科書の現状に関し、小学校教師と中学校社会科教師に、４項目について、それぞれ「全く同感」、「まあ同感」、「どちらともいえない」、「まあ同感しない」、「全く同感しない」と５段階で質問したが、「同感する」(「全く同感」と「まあ同感」の合計）と「同感しない」(「まあ同感しない」と「全く同感しない」の合計）の比率は次のようであった。(中学校の各分野は、地理、歴史、公民と略称する。)

①主体的、能動的な学び方を促すような配慮がなされている。

「同感する」　：小学校 43.5%、地理 50.5%、歴史 34.2%、公民 41.4%
「同感しない」：小学校 11.8%、地理 11.5%、歴史 18.0%、公民 12.7%

②学習を発展させるための手だてが示されている。

「同感する」　：小学校 45.4%、地理 53.3%、歴史 42.3%、公民 48.0%
「同感しない」：小学校 10.8%、地理 10.0%、歴史 14.1%、公民 10.9%

③個人差に応じた指導にも対処できるような配慮がなされている。

「同感する」　：小学校 5.8%、地理 8.4%、歴史 7.5%、公民 8.1%
「同感しない」：小学校 44.4%、地理 52.4%、歴史 54.2%、公民 52.6%

④身近な地域を取り上げるための配慮がなされている。

「同感する」　：小学校 29.8%、地理 57.6%、歴史 37.0%、公民 27.4%
「同感しない」：小学校 29.5%、地理 19.0%、歴史 26.8%、公民 30.8%

⑤他教科との関連がつけられている。

「同感する」　：小学校 16.8%、地理 16.5%、歴史 16.5%、公民 16.2%
「同感しない」：小学校 26.6%、地理 30.2%、歴史 31.4%、公民 30.8%

２）望ましい教科書

「最も望ましいと思われる社会科教書のあり方」について、上記①～⑤のなかから一つだけ選んでもらったところ、小学校、地理、歴史、公民いずれも①の指摘率が最も高かったが（それぞれ 59.0%、43.0%、43.6%、45.5%）、２番目に指摘率が高い教科書は、小学校と地理では④であったのに対して（それぞれ 20.3%、24.3%）、歴史と公民では②であった。（それぞれ 24.6%、26.5%）

３）果たしている役割（小学校：質問７、中学校：質問５）

社会科の学習指導において教科書がどの程度の役割を果たしているかを、４項目について前項１）社会科の現状の場合と同様に５段階で質問した。「役立った」（「とても役立った」と「まあ役立った」の合計）と「役立たなかった」（「全く役立たなかった」と「まあ役立たなかった」の合計）の指摘率は次のようであった。

①児童・生徒の興味・関心をひき、学習指導を促す

「役立った」　　：小学校 49.6%、地理 42.6%、歴史 40.8%、公民 43.0%
「役立たなかった」：小学校 6.7%、地理 10.6%、歴史 7.2%、公民 9.3%

②多様な思考や主体的な判断力を促す

「役立った」　　：小学校 22.8%、地理 29.0%、歴史 25.3%、公民 31.5%
「役立たなかった」：小学校 12.7%、地理 14.6%、歴史 17.1%、公民 12.1%

③資料活用や情報処理の能力を育成する

「役立った」　　：小学校 59.3%、地理 53.2%、歴史 33.3%、公民 37.4%
「役立たなかった」：小学校 7.0%、地理 9.9%、歴史 14.6%、公民 10.9%

④基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図る

「役立った」　　：小学校 59.0%、地理 41.5%、歴史 57.4%、公民 55.7%
「役立たなかった」：小学校 8.0%、地理 24.9%、歴史 9.9%、公民 10.3%

「今後の社会科教科書の役割として最も期待する」のは上記①～④のうちどれかについて質問した。指摘率の高い順に示すと次のようである。

小学校：④②③①（28.9%、25.1%、22.2%、19.7%）
地理　：③④①②（37.7%、34.3%、20.6%、4.7%）
歴史　：④①②③（56.7%、19.3%、16.5%、4.7%）
公民　：④②①③（43.0%、34.3%、13.4%、6.2%）

４）使用状況（小学校：質問８、中学校：質問６）

社会科授業で教科書使用を重視している場面と今後充実を期待する場面を、６場面から二つを選択してもらった。各場面の指摘率を示すと次のようであった。

①指導計画・学習指導案立案の場面

重視場面：小学校 22.9%、地理 35.5%、歴史 33.6%、公民 33.3%

期待場面：小学校 9.2%、地理 10.3%、歴史 7.5%、公民 8.1%

②学習の動機付けの場面

重視場面　：小学校 39.4%、地理 41.1%、歴史 38.3%、公民 34.0%

期待場面　：小学校 46.7%、地理 45.2%、歴史 45.8%、公民 42.4%

③学習課題・問題の設定の場面

重視場面　：小学校 44.1%、地理 44.9%、歴史 37.4%、公民 38.0%

期待場面　：小学校 44.8%、地理 46.7%、歴史 42.4%、公民 40.5%

④学習課題・問題の追求の場面

重視場面　：小学校 35.6%、地理 34.0%、歴史 36.4%、公民 37.4%

期待場面　：小学校 51.7%、地理 44.5%、歴史 48.9%、公民 49.2%

⑤学習のまとめの場面

重視場面　：小学校 30.5%、地理 38.0%、歴史 48.9%、公民 48.6%

期待場面　：小学校 29.8%、地理 38.3%、歴史 41.7%、公民 43.3%

⑥学習を自己評価させる場面

重視場面：小学校 1.3%、地理 1.2%、歴史 0.6%、公民 2.8%

期待場面：小学校 11.4%、地理 9.0%、歴史 8.1%、公民 9.3%

（３）算数・数学

算数・数学固有の質問として、現行の算数・数学の教科書の内容についての要望を設定した（小学校：質問９、中学校：質問４）。六つの項目について３段階のいずれかに指摘してもらった結果は次のようであった。

⑤、⑥は中学校教師だけに質問した。

①程度

小学校：現行程度 71.7%、より難しく 26.0%、より易しく 1.9%

中学校：現行程度 67.4%、より難しく 29.3%、より易しく 1.5%

②作業的・体験的な活動など数学的活動の分量

小学校：現行程度 51.1%、増やす 47.6%、減らす 1.0%

中学校：現行程度 50.3%、増やす 43.9%、減らす 4.6%

③答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを答えさせる記述式の問題

小学校：現行程度 36.5%、増やす 62.2%、減らす 1.0%
中学校：現行程度 40.2%、増やす 57.3%、減らす 0.9%

④習熟度別指導への対応

小学校：教科書でも必要 54.6%、教科書では不要 27.9%、どちらとも 16.8%
中学校：教科書でも必要 40.2%、教科書では不要 36.6%、どちらとも 22.0%

⑤身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力

中学校：問題解決力 47.3%、論理的な思考力 41.2%、説明するなどの表現力 10.4%

⑥教科書の改善・充実でもっとも重要な内容

中学校：導入教材 26.2%、思考力を養う問題 33.5%、練習問題 39.0%

（４）理科

理科固有の質問としては、「観察、実験」と「教材・資料」を小学校と中学校両方に、また、中学校では「自由研究」についても設定した。中学校については、第一分野と第二分野の別に質問した。

１）観察、実験（小学校：質問 10、中学校：質問４）

①教科書に載っている観察、実験を行なっているか。

小学校　：ほぼ 87.6%、一部 9.8%、あまりしていない「なし」
第一分野：ほぼ 90.5%、一部 8.6%、あまりしていない「なし」
第二分野：ほぼ 81.6%、一部 17.2%、あまりしていない 0.3%

「あまりしていない」場合には、その理由を質問した。該当は中学校１件であったが、理由は「実験器具・薬品などの不足、生物教材の準備、現地学習の困難など」であった。

②教科書に載っていない観察、実験を取り上げているか。

「積極的に取り上げている」、「必要に応じて取り上げている」、「ほとんど取り上げていない」の３選択肢から１つ選んでもらった。

小学校　：積極的 7.0%、必要に応じて 61.0%、ほとんど 29.5%
第一分野：積極的 9.2%、必要に応じて 72.4%、ほとんど 13.8%
第二分野：積極的 5.5%、必要に応じて 71.5%、ほとんど 18.7%

③教科書には、観察、実験の手順がわかりやすく記述されているか。

「適切でわかりやすい」、「少しわかりにくい」、「わかりにくい」の３選択肢から１つ選んでもらった。中学校については、分野をわけずに質問した。

小学校：適切 74.6%、少しわかりにくい 22.5%、わかりにくい 0.6%
中学校：適切 69.0%、少しわかりにくい 28.8%、わかりにくい 2.1%

④教科書には、観察、実験における安全面の配慮が適切に示されているか。

「適切である」、「不適切である」のいずれかを選んでもらった。中学校については分野をわけずに質問した。

小学校：適切 86.7%、不適切 10.8%

中学校：適切 88.0%、不適切 11.7%

「不適切である」とした場合について、その理由を「多すぎる」、「少なすぎる」、「説明が足りない」の３選択肢から選んでもらったところ、「多すぎる」は小学校、中学校ともに指摘はゼロで「説明が足りない」が多かった。

小学校：少なすぎる 26.5%、説明が足りない 70.6%

中学校：少なすぎる 31.6%、説明が足りない 68.4%

２）教材・資料（小学校：質問 11、中学校：質問５）

四つの項目について、それぞれ「適切である」、「不適切である」のいずれかを選んでもらい、「不適切である」と回答した人には、その理由として、「多すぎる」、「少なすぎる」、「テーマが適切でない」のいずれかを選んでもらった。中学校については分野をわけずに質問した。

①興味・関心を高める内容が適切に掲載されているか。

小学校：適切 80.6%、不適切 16.5%

中学校：適切 77.6%、不適切 21.5%

「不適切」の理由：

小学校：多すぎる 1.9%、少なすぎる 80.8%、テーマが適切でない 17.3%

中学校：多すぎる「なし」、少なすぎる 65.7%、テーマが適切でない 32.9%

②新しい科学の知見や先端技術に関することが適切に掲載されているか。

小学校：適切 71.1%、不適切 26.3%

中学校：適切 79.1%、不適切 20.2%

「不適切」の理由：

小学校：多すぎる 1.2%、少なすぎる 90.4%、テーマが適切でない 7.2%

中学校：多すぎる 1.5%、少なすぎる 89.4%、テーマが適切でない 9.1%

③環境や環境の保護に関することが適切に掲載されているか。

小学校：適切 74.0%、不適切 23.5%

中学校：適切 75.2%、不適切 24.2%

「不適切」の理由：

小学校：多すぎる 2.7%、少なすぎる 85.1%、テーマが適切でない 12.2%

中学校：多すぎる 1.3%、少なすぎる 87.3%、テーマが適切でない 8.9%

④児童・生徒の日常生活と関連することが適切に掲載されているか。

小学校：適切 69.2%、不適切 28.3%

中学校：適切 62.3%、不適切 37.1%

「不適切」の理由：

小学校：多すぎる 1.1%、少なすぎる 85.4%、テーマが適切でない 13.5%

中学校：多すぎる 1.7%、少なすぎる 89.3%、テーマが適切でない 9.1%

３）自由研究（質問６）

教科書には、夏休みの自由研究などのために、テーマ例が掲載されているが、それが参考になっているかどうかを中学校教師に「大いに参考になっている」、「少し参考になっている」、「あまり参考にならない」のいずれかに回答してもらった。

第一分野：大いに 5.5%、少し 64.4%、あまり 27.6%

第二分野：大いに 5.5%、少し 64.4%、あまり 27.6%

（５）英語

１）構成（質問４）

中学校英語科では「聞く」「話す」ことを重点的に行なうように構成されているが、この点についての教師の意見は次のようであった。（１項目選択）

①もっと重視すべき……7.4%
②今程度でよい……31.9%
③「読む」「書く」のバランスをとってほしい……38.3%
④もっと基礎力がつくように構成してほしい……21.8%

２）語彙数（質問５）

語彙は 900 程度を教えることになっているが、この点についての教師の意見は次のようであった。（１項目選択）

①目減りを考慮して多く出して、学べるようにすべき……30.7%
②今程度でよい……49.4%
③もっと精選、減らして確実に定着させるべき……12.3%
④語彙数制限は必要ない……6.7%

３）言語項目（質問６）

学習指導要領では教える言語項目が指定され、教科書ではもれなく扱っているが、この点についての教師の意見は次のようであった。（１項目選択）

①教えることが多すぎる。もっと精選すべき……9.8%
②今程度でよい……65.3%
③教えることが少なすぎる……11.7%
④もう少し自由度があるほうがよい……11.3%

４）望ましい教科書（質問７）

「英語の教科書は、教えてもらわないと生徒が独力で学習するのは難しいと思われますが、先生は今後の教科書はどのような方向が望ましいと思われますか。」という質問に対する教師の回答は次のようであった。（１項目選択）

①詳しい説明をつけるなど、自学できるようにすべき……23.3%
②今程度に、教わることが前提でよい……26.1%
③英語には音声が必須だから、ＣＤを教科書に付けてほしい……50.3%

５）習熟度別学習への対応（質問８）

教科書で習熟度別にどう対応したらよいかについての教師の意見は次のようであった。（１項目選択）

①積極的に対応すべき……23.6%
②教科書で扱わなくてもよい……22.1%
③指導上で対応すべき……54.0%

以上、教師の教科書観を回答率によって概観した。その結果、教科書は「主たる教材」として、他の教材によって部分的に補いながら使われているが、小学校の国語、算数、理科、中学校の国語のように、教科書だけで授業を行なっている場合も結構多いことがわかった。

大半の教師が使いたい教科書は、学習材としての性格もそなえたバランスのとれた教科書であるが、あくまでも「教えるための教科書」がよいとする教師も少なくない。平成 20 年 1 月 17 日に出された中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（以下、答申）は、「自ら学び自ら考える力を育成する」という学校教育にとっての大きな理念は、「日々の授業において、教師が子どもたちに教えることを抑制するよう求めるものではなく、教えて考えさせる指導を徹底し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることが重要なことはいうまでもない。」と指摘している。やはり「教えて考えさせる」ことのできるような教科書が重要であり、教師が使いたい教科書もそのような教科書である。

しかし、何を教え、何を考えさせるかということは教科によって同じではない。

国語では、小学校の教師は、約５割が「話す・聞く」教材では「もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができる」ような教科書を、また、中学校の教師は、約７割が「「話す・聞く」や「書く」教材は、短い時間で扱える練習的な教材を位置づけた」教科書を望んでいる。また、中学校の場合、約６割の教師が、「説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい。」と回答している。

国語教育に関して、答申は、古典の指導を重視すべきことを提言し、それを受けて改訂された新学習指導要領では、「伝統的な言語文化に関する事項」が新設され、小学校でも第５学年及び第６学年において、「古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること」とされているが、小学校の教師は、約９割が「百人一首で遊ぶなど、遊びの中で古典にふれさせたい。」と回答しているが、「読ませればよい」という回答は２割以下である。一方、中学校の教師は、約７割が「時代背景の説明などによって、もっと古典に対する興味付けを図ることが大切」と回答しているが、ほぼ同率の教師が、教科書に含められる古典教材は、小学校に古典が入っても、現行程度でよいとしている。また、中学校の場合、「漢文や文法、その他の言語事項の扱い」については、７割を超える教師が、「生徒の語彙をふやすことを重視してほしい。」としており、５割前後の教師が、「文法教材はどこか１箇所にまとめて設置、体系的に記述するもの」、「漢字は、読むことの教材の文脈の中で提出すること」、「文法教材ではもっと練習問題を増やすこと」を望んでいる。

社会科の教科書について、教師は「主体的、能動的な学び方を促すような配慮がなされている」ものが最も望ましいとしているが、そのような配慮が現状でなされているかどう

かの同感率をみると、中学校の地理は要望率を上回っているが、小学校と中学校の歴史と公民の分野の場合には、要望率を下回っているので、これについては更なる配慮が必要ということになるであろう。社会科の場合には、他に比べ教科書以外の教材を使う比率が高くなっているが、教科書に最も期待する役割は、地理（中学校）の場合には「資料活用や情報処理の能力を育成する」ことであるのに対して、小学校と歴史・公民の場合は「基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図ること」であった。

算数・数学について特に注目されるのは、小学校、中学校ともに、「答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを答えさせる記述式の問題」を増やしてほしいという要望率が現状肯定率をかなり上回っていることである。

理科の場合には、観察・実験に関して、７割前後の教師が、その手順がわかりやすく記述されているとしているが、「わかりにくい」と回答している者も約３割いるが、これについては、教える側の教師にとってわかりにくいのか、学ぶ側の児童・生徒にとってわかりにくいのかは明らかではない。これについては今後さらに調べていく必要があるであろう。

また、「興味・関心を高める内容」、「新しい科学の知見や先端技術」、「環境保護に関する記述」、「児童生徒の日常生活に関する記述」については、７割から８割の教師は、現状で適切としているが、「不適切」とする教師も２～３割いるので、今後の検討課題であろう。

また、自由研究のテーマ例について、「あまり参考になっていない」とする教師が３割弱いることも検討すべき点であろう。

英語（中学校）については、「読む」と「書く」のバランスをとってほしいとする回答率が約４割で、現状肯定率約３割を上回っている。また、英語の場合は音声が必須であることから、５割を超える教師がＣＤを教科書に付けてほしいと要望している。英語は習熟度別の指導が多くの学校で行なわれているが、５割強の教師が教科書については特に配慮せずに、指導上で対応すべきとしている。

（新井郁男）

Ⅲ．保護者と教科書

１．小学校

義務教育教科書に関する小学校の保護者の意識及び要望について調査をした。調査対象は 47 都道府県の各１校の第５学年（又は第４学年か第６学年）の 47 学級の保護者に協力をお願いし、1,054 名から回答をいただいた。

以下、質問に対する回答から 11 種類の教科書等（道徳副読本を含む）に対する保護者の意識等を見ていく。

（１）保護者の教科書への関心（質問１）

「あなたは子どもさんが今年の４月から使っている教科書を手にとって内容を見たことがありますか。」

表１　教科書への関心

N=1054（表中の( )内の数値は%）　丸数字は項目内の順位

教科書等	じっくり見たことがある A	勉強を教えるときなど、少し見たことがある B	ぱらぱらめくる程度に見たことがある C	まったく見たことがない	無回答	見ている頻度※(見たと回答した数A、B、Cの合計と割合)
国語	127 (12.0) ①	480 (45.6) ②	357 (33.9) ⑩	84 (8.0) ⑪	6 (0.6) ⑩	964 (12.6) ①
書写	19 (1.8) ⑪	88 (8.3) ⑨	452 (42.9) ⑤	483 (45.8) ③	12 (1.1) ⑤	559 (7.3) ⑧
社会	53 (5.0) ⑤	279 (26.5) ③	473 (44.9) ④	237 (22.5) ⑨	12 (1.1) ⑤	805 (10.5) ③
地図帳	92 (8.7) ③	248 (23.5) ⑤	415 (39.4) ⑥	282 (26.8) ⑦	17 (1.6) ④	755 (9.9) ⑤
算数	119 (11.3) ②	518 (49.1) ①	291 (27.6) ⑪	122 (11.6) ⑩	4 (0.4) ⑪	928 (12.1) ②
理科	54 (5.1) ④	260 (24.7) ④	475 (45.1) ③	256 (24.3) ⑧	9 (0.9+) ⑧	789 (10.3) ④
音楽	52 (4.9) ⑥	106 (10.1) ⑦	517 (49.1) ①	369 (35.0) ⑥	10 (0.9) ⑧	675 (8.8) ⑥
図画工作	42 (4.0) ⑦	117 (11.1) ⑥	507 (48.1) ②	377 (35.8) ⑤	11 (1.0) ⑦	666 (8.7) ⑦
家庭	40 (3.8) ⑧	91 (8.6) ⑧	415 (39.4) ⑥	464 (44.0) ④	44 (4.2) ①	546 (7.1) ⑨
保健	25 (2.4) ⑩	68 (6.5) ⑩	415 (39.4) ⑥	515 (48.9) ②	31 (2.9) ③	508 (6.7) ⑩
道徳	26 (2.5) ⑨	59 (5.6) ⑪	358 (34.0) ⑨	571 (54.2) ①	40 (3.8) ②	443 (5.8) ⑪

※「見ている頻度」の割合（%）は「Ａ＋Ｂ＋Ｃ／全教科のＡ＋Ｂ＋Ｃの合計(7638)」

教科書等全体を集計して、「じっくり見た」(5.6%)、「勉強を教えるときなど、少し見た」(20.0%)、「ぱらぱらとめくる程度に見た」(40.3%) を合計すると 65.9%の回答者が何らかのかたちで教科書等に目を通している。保護者が目を通している教科書等の順位は、①国語、②算数、③社会、④理科、⑤地図帳、⑥音楽、⑦図画工作、⑧書写、⑨家庭、⑩保健、⑪道徳となっている。この順位から主要４教科のうち、国語、算数への関心はほぼ同程度であり、次いで社会、理科が続く。国語、算数については、読み書き計算という基礎・基本という認識、全国学力調査の対象科目であるという認識も反映しているのではないかと考えられる。地図帳が社会、理科に近い数値を挙げていること、また、音楽と図画工作が「ぱらぱらめくる程度に見たことはある」の第１位と第２位を占めていることは、質問２「自分の興味関心のために見る」との関連もあると思われる。

反面、「まったく見たことがない」が 32.4%あるが、回答者の 32.4%がいずれの教科書等も「まったく見ていない」と断言するにはデータが足りないと考える。

（２）生涯学習と教科書（質問２）

「あなたは自分自身の興味関心や勉強のために子どもさんの教科書を読んだり見たりすることがありますか。」（複数回答）

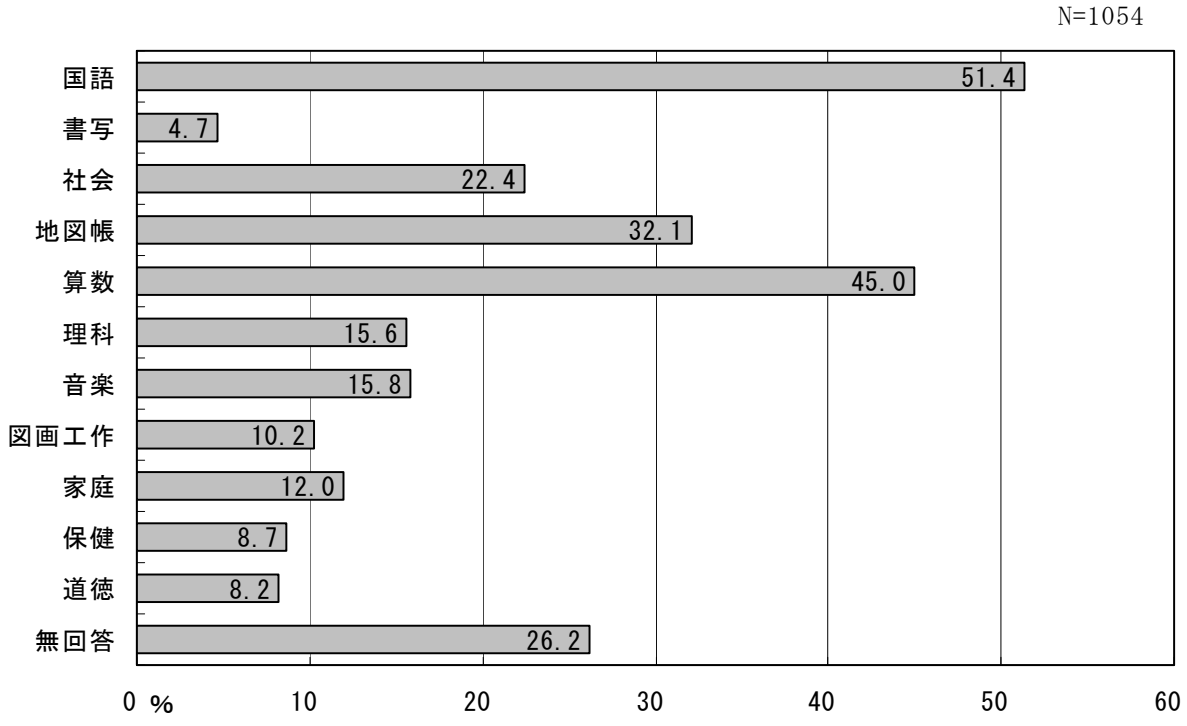


図１　保護者が自分のために読む小学校教科書

保護者が自分自身の興味や勉強のために活用する教科書等は、①国語、②算数、③地図帳、④社会、⑤音楽、⑥理科、⑦家庭、⑧図画工作、⑨保健、⑩道徳、⑪書写の順である。特に、国語と算数の教科書を活用している保護者の割合が他の教科書と比較して高い。

算数については、子どもの勉強に役立てるため自らも教科書の内容を理解したいとの思

いが、次の自由記述欄から窺うことができる。

・子どもから質問されて教科書を見るが、説明や解説が書かれていないので教えてやることができない。

・教科書で理解できるようにしてほしい。

国語については、子どもの勉強に役立てるほかに自分の興味関心のために見ていることが自由記述に書かれている。

・国語の長文を楽しみにしています。

・私が小学校のときと同じ物語が載っていて感動しました。

国語、算数に次いで地図帳、社会科が見られていることは、子どもの勉強に役立てることと社会事象に関連づけての関心もあるのではないか。音楽、理科の見られる割合がほぼ同じであることは、保護者が自分の興味や勉強のためにも見ているものと思われる。

（３）教科書への関心と生涯学習（質問２と質問１の関連）

自分の興味関心や子どもの勉強に役立てるために実際に教科書を見た保護者の選択数と教科書への関心との関係について教科書別に保護者の意識を捉えてみた（まったく見たことはない・無回答を除く）。

表２　教科書への関心と生涯学習

（表中の数値は%）

教科書等	調査数（件）と順位	じっくり見たことがある	勉強を教えるときなど少し見たことがある	ぱらぱらめくる程度に見たことはある
国語	535　①	19.6	54.2	26.2
書写	48　⑪	29.2	41.7	29.2
社会	229　④	23.1	52.8	24.0
地図帳	323　③	18.9	51.1	30.0
算数	455　②	18.0	56.7	25.3
理科	158　⑥	22.8	52.5	24.7
音楽	161　⑤	25.5	49.7	24.8
図画工作	103　⑧	28.1	44.7	27.2
家庭	122　⑦	22.1	49.2	28.7
保健	90　⑨	23.3	48.9	27.8
道徳	85　⑩	28.2	45.9	25.9

生涯学習と教科書への関心を見ると、「じっくり見る」教科書は国語が抜きん出ており算数、地図帳、社会が続いているものの理科が音楽よりわずかながら少ないことは回答者の属性に起因するかも知れない。どの教科書等も「勉強を教えるときなど･･･」に活用する比率が高いことは、自分自身の興味や勉強のためとは言え、子どもの勉強に関わることが保護者の意識に影響を及ぼしていると考えられる。

（４）学校以外での子どものようす（質問３）

「学校以外でのお子さんのようすについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。」（複数回答）

学校以外の場で子どもが主として学習面で取り組んでいるようすを保護者がどのように見ているかを問うてみた。

表３　学校以外での子どものようす

N=1054（表中の数値は%）

自分ひとりで、教科書を使って勉強している	49.5
自分ひとりで、教科書以外の教材を使って勉強している	34.4
家族の人に教わりながら、教科書を使って勉強している	40.7
家族の人に教わりながら、教科書以外の教材を使って勉強している	27.8
家庭教師と、教科書を使って勉強している	0.4
家庭教師と、教科書以外の教材を使って勉強している	0.9
学校の勉強を補うための学習塾に通っている	16.6
受験のための学習塾に通っている	6.3
図書館によく行く	12.5
学校以外ではあまり勉強しない	18.7
おけいこ事に通っている	43.2
クラブやチームに入ってスポーツをしている	46.7
無回答	0.8

※複数選択

学校以外の場での学習する小学校５年生の姿は、

①「自分ひとりで教科書を使って勉強している」、②「クラブやチームに入ってスポーツをしている」、③「おけいこ事に通っている」、④「家族に教わりながら教科書を使って勉強している」、⑤「自分ひとりで教科書以外の教材を使って勉強している」、⑥「家族に教わりながら教科書以外の教材を使って勉強している」、⑦「学校以外ではあまり勉強しない」、⑧「学校の勉強を補うための学習塾に通っている」、⑨「図書館によく行く」、⑩「受験のための学習塾に通っている」、⑪「家庭教師と教科書以外の教材を使って勉強している」、⑫「家庭教師と教科書を使って勉強している」、⑬「無回答」の順である。

「学校以外ではあまり勉強しない」との回答が 18.7%（197 名）あるが、「勉強」の内容をどう捉えているかはっきりしない。「スポーツ」や「おけいこ事」も広い意味での勉強と考えるとき 18.7%の子どもたちは自由な場で自由な時間を過ごしていると解釈すべきであろうか。いずれにせよ回答者の 80%の子どもが家庭・塾・スポーツ施設などで勉強をしていることが分かる。中でも教科書を使って勉強するとの回答者が延べ 955 名あり、子どもたちの勉強に占める教科書の役割は大きい。

（５）教科書への関心と子どものようす（質問１と質問３の関連）

ここでは、子どもが勉強するとき教科書を使用するか否かの視点で、子どものようすと保護者の教科書への関心度の高いものとの関連について、主要４教科の教科書別に見る。

凡例　Ａ：じっくり見たことがある　　Ｂ：勉強を教えるとき、少し見たことがある
　　Ｃ：ぱらぱらめくる程度見たことがある　　Ｄ：全く見たことがない・無回答

表４－１　教科書への関心と子どものようす〈国語〉

（表中のＡ～Ｄの数値は％）

	調査数（件）	A	B	C	D
自分ひとりで教科書を使って勉強	522	14.6	44.6	34.3	6.5
家族に教わりながら教科書を使って勉強	429	15.4	58.5	22.1	4.0
自分ひとりで教科書以外の教材を使って勉強	363	14.0	41.9	35.3	8.8
家族に教わりながら教科書以外の教材を使って勉強	293	17.1	51.9	23.5	7.5

教科書使用派の場合、保護者が積極的に教科書に目を通している。「家族に教わりながら勉強する子ども」への関与が 58.5％あり、子どもの勉強に関わる姿が見られる。不使用派の場合も保護者が教科書に目を通し、教科書を補う副次的な教材の選択に関わっていると推測できる。

表４－２　教科書への関心と子どものようす〈算数〉

（表中のＡ～Ｄの数値は％）

	調査数（件）	A	B	C	D
自分ひとりで教科書を使って勉強	522	12.1	49.2	28.5	10.2
家族に教わりながら教科書を使って勉強	429	15.4	61.3	17.5	5.8
自分ひとりで教科書以外の教材を使って勉強	363	11.8	44.0	31.4	12.7
家族に教わりながら教科書以外の教材を使って勉強	293	17.7	51.9	19.5	10.9

教科書使用派の場合、保護者が積極的に教科書に目を通している。特に「家族に教わりながら勉強する子ども」への関与は 76.7％である。自由記述の「算数はもう少し分かりやすい説明など書いてあると良いと思う」という意見は保護者の本音が出ているのではないか。不使用派の場合も教科書以外の教材の選択のためにも保護者が目を通していると思われる。

表４－３　教科書への関心と子どものようす〈社会〉

（表中のＡ～Ｄの数値は％）

	調査数（件）	A	B	C	D
自分ひとりで教科書を使って勉強	522	6.1	25.1	48.5	20.3
家族に教わりながら教科書を使って勉強	429	7.4	36.6	37.8	18.2
自分ひとりで教科書以外の教材を使って勉強	363	5.2	25.3	47.1	22.3
家族に教わりながら教科書以外の教材を使って勉強	293	7.8	32.4	41.3	18.4

国語、算数と比較して保護者が社会の教科書に目を通す割合は低いが、家族が勉強に関わる場合、44.0％の保護者が目を通している。教科書以外の教材を使って勉強する場合40.2％が教科書に目を通しているが、副次的教材を使う場合の参考にしているのではないか。そのことは、自由記述に「理科や社会も復習しにくい感じがします」「社会や理科は内容がうすいように思う」などから推測できる。20％程度の保護者が「まったく見たことがない」「無回答」であるのが国語、算数と比較して高いように思う。

表４－４　教科書への関心と子どものようす〈理科〉

（表中のＡ～Ｄの数値は％）

	調査数（件）	A	B	C	D
自分ひとりで教科書を使って勉強	522	5.6	26.4	44.6	23.4
家族に教わりながら教科書を使って勉強	429	6.8	35.0	38.9	19.3
自分ひとりで教科書以外の教材を使って勉強	363	5.2	23.7	47.9	23.1
家族に教わりながら教科書以外の教材を使って勉強	293	8.2	31.7	40.6	19.5

保護者が理科の教科書に目を通す割合は、社会と同様な傾向にある。

（６）子どもの教科書の扱い方（質問４）

「子どもさんの日頃の教科書の扱い方についておたずねします。」

保護者の子ども時代と比べて、現在の教科書は書き込みや切り貼りができるようになっていることから扱い方が乱雑になるのではないかとの懸念もある。子どもの教科書の扱い方を保護者はどう見ているのだろうか。

表５　教科書の扱い方

N=1054（表中の数値は%）

カバーをかけるなどして、たいせつに使っている	16.5
特別たいせつにしているわけではないが、ふつうに使っている	73.1
多少汚れたり、破れてしまったページがあったりするが、まあまあたいせつに使っている	9.2
乱暴に使うので、汚れたり、破れてしまったページがあったり、綴じから外れたりしている	0.8
無回答	0.5

回答から見る限り、小学生は教科書をたいせつに使っていると考えてよいのではないか。このことは、教科書の堅牢性とも関わってくるので質問７を参照されたい。

自由記述欄の意見を見ると、「書き込んだり、貼り付けたりするのは良いが、切り取りがあるのはどうかと思う」「毎日使う教科書は大切につかってもボロボロになります」「表紙が折れたり、こすれたりするのでもっと厚い紙にしてはどうでしょう」「書き込みのページは紙質がツルツルして厚いので書きにくそうです」「ボロボロになり易いから丈夫なものにしてほしい」「教科書は大切という認識が今の子どもには欠けていると思う」といった意見が寄せられている。

（７）子どもの自宅での勉強への対応（質問５）

「子どもさんの自宅での勉強にあなたはどんな対応をしていますか。」（複数回答）

子どもが自宅で勉強するとき、親としてどのように関わっているかを問うた。

表６　子どもの勉強への対応

N=1054（表中の数値は%）

質問される前に「いっしょに勉強しましょう」と言って、そばについて教えることが多い	6.9
質問されたら子どもが理解するまでいっしょに考える	82.9
質問されても答えられないことが多い	7.7
子どもといっしょに考えたいが、忙しいのでそういう時間がない	14.9
子どもに聞かれることはない	4.3
無回答	1.7

※複数選択

子どもが自宅で勉強するとき保護者としての対応を複数回答で見ると、「質問されたら子どもが理解するまでいっしょに考える」と受身ではあるがていねいに対応する保護者が82.9%でもっとも多く、「質問される前に『いっしょに勉強しましょう』といって、そばについて教えることが多い」と積極的に関わる保護者は 6.9%である。子どもが自宅で勉強

するとき 80%を超える保護者が関わろうとしていることが分かる。

「子どもといっしょに考えたいが、忙しいのでそういう時間がない」と子どもの勉強に関わりたいとの意欲はあるが時間的制約を理由に挙げた保護者が 14.9%。「質問されても答えられないことが多いので、子どもまかせにしている」保護者と「子どもから聞かれることはない」保護者が 12.0%ある。

（８）教科書の内容（質問６）

「教科書の内容についての考え方であなたの考えにもっとも近いのはどれですか。」

教科書の内容について保護者の考えを捉えてみた。

表７　教科書の内容についての考え方

N=1054（表中の数値は%）

内容はよくできているので、いまのままでよい	20.0
すぐれた参考書や問題集のようにもっと編集を工夫して子どもの興味関心にこたえるような内容に変えたほうがよい	25.2
内容はよくわからないが､子どもが満足しているのでいまのままでよい	17.2
内容についてあまり考えたことがないのでわからない	34.2
無回答	3.4

教科書の内容についての保護者の考えは、「内容はよくできているので、いまのままでよい」との積極的現状肯定派と「内容はよくわからないが、子どもが満足しているのでいまのままでよい」との消極的現状肯定派の合計が 37.2%であるのに対して、「すぐれた参考書や問題集のように編集を工夫し興味関心にこたえられる内容にかえたほうがよい」との改善派が 25.2%を占める。一方、「内容についてあまり考えたことがないのでわからない」と回答した無関心派が 34.2%あった。積極的現状肯定派と改善派の合計は 45.2%で回答者の半数近くは教科書に関心をもっていることが分かる。無回答 3.4%を含め教科書の内容にあまり関心をもたない保護者が 37.6%ある。

（９）教科書への関心と教科書の内容（質問１と質問６の関連）

教科書の内容について保護者がどのように考えているかを教科書への関心度とのクロス集計したものを教科書別に見た。

凡例　A：じっくり見たことがある　　B：勉強を教えるとき、少し見たことがある
C：ぱらぱらめくる程度見たことがある　　D：全く見たことがない
E：無回答

ア：内容はよくできているので、いまのままでよい
イ：すぐれた参考書や問題集のようにもっと編集を工夫して子どもの興味関心にこたえるような内容に変えたほうがよい
ウ：内容はよくわからないが、子どもが満足しているのでいまのままでよい
エ：内容についてあまり考えたことがないのでわからない
オ：無回答

表８　教科書への関心と教科書の内容

（表中の( )内の数値は%）

項目	調査数(件)	ア	イ	ウ	エ	オ
全体	1054	20.0	25.2	17.2	34.2	3.4
国語						
A	127	33.1	37.0	9.4	15.7	4.7
B	480	21.6	26.3	18.3	30.2	3.8
C	357	16.8	21.0	19.3	40.1	2.8
D	84	4.8	17.9	－	60.7	2.4
E	6	33.3	50.0	－	16.7	－
算数						
A	119	33.6	36.1	8.4	12.6	9.2
B	518	20.5	28.0	17.6	30.7	3.3
C	291	18.9	22.0	18.9	37.8	2.4
D	122	7.4	9.8	20.5	61.5	0.8
E	4	25.0	50.0	－	25.0	－
社会						
A	53	39.6	35.8	7.5	3.8	13.2
B	279	22.6	32.2	12.9	27.6	4.7
C	473	19.5	22.4	19.5	36.2	2.5
D	237	13.9	19.4	20.3	45.6	0.8
E	12	16.7	41.7	8.3	16.7	16.7

理科

項目	調査数(件)	ア	イ	ウ	エ	オ
A	54	38.9	37.0	9.3	9.3	5.6
B	260	24.2	34.2	13.8	23.1	4.6
C	475	20.4	22.5	18.5	34.7	3.8
D	256	11.3	18.4	20.3	49.2	0.8
E	9	11.1	33.3	－	44.4	11.1

音楽

A	52	36.5	32.7	9.6	17.3	3.8
B	106	23.6	29.2	21.7	20.8	4.7
C	517	23.0	26.3	17.2	29.0	4.4
D	369	11.7	21.7	17.3	48.0	1.4
E	10	50.0	20.0	－	20.0	10.0

図画工作

A	42	40.5	31.3	9.5	14.3	4.8
B	117	23.1	26.5	19.7	25.6	5.1
C	507	20.7	27.4	17.2	30.8	3.9
D	377	15.6	21.0	17.8	44.0	1.6
E	11	27.3	36.4	－	18.2	18.2

家庭

A	40	35.0	30.0	17.5	15.0	2.5
B	91	23.1	23.1	25.3	20.9	7.7
C	415	23.9	27.5	14.0	30.1	4.6
D	464	15.3	22.6	18.1	42.9	1.1
E	44	13.6	31.8	20.5	25.0	9.1

保健

A	25	32.0	32.0	20.0	12.0	4.0
B	68	20.6	29.4	10.1	25.0	5.9
C	415	25.5	25.3	16.6	29.2	3.4
D	515	14.8	24.5	17.3	41.4	2.1
E	31	22.6	22.6	16.1	19.4	19.4

地図帳

項目	調査数（件）	ア	イ	ウ	エ	オ
A	92	29.3	26.1	12.0	25.0	7.6
B	248	21.0	31.0	16.1	27.4	4.4
C	415	21.0	25.5	18.3	32.3	2.9
D	282	14.9	18.8	18.4	46.5	1.4
E	17	17.6	35.3	11.8	23.5	11.8

書写

A	19	36.8	47.4	5.3	10.5	－
B	88	22.7	30.7	19.3	21.6	5.7
C	452	21.9	26.3	17.0	31.9	2.9
D	483	16.8	22.2	17.8	40.0	3.3
E	12	33.3	33.3	－	16.7	16.7

道徳

A	26	38.5	46.2	7.7	3.8	3.8
B	59	25.4	32.2	18.6	18.6	5.1
C	358	22.1	26.5	18.4	29.3	3.6
D	571	16.5	23.1	17.6	41.2	2.3
E	40	32.5	20.0	12.5	20.0	15.0

教科書に対する関心の度合「じっくり見た」「勉強を教えるとき、少し見た」の２項目の視点から、「いまのままでよい」との積極的現状肯定派と「変えたほうがよい」との改善派の考えを概観してみた。

国語　「じっくり見た」では改善派が 3.9 ポイント、「勉強を教えるために…」でも改善派が 4.7 ポイント高い。

算数　「じっくり見た」では改善派が 2.5 ポイント、「勉強を教えるために…」でも改善派が 7.5 ポイント高い。自由記述に「算数などは、ヒントがもう少しあればと思います」がある。

社会　「じっくり見た」では積極的現状肯定派が 3.8 ポイント高く、「勉強を教えるために…」では改善派が 9.6 ポイント高い。親が子どもに教える場合、教科書の内容に工夫を求めている。

理科　「じっくり見た」では積極的現状肯定派が 1.9 ポイント高いが、「勉強を教えるために…」では改善派が 10.0 ポイント高かった。理科の場合も親が子どもに教える場合、教科書の内容に工夫を求めている。自由記述に「解説・例題・応用があるほうが良い。算数・理科は問題の解き方もあると子どもに聞かれたとき教えやすくてありがたい」との意見が寄せられている。

音楽　「じっくり見た」では積極的現状肯定派が 3.8 ポイント高く、「勉強を教えるために…」では改善派が 5.6 ポイント高い。

図画工作　「じっくり見た」では積極的現状肯定派が 9.2 ポイント高く、「勉強を教えるために…」では改善派が 3.4 ポイント高い。

家庭　「じっくり見た」では積極的現状肯定派が 5.0 ポイント高く、「勉強を教えるために…」ではどちらも同じ数値である。

保健　「じっくり見た」では、どちらも同じ数値である。「勉強を教えるために…」では改善派が 8.8 ポイント高い。

地図帳　「じっくり見た」では積極的現状肯定派が 3.2 ポイント高く、「勉強を教えるために…」では改善派が 10.0 ポイント高い。

書写　「じっくり見た」では改善派が 10.6 ポイント高く、「勉強を教えるために…」でも改善派が 8.0 ポイント高い。

道徳　「じっくり見た」では改善派が 7.7 ポイント高く、「勉強を教えるために…」でも改善派が 6.8 ポイント高い。

（10）調査結果を見て

学校教育において重要な役割をもつ教科書について、保護者がどのような意識を持っているかを知る機会は学校懇談会や学級保護者会での話題になっても組織的に意識調査をすることは少なかった。

冒頭述べたが全国的な規模で 1054 票もの回答を得たことは、教科書に対する保護者の関心の高さを示すものと思う。そのことは『中間報告書』に載せられている「自由記述」欄の意見からも窺われる。以下、自由記述の一部を再掲して回答者の思いに応える教科書づくりの資となれば幸いである。

- 教科書というと、自分が子どもの頃は、本屋さんで売っている本と違って、特別なイメージがあって、すごく大事に扱っていたような気がします。今の子どもたちにも大人になっても又開いてみようというような、そんな風に扱ってもらえたらと思います。
- 今の教科書をとっておこうと私も子どもも思わない。なぜだろう。
- 生徒独自の教科書があっても良いと思う。
- 家庭環境によって差がある今日このごろ、教科書こそどの子どもにも平等なチャンスを与えてくれるものだと思います。私の子ども時代より身近に感じられるようになりました。学習に親しみやすい教科書であってほしいと思います。
- 私たち親世代が使っていた教科書よりも、とても面白く楽しく見やすい教科書になっているので、今の子どもたちはとても恵まれていると感じます。未来の子どもたちに、ますます素晴らしい教科書作りをお願いいたします。

（安藤駿英）

２．中学校

（１）保護者の教科書への関心（質問１）

中学校の場合、保護者の方々に対する質問は、都道府県単位で各１校を選んでその中の２学年の１学級の保護者から回答をいただくようにお願いをする方法で行った。その結果全国の 1061 世帯の家庭から調査結果が寄せられ、集計に当たることができた。

ただし対象を「原則として２年生の保護者」としたことから、中学校らしい結果が得られたと思われる。例えば質問２で、生涯学習と教科書についての質問として

「あなたは自分自身の興味や勉強のために子どもさんの教科書などを読んだり見たりすることがありますか。読んだり見たりすることがあれば、その教科の番号すべてに○をつけてください。」

とした回答の結果を、グラフで示すと次のようになった。

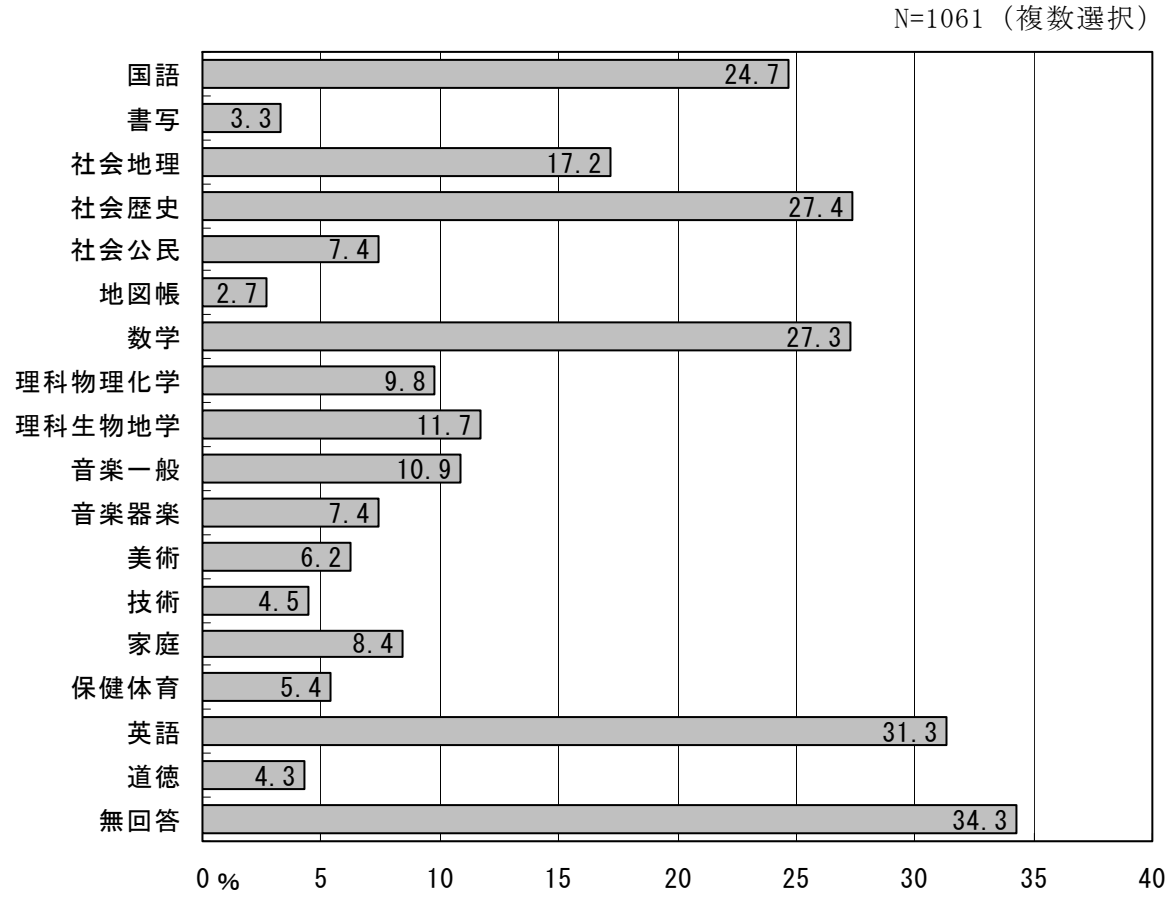


図１　保護者が自分のために読む中学教科書

あきらかに高校入試の対象となる教科である国・社・数・理・英の教科書は、実技教科の教科書より多い回答が寄せられている。この中で社会科の公民的分野の教科書については、かなり低い割合が示されているが、これは中学２年生の保護者を中心に回答を求めたことが原因と考えられ、３年生で給付される公民的分野の教科書は兄姉がいない限り回答

の対象から外されていることが原因と考えられる。

更に教科ではない､ということは教科書ではない道徳の副読本も同様の傾向が見られる。また国・歴史・数・英の回答が多いのは、回答総数 1061 名のうち女性が 903 名を占めており、女性の回答が 85.1%に当たることから、中学生女子の傾向と同様に、理科や地理的分野を不得手とする傾向が読み取れる。生涯学習の観点とはいえ、我が国の女性の傾向とも受け止めてよいと思われる。またこれは技術と家庭の教科書にも差が見られ、今回の調査の特色の一つとして受け止められる。しかし回答の割合が多い教科でも３分の１程度の利用は、あまり多いとは言えない感がある。

この結果は、現在子どもたちが使用している教科書についても同じような結果が見られる。**「あなたは子どもさんが今年の４月から使っている教科書などを手にとって内容を見たことがありますか。下のア～シについてそれぞれの番号に○をつけてください。」**という質問の回答をグラフ化してみると、次のようになった。

N=1061

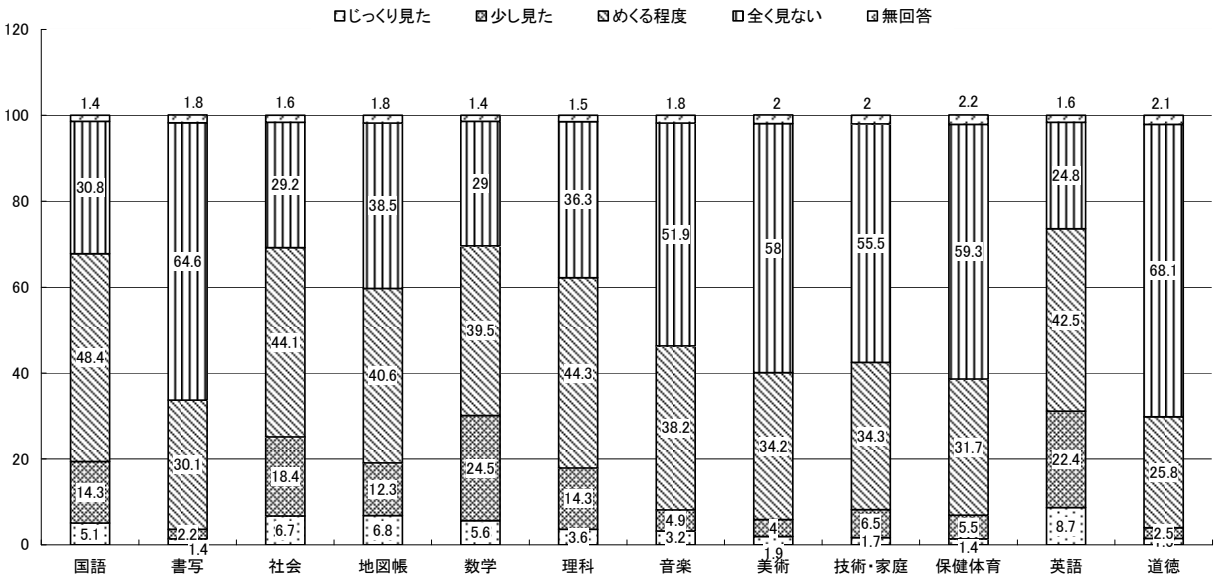


図２　中学生保護者の教科書への関心

上のグラフで「じぶんのために…」という回答と比較すると、「じっくり見た」「少し見たことがある」を合計しても、多いとは言えない結果が見られる。この調査は９月末から 10 月にかけて実施されたものであるから、給付されてから半年は経過しているために、保護者はかなり教科書に触れる機会があつたといえる。回答が上のグラフは１肢選択であるのに対して、このグラフは４分割で回答を求めたことから、多少の違いはあるが、大体の傾向としてよく似た結果が出ている。例外として国語の教科書を見る機会が減っていること、数学と理科が少し増加していることなどが読み取れる。

これは教科の特性による結果と思われるが、中学生が自分で家庭学習に取り組むことができる教科という認識があるためであろうと推測される。また社会科や理科、技術・家庭

科など教科書が分かれているものについては、女性による回答が多いということも含めて多少の違いが見られるが、平均するとほぼ同じ傾向にあると思われる。

現在の英語の教科書が 30%を超えて見ているという結果であるが、中学校２年生の段階では当然とも思われる。逆に考えると約７割の保護者が、「全く」あるいは「めくる程度」しか見ていないという結果は、特に重要な教科といわれるだけにもう少し保護者に見てもらいたい、という印象を受ける。

（２）現在の教科書への関心と生涯学習の役割との相関を見る（質問１と質問２との関係）

上の二つのグラフから、教科別の関心が他の教科とどのように関連があるのか、相関関係を探ってみた。例えば国語の教科書を「じつくり見た」保護者は、生涯学習のために他の教科の教科書を自分のためにどの程度利用したいと考えているか、ということの推測である。上記の 12 種類の教科書について「じっくり見た」という回答をした中で、最初の 18 種類の教科書を「自分のために読んだ」人はどのくらいいるか、と比較したグラフが次のものである。国語の教科書の場合を例にして示してみたい。数値は「国語の教科書をよく見る」と回答したもののうち、各教科の教科書を「自分のために読んだ」と回答したものの割合を示したものである。

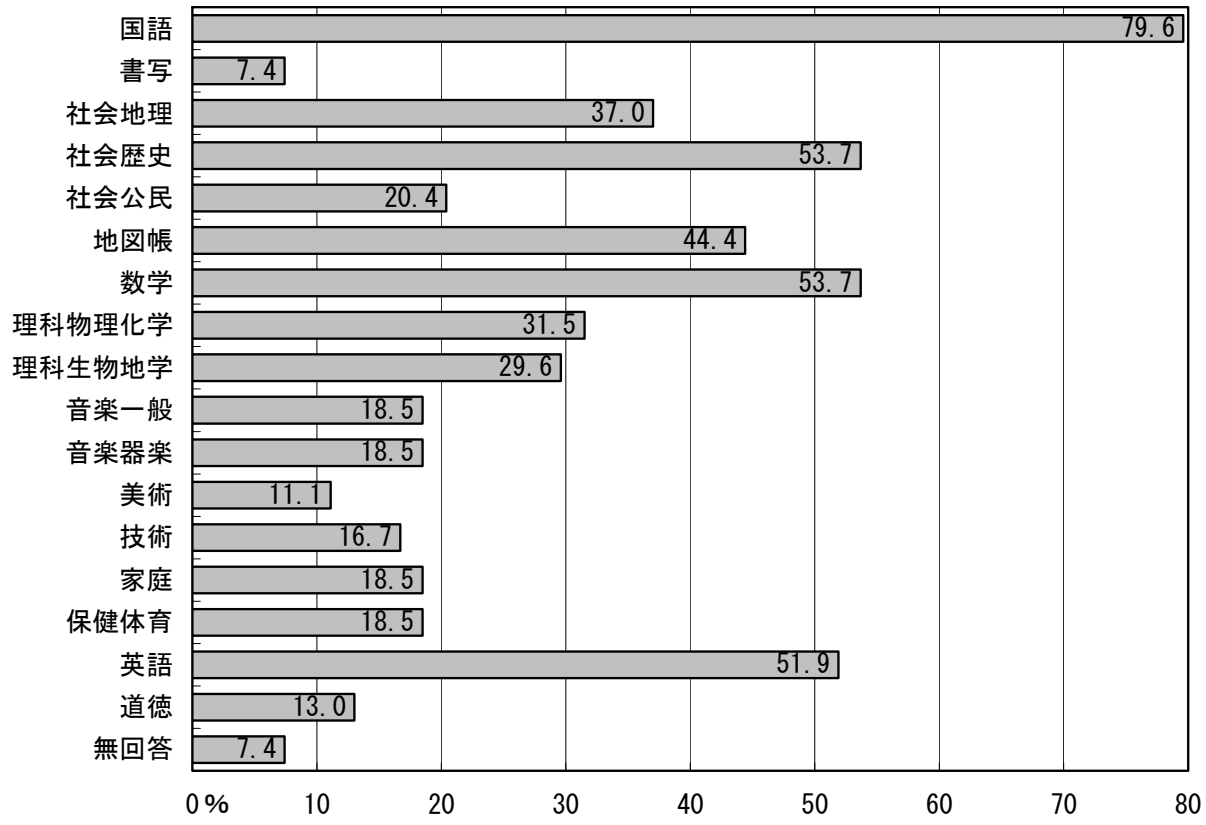


図３　国語の教科書をよく見ている保護者が活用している中学教科書

当然のことながら、子どもが使っている国語の教科書をよく見ている保護者は、自分の生涯学習のためにも国語の教科書を多く活用している。しかもその割合はほぼ８割を占めており、かなり高い数値となっている。更に私立高校入試科目として国語と同様に多く実施されている数学と英語が 50%を超える結果が示されているが、これもかなり高い割合と言える。また社会科の中の歴史的分野の教科書が数学と同様の高い結果が見られるが、これは国語に関心を抱く文科系に強い女性の傾向として考えられる。

その他､よく見ていると回答された教科を中心として同じように相関関係をみてみると、国語の場合と同様に中心となる教科等がやはり高い割合を示し、それ以外の教科の場合はほとんど似たような傾向となっている。ただ国語の教科書をよく見る保護者は、実技的教科及び領域の音楽一般、音楽器楽、美術、技術、保健体育、道徳について、多い割合の回答が寄せられており、興味深い。他の教科を中心としたグラフではほとんど同じような結果を示しているが、参考として数学の教科書をよく見ている保護者を中心とした、教科書の活用をしている割合を次に比較のために記載してみる。

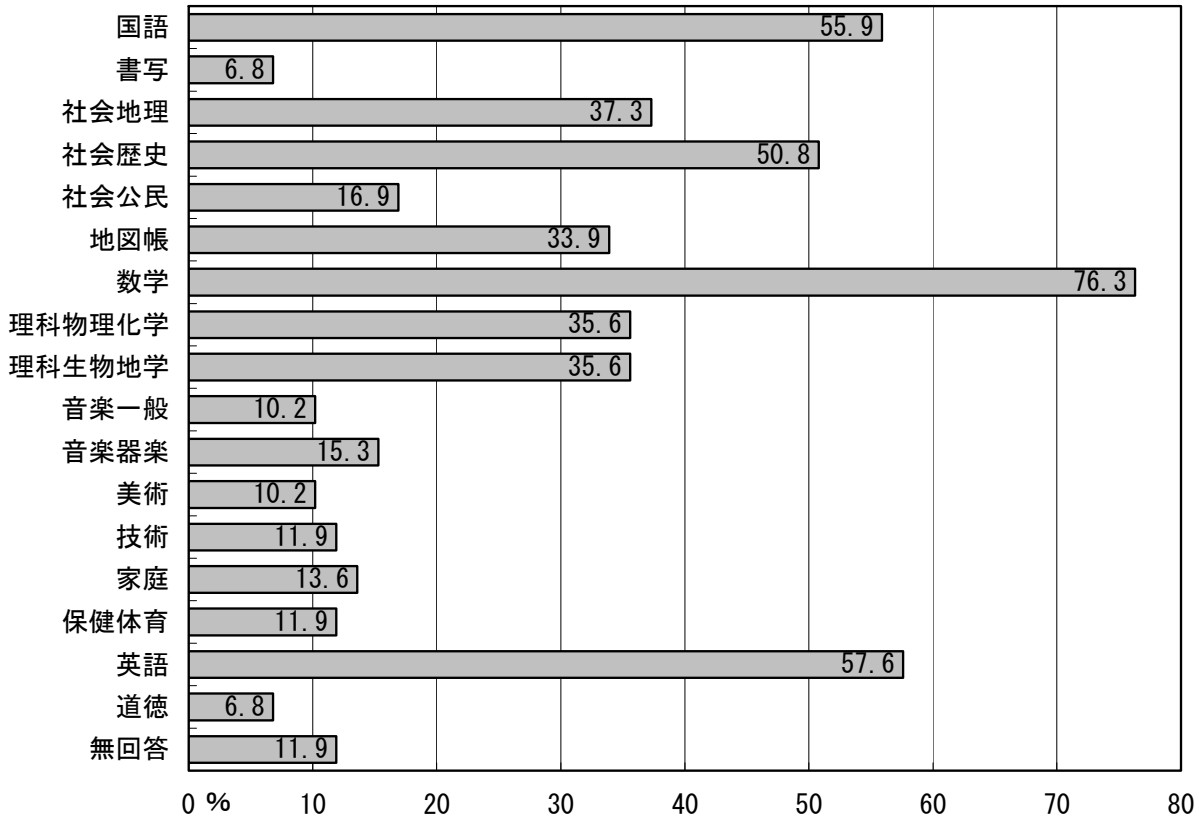


図４　数学教科書をよく見ている保護者が活用している中学教科書

ここではやはり数学の教科書が特に多く活用されているが、理科関係の教科書の活用も多い結果が示されている。理数科系といわれているが、それを裏付ける結果といえるかもしれない。なお、英語の教科書の活用度合いはほぼ同じであり、保護者の関心の強さを示す結果であろう。

（３） 学校以外での子どものようす（質問３）

「学校以外でのこどもさんのようすについておたずねします。あてはまる番号のすべてに○をつけてください。」という質問に対しての単純集計を再掲してみる。

表１　学校以外での子どものようす

N=1061（表中の数値は%）

自分一人で教科書を使って勉強している	55.1
自分一人で教科書以外の教材を使って勉強している	40.0
家族に教わりながら教科書を使って勉強している	22.4
家族に教わりながら教科書以外の教材を使って勉強している	13.8
家庭教師と教科書を使って勉強している	4.0
家庭教師と教科書以外の教材を使って勉強している	3.7
学校の勉強を補うために学習塾に通っている	37.0
受験のために学習塾に通っている	13.3
図書館によく行く	5.1
学校以外ではあまり勉強しない	23.8
おけいこ事に通っている	18.1
クラブやチームに入ってスポーツをしている	45.1

※複数選択

質問にも書かれている通り複数回答を求めたために､回答者数は全体の 1061 名をはるかに超えて、%の合計も 100 をかなり上回っている。

最近の教育に関する国際調査などの結果、日本の子どもたちの家庭における生活、特に学校外における学習時間が非常に低いという結果が報道されている。詰め込み教育という批判から昔の分厚い夏休み帳などは昔語りで、学校ではあまり宿題をださないことがごく一般的になってきたように思われる。そのような状況を反映してか､「学校以外ではあまり勉強しない」という回答が４分の１弱という回答があり、中学２年生としてはかなり疑問を感じる状況になっている。

また「教科書を使った学習か」と「教科書以外の教材をつかっているか」という質問に対する回答で､「一人で」「家族に教わる」「家庭教師と」の三つの場合では、いずれも教科書中心の学習をしている回答が多い。学校以外での学習は、やはり教科書が重要な役割を占めていることがわかる結果になっている。ただ質問の中にある「教科書以外の教材」が何を意味するものか、別項の自由記述でも内容がつかみにくい結果になっている。

非常に疑問を感じる結果として､「クラブやチームに入ってスポーツをしている」という質問に 50%に近い回答が寄せられていることである。これは諸施設や団体が集結している都会でもこれほどの加入者が存在しているとは考えられない高い割合である。質問には「学校以外で…」と条件が示されているのに、中学校のクラブ活動（部活動）と混同して回答しているとしか考えられない結果である。運動系のクラブ活動（部活動）の状態を考え合

わせると、かなり高い結果が出ることは当然だと思われる。

この結果を更に分析して、「教科書をじっくり見た」「教科書を少し見た」という、教科書や子どもの学習に対してある程度関心を抱いている保護者の子どもは、どのような学校外での生活を送っているのか、その相関を調べてみた。例として「国語の教科書をよく見た」「少し見た」保護者の子どもたちが送る学校外の様子を比較したものである。

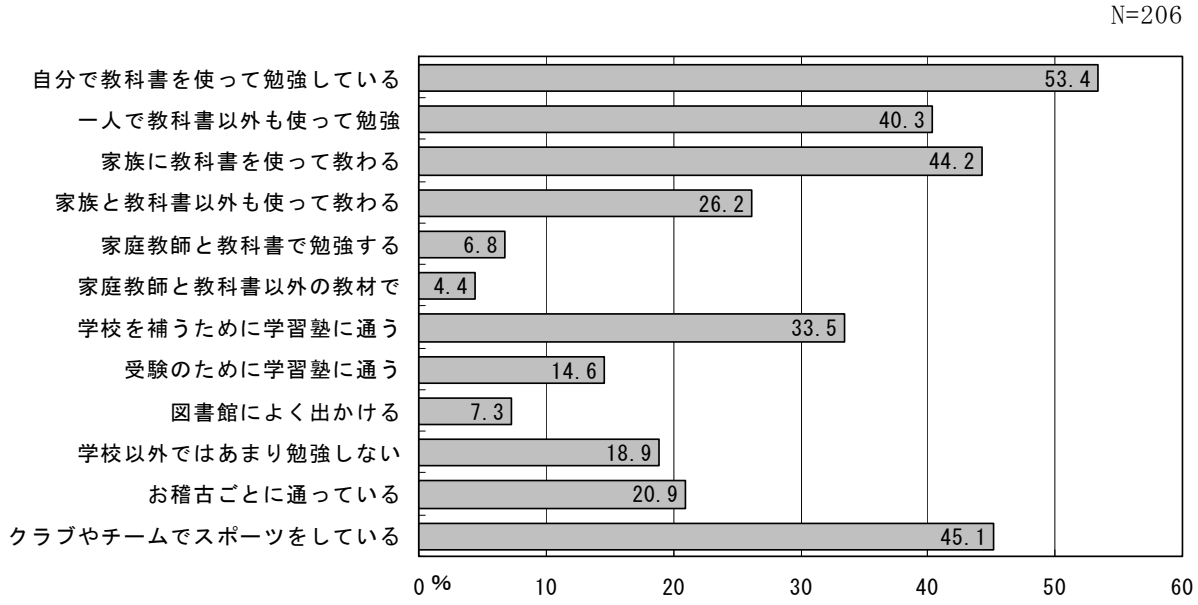


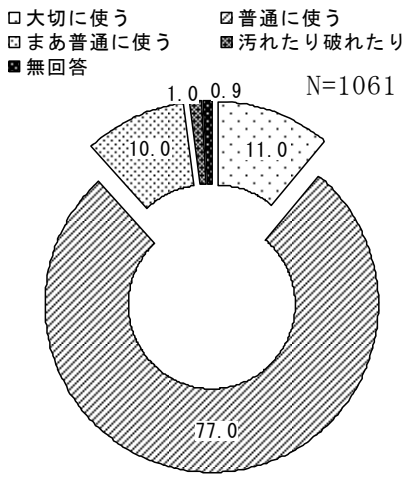
図５　教科書を見る家庭の中学生の勉強方法

この結果から読み取れることは、子どもの教育に関心をもっている家庭からの回答であるために、全体の結果よりも家族が教える場合が倍増しているということである。ある意味で当然と言える結果であるが、それにしても約２倍というのはかなり高い数値である。これに対して一人で勉強している子どもの割合は、ほとんど変化が見られない。逆に「学校以外ではあまり勉強しない」「学校の勉強を補うために学習塾に通っている」という子どもは減少している。この結果から推測すると、子どもの家庭での勉強は家族の姿勢が大きく影響しているものと思われる。その他「図書館によく行く」「おけいこ事に通っている」は微増だが、「自分一人で勉強している」の場合と運動系の活動に参加している場合（前述した通り部活動も含まれていると考えられる）は、ほとんど変化が見られないという結果になっている。この傾向は国語以外の教科書から見た相関関係でも、ほとんど変化が見られない。したがってこの相関関係を示すグラフと考察は、国語の教科書を見ている場合だけに止めることにしたい。小学生の場合と比較して、保護者の子どもの勉強に対する関わりは半分ほどに減少しているが、これは学習内容が難しくなってくることと共に、家庭教師や学習塾にその役割を委ねてくることが原因と思われる。しかし学校以外の子どもの生活については、特に学習に関して家庭の果たす役割がかなり大きいということがよく理解できる結果だと思われる。ただし今回の調査は、母親の回答が多いことに留意したい。

（４）子どもの教科書の扱い方（質問４）

義務教育における教科書は無償で配布されているが、このため子どもが教科書を大切にしない風潮がある､という批判を耳にすることがある｡はたしてこの傾向が見られるのか、子どもの教科書の取扱について、質問した。**「子どもさんの日頃の教科書の扱い方におたずねします。次のうちもっとも近いのはどれですか。１つ選んで○をつけてください。」**

１．他の本とは区別して、大切に使っている。
２．特別にたいせつにしているわけではないが、ふつうに使っている。
３．多少汚れたり、破れてしまったページがあったりはするが、まあまあたいせつに使っている
４．乱暴に使うので、汚れたり、破れてしまったページがあったり、綴じから外れたりしている。



という質問である。

その結果をグラフで示してみる。

ほぼ９割に近い中学生が｢大切に…｣｢ふつうに…｣使っているという結果である｡1.0％の中学生がいくらか破損するような使い方をしているが、小学生とあまり違わない結果は、いろいろ批判があるものの中学生は教科書をある程度健全に使用していると受け止められる結果であると思われる。これは教科書の堅牢性の問題とも関係してくるが、この点は次の「教科書の体様」の項に譲りたい。

図６　子どもの教科書の使い方

（５）子どもの自宅での勉強への対応（質問５）

子どもが自宅で勉強をする際の、家族の対応についての質問である。複数選択可の設問であるために、回答数は対象人数よりやや多めの数字となっている。グラフで示すと、

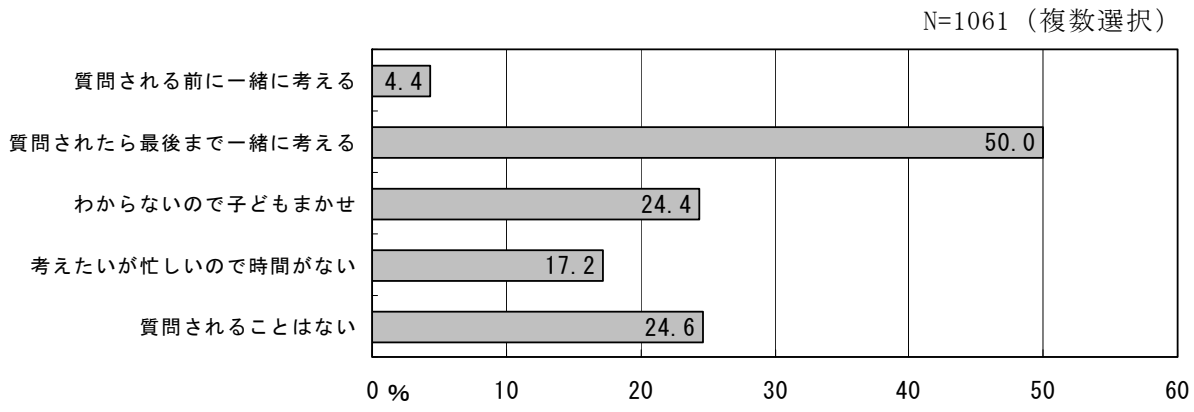


図７　中学生の自宅学習への保護者の対応

という結果になった。

中学２年ともなると、学習内容が難しくなっているためか、前項の小学生の場合と比較すると数値が大きく変わっている。「最後まで一緒に考える」という熱心な保護者は、かなり多いように見えるが、小学生の場合より 30%以上下がって半数にまでなっている。また約４分の１の子どもは勉強について関与がなかったり、「質問されることはない」ということで保護者は中学生にあてにされなくなっている、という結果である。ただし「時間がないから」という回答は、小学生の場合より下がってはいるものの、あまり変化していない。教科や単元による違いはあるのだろうが、約半数の中学生が保護者から家庭での学習を見放されているという状況は、最近の学力低下を心配する保護者の声が多い中で、いささか疑問に感じられる結果である。

「質問される前に一緒に考える」という回答は、小学生よりも更に減って 4.4%となっており、教科や単元にもよるのであろうが、中学生にとって過干渉と受け止められ始める時期なのであろうか。中学２年生の母親は、高校入試などの際にかなり学力に対して厳しく求められたという世代であるが、中学時代の学力が定着していない、生涯学習社会において知識や技能が生きて働いていない、という結果の反映であるように思われてならない。今後、更に考えていかなければならない課題だと思われる。

（６）教科書の内容（質問６）

各教科の教科書について保護者に意識を聞いた質問だが、この質問を単純集計しただけでは「考えたことがないのでわからない」という回答が圧倒的に多く、４分の１程度の割合で編集上の工夫が求められている程度しか理解できない。これを「教科書への関心」を調査した結果とクロスして集計すると、かなりの注目すべき点が見えてくる。特に編集上の工夫をして内容の変更を求める回答を中心に考察してみたい。ただし変更を求めている細かい内容の自由記述については、スペースの関係もあり、抜粋程度に止めたい。

保護者にとっての教科書に対する認識はまちまちであり、教育の専門職としての共通認識と言える「主たる教材の一つ」という考え方は徹底しているとは言い難い。昔と比較した内容の量が不足しているという回答や、参考書あるいは問題集的な役割を教科書に求めていることなどがうかがわれる記述が多い。数字的な結果を自由記述と並行させて、改めて検討した上で、教科書の意義について啓蒙を図っていくことが必要であるとも思われる。また調査実施当時の社会的な話題が、特に回答に反映されてくることが考えられる。例えばこの調査が実施された平成 19 年 9 月から 10 月にかけては、高校教科書の沖縄に関する歴史認識の問題等が、かなり回答に影響していることが感じられる。

自由記述の内容は、貸与制と給与制について意見が２分されている。貸与制については資源確保の意味から無駄を省くという視点が強く、教科書の中味からも全く開かれない部分があること、教科によっては貸与で十分であるという意見も多かった。内容的な意味からも、昔と比較してアニメや無駄な写真が目立っており、教科書として的確性に疑問があるという意見であった。更に通学時にあまりにも重い教科書は遠距離を通学する生徒の負担となるため、貸与制が身体的な負担を軽くする、という意見もあった。

一方給与制は高校入試の際や生涯学習の観点から、教科書は決して無駄になっていない

という考え方が中心である。最近の子どもの教科書を見ると、書き込みや重要事項に関する線の書き込みが多くあることから、昔の教科書の使い方との違いを感じ取っているようである。改めて教科書給与制度の有り難味を感じて、親子とも教科書の扱いを大切にしたいという意見もいくつか見られた。

いずれにしても学校で使用する教科書の意義と社会的な負担について、学校・家庭両方とも改めて考える大切な設問であったと思われる。詳細にわたって分析することは難しいが、「中間報告」の自由記述について、学校関係者を含めた多くの人々に目を通してもらいたいと思われる結果であった。統計資料として視点を戻すと、全教科の教科書について見ることが望ましいのだが、国語・社会・数学・理科・英語の５教科について、「教科書に関する保護者の関心」と共に「教科書に関する保護者の意識」とのクロス集計をしたグラフを、列挙してみたい。

N=1061

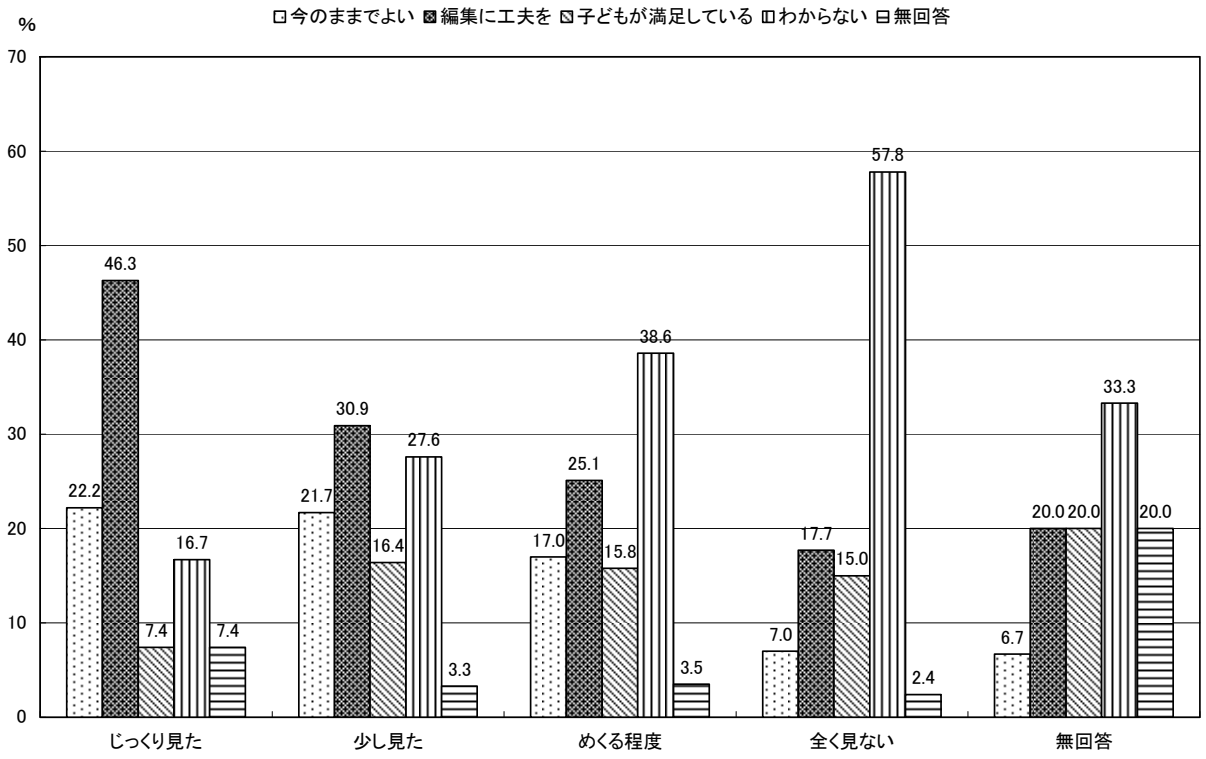


図８　中学生保護者の国語教科書に関する意識

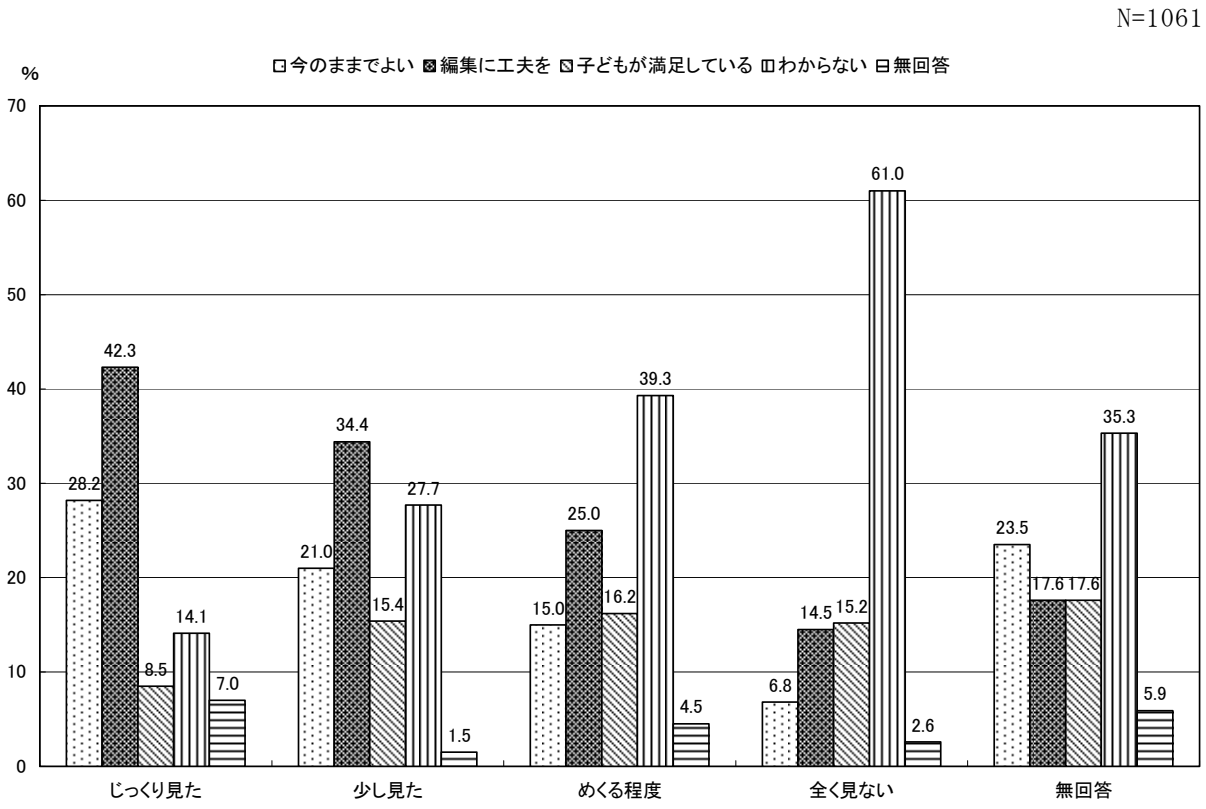


図９　中学生保護者の社会科教科書に関する意識

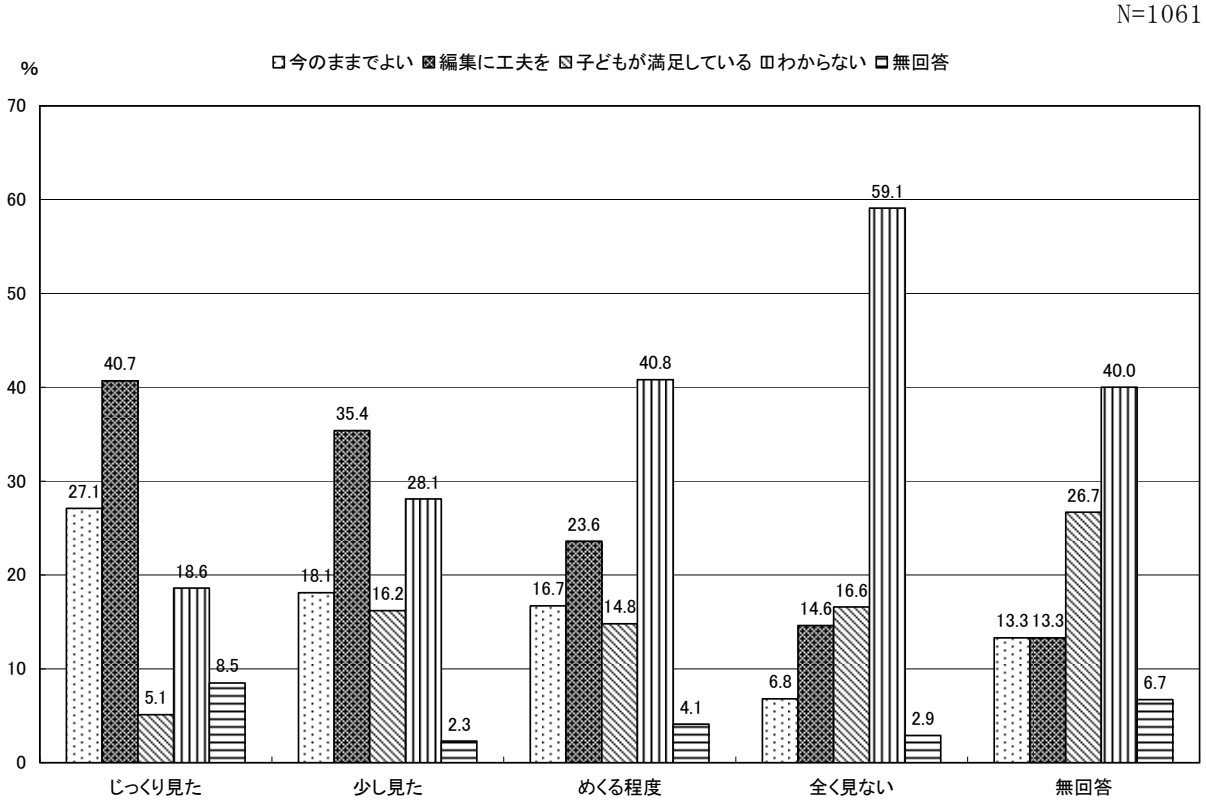


図 10　中学生保護者の数学教科書に関する意識

N=1061

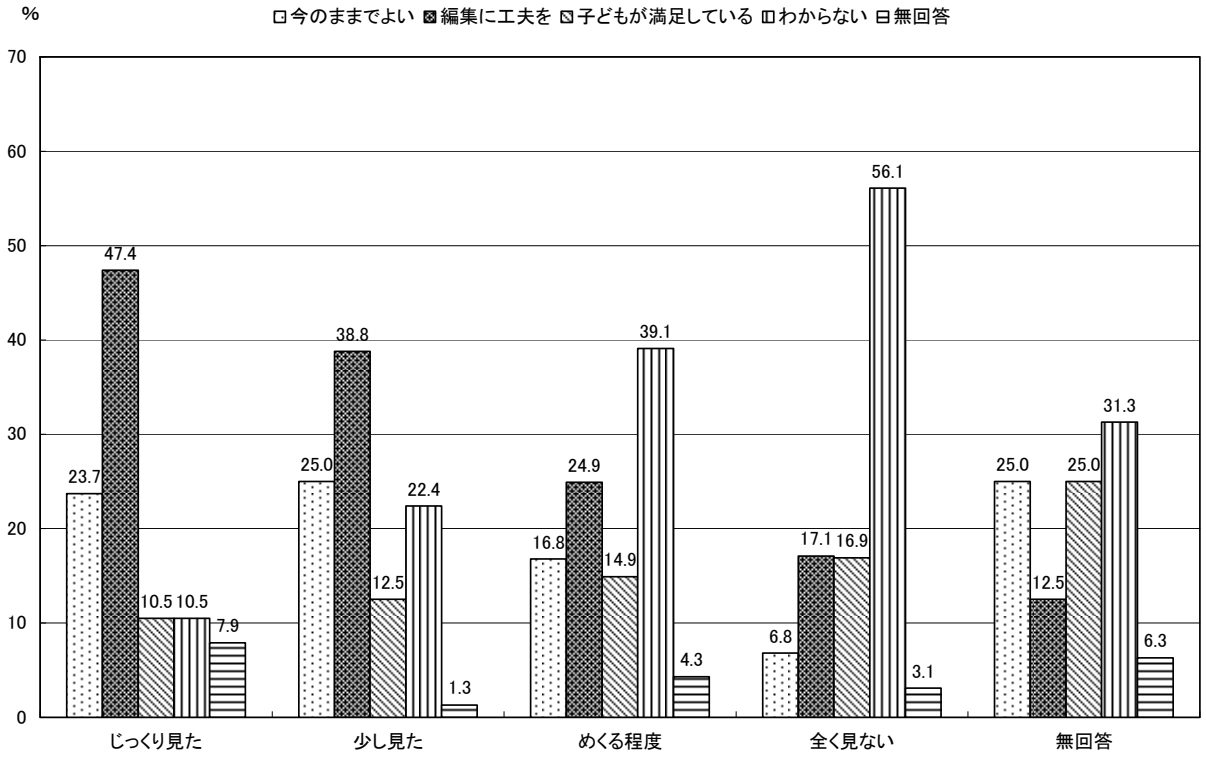


図 11　中学生保護者の理科教科書に関する意識

N=1061

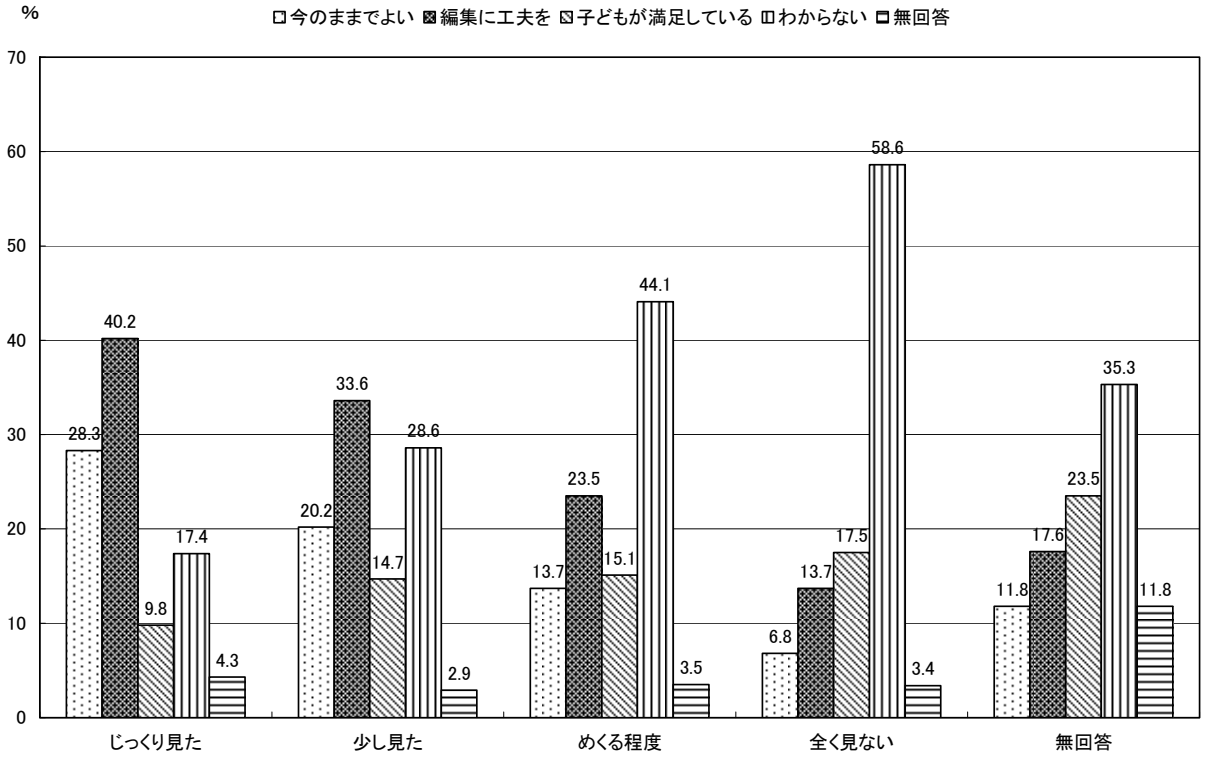


図 12　中学生保護者の英語教科書に関する意識

この５つのグラフを比較してみると、傾向の上ではあまり差が見られない。特に「編集上の工夫を…」という回答は、各教科とも「じっくり見た」の割合から順に少なくなっているし、反対に「わからない」と答えた人の割合が順番に増えてくる理由は容易に推測できる。また、「全く見ない」あるいは「無回答」の中にも、かなりの割合で編集上の工夫が求められていることは、社会全般の風潮の反映なのかもしれない。

教科別の特色をみると、理科の教科書は全部を合計して一番編集上の工夫を求めている割合が多い。ただしこの教科では「今のままでよい」という回答も一番高い割合を占めていることも興味深い結果である。対照的に注文が少ないのは数学、そして社会科であり、国語の場合は「じっくり見た」の回答には今のままでよいとする割合が一番少なく、高い割合で編集上の工夫が求められている。この結果から教科の特性を推察することはできないが、前述した通り、自由記述の結果と細かく照らし合わせてみると、何かの結論が出るのかもしれない。

教育の専門職である教員の教科書に関する要望は、教科別研究会の組織等を通じて今後も幅広く聞くことが可能であるが、保護者の意識や要望はほとんど入手する機会がない。今回の調査だけで細部までの推測をすることは難しいが、今後の教科書づくりに反映させていくために貴重な資料として大切にしたいものである。

（中　進士）

Ⅳ．教科書の体様

１．内容の構成やデザイン（教師：質問３、保護者：質問７）

（１）ページ数（教師：Ａ−１、保護者：Ａ）

表１－１　ページ数〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	国語	315	73.7	20.3	4.1	1.9
	社会	315	66.3	26.3	4.1	3.2
	算数	315	64.8	33.7	1.0	0.6
	理科	315	64.1	33.7	0.6	1.6
	小学校計	1260	67.2	28.5	2.5	1.8
中学校	国語	322	70.8	14.3	13.7	1.2
	地理的分野	321	57.9	35.8	5.3	0.9
	歴史的分野	321	51.4	42.4	5.6	0.6
	公民的分野	321	66.0	29.6	3.1	1.2
	数学	328	68.3	29.6	1.8	0.3
	理科	326	57.7	39.3	1.2	1.8
	英語	326	72.1	13.8	13.2	0.9
	中学校計	2265	63.5	29.2	6.3	1.0
小・中学校合計		3525	64.8	29.0	4.9	1.3

表１－２　教材の量やページ数〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	いまより増やしてほしい	減らしてほしい	無回答
小学校	1054	71.8	26.0	0.9	1.3
中学校	1061	74.7	18.3	4.9	2.1
合計	2115	73.3	22.1	2.9	1.7

ページ数については、教師、保護者ともに現状肯定率がもっとも高いが、「増やす」という回答率も 30%前後みられる。現状肯定率は、小学校教師の場合、国語 73.7%、社会 66.3%、算数 64.8%、理科 64.1%、平均 67.2%、中学校教師は、国語 70.8%、社会地理的分野 57.9%、社会歴史的分野 51.4%、社会公民的分野 66.0%、数学 68.3%、理科 57.7%、英語 72.1%であった。保護者には教科別に聞いていないが、現状肯定率は、小学校 71.8%、中学校 74.7%であった。

「増やす」の回答率は、小学校教師の場合、国語 20.3%、社会 26.3%、算数と理科ともに 33.7%、平均 28.5%、中学校教師は、国語 14.3%、地理的分野 35.8%、歴史的分野 42.4%、公民的分野 29.6%、数学 29.6%、理科 39.3%、英語 13.8%で、国語、英語という言語に関する教科について「増やす」の回答率が他の教科に比べて相対的に低かった。

国語や英語の熱心な力量のある教師は、もっと読み物教材をと望むが、一般の教師は、教科書をこなすことで精一杯ということであろうか。

この設問では、小中学校の教師の 60～70%は、現状を肯定しているが、各教科とも「増やす」と回答した比率の多いことに注目したい。特に小学校の算数・理科では 30%以上の教師が増加を要望しており、また、中学校の社会では 42.4%（歴史的分野）、35.8%（地理的分野）、理科では 39.3%が増加を求めている。

保護者の場合は、「増やしてほしい」とする回答率は、小学校 26.0%、中学校 18.3%であった。

「増やす」の回答率が最も高かった歴史的分野について、教師から次のような意見が出されている。

「歴史では、中世の部分に多くの省略が見られ、文章、資料ともに大変わかりづらいものになっている。教科書のページ数を増やし、わかりやすい流れにして頂きたい。用語の解説の数を増やして頂きたい。」

「歴史や公民の教科書は本文が簡潔すぎて、教師が説明をするための資料が必要になってくる。もっと具体的な事実をわかりやすくする文にしてほしい。」

（２）カラーページの割合（教師：Ａ-２、保護者：Ｃ）

表２－１　カラーページの割合〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	教科書は全ページ、カラーがよい	現行教科書ほどカラーページは必要ない	図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい	無回答
小学校	国語	315	34.3	6.0	57.5	2.2
	社会	315	50.8	4.8	42.9	1.6
	算数	315	39.0	7.3	53.0	0.6
	理科	315	60.6	2.5	35.2	1.6
	小学校計	1260	46.2	5.2	47.1	1.5
中学校	国語	322	19.6	11.5	68.0	0.9
	地理的分野	321	46.1	10.9	42.4	0.6
	歴史的分野	321	41.1	12.1	46.4	0.3
	公民的分野	321	39.6	11.2	48.0	1.2
	数学	328	24.7	11.9	62.8	0.6
	理科	326	31.9	12.3	54.6	1.2
	英語	326	51.5	11.3	36.2	0.9
	中学校計	2265	36.3	11.6	51.2	0.8
小・中学校合計		3525	39.9	9.3	49.8	1.1

表２－２　カラーページの割合〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	教科書は全ページ、カラーがよい	いまの教科書ほどカラーページは必要ない	教科書は､図､写真など必要な部分だけカラーであればよい	無回答
小学校	1054	25.8	19.0	52.8	2.5
中学校	1061	17.1	15.9	64.4	2.6
合計	2115	21.4	17.4	58.6	2.6

カラーページの割合についての意見は、「全ページ、カラーがよい」と「必要な部分だけカラーであればよい」で２分している。「全ページ」対「部分」の割合は教師の教科平均では、小学校 46.2%対 47.1%、中学校 36.3%対 51.2%であるが、教科による違いがみられる。教科の特色を十分考慮した対応が求められているといえよう。

国語、算数・数学は小・中学校共通して、「全ページ」より「部分」が上回っている。(「全ページ」対「部分」の割合の比較:小学校国語 34.3%対 57.5%、中学校国語 19.6%対 68.0%、算数 39.0%対 53.0%、数学 24.7%対 62.8%)

社会科は小学校では「全ページ」が「部分」を上回っているが（50.8%対 42.9%)、中学校では、地理的分野は「全ページ」がやや「部分」を上回っているのに対して（46.1%対 42.4%)、歴史的分野と公民的分野は逆に「全ページ」が「部分」を下回っている。(歴史：41.1%対 46.4%、公民：39.6%対 48.0%)

理科は、小学校では「全ページ」が「部分」を上回っているのに対して(60.6%対 35.2%)、中学校では「全ページ」が「部分」を下回っている。(31.9%対 54.6%)

英語では、「全ページ」が「部分」を上回っている。(51.5%対 36.2%)

保護者には教科別に質問していないが、全体として、小学校も中学校も「全ページ」が「部分」を大幅に下回っている。(小学校 25.8%対 52.8%、中学校 17.1%対 64.4%)

カラーが多いことに反対する自由記述が大変多かったが、次の意見はその一例である。

「カラーページや資料、図、写真などが増えたが、その分、本文を短くする必要性からか、必要な説明や流れが省かれているように思われ、逆に授業の中で補うために説明の時間が多く取られているように思われる。」(中学校社会科教師)

「昔の教科書と比べてみると文字も大きくカラーページも多く絵本の様に感じられます。“生徒の興味をさそう”という点では良いのかと思うのですが本来の教科書にいくらか戻るのも必要と思います。また１人で勉強する事が出来る様解法などをのせた参考書的な方が良いと思います。はっきり言って文字に限っては黒・赤・青インクで充分。」(中学校保護者)

（３）本文の分量（教師：Ａ−３、保護者：Ａ）

表３－１　本文の分量〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	国語	315	72.1	20.6	5.4	1.9
	社会	315	70.5	22.2	5.4	1.9
	算数	315	71.7	27.3	−	1.0
	理科	315	64.4	34.0	−	1.6
	小学校計	1260	69.7	26.0	2.7	1.6
中学校	国語	322	64.3	24.5	9.3	1.9
	地理的分野	321	52.0	41.7	5.3	0.9
	歴史的分野	321	45.2	46.7	7.5	0.6
	公民的分野	321	59.2	35.8	3.7	1.2
	数学	328	68.9	27.4	3.4	0.3
	理科	326	52.1	45.4	1.5	0.9
	英語	326	61.3	26.1	12.3	0.3
	中学校計	2265	57.6	35.4	6.1	0.9
小・中学校合計		3525	61.9	32.0	4.9	1.1

表３－２　教材の量やページ数〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	いまより増やしてほしい	減らしてほしい	無回答
小学校	1054	71.8	26.0	0.9	1.3
中学校	1061	74.7	18.3	4.9	2.1
合計	2115	73.3	22.1	2.9	1.7

教師だけに共通に質問した「本文の分量」については、全体としては現状肯定率が高くなっているが（小学校 69.7%、中学校 57.6%）、小学校と中学校を比較すると、「増やす」は中学校のほうが高いが（小学校 26.0%、中学校 35.4%）、教科間に違いがみられる。

小学校の場合は、国語、社会、算数は 20%台であるのに対して（それぞれ 20.6%、22.2%、27.3%）、理科は 34.0%であった。

理科については、次のような教師の意見があった。

「理科などでおさえておくべき基礎的、基本的な事項の表記があいまいに感じる。関連する内容ものせてもらわないと時間があまる。」

中学校の場合は、国語、数学、英語では「増やす」は 20%台であったが（それぞれ 24.5%、27.4%、26.1%）、他の教科等は 40%前後であった。（地理的分野 41.7%、歴史的分野 46.7%、公民的分野 35.8%、理科 45.4%）特に、歴史的分野は「現行程度でよい」より「増やす」の意見のほうが多い傾向がみられた。（45.2%対 46.7%）

教師の意見としては、「ページ数」のところで紹介した意見のほかに、次のような意見がある。

「歴史、地理ともに内容量をふやすべき。ただし欄外ではなく、本文の方で。」

「地理の内容が充実していない。網羅的ではない。基礎基本が教えにくい。何が大事かわからない。公民が資料が少ない。」

「現行の理科の教科書はいろいろな制限のもとに作られているので、読んでもつまらないし、わかりにくい。アメリカやヨーロッパの理科の教科書のようにカラーページもたくさん使いわかりやすく読んで興味が持てるような教科書にしてほしい。文一総合出版の新しい科学の教科書のような内容を現行の教科書も採用した方がよいと思う。

保護者に対する質問では、本文の分量ではなく、教材の量やページ数をきいているが、「いまの程度でよい」「いまより増やしてほしい」「減らしてほしい」のいずれかを選ばせる質問となっている。小中学校の保護者ともにおおむね現状肯定的である。「いまの程度でよい」は、小学校の保護者 71.8%、中学校の保護者 74.7%で、「いまより増やしてほしい」は、小学校の保護者 26.0%、中学校の保護者 18.3%となっている。「減らしてほしい」は、小学校の保護者 0.9%、中学校の保護者 4.9%。

世の中の流れが学力向上策となっているので、その流れも若干反映されていると考えるべきであろうか。

（４）発展的な学習内容の分量（Ａ－４）

表４　発展的な学習内容の分量〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	国語	315	63.8	21.6	12.4	2.2
	社会	315	58.7	32.1	7.0	2.2
	算数	315	51.7	37.8	9.8	0.6
	理科	315	52.4	40.6	5.4	1.6
	小学校計	1260	56.7	33.0	8.7	1.7
中学校	国語	322	68.0	12.1	18.6	1.2
	地理的分野	321	62.6	23.7	13.4	0.3
	歴史的分野	321	62.0	24.6	13.4	－
	公民的分野	321	63.2	23.7	12.5	0.6
	数学	328	58.5	35.7	5.5	0.3
	理科	326	52.5	38.0	9.2	0.3
	英語	326	66.6	19.9	12.9	0.6
	中学校計	2265	61.9	25.4	12.2	0.5
小・中学校合計		3525	60.0	28.1	10.9	0.9

教師だけに共通に質問した「発展的な学習内容の分量」についての意見は、小学校、中学校いずれも現状肯定率が 50%を超えているが（それぞれ 56.7%、61.9%）、教科間に違いがみられる。

小学校と中学校における教科別の「現状程度でよい」と「増やす」の意見の割合を比較すると次のようであった。

小学校：国語 63.8%対 21.6%、社会 58.7%対 32.1%、算数 51.7%対 37.8%、理科 52.4%対 40.6%

中学校：国語 68.0%対 12.1%、地理的分野 62.6%対 23.7%、歴史的分野 62.0%対 24.6%、公民的分野 63.2%対 23.7%、数学 58.5%対 35.7%、理科 52.5%対 38.0%、英語 66.6%対 19.9%

「増やす」の意見の割合が、小学校では国語、中学校では国語と英語という言語に関する教科の場合に比較的低くなっている。

「増やす」の意見の割合が高いのは、小学校では、理科 40.6%、算数 37.8%、中学校でも、理科 38.0%、数学 35.7%となっており、算数・数学と理科については、内容の程度を上げてほしいという現場教師の意見がかなりあることに注目したい。

（５）注、コラム、資料などの分量（Ａ－５）

表５　注、コラム、資料などの分量〈教師〉

（表中の数値は％）

		調査数（件）	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
小学校	国語	315	61.3	32.7	3.5	2.5
	社会	315	47.9	47.6	2.5	1.9
	算数	315	68.3	25.4	6.0	0.3
	理科	315	52.4	44.1	1.6	1.9
	小学校計	1260	57.5	37.5	3.4	1.7
中学校	国語	322	71.1	22.7	5.3	0.9
	地理的分野	321	64.2	26.8	8.7	0.3
	歴史的分野	321	64.8	25.5	9.7	－
	公民的分野	321	65.7	26.2	7.5	0.6
	数学	328	68.9	27.1	3.7	0.3
	理科	326	56.4	41.4	1.8	0.3
	英語	326	57.1	37.7	4.6	0.6
	中学校計	2265	64.0	29.7	5.9	0.4
小・中学校合計		3525	61.7	32.5	5.0	0.9

教師だけに共通に質問した「注、コラム、資料などの分量」についての意見は、小学校、中学校いずれも全体として現状肯定率が高く（それぞれ 57.5％、64.0％）、「増やす」は３割前後で（小学校 37.5％、中学校 29.7％）、「減らす」はわずかであった。（小学校 3.4％、中学校 5.9％）

教科別にみると、小学校では社会、理科、中学校では理科、英語の場合に、「増やす」の意見の割合が比較的高くなっている。（小学校：社会 47.6％、理科 44.1％、中学校：理科 41.4％、英語 37.7％）

「増やす」理由としては、次のような意見があった。

「ミニマムエッセンシャルは線で囲む、資料は活字をすこし小さくしても読みごたえのある量にしてほしい。あれだけ読む量が少ないとじっくり考える力が育たないように感じてきた。画一的に考える傾向を是正するためにも読みごたえのある“本”にしてほしいと思う。」（小学校教師）

「くわしい図版、絵、写真など、多くの資料があるほうがよい。教科書の他に、資料集なども買わせているのであるが、それがなくてもすむような教科書があればと期待している。」（中学校理科教師）

（６）さし絵、図、表、写真の大きさ（Ａ-６）

表６　さし絵、図、表、写真などの大きさ〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	国語	315	84.4	10.8	2.2	2.5
	社会	315	71.4	26.3	0.6	1.6
	算数	315	83.8	13.7	1.9	0.6
	理科	315	76.2	21.0	1.0	1.9
	小学校計	1260	79.0	17.9	1.4	1.7
中学校	国語	322	82.3	8.1	9.0	0.6
	地理的分野	321	82.3	8.1	9.0	0.6
	歴史的分野	321	76.3	15.0	8.4	0.3
	公民的分野	321	77.9	13.4	7.8	0.9
	数学	328	84.1	6.4	9.5	－
	理科	326	79.8	13.5	6.4	0.3
	英語	326	84.0	7.1	8.6	0.3
	中学校計	2265	80.0	11.5	8.1	0.4
小・中学校合計		3525	79.6	13.8	5.7	0.9

教師だけに共通に質問した「さし絵、図、表、写真などの大きさ」についての意見は、小学校、中学校いずれも現状肯定率が約８割であった。（小学校 79.0%、中学校 80.0%）「大きくする」と「小さくする」の意見の割合は、小学校 17.9%、1.4%、中学校 11.5%、8.1%であった。

教科別にみると、小学校の社会と理科において「大きくする」の意見の割合が比較的高かった。（26.3%、21.0%）

（７）文字の大きさ（Ａ−７）

表７　文字の大きさ〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	国語	315	93.3	3.2	1.6	1.9
	社会	315	94.0	2.9	1.6	1.6
	算数	315	95.6	2.2	1.3	1.0
	理科	315	95.6	1.6	1.3	1.6
	小学校計	1260	94.6	2.5	1.4	1.5
中学校	国語	322	93.2	2.2	3.7	0.9
	地理的分野	321	95.6	0.9	3.1	0.3
	歴史的分野	321	95.3	0.9	3.7	−
	公民的分野	321	94.7	0.9	3.7	0.6
	数学	328	96.6	0.6	2.7	−
	理科	326	93.9	1.2	4.3	0.6
	英語	326	95.4	2.8	1.8	−
	中学校計	2265	95.0	1.4	3.3	0.4
小・中学校合計		3525	94.8	1.8	2.6	0.8

文字の大きさは、「現行程度でよい」「大きくする」「小さくする」の３つのうち、１つを選ぶ設問である。

文字の大きさは、現状肯定率が高い。「現行程度でよい」は、

小学校教師　国語 93.3%、社会 94.0%、算数 95.6%、理科 95.6%

中学校教師　国語 93.2%、地理的分野 95.6%、歴史的分野 95.3%、公民的分野 94.7%、数学 96.6%、理科 93.9%、英語 95.4%

保護者に対する同様の質問はない。

（８）判型（教師：Ａ−８、保護者：Ｂ）

表８－１　判型〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
小学校	国語	315	85.4	11.4	1.3	1.9
	社会	315	81.9	15.2	1.3	1.6
	算数	315	85.1	12.7	1.3	1.0
	理科	315	82.2	15.6	0.3	1.9
	小学校計	1260	83.7	13.7	1.0	1.6
中学校	国語	322	69.6	5.0	24.8	0.6
	地理的分野	321	87.5	6.9	4.7	0.9
	歴史的分野	321	86.9	6.9	5.6	0.6
	公民的分野	321	86.9	6.9	5.0	1.2
	数学	328	80.8	5.8	13.4	−
	理科	326	89.9	6.1	3.4	0.6
	英語	326	94.8	3.7	1.5	−
	中学校計	2265	85.2	5.9	8.3	0.6
小・中学校合計		3525	84.7	8.7	5.7	0.9

表８－２　判型〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	いまより大きいほうがよい	いまより小さいほうがよい	無回答
小学校	1054	90.7	0.9	7.3	1.1
中学校	1061	84.3	1.4	12.5	1.8
合計	2115	87.5	1.1	9.9	1.5

判型については、教師、保護者ともに８割以上が「現行程度でよい」としている。（小学校教師教科平均 83.7%、中学校教師教科平均 85.2%、小学校保護者 90.7%、中学校保護者 84.3%）「大きくする」、「いまより小さいほうがよい」についての意見の割合は、全体として低い（「大きくする」：小学校教師教科平均 13.7%、中学校教師教科平均 5.9%、小学校保護者 0.9%、中学校保護者 1.4%、「いまより小さい方がよい」：小学校教師教科平均 1.0%、中学校教師教科平均 8.3%、小学校保護者 7.3%、中学校保護者 12.5%）が、中学校国語科教師の「小さくする」の意見の割合が 24.8%と特に高くなっている。これについては次のような意見が出されている。

「範読しながら机間巡視するために、もう少し小さくしてほしい。」

「前回の改訂から教科書のサイズが大きくなったが、大きくする必要がどこにあったの

かわからない。教科書の下の空欄が広くなっただけのように感じる。」

「机のサイズが大きくならないのに教科書が大きくなり、授業中の作業が困難になった。紙質も考え、もっと小形化軽量化を計ってほしい。」

中学校国語教科書の判型は、従来Ａ５（小さいサイズ）であったものが平成 18 年度から５社のうち１社を除いて４社がＢ５（大きいサイズ）となった。上記は、これに対する意見である。

（９）特定の教科だけの質問（教師のみ）

教科書の内容の構成やデザインについては、教師に特定の教科に限定して行なった質問がある。次にそれについて述べる。

小学校国語（Ａ−５、Ａ−６）

表９　注、コラム、資料などの分量

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
61.3	32.7	3.5	2.5

表 10　さし絵、図、表、写真などの大きさ

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	大きくする	小さくする	無回答
84.4	10.8	2.2	2.5

「注、コラム、資料などの分量」、「さし絵、図、表、写真などの大きさ」についてきいている。

①「注、コラム、資料などの分量」については、「現行程度でよい」61.3%、「増やす」32.7%、「減らす」3.5%

②「さし絵、図、表、写真などの大きさ」については、「現行程度でよい」84.4%、「大きくする」10.8%、「小さくする」2.2%

小学校社会（Ａ－９、Ａ-10）

表 11 観察､見学､調査､資料活用など調べ学習の数

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
62.2	28.9	7.0	1.9

表 12　さし絵、図、表、写真などの数

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
66.0	31.4	1.0	1.6

「観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数」､「さし絵、図、表、写真などの数」についてきいている。

①「観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数」については､「現行程度でよい」62.2%､「増やす」28.9%､「減らす」7.0%

②「さし絵、図、表、写真などの数」については､「現行程度でよい」66.0%､「増やす」31.4%､「減らす」1.0%

小学校算数（Ａ－９、Ａ-10）

表 13　定着のための練習問題の数

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
36.8	61.9	1.0	0.3

表 14　さし絵、キャラクターなどの数

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
76.5	7.0	16.2	0.3

「定着のための練習問題の数」「さし絵、キャラクターなどの数」についてきいている。

①「定着のための練習問題の数」は､「現行程度でよい」36.8%､「増やす」61.9%､「減らす」1.0%。定着のための練習問題の数は、今後ふやしてほしいというのが現場の声であると考えてよいと思う。

②「さし絵、キャラクターなどの数」については､「現行程度でよい」76.5%､「増やす」7.0%､「減らす」16.2%

小学校理科（Ａ－９）

表 15　さし絵、図、表、写真などの数

N=315（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
56.8	40.6	1.0	1.6

「さし絵、図、表、写真などの数」についてきいている。結果は､「現行程度でよい」56.8%､「増やす」40.6%､「減らす」1.0%。さし絵、図、表、写真などの数を増やしてほしいという意見が、40.6%あることに注目したい。

中学校社会（Ａ－９、Ａ-10）

表 16　観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数

N=321（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
地理的分野	51.4	10.0	38.3	0.3
歴史的分野	62.0	7.2	30.8	－
公民的分野	61.4	9.7	28.3	0.6

表 17　さし絵、図、表、写真などの数

N=321（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
地理的分野	70.4	22.4	6.9	0.3
歴史的分野	71.0	23.1	5.9	－
公民的分野	73.5	19.6	6.2	0.6

「観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数」、「さし絵、図、表、写真などの数」についてきいている。

①「観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数」については、「現行程度でよい」が、地理的分野 51.4%、歴史的分野 62.0%、公民的分野 61.4%。「増やす」が、地理的分野 10.0%、歴史的分野 7.2%、公民的分野 9.7%。「減らす」が、地理的分野 38.3%、歴史的分野 30.8%、公民的分野 28.3%。「減らしてほしい」という教師が、４割弱から３割弱いることは、教室での授業をもっと充実したいという教師がかなりいるということであろうか。

②「さし絵、図、表、写真などの数」については、「現行程度でよい」が地理的分野 70.4%、歴史的分野 71.0%、公民的分野 73.5%。「増やす」が、地理的分野 22.4%、歴史的分野 23.1%、公民的分野 19.6%。「減らす」が、地理的分野 6.9%、歴史的分野 5.9%、公民的分野 6.2%。

中学校数学（Ａ－９、Ａ-10）

表 18　定着のための練習問題の数

N=328（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
23.5	74.1	0.9	1.5

表 19　さし絵、キャラクターなどの数

N=328（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
72.0	1.5	25.0	1.5

小学校と同様に「定着のための練習問題の数」「さし絵、キャラクターなどの数」につ

いてきいている。

①「定着のための練習問題の数」は、「現行程度でよい」23.5%、「増やす」74.1%、「減らす」0.9%。中学校数学担当教員の約４分の３が、練習問題の数を増やしてほしいと望んでいることになる。

②「さし絵、キャラクターなどの数」については、「現行程度でよい」72.0%、「増やす」1.5%、「減らす」25.0%。

中学校理科（Ａ－９）

表 20　さし絵、図、表、写真などの数

N=326（表中の数値は%）

	現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
第一分野	75.5	17.8	5.8	0.9
第二分野	69.0	26.1	3.7	1.2

「さし絵、図、表、写真などの数」についてきいている。その結果は、「現行程度でよい」第一分野 75.5%、第二分野 69.0%、「増やす」第一分野 17.8%、第二分野 26.1%、「減らす」第一分野 5.8%、第二分野 3.7%。

中学校英語（Ａ－９）

表 21　練習問題、体験学習の数

N=326（表中の数値は%）

現行程度でよい	増やす	減らす	無回答
43.6	48.2	5.2	3.1

「練習問題、体験学習の数」についてきいた。結果は、「現行程度でよい」43.6%、「増やす」48.2%、「減らす」5.2%で、「増やす」の意見がいちばん多い。

２．堅牢性（教師：質問３-Ｂ、保護者：質問７-Ｄ）

表 22　表紙の厚さ〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	厚いハードカバーにする	薄くする	無回答
小学校		315	98.7	0.6	0.3	0.3
中学校	国語	322	98.1	－	0.9	0.9
	社会	321	97.5	0.6	1.9	－
	数学	328	97.0	0.6	1.2	1.2
	理科	326	98.2	1.5	0.3	－
	英語	326	97.5	1.2	0.6	0.6
	中学校計	1623	97.7	0.8	1.0	0.6
小・中学校計		1938	97.8	0.8	0.9	0.5

表 23　本文の用紙の厚さ〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	厚くする	薄くする	無回答
小学校		315	98.4	1.0	0.3	0.3
中学校	国語	322	94.7	1.6	2.8	0.9
	社会	321	93.8	0.6	5.6	－
	数学	328	96.6	0.6	1.5	1.2
	理科	326	95.7	1.2	3.1	－
	英語	326	96.6	2.1	0.6	0.6
	中学校計	1623	95.5	1.2	2.7	0.6
小・中学校計		1938	96.0	1.2	2.3	0.5

表 24　製本〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	現行程度でよい	頑丈にする	簡易にする	無回答
小学校		315	95.9	3.5	－	0.6
中学校	国語	322	95.0	3.4	0.6	0.9
	社会	321	95.3	4.0	0.6	－
	数学	328	97.0	1.8	－	1.2
	理科	326	97.2	2.5	－	0.3
	英語	326	96.0	2.5	0.9	0.6
	中学校計	1623	96.1	2.8	0.4	0.6
小・中学校計		1938	96.1	2.9	0.4	0.6

表 25　表紙の厚さ〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	表紙は厚いハードカバーがよい	表紙の紙はいまより薄くてよい	無回答
小学校	1054	94.0	2.8	2.2	0.9
中学校	1061	90.4	4.0	4.2	1.4
合計	2115	92.2	3.4	3.2	1.2

表 26　用紙の厚さ〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	いまより厚くて丈夫な用紙のほうがよい	多少弱くても薄い用紙のほうがよい	無回答
小学校	1054	95.4	1.3	2.1	1.1
中学校	1061	91.1	1.7	6.0	1.1
合計	2115	93.3	1.5	4.1	1.1

表 27　製本〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	いまより頑丈なほうがよい	いまより簡易な方法でよい	無回答
小学校	1054	93.1	5.4	0.8	0.8
中学校	1061	92.7	4.2	1.6	1.4
合計	2115	92.9	4.8	1.2	1.1

「表紙の厚さ」、「用紙の厚さ」、「製本」いずれについても、９割以上が「現状程度でよい」としている。

「現状程度でよい」の割合

①表紙の厚さ：教師 97.8%、保護者 92.2%

②用紙の厚さ：教師 96.0%、保護者 93.3%

③製本：教師 96.1%、保護者 92.9%

３．書き込み、貼り付け、切り取りなど

（教師：質問３-Ｃ、保護者：質問７-Ｅ）

表 28－１　書き込み、貼り付け、切り取りなど〈教師〉

（表中の数値は%）

		調査数（件）	書き込み、貼り付けなどは現行の教科書程度あればよい	書き込み、貼り付けなどは現行教科書より増やしたほうがよい	書き込み、貼り付けなどは現行教科書より減らしたほうがよい	書き込み、貼り付けなどは必要ない	無回答
小学校	国語	315	63.8	16.8	6.0	11.1	2.2
	社会	315	57.8	24.4	6.7	8.9	2.2
	算数	315	63.8	19.7	8.6	7.0	1.0
	理科	315	58.7	24.1	5.1	9.2	2.9
	小学校計	1260	61.0	21.3	6.6	9.0	2.1
中学校	国語	322	53.1	14.9	7.1	23.3	1.6
	地理的分野	321	48.0	16.5	12.1	21.8	1.6
	歴史的分野	321	51.4	12.8	11.2	23.4	1.2
	公民的分野	321	50.2	14.6	10.6	22.7	1.9
	数学	328	58.2	18.3	11.3	11.0	1.2
	理科	326	44.8	14.7	9.5	30.4	0.6
	英語	326	64.1	16.9	7.7	10.7	0.6
	中学校計	2265	52.8	15.5	9.9	20.4	1.2
小・中学校計		3525	55.8	17.6	8.7	16.4	1.5

表 28-２　書き込み、貼り付け、切り取りなどの分量〈保護者〉

（表中の数値は%）

	調査数（件）	いまの程度でよい	いまよりも増やしたほうがよい	いまよりも減らしたほうがよい	書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない	無回答
小学校	1054	74.1	12.0	4.1	8.0	1.9
中学校	1061	71.6	11.5	3.1	11.8	2.0
合計	2115	72.9	11.7	3.6	9.9	1.9

教師、保護者いずれも現状肯定率がもっとも高くなっており（小学校教師 61.0%、中学校教師 52.8%、小学校保護者 74.1%、中学校保護者 71.6%）、保護者については、小学校も中学校も「増やしたほうがよい」は 10%強（小学校 12.0%、中学校 11.5%）であり、「減らしたほうがよい」と「必要ない」はさらにわずかになっているが（小・中学校平均それぞれ 3.6%、9.9%）、教師の場合は、校種間、教科間に違いがみられる。

教師の教科平均現状肯定率は小学校 61.0%、中学校 52.8%と小学校のほうが高くなっている。また、小学校の場合には、「増やす」が「必要ない」を上回っているのに対して（小学校 21.3%対 9.0%）、中学校の場合には、逆に、「必要ない」が「増やす」を上回っている。（20.4%対 15.5%）「減らす」は、小学校 6.6%、中学校 9.9%と 10%未満である。

教科別にみると、小学校の場合は、国語と算数は「増やしたほうがよい」がそれぞれ 16.8%、19.7%と 20%を下回っているのに対して、社会と理科はそれぞれ 24.4%、24.1%と 20%を上回っている。

中学校の場合、全体では、「必要ない」が「増やしたほうがよい」を上回っているが、数学と英語は逆に「増やす」が「必要ない」を上回っている。（数学 18.3%対 11.0%、英語 16.9%対 10.7%）他の教科等は「必要ない」が「増やす」を上回っている。（国語 23.3%対 14.9%、地理的分野 21.8%対 16.5%、歴史的分野 23.4%対 12.8%、公民的分野 22.7%対 14.6%、理科 30.4%対 14.7%）

「書き込み、貼り付け、切り取りなど」についての具体的な意見としては、例えば、次のようなものが見られた。

「特に算数は教科書に記入するところが増え復習する時は、不便に思います。」（小学校保護者）

「ノートも必要だが教科書に記入できれば勉強もしやすいのでは。」（中学校保護者）

「書き込みのスペースが小さく、児童が書きにくい。児童は文字を大きく書くので」（小学校教師）

「読みとりで、教科書に線を引かせることが多い。もっと書きこめるスペースがあればと思う。」（中学校国語科教師）

「切り取って使う教材などは、教科書本体とは別にしてほしい。適宜、教員が配布する形の方が良い。」（中学校数学科教師）

「教科書にもっと文法の練習問題や、本文に関する内容確認ドリル等がありもっと書きこみをして普段から自学できる教科書が理想に感じる。」（中学校英語科教師）

（新井郁男・藤村和男）

Ⅴ．教科書制度

１．無償制

表１　教科書費の負担

（表中の数値は％）

		調査数（件）	教科書費は国が負担すべきである	教科書費は国または自治体が負担するのがよい	教科書費の一部を保護者が負担するのがよい	教科書費は全額を保護者が負担するのがよい	教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである	無回答
保護者	小学校	1054	74.3	18.4	4.8	0.4	0.9	1.2
	中学校	1061	71.7	20.5	4.9	0.5	1.2	1.2
	保護者計	2115	73.0	19.4	4.9	0.4	1.0	1.2
教師	小学校	315	77.1	11.7	6.3	1.9	2.2	0.6
	中・国語	322	75.5	9.9	8.4	2.5	2.8	0.9
	中・社会	321	73.8	12.1	8.7	3.1	0.9	1.2
	中・数学	328	72.9	14.6	8.2	1.5	1.8	0.9
	中・理科	326	75.2	11.3	6.7	3.4	3.4	－
	中・英語	326	72.1	16.6	5.2	1.5	4.6	－
	中学校計	1623	73.9	12.9	7.5	2.4	2.7	0.6
	教師合計	1938	74.4	12.7	7.3	2.3	2.6	0.6

小学校の教師の 88.8％が「国独自」または「国あるいは自治体」の負担がよいとしている（国 77.1％、国あるいは自治体 11.7％）。中学校の教師の場合、教科ごとに質問しているが、全教科で 86％以上が国・自治体等による公的負担にすべきと回答している（国 73.9％、国あるいは自治体 12.9％）。保護者についても同様の回答傾向がみられるが、教師の場合より、「国あるいは自治体」が負担すべきとする比率がやや高くなっている（小学校保護者 92.7％、中学校保護者 92.2％）。全部あるいは一部負担を肯定する保護者は小学校 6.1％、中学校 6.6％である。

国による教科書の無償制（小・中学校）は、国民の間に広く支持され定着しているとみることができよう。

なお、平成 19 年度用の児童生徒ひとりあたりの１年分の平均教科書費は、小学校 3,091 円、中学校 4,477 円である。（文部科学省『教科書制度の概要』（平成 19 年 4 月発行）による。）

個人負担の肯定率は高くはないが、次のような保護者（小学校）の意見があった。

「国に支払ってもらっていて、生意気だが、もっと高価になってよいから内容を充実させたものにしてほしい。支払い金額が不足であるなら、個人負担があってもいいと思う。生徒の学力に差があり、難しいところではあるが、質、量共にプラスαがほしい。」

２．給与制

表２　給与制・貸与制

（表中の数値は%）

		調査数（件）	いまのままの給与制がよい	どちらかというと給与制のほうがよい	どちらかというと貸与制のほうがよい	貸与制がよい	教科によっては貸与制も考えられる	無回答
保護者	小学校	1054	42.5	10.6	5.3	2.8	37.7	1.0
	中学校	1061	40.7	12.3	5.6	3.5	36.9	0.9
	保護者計	2115	41.6	11.5	5.4	3.2	37.3	1.0
教師	小学校	315	52.7	12.4	7.3	3.8	23.2	0.6
	中・国語	322	58.4	8.7	2.8	3.1	26.4	0.6
	中・社会	321	59.8	13.7	3.4	2.2	19.6	1.2
	中・数学	328	59.8	11.3	3.7	2.4	21.3	1.5
	中・理科	326	57.1	12.6	6.4	4.6	19.3	-
	中・英語	326	54.9	14.1	6.1	1.5	23.3	-
	中学校計	1623	58.0	12.1	4.5	2.8	22.0	0.7
	教師合計	1938	57.1	12.1	5.0	2.9	22.2	0.7

無償制と関連して給与制について質問したところ、その肯定率は「いまのままの給与制がよい」と「どちらかというと給与制のほうがよい」を合わせると、教師、保護者ともにもっとも高かったが、教師の肯定率が小学校 65.1%、中学校が 70.1%であったのに対して、保護者のそれは小学校 53.1%、中学校 53.0%と教師より低かった。一方、「教科によっては貸与制も考えられる」の肯定率は、教師より保護者の方が高かった。(保護者平均 37.3%、教師平均 22.2%) 教師の場合は教科によって貸与制の肯定率が異なり、中学校の国語が 26.4%と最も高く、中学校理科が 19.3%で最も低かった。

貸与制度が良いとする理由としては、「ほとんど使う事なく終わる教科もありもったいなく思っていた。」と「もったいなさ」を強調する保護者の意見が多く見られた。「毎日持っていく教科書の重さはすごく子供たちにとって負担だと思います。教科書によって貸与制をするべきだと思います。」という意見もあった。一方、教師の場合には、「教室に保管して何年も使う貸与制にすればさらにコストが下がると思う。」という経費削減を理由とする意見や、「無償で給与されているせいか、ぞんざいに取扱っている生徒がしばしば見られます。自分で買う、または公のものを借りているのなら、もっと大切に扱われるのかと思います。」という意見もあった。

３．定価

（１）教科書の定価（Ａ）

表３　定価についての考えに近いもの

（表中の数値は%）

		調査数（件）	教科書の価格は妥当である	教科書の価格は一般の書籍に比べて高い	教科書の価格は一般の書籍に比べて安い	無回答
保護者	小学校	1054	68.4	2.3	27.2	2.1
	中学校	1061	64.8	4.4	27.6	3.2
	保護者計	2115	66.6	3.4	27.4	2.6
教師	小学校	315	57.5	3.8	38.1	0.6
	中・国語	322	61.5	5.6	31.7	1.2
	中・社会	321	61.4	4.7	32.1	1.9
	中・数学	328	72.3	3.7	22.9	1.2
	中・理科	326	69.6	5.2	24.8	0.3
	中・英語	326	70.2	2.5	27.3	－
	中学校計	1623	67.0	4.3	27.7	0.9
	教師合計	1938	65.5	4.2	29.4	0.9

無償制のもとで付けられている現在の教科書の定価については、教師、保護者ともに、「一般の書籍に比べて高い」とする者も数パーセントいるが、７割近くは「妥当である」としている。「一般の書籍に比べて安い」と答えた者は、保護者平均 27.4%、教師平均 29.4%であった。

現行の定価を妥当とする者が多いが、次のような保護者の意見があった。

「カラーページが多すぎると思います。まるで絵本のようです。もっとシンプルでもいいと思います。自治体によってあつかっている教科書が違いますが、全国統一して大量生産してもっと値段を下げればいいのでは？と思います。」

なお、教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められている。平成 19 年度用の小・中学校の教科書１冊当たり（上下巻のある場合は、各巻あたり、複数学年で使用する教科書は１冊当たり）の平均定価は、小学校 337 円、中学校 484 円である。

（２）よりよい教科書作りのための、あるべき価格（Ｂ）

表４　よりよい教科書作りのための、あるべき価格

（表中の数値は％）

		調査数（件）	現行程度の教科書が保証されるなら定価は国が定めてよい	よい教科書が作られるなら定価はもっと高くてもよい	さまざまな改善や工夫をして定価をもっと安くしたほうがよい	よりよくするために価格は出版社が自由に定めるほうがよい	無回答
保護者	小学校	1054	54.5	18.4	13.6	10.0	3.6
	中学校	1061	52.0	14.2	18.4	10.1	5.3
	保護者計	2115	53.2	16.3	16.0	10.0	4.4
教師	小学校	315	61.0	17.8	12.1	8.3	1.0
	中・国語	322	55.3	16.8	12.7	11.2	4.0
	中・社会	321	47.4	21.2	13.7	15.0	2.8
	中・数学	328	53.7	17.7	14.3	11.9	2.4
	中・理科	326	55.5	19.9	11.3	11.7	1.5
	中・英語	326	53.7	17.2	14.4	12.0	2.8
	中学校計	1623	53.1	18.5	13.3	12.3	2.7
	教師合計	1938	54.4	18.4	13.1	11.7	2.4

「現行程度の教科書が保証されるなら定価は国が定めてよい」という意見の割合が、保護者、教師ともに 50％を上回り最も多かった。（保護者 53.2％、教師 54.4％）「よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい」を肯定する者は、保護者 16.3％、教師 18.4％であり、逆に、「さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい」とする者は、保護者 16.0％、教師 13.1％であった。また、「よりよくするために、価格は出版社が自由に定める方がよい」とする者は、保護者 10.0％、教師 11.7％であった。

よい教科書が作られるなら定価はもっと高くてもよいという意見は保護者、教師とも２割に満たないが、高くてもよいとする理由として、保護者や教師から次のような意見があった。

「小学校などはあまりみかえすことがないのでリサイクルできるといいですね。一学年ごと又は６年でいらない本を下の子にゆずったり学校にかえしたりして使う。そのかわり本の内容をあまりかえず値段は少し高くてもいい内容で作って使わなくてキレイナ本はリサイクル。」（中学校保護者）

「資料集を一冊購入して使用しているので教科書にこの内容も含まれれば便利である。費用が上がっても良いのでは。」（中学校理科教師）

一方、教師からは、「私は自分用の教科書をいつも購入しているので、安めがありがたいと思っています。」（中学校英語科）という意見もあった。

（３）妥当な定価（Ｃ）

表５－１　妥当な定価

（表中の数値は円）

		調査数（件）	平均	最小値	最大値
保護者	小学校	933	432.8	100.0	4000.0
	中学校	931	563.8	0.0	3000.0
教師	小学校	306	437.3	100.0	1200.0
	中・国語	302	658.3	300.0	3000.0
	中・社会	306	668.6	100.0	3000.0
	中・数学	320	583.8	300.0	2500.0
	中・理科	320	609.4	100.0	5000.0
	中・英語	305	527.5	0.0	2000.0

表５－２　妥当な定価（クラス分け）

（表中の数値は%）

		調査数（件）	500円未満	500円～1000円未満	1000円～1500円未満	1500円以上	無回答
保護者	小学校	1054	53.4	33.4	1.3	0.4	11.5
	中学校	1061	17.9	63.9	4.9	1.0	12.3
	保護者計	2115	35.6	48.7	3.1	0.7	11.9
教師	小学校	315	56.5	37.1	3.5	－	2.9
	中・国語	322	10.9	70.8	9.0	3.1	6.2
	中・社会	321	13.1	65.1	14.3	2.8	4.7
	中・数学	328	16.2	73.8	5.8	1.8	2.4
	中・理科	326	17.2	70.6	8.6	1.8	1.8
	中・英語	326	29.8	59.8	2.8	1.2	6.4
	中学校計	1623	17.4	68.0	8.1	2.2	4.3
	教師合計	1938	23.8	63.0	7.3	1.8	4.1

「あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在の教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。」という質問に対しては、最高5,000円（中学校理科）という意見もあったが、小学校では、500円未満という回答率が高く（保護者53.4%、教師56.5%）、中学校では500円～1000円未満とする回答率が高かった。（保護者63.9%、教師平均68.0%）中学校教師の場合、教科による違いはあまりないが、英語以外は500円未満が10%台であるのに対して、英語については500円未満が29.8%で最も高く、逆に500円～1000円未満は59.8%と５教科中最低であった。（500円～1000円未満、国語70.8%、社会65.1%、数学73.8%、理科70.6%、英語59.8%）

（新井郁男・藤村和男）

第３章　まとめ

Ⅰ．各教科の調査結果から

１．国語

（１）文学教材の内容充実に向けて

国語科の読みの学習が文学教材の「詳細な読解」に偏しているという批判を受けて、現行学習指導要領で「説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱う」と明記されたことから、国語科教科書における文学的文章は削減の傾向を見たわけであるけれども、教師も保護者も教科書に対しては文学的文章の充実を求めていることが今回の調査から判明した。もちろんこの傾向は「詳細な読解」への支持と一体ではない。あくまでも「読み物」としての文学的文章の拡充を期待するものといえる。量的な面では「読書離れ」が深刻ななかで自宅での読書量の不足も補えるような教科書を期待してのことであろうし、内容の面からは、「子どもたちの内面に迫る」「子どもたちの心のケア」にもつながる良質の読書材を豊富に与えたいという大人世代からの期待によるものであろう。こうした期待を鑑みたとき、文学的文章の持つ機能は、「読書離れ」「活字離れ」といわれる現代社会でも教育の場において明確に存在しているといえるし、教科書はその付託に対応できるような内容の拡充を図っていくべき社会的責務を持っていることを自覚して編集されていく必要があるといえよう。

文学的文章の採録においては、いわゆる定番教材の問題がしばしば取りざたされる。教材の固定化は、時代の趨勢を見極めないままに安易に教科書編集が行われているのではないかという編集者たちへの批判となってしばしば表面化してきた。しかし、今回の調査を分析した結果、定番教材への批判はむしろ少なく、名作をじっくりと世代を超えて読むべきであるという意見が強かった。定番教材が否定的に捉えられているのではなく、親の世代が読んだ作品を子どもたち世代も読むことへの共感さえ見られたことは注目すべきであろう。「不易流行」の言葉のごとく、固定化した教材ばかりであったり、逆に新味を追った教材ばかりであったりするのでなく、定番教材と時代の趨勢を見極めた新教材のバランスある教科書作りが求められているのである。一律に軽量化にのみ走ることなく豊富な内容のある、いわゆる「中身」のある国語科教科書が求められているわけである。

（２）言語活動の明確化に向けて

日常生活でさりげなく行っている言語活動を国語科のなかで位置づけたときに、はたしてどのような指導が可能であり、教科書としてはどこまで何が導かれているべきなのか、

その点に教師の関心が高いことが判明した。たとえば、だれもが日常的に話したり聞いたりしているわけだが、それを「話す・聞く」活動として国語科で取り上げるとき「何を」「どのように」指導したらよいのかということについて、教科書教材に期待する部分が大きいのである。読解中心の授業に陥ってしまう原因は、むしろ「読むこと」以外の言語活動では何を教えていいか分からないという点にあるようである。

そうした問題点を打開するためには、現在にもまして身近な言語活動に関するトピックを豊富に組み入れた国語科教科書が必要であろう。と同時に、その言語活動の中で「何を」国語の力として身につけさせるのかが明確であることも求められている。児童・生徒の身近に起こりうる言語活動を自然な「場」を想定してトピック化してとともに、その言語活動の中で彼らの言語運用能力の拡充が確実に図れるような教材化が教科書編集に求められている。

（３）古典教育の確立に向けて

新学習指導要領で加わった、小学校からの古典指導を受けて教科書はどのように対応していくべきは、国語科教科書にとっての喫緊の大きな課題の一つである。小学校では遊びを通した親しみやすい内容への要望が高く、予定される暗唱・暗記中心の教材では満足されない可能性を示唆している。一方中学校では、従来通りの内容でよしとする傾向があり、小中学校での系統化を視野に入れた教科書作りが望まれることになるであろう。

（４）基礎・基本の定着に向けて

新学習指導要領では学力低下の問題を受けて、基礎・基本の充実定着がさらに求められている。そうしたなか、国語科における基礎・基本の重要な部分が漢字指導と文法指導であることから、今回の調査でも教科書における漢字指導や文法指導の系統化が望まれている。小中学校ともに、漢字学習の系統化を重視する意見が多いものの、反面、漢字学習単元として特化された教材には抵抗感が強いようである。少しずつ確実に漢字を獲得していける配慮が求められている。国語科は英語科などと異なり原典主義であるために、そうした語彙の系統化はなかなか難しいけれども、そうした制約のなかでも最大限の工夫がなおいっそう求められている。中学校における文法指導に関しては、漢字とは異なり系統化を重視するべきであるとする意見が強く、ある程度のまとまりを系統化して取り扱っていく必要性があるといえよう。

（５）内容と装丁の適切なバランスに向けて

全体の意見をまとめると、内容は充実させつつも、装丁は軽量化して児童・生徒が持ち運びする際の負担を軽減させてほしいとする教師・保護者の意見が強かった。また、国語科ならではの特色であろうが、カラー刷りなどの傾向には抵抗がまだ強く残っており、あくまでも「読本」として活字による内容を「読む」教科書であってほしいというのが、今回の調査結果から判明した社会的要請であると判断できる。もちろん低学年ではカラー刷りによる視覚的親しみやすさが教科学習への抵抗をなくす効果があることは否定できないが、一律のカラー刷りではなく、学年進行によってそうした対応が柔軟になされていってしかるべきであろう。

教科書の定価が高額になるのは問題があるが、定価を低廉に抑えることで教科書が内容的にも装丁的にも薄くなり、その結果さまざまな副教材の購入を行わざるを得なくなることで、かえって児童・生徒たちが持ち運びする際の身体的負担が増したり、そうした本を多数持つことで教科書本体の軽視が見られたりするのも事実である。また教科書にも資源リサイクルの観点を加味しつつ、充実した内容にして、それに見合った厚さと価格による提供が求められているといえよう。

（石塚 修・金子 哲）

２．社会

現行の社会科並びに社会科教科書では、「ゆとり」の中で自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」の育成を基本とするとの平成 10 年版学習指導要領の趣旨を受けて、基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的・体験的な学習、問題解決的な学習などに対応できることが重視されてきた。

具体的に述べるならば、社会科教科書では、観察、見学、調査などの「調べ学習」の場面を意識的に盛り込んだり、写真・図版の読み取りを促す工夫をしたり、児童・生徒に考えさせるための「投げかけ」を載せたりするようになった。また、紙面をカラフルにし、写真・図版を大きく提示し、キャラクターなども多用するようになった。そして、その一方で、内容厳選の趣旨に対応し、ページ数や本文の量を削減する方向に進んでいった。

だが、今回の意識調査では、全体的には現状を支持・肯定する傾向があり、こうした編集のねらいはおおむね理解されているとはいえ、教科書づくりの方向性については再検討の時期に来ていることも明らかとなった。

以下、平成 4 年調査（前記）との比較を含めて、社会科教科書に関して肯定されている点を述べたのち、社会科教科書改善に向けての提言へとつながる課題について提起する。

（１）社会科教科書に関して肯定されていること

・「生きる力」を培う要件ともいえる社会科教科書の現状に関する５項目については、平成 4 年調査で不十分とされてきた「学習を発展させるための手だて」や「他教科との関連づけ」に関しても改善が見られた。「個人差に応じた指導」を除いて、教師の評価は高い。

・社会科学習の評価観点と対応する社会科教科書の役割に関する 4 項目については、平成 4 年調査で平均評価点を下回っていた中学校の「児童・生徒の興味・関心、学習意欲の促し」に大きな改善が見られた。社会科の観点別評価にかかわるすべての項目に対して、小学校、中学校とも、社会科教科書が役立つとされた。

・今回の調査結果では、社会科教科書に関して、「学習の動機付け」の場面よりも、「学習課題・問題の追求」の場面の充実を期待する傾向があった。このことは、教師が「自ら考える力を育成する」という学習指導要領の趣旨を理解していることを示している。

（２）社会科教科書の課題

①知識・理解への対応

「新しい学力観」により、「知識・理解」ではなく、「興味・関心・意欲」の評価を重視することが求められるようになった。しかしながら、社会科教科書の役割への期待についての選択率を見る限り、小・中学校ともに、そして特に中学校にあっては、教師側の意識は「知識・理解」重視にある。「学び方」を強調するばかりではなく、子どもにとってわかりやすい教科書づくりが求められている。

②中学校教師の苦悩への配慮

社会科教科書の望ましいあり方の調査では、平成 4 年調査の結果とは逆に、中学校では「学習を発展させるための手だて」や「個人差に応じた指導」の選択率が小学校に比して高いという傾向が見られた。学習内容の厳選という事態を受けて、中学校教師が苦慮している様子がうかがえた。問題解決的な社会科学習に熟達していない教師に対する配慮が中

学校社会科教科書には必要である。

③基礎的・基本的な知識・技能の習得と教科書の体裁

平成 4 年調査では、小・中学校とも、社会科教科書を「教えるための教材（教師が指導するための教材）」でなく、「自ら学習するための学習材（児童生徒が使用する学習材）」として捉える傾向があった。しかしながら今回の調査では、中学校において、「教えるための教材」として捉える傾向が顕著であった。こうした変容の理由として考えられるのは、平成 10 年版の学習指導要領で「生きる力」が標榜され、中学校の社会科教科書において学び方を重視する傾向が見られるようになったことへのある種の反発である。そこには、「もっと教えたい」との中学校教師の本音が隠されているように思われる。

教科書の体裁における量（数）に対する回答傾向からも、そうしたことはうかがわれた。「ページ数」や「本文の分量」に対して、「増やす」の選択率は、小学校で低く、中学校で高いという傾向があり、「注、コラム、資料などの分量」や「さし絵、図、表、写真などの数」などに対しては、それとは逆の傾向が見られた。また、「観察、見学、調査、資料活用など調べ学習の数」や「書き込み、貼り付け、切り取りなどについて」の「増やす」の選択率も、中学校になると低くなる。現行の社会科教科書に対して中学校教師は、補助教材・資料よりも本文そのものの充実、「学び方」よりも「内容」そのものの習得を求めていると結論づけることができる。

こうしたことからするならば、問題解決的な学習への配慮が内容の削減につながっているという現実を踏まえ、少なくとも中学校社会科教科書では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とその活用を図るための工夫が必要であるといえよう。

④分野の特性を生かした教科書づくり

今回の調査では、中学校社会科教科書については、分野（それぞれ、地理、歴史、公民と略称）ごとの回答を求めた。その結果、次のような分野の特性が明らかなった。分野の特性を踏まえたきめ細かな教科書づくりが必要である。

地理に対する回答では、「身近な地域の取り上げ」や「資料活用や情報処理の能力の育成」を重視する傾向がある。これは、地域の地理的事象を取り上げるという地理の学習内容の特性、地域・国を選択的に取り扱って学習するというあり方によると考えられる。今後の社会科教科書（地理）に期待することにおいて、「知識・理解」よりも「資料活用能力」の選択率が高いことからすれば、地理では技能重視という特徴が見て取れる。

歴史では、望ましいあり方として「個人差に応じた指導」を選択し、期待する役割として「知識・理解」を選択する率がとりわけ高い。これらからは、習得すべき事項・知識が多く、個人差による指導に苦慮するという歴史学習の特性が見て取れる。

公民では、望ましいあり方として「他教科との関連づけ」を選択する率が、他の分野と比して、高くなっている。また、期待する役割として「思考・判断」を選択する率が高い。公民では現代社会の諸事象・諸問題を学習するため、広範な情報と問題解決学習的思考・判断が必要となるからではないかと考えられる。

（山本友和・渡辺能理夫）

３．算数・数学

ここでは、対教師調査の結果に基づいて、算数・数学教科書に対する使われ方や考え方、そして要望等をまとめる。（３）は教科書の体様に関する結果、（４）は教科書の内容への要望である。また、（５）では、対保護者調査の結果も簡単にまとめておいた。

（１）算数・数学の教科書はふだんの授業でよく使われている

「教科書だけを使う」、「教科書を主に使う」とした回答の合計は、算数 94.0%、数学 79.6%であった。算数、数学とも、「授業で教科書を中心に教える」割合は高く、教科書は教科指導の主たる教材として大きなウエイトを占めている。

（２）教材と学習材両者のバランスよい教科書が望まれている

「教えるための教材、自ら学習するための学習材両方のバランスが保たれている教科書」を望む回答は、算数 44.1%、数学 55.8%であった。また、「教えるため」、「どちらかというと教えるため」の教科書を望む回答の合計は、算数 43.8%、数学 25.0%であった。算数から数学へと抽象度が強まるにつれ、教科書の性格も変わっていくものと推測される。

（３）教科書の体様については現状を評価するものが多いが、意見が分かれるものもある

①「ページ数」「本文の分量」「注・コラム・資料などの分量」「さし絵・キャラクターなどの数」「さし絵・図・表・写真などの大きさ」「判型」「文字の大きさ」「堅牢性」は、現行程度でよい

算数、数学の教科書ともに、「ページ数」、「本文の分量」、「注・コラム・資料などの分量」、「さし絵・キャラクターなどの数」の４項目については 70%程度が、「さし絵・図・表・写真などの大きさ」、「判型」については 80%強が、「文字の大きさ」についは 95%が「現行程度でよい」と回答している。「堅牢性」（表紙の厚さ、本文の用紙の厚さ、製本）についてはいずれも、「現行程度でよい」が 96%を超えていて、高い評価を得ている。

②カラーページは必要な部分だけでよい

算数、数学とも最も多い回答は「必要な部分だけカラーであればよい」であり、算数で 1/2、数学で 2/3 程度を占めた。「全ページカラーがよい」は、算数で 39.0%、数学では 24.7%であった。算数、数学の教科書については、「全ページカラー化」よりも、効果的な場面だけカラーであればよいという結果であった。

③発展的な学習内容の分量は、現行程度か増やすのがよい

「発展的な学習内容の分量」に関しては、「現行程度でよい」とした回答が算数で 51.7%、数学で 58.5%あった。その一方で、「増やす」とした回答が算数で 37.8%、数学で 35.7%あり、現行学習指導要領での学習内容の厳選の影響が結果に現れたと推測される。

④定着のための練習問題の数は増やす

「定着のための練習問題の数」に関して、「増やす」とした回答は算数、数学でそれぞれ 61.9%、74.1%あり、「現行程度でよい」（算数、数学でそれぞれ 36.8%、23.5%）を大きく上回った。基礎・基本の徹底、定着のための繰り返し練習という観点からみて、練習問題が少ないとする声が多数を占めたのであろう。この傾向は数学についてより顕著である。

⑤書き込み・貼り付け・切り取りなどについては、意見が分かれる

「現行程度でよい」が算数で 63.8%、数学で 58.2%あった。また、「増やした方がよい」が算数で 19.7%、数学で 18.3%ある一方、「減らしたほうがよい」と「必要ない」の合計が算数で 15.6%、数学で 22.3%あった。この問い対する受け止め方にはばらつきがある。

（４）教科書の内容への要望は、算数・数学教育の動向を反映している

内容への要望をまとめると以下のようになる。これらにどう対応するかは、教科書編集の趣旨に大きく依存するし、逆に、趣旨の妥当性の検討に大きく影響を与えるであろう。

①教科書の難易度は現行程度でよい

算数、数学教科書とも、およそ７割が「現行程度でよい」と回答していて、記述の難易度についてはよい評価を得ていると判断できる。それ以外の回答のほとんどは「現行より難しい方がよい」であり、算数、数学教科書それぞれで 26.0%、29.3%ある。この結果は、教科書編集に関する回答というより、現行学習指導要領での教育課程において算数・数学科の指導内容が大幅に削減、縮減された結果に基づくものであると推測される。

②作業的・体験的な活動など算数的・数学的活動は、現行程度か増やすのがよい

数学的活動の分量については、算数、数学教科書とも、「現行程度でよい」と「増やす」という回答がともに約５割あり、意見が分かれた。「減らす」という回答はほとんどない。

③結果だけでなく考え方や理由などを答えさせる記述式の問題は、増やしたい

「現行程度でよい」という回答は、算数、数学教科書とも、およそ４割程度あり、「増やす」という回答はおよそ６割である。この結果は、自分の考えやそれに至るまでの過程を表現することを価値あるものとする現状が回答に現れたということができる。その一方で、数学教科書だけを対象にした調査結果によれば、「基礎・基本のなかでもっとも重視している力」として「説明するなどの表現力」をあげた回答は 10.4%にとどまっている。

④習熟度別指導への対応は、算数教科書では必要で、数学教科書では意見が分かれる

習熟度別指導への対応については、算数と数学では異なった結果になった。算数では「教科書でも必要」という回答が 54.6%あり、「不必要」という回答のおよそ２倍になっている。数学教科書では、「必要」「不必要」がいずれも 40%程度と判断が分かれている。

算数の場合、習熟度別の授業が近年多くなっている現状が結果に反映されたと考えられる。ここで習熟度別指導にも対応できる教科書編集の方向を策定してみると、全国各地で同一校では同一の教科書を手にして授業が行われているという日本の状況において、更に習熟度別指導にも対応した教科書づくりを目指すことには厳しいものがあろう。思い切って教科書そのものを水準別に複数種用意した算数指導を考える方が適切かもしれない。

数学については、「必要」「不必要」の判断が分かれた理由として、従来の学習指導が習熟度別の定着のための練習プリントを用意して行われたり、選択教科としての数学の指導等を通して習熟の程度に応じた指導が行われたりという土壌があるために、習熟度別指導に関する教科書への要求はそれほど高くなかったことがあげられよう。

⑤数学教科書の改善・充実でもっとも重要な内容は、練習問題、思考力を養う問題

中学校数学教員だけが対象の問いである。回答の結果は、「練習問題の充実」が 39.0%と最も多く、「思考力を養う問題の充実」が 33.5%、「導入教材の充実」が 26.2%である。

なお、対象となった中学校数学教員が「身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力」と考えているのは、「問題解決力」と「論理的な思考力」がともに 40%を超えていて、「説明するなどの表現力」は 10.4%である。

⑤算数・数学教科書への保護者の関心度は高い

小学校の保護者の 88.0%、中学校の保護者の 69.6%が、何らかの形で算数、数学の教科書をみていて、教科書への関心度は高いということができる。　（國宗 進・森田浩一）

４．理科

（１）教科書の使われ方と使いたい教科書について

現状では、教科書を中心としてその他の教材を利用している教師が多い。教科書への依存度は、小学校の教師のほうが高い。

また、教えるための教科書か・自ら学習するための教科書か、という点では、小学校・中学校ともバランス良い教科書を望む声が半数を占める。しかし、中学校ではどちらかというと教えるための教科書が望まれているようだ。

（２）体様などの本づくり面について

①分量面について　「ページ数」「本文の分量」「発展的な学習の分量」「注、コラム、資料などの分量」などの教科書内容の量については、小中学校ともに５割以上の教師から“現行程度でよい”という回答が得られている。しかし、高くても６～７割で、満足されているとは考えにくい。いっぽう、現行に対して改善を求める声の大半は「内容面の充実・増加」である。特に、経験年数の多い教師や、また小学校においては理科を得意とする教師ほど、内容を増加し、より充実することを望んでいる。

②視覚情報面について　視覚情報の充実というとらえ方で、「カラーページの割合」「さし絵、図、写真の大きさ」「判型」「さし絵、図、写真などの数」などを分析してみる。すると、教師の要望が分かれていると考えられる。「カラーページの割合」では、全ページをカラーにしないで必要部分のみに活用すべきとの声が高い。特に中学校では半数以上の教師がそのように要望している。「さし絵、図、写真の大きさ」「判型」などでは“現行程度でよい”とする意見が８割くらいに及ぶ結果が多く、改善を求める意見は多くない。これらを見ると、現行以上の視覚情報の充実は求められていないと読み取ってよいだろう。むしろ、中学校においては、視覚情報の豊富さを見直す必要があるかもしれない。

また、「さし絵、図、写真などの数」については、特に小学校では６割程度が“現行程度でよい”としており、数の増加を求める意見が多い。これは視覚情報の充実を求める声とも読みとれるが、むしろ「分量面の充実」としてとらえることもできる。つまり、上記の①に示したように、内容面の分量を充実して欲しいという意向が現れたと見ることもできる。

③堅牢性について　「表紙の厚さ」「本文の用紙の厚さ」「製本」などについては、改善すべきとの要望は少ないと考えられるが、重量の問題や書き込みをさせたいことから紙質についての改善を求める声が見られた。

④書き込み、貼り付け、切り取りについて　これについては意見が大きく分かれている。“必要ない”とする意見は小学校より中学校に多い。“増やしたほうがよい”も１～２割を占め、今回の調査だけで改善の方向は示せないが、今後の調査などが必要となる項目と考えられる。

（３）観察・実験について

「教科書に載っている観察・実験の実施」は、８～９割の教師が“ほぼ実施している”と回答している。教科書に掲載された観察・実験の記述が、教師の指導に大きく寄与していることがうかがえる。それだけに、理科教科書にあっては観察・実験の手順をより丁寧に記述することや、安全面の配慮をわかりやすく記述する努力が求められるが、今回の調

査でもそのような要望が出ている。特に経験の浅い教師にあってはその要望が高い。

（４）教材・資料について

上記の（２）でまとめたことと同じであるが、ここでも内容を豊富にする方向での改善が大きく要望されていると考えられる。「新しい科学の知見や先端技術に関すること」「環境や環境の保護に関すること」「日常生活に関連すること」のそれぞれの記載について、ほぼ７割以上の教師から“適切である”と評価されているが、そう答えていない回答はほとんど“より充実する”ことを要望している。指導要領で規定された内容を逸脱できない教科書の性格のうえから、たいへん難しい改善要望であるが、より豊富な資料を掲載することが求められている。

（５）理科教科書への課題

子どもは生きたもので学習する。まとめや評価では、写真やイラスト、図などをもとに解釈するので、正確さが求められる。

実際の授業では、観察や実験をグループで活動することが多く、協力して行う点はプラスだが、思考やまとめる段階は個人であり、図や写真で表現する場合その読み取り能力に関係する配慮がほしい。表現力や文章力の形成は、文章で書かせる説明の仕方を指導することで実現できるのではないだろうか。

こんにちわが国は情報社会にあって、科学情報番組をはじめ多くのメディアを通して、インパクトのある映像があふれている。自然の事物・現象に、興味を引きつけ、スケールを大きくし、高度な映像技術によりあざやかな画面で出来上がった映像に目を奪われるほどである。問題はそこで付加される情報が一方向であり、受け手の学習者の発達段階を考慮することなく、メディア側のペースでつくられ、考える余裕もなく、情報が一方的に送られてくることである。

理科の学習は、時間をかけてじっくり、科学の方法に従い、プロセスを直接体験しながら態度や方法を身につけさせるものである。教科書はまさに、子どもの学習の道筋に沿って、一連のつながった学習を成立させるものであろう。コンテクスト（文脈）を持つことが学習を成立させていく。近年評価重視の方向で、そのことの意味がより明らかになった。たとえば、４観点評価項目で難しいとされる「科学的思考」は、仮説をたて観察や実験を行い、結果を考察する力であること、学年が上がるにしたがって比較→関連付け→条件統一→多面的思考などの科学のスキルを体系づけながら、少しずつ形成されるものである。道筋を自覚できるような工夫も必要である。

先行調査*によれば、児童生徒の望む教科書は、習得しなければならない知識の詳しい説明を求めている。教師は主体的探究活動を期待し、観察や実験の結果得られる知識が掲載されていないほうがよいとしている。教科書は、一元的なものでなく、自然探究の手引きとしてのワーキングブックと、習得の期待される知識や原理・法則など科学概念を主体とするリーディングブックに分けるべきであろう。学力形成に寄与する教科書の開発を期待したい。

＊文部省科学研究費補助金による研究調査　「学習材」としての教科書の機能に関する基礎的研究 研究成果報告書 （平成７年３月）　理科

（福地昭輝・藤川 広）

５．英語

（１）教科書は教材か、学習材であるべきか

「教科書は教材か、学習材であるべきか」と言う英語教科書のあるべき特性について、59.5%近い教師が「教材・学習材のバランスの取れた教科書」を望んでいるが、なお「どちらかというと、教える教材としての教科書」と「教材としての教科書」を望む教師が合わせて、26.7%いることは注目される。他方、「どちらかというと、学習するための学習材としての教科書」と「学習材としての教科書」を望む教師もいるが、12.5%と多くはない。また、その使い方は「教科書を主に、ところどころで他の教材を使う」場合が圧倒的であり、「教科書と他の教材を半々使う」という使い方もある。それでも、「教科書だけを使う」という使い方は多くはない。

（２）「読む・書く・聞く・話す」の４つの活動

「読む・書く・聞く・話す」の４つの活動について、「『聞く・話す』の構成」について、「『読む・書く』とのバランスをとってほしい」という回答がもっとも多く、38.3%であり、「今程度でよい」は 31.9%を合わせると、70.2%である。続いて「もっと基礎学力がつくように構成してほしい」という回答が 21.8%である。

４つの活動のバランスの問題の背後には「文法中心のアプローチと会話中心のアプローチ」の対立があるが、「現在の教科書は、口語が多すぎて説明するだけで時間が割かれます。基礎的・基本的内容で、本文を構成すべきだ」とか、「自然な英語を重視するあまり、基本文や本文の表現が教えにくい、学びにくい状態になっている」というコメントに代表される不満となっている。

（３）教材（題材）

本文を構成している「教材（題材)」に関心は高く、教師からの自由記述 189 のうち、最も多い 36 を数える。「読む題材内容をもっと生徒が興味を持てるも内容にすべきである」というコメントに代表されるものである。具体的に、「国際的な話題、文化のわかる話題、考えさせられる話題」「平和・人権・環境問題など、さらに工夫して入れたい」「伝記物や、有名な物語など」「時代の流れや変化に対応した内容」が指摘されている。

他方、教科書への関心が高い保護者の 40.2%から「興味関心に応える内容を変えたほうがいい」いう指摘が出ている。

（４）今後の英語教科書の望ましい方向

「今後の英語教科書の望ましい方向」について、特に「英語には音声が必須だから、ＣＤを教科書に付けて欲しい」とする回答が半数を占め、50.3%であることは注目される。

（５）教科書の習熟度別学習への対応

「教科書の習熟度別学習への対応」について、「指導上で対応すべき」という回答が 54.0%と半数を占め、「教科書で扱わなくてもよい」の 22.1%を加えると、４分の３の回答になる。それに対して、「積極的に対応すべき」は 23.6%である。

（６）教科書制度

「教科書制度」について、英語教師の 23.3%が「貸与制も考えられる」と言い、定価については 59.8%の教師が「500～1,000 円」とすべきであると言う。また、12.0%が「定価は出版社が自由に定めることが出来るようにしたほうがよい』と言う。　（加藤幸次・堤 隆夫）

Ⅱ．全体を総括して

１．概観

これまでの分析・考察からわかるように、教師も保護者もおおむね現状を肯定しているが、改善の視点も数多く示唆されている。

各教科の調査結果を踏まえた改善への視点は前項において詳しく提起されているので、ここでは、教科書改善の視点として、50 パーセント以上の教師、保護者が指摘した項目を中心に考察してみることにする。

（１）教科書の役割について

①　教えるための教材と生徒が自ら学習するための教材としての性格の両方のバランスの保たれた教科書が望まれている。(小学校教師 48.3%、中学校教師 52.6%)

②　教科書は教師が学校で児童生徒を教育・学習指導を行なう際の主たる教材として作成されているものであるが、保護者も子どもの指導のためというのではなく、自分自身の興味関心や勉強のために子どもが持っている教科書を読んだり活用したりしている場合が多い。特に、小学校の国語、算数、地図帳、中学校の国語、歴史、数学、英語については活用率が比較的高くなっている。(小国 51.4%､小算 45.0%､小地図帳 32.1%､中国 24.7%､中歴 27.4%、中数 27.3%、中英 31.3%)

（２）体様について

①　ページ数は、教師、保護者ともに現状肯定率が最も高いが、(小教師 67.2%、中教師 63.5%、小保護者 71.8%、中保護者 74.7%)、「増やす」という回答も 30%前後みられる。(小学校教師 28.5%、中学校教師 29.2%、小学校保護者 26.0%、中学校保護者 18.3%)

②　カラーは必要な部分だけにする。(教師：小国 57.5%、中国 68.0%、小算 53.0%、中数 62.8%、中理 54.6%、保護者：小 52.8%、中 64.4%)

③　発展的な学習の内容の分量については小学校、中学校いずれも教師の現状肯定率が 50%を超えているが、理科と算数・数学については「増やす」という回答が比較的高かった。(小理科 40.4%、小算数 37.8%、中理科 38.0%、中数学 35.7%)

④　「注、コラム、資料などの分量」について小学校、中学校のすべての教科で教師の現状肯定率が高くなっているが（小平均 57.5%、中平均 64.0%)、小学校では社会、理科、中学校では理科、英語の場合に「増やす」の回答率が比較的高かった。(小社 47.6%、小理 44.1%、中理 41.4%、中英 37.7%)

⑤　「さし絵、図、表、写真の大きさ」については約８割の教師が現状を肯定しているが（小 79.0%、中 80.0%)、小学校の社会と理科については２割以上の教師が「大きくする」と回答している。(社 26.3%、理 21.0%)

⑥　「文字の大きさ」については、小学校、中学校いずれも９割以上の教師が現状を肯

定している。（小 94.6%、中 95.0%）

⑦　判型については、教師も保護者も８割以上が現状を肯定している。（小教師 83.7%、中教師 85.2%、小保護者 90.7%、中保護者 84.3%）

⑧　「書き込み、貼り付け、切り取りなど」については、半数以上の教師（小 61.0%、中 52.8%）が、また、７割以上の保護者（72.9%）が現状を肯定しているが、小学校の社会と理科については２割以上の小学校教師が「増やした方がよい」と回答している。（社 24.4%、理 24.1%）

（３）教科書制度について

①　教師も保護者も７割以上が「教科書費は国が負担すべきである」と回答しているが（保護者 73.0%、小教師 77.1%、中教師 73.9%）、「国または自治体が負担するのがよい」とする意見も１～２割ある。（教師 12.7%、保護者 19.4%）一部または全額を保護者が負担するのがよいとする意見は、保護者の場合は数パーセントであるが（5.3%）、教師の場合は１割近くみられる。（9.6%）

②　給与制については、肯定率（「いまのままの給与制がよい」と「どちらかというと給与制のほうがよい」の合計）は教師、保護者ともに最も高かったが（教師 69.2%、保護者 53.1%）、貸与制の肯定率（「どちらかというと貸与制のほうがよい」、「貸与制がよい」の合計）も保護者、教師いずれも１割近くあった。（保護者 8.6%、教師 7.9%）また「教科によっては貸与制も考えられる」とする者が、保護者の４割弱、教師の約２割いた。（保護者 37.3%、教師 22.2%）

③　無償制のもとで付けられている現在の教科書の定価については、教師、保護者ともに、「一般の書籍に比べて高い」とする者も数パーセントいるが、７割近くは「妥当である」としている。「一般の書籍に比べて安い」と回答した者は３割近くいた。（教師 29.4%、保護者 27.4%）

④　「現行程度の教科書が保証されるなら定価は国が定めてよい」という意見の割合は、教師、保護者ともに５割を上回り最も多かったが（教師 54.4%、保護者 53.2%）、「よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてよい」、逆に、「さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい」とする者が、いずれも 10 数パーセントいた。（「高くてよい」は、教師 18.4%、保護者 16.3%、「安くてよい」は、教師 13.1%、保護者 16.0%）「妥当な定価」については、5000 円（中学校理科）という意見もあったが、小学校では 500 円未満、中学校では 500～1000 円未満とする回答率がもっとも高かった。

（４）教科固有の視点からみた改善の視点

教科固有の視点から設定された質問は教師のみに行なっているが、50%以上の教師が指摘した教科・項目は以下のようである。理科については、該当項目はみられなかった。

１）国語

①　小学校：「百人一首で遊ぶ」など、遊びのなかで古典に触れさせるような教科書

（90.8%）

② 中学校：「話す」「聞く」や「書く」教材は、短い時間で扱える練習的な教材を位置づけた教科書（70.5%）

③ 中学校：説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすい教科書（56.2%）

④ 中学校：時代背景などによって、もっと古典に対する興味付けを図れるような教科書（65.8%）

⑤ 中学校：言語事項の学習では、生徒の語彙をふやせるような教科書（72.7%）

⑥ 中学校：文法教材はどこか１箇所にまとめて設置し、体系的に記述した教科書（50.3%）

２）社会科

① 「主体的、能動的な学び方を促すような配慮がなされている」教科書が最も望ましい。（小 59.0%）

② 「基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図る」ことのできる教科書（中歴 56.7%）

３）算数・数学

① 「答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを考えさせる記述式の問題」を増やす。（小 62.2%、中 57.3%）

② 「習熟度別指導への対応」をした教科書（小 54.6%）

４）英語

① 「音声が必須だから、ＣＤを教科書につけてほしい。」（50.3%）

２．総括

以上、教科書の内容、体様、制度などについての教師と保護者の意識・意見などを概観した。全体として現状はおおむね肯定されているが、改善の視点・方向が多く示唆されている。

現行の教科書は、基本的に、内容や定価は国の統制下に置かれている一方で、色どり度数など体様については自由競争になっている。カラフルな教科書が多くなっているのはそのことに起因するところが大きいと考えられるが、教師、保護者ともにそれを過剰と考えている者が多い。これについては、教える側と学ぶ側にとってどのようにすればよいのかを教育的効果という点や、カラー化が教科書の採択にどの程度の影響があるかなどの点について実証的に検討・研究することが求められるところである。

また、本調査では、貸与制など給与制をとっている現行の教科書制度とは異なる方向についても意見を求めたところ、貸与制の肯定率が予想外に高かった。これは給与制よりもよいという意見というよりは、内容・分量などを充実してほしいという要望に基づいたものと思われる。したがって、これについては主たる教材である教科書を補足・補充する教材資料を学校において教師や児童生徒が活用できるような条件をいかに整備するかという課題を示唆しているといってよいであろう。

今回の調査では、全教科にかかわる側面と同時に各教科に固有の側面について、教師だけでなく保護者の意識・意見などをも調査したもので画期的であった。その結果、以上に考察されているように、教科書を改善する多くの貴重な示唆を引き出すことができた。

しかし、本調査では、各教科固有の視点を重視し、教師対象の質問票は学校段階別、教科別に作成して調査を実施したが、新しい学習指導要領において求められている教科等を横断する側面についての調査が必要ではないかと考えられる。教科書の編集は教科ごとに縦割りで行なわれているのではないかと思われるが、言語の指導をはじめ情報教育、環境教育、ものづくり、キャリア教育、食育、安全教育など、社会の変化に対応して教科等を横断して指導する事項を念頭に置いた教科書づくりが求められるであろう。

（新井郁男）

調査依頼状と調査票

Ⅰ．調査依頼状

１．教師対象調査のみ依頼した学校宛

教 研　 第１４３号
平成１９年９月２０日

学 校 長　 殿

東京都江東区千石１丁目９番28号
財団法人教科書研究センター
理事長　古 村　澄 一
（公印省略）

「教科書に関する調査」へのご協力のお願い

私ども、財団法人教科書研究センターは文部科学省所管の財団法人で、小・中・高等学校の教科書に関する基礎的・総合的な研究等を通じて教科書の質的向上・充実を図り、学校教育及び学術の発展に寄与することを目的とした研究機関です。

このたび当センターでは、小・中学校を対象に教師と保護者の教科書に関する意識についてアンケート調査を実施することになりました。勝手ながら、全国の小・中学校のなかから無作為に小学校２０５校、中学校４０４校を抽出させていただき、調査へのご協力をお願いする次第です。教師を対象の調査はこれらの学校すべてに、保護者を対象の調査は、これらのなかから都道府県ごとに小・中学校１校ずつをさらに抽出してお願いしております。貴校には、教師を対象の調査のみをお願いいたします。なお、この調査の実施にあたっては、全国連合小学校長会、全日本中学校長会のご理解を賜った文書を同封しておりますので、そちらもご覧ください。

現在、中央教育審議会で教育課程の基準の改訂の審議が進められており、平成１９年度中には新しい学習指導要領が告示されると思われます。本調査は、この新学習指導要領に合わせて始められる教科書作りに教師や保護者の方々の声を反映し、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

つきましては、ご本務のお忙しい折とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、是非ご協力くださいますよう伏してお願い申し上げます。また些少ではございますが、調査の御礼を同封させていただきましたのでご笑納ください。

なお、調査結果は、文部科学省、教科書発行会社、各都道府県の教育センターなど関係機関にお送りするとともに、教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に平成２０年８月頃に公開する予定です。

調査の方法

小学校の場合

送付物

①本状
②全国連合小学校長会からのご依頼状
③先生方への調査票　２部
④返信用封筒　１枚
⑤調査協力御礼（蛍光ペン２０本）

調査の方法

１．調査分析のサンプル数を確保するために、**教務主任**並びに**第５学年の学年主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）２名にご協力をお願いいたします。回答は先生方それぞれがご自由にお書きください。
２．調査票は封筒のまま回収し、返信用封筒で**１０月２０日（必着）までに**ご返送ください。

中学校の場合

送付物

①本状
②全日本中学校長会からのご依頼状
③先生方への調査票　国語、社会、数学、理科、英語　　各教科１部
④返信用封筒　１枚
⑤調査協力御礼（蛍光ペン２０本）

調査の方法

１．調査の対象になる５教科（国語、社会、数学、理科、英語）の**教科主任の先生方**（またはこれに代わることのできる先生方）５名にご協力をお願いいたします。
２．調査票は封筒のまま回収し、返信用封筒で**１０月２０日（必着）までに**ご返送ください。

お問合せ、調査票返送先

本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しております。ご不明の点などお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

教 研　第１４３号
平成１９年９月２０日

学 校 長　殿

東京都江東区千石１丁目９番28号
財団法人教科書研究センター
理事長　古 村 澄 一
（公印省略）

「教科書に関する調査」へのご協力のお願い

私ども、財団法人教科書研究センターは文部科学省所管の財団法人で、小・中・高等学校の教科書に関する基礎的・総合的な研究等を通じて教科書の質的向上・充実を図り、学校教育及び学術の発展に寄与することを目的とした研究機関です。

このたび当センターでは、小・中学校を対象に教師と保護者の教科書に関する意識についてアンケート調査を実施することになりました。勝手ながら、全国の小・中学校のなかから無作為に小学校２０５校、中学校４０４校を抽出させていただき、調査へのご協力をお願いする次第です。教師を対象の調査はこれらの学校すべてに、保護者を対象の調査は、これらのなかから都道府県ごとに小・中学校１校ずつをさらに抽出してお願いしております。貴校には、恐縮ですが、教師を対象の調査と保護者を対象の調査の双方をお願いいたします。なお、この調査の実施にあたっては、全国連合小学校長会、全日本中学校長会のご理解を賜った文書を同封しておりますので、そちらもご覧ください。

現在、中央教育審議会で教育課程の基準の改訂の審議が進められており、平成１９年度中には新しい学習指導要領が告示されると思われます。本調査は、この新学習指導要領に合わせて始められる教科書作りに教師や保護者の方々の声を反映し、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

つきましては、ご本務のお忙しい折とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、是非ご協力くださいますよう伏してお願い申し上げます。また些少ではございますが、調査の御礼を同封させていただきましたのでご笑納ください。

なお、調査結果は、文部科学省、教科書発行会社、各都道府県の教育センターなど関係機関にお送りするとともに、教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に平成２０年８月頃に公開する予定です。

調査の方法

小学校の場合

送付物

①本状　②全国連合小学校長会からのご依頼状
③教師用調査票　２部　④保護者用調査票　４５部
⑤返送用袋　１枚　⑥宅配便着払い伝票　１枚　⑦調査協力御礼（蛍光ペン２０本）

調査の方法

１．**先生方への調査**：調査分析のサンプル数を確保するために、**教務主任**並びに**第５学年の学年主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）２名にご協力をお願いいたします。回答は先生方それぞれがご自由にお書きいただき、封筒のまま調査票を回収してください。
２．**保護者の方への調査**：**第５学年（または第４、６学年）のうちの１学級の保護者の方々**にご協力をお願いいたします。調査票は封筒のまま**学校で回収してください。**
３．**返送**：回収した調査票を同封の返送用袋に入れ、宅配便着払いで**１０月２０日（必着）までに**ご返送ください。

中学校の場合

送付物

①本状　②全日本中学校長会からのご依頼状
③教師用調査票　国語、社会、数学、理科、英語　各教科１部
④保護者用調査票　４５部　⑤返送用袋　１枚
⑥宅配便着払い伝票　１枚　⑦調査協力御礼（蛍光ペン２０本）

調査の方法

１．**先生方への調査**：調査の対象になる５教科（国語、社会、数学、理科、英語）の**教科主任の先生方**（またはこれに代わることのできる先生方）５名にご協力をお願いいたします。調査票は封筒のまま回収してください。
２．**保護者の方への調査**：**第２学年（または別の学年）のうちの１学級の保護者の方々**にご協力をお願いいたします。調査票は封筒のまま**学校で回収してください。**
３．**返送**：回収した調査票を同封の返送用袋に入れ、宅配便着払いで**１０月２０日（必着）までに**ご返送ください。

お問合せ、調査票返送先

本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しております。ご不明の点などお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

Ⅱ．調査協力依頼状

１．小学校宛

平成19年 9 月 3 日

学　校　長　様

全国連合小学校長会
会 長　池 田 芳 和
（ 公 印 省 略 ）

（財）教科書研究センターの「教科書に関する調査」に対する協力についてのお願い

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、財団法人教科書研究センターでは、この度、文部科学省が平成19年度中に予定している学習指導要領の改訂にあわせて編集・発行される教科書のより一層の改善に役立てるため、義務教育教科書に関する教師の意識及び保護者の要望についての調査を実施することを予定しております。

この調査は、教師対象調査と保護者対象調査とがありますが、教師対象調査は、全国の公立小学校から無作為抽出により約１%（200校）が予定されております。また、保護者対象調査は、各県１校１学級が予定されております。

当校長会といたしましてもこの調査が学校教育上重要な調査であると理解しており、積極的に協力して参りたいと存じます。

つきましては、貴校宛に調査協力の依頼がありました際には、ご多忙のこととは存じますが、是非とも回答にご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

以上

２．中学校宛

平成19年 8月 27日

学　校　長　様

全日本中学校長会
会 長　草 野 一 紀

（財）教科書研究センターの「教科書に関する調査」に対する協力についてのお願い

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、財団法人教科書研究センターでは、この度、文部科学省が平成19年度中に予定している学習指導要領の改訂にあわせて編集・発行される教科書のより一層の改善に役立てるため、義務教育教科書に関する教師の意識及び保護者の要望についての調査を実施することを予定しております。

この調査は、教師対象調査と保護者対象調査とがありますが、教師対象調査は、全国の公立中学校から無作為抽出により約４%（400校）が予定されております。また、保護者対象調査は、各県１校１学級が予定されております。

当校長会といたしましてもこの調査が学校教育上重要な調査であると理解しており、積極的に協力して参りたいと存じます。

つきましては、貴校宛に調査協力の依頼がありました際には、ご多忙のこととは存じますが、是非とも回答にご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

以上

教科書に関する調査〈小学校〉

先生方へ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．ご回答は**教務主任**と**第５学年の学年主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）にお願いいたします。

２．ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「３つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱リサーベイリサーチ・センター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（授業と教科書）

あなたのふだんの授業での教科書の使い方にもっとも近いのはどれですか。各教科について次の１～５のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1．教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。	2．教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。	3．教科書とその他の教材を半々程度使う。	4．教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。	5．教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。
ア．国語	1	2	3	4	5
イ．社会	1	2	3	4	5
ウ．算数	1	2	3	4	5
エ．理科	1	2	3	4	5

質問２（教材・学習材）

教科書は教師が児童に教えるための教材と、児童が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。

あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。各教科について次の１～５のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1．教えるための教材としての性格が強い教科書	2．どちらかというと、教えるための教材としての性格がより強い教科書	3．自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	4．どちらかというと、自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	5．教えるための教材、自ら学習するための学習材両方の性格がバランスよく保たれている教科書
ア．国語	1	2	3	4	5
イ．社会	1	2	3	4	5
ウ．算数	1	2	3	4	5
エ．理科	1	2	3	4	5

質問３（体様）

次のＡ～Ｃについて、子どもたちの学力向上に役立つ教科書という観点に立って、現在お使いの教科書についてお答えください。

Ａ．内容の構成やデザインについて

次の各教科ごとの項目（Ａ－１～８または 10）について、現行教科書をどのように変えればよりよい教科書になると思いますか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

ア．国語の教科書

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の小学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

イ．社会の教科書

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の小学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－９．観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－10．さし絵、図、表、写真などの数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ウ．算数の教科書

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の小学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－９．定着のための練習問題の数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－10．さし絵、キャラクターなどの数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

エ．理科の教科書

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の小学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－９．さし絵、図、表、写真などの数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ｂ．堅牢性について

教科書は児童の学習活動に支障のないよう、教科書専用の特別な用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で綴じられています。

次の項目（Ｂ－１～３）について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ｂ－１．表紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚いハードカバーにする　　３．薄くする

Ｂ－２．本文の用紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚くする　　３．薄くする

Ｂ－３．製本（綴じ方）

１．現行程度でよい　　２．頑丈にする　　３．簡易にする

Ｃ．書き込み、貼り付け、切り取りなどについて

教科書には児童が書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けしたり、切り取って使う教材などがついていたりするものがあります。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。各教科について次の１～４のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行の教科書程度あればよい。	2．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より増やしたほうがよい。	3．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より減らしたほうがよい。	4．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。
ア．国語	1	2	3	4
イ．社会	1	2	3	4
ウ．算数	1	2	3	4
エ．理科	1	2	3	4

ここからは各教科ごとに内容についてお伺いします。

国 語

質問４（教科書への要望）

国語科の教科書にあなたが特に望むことを、次のなかから３つ選んで番号に○をつけてください。

1．「話す・聞く」教材では、話し合いのテーマや話題をもっと児童の生活の場に即したものにしてほしい。
2．「話す・聞く」教材では、もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい。
3．「書く」教材では、手紙などの実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい。
4．「書く」教材では、詩や物語などの創作がもっと行えるようにしてほしい。
5．文学的文章では、現行の教科書で定着している教材（いわゆる定番教材）を今後とも維持してほしい。
6．文学的文章では、読み物として長編の作品（あるいはその一部）も教材にしてほしい。
7．説明的文章では、テーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい。
8．「読むこと」の教材では、批判的な読解力が身につくような教材を充実させてほしい。
9．漢字については、教材の配列にしたがって新出漢字を学習するのではなく、もっと系統立てて学習できるようにしてほしい。
10．漢字については、振り仮名つきでもっと多くの漢字を教科書に提出してほしい。

質問５（古典教材）

新しい学習指導要領では、小学校でも古典の教材を扱うようになると予想されます。小学校における古典の扱いについて先生のご意見に合うものはどれですか。あてはまるものの番号すべてに○をつけてください。

1．「百人一首で遊ぶ」など、遊びのなかで古典に触れさせるようにしたい。
2．原文の意味を理解させるのではなく、音読や暗唱をさせればよい。
3．原文での理解よりも「あらすじ」がわかればよいので、現代語訳で読ませればよい。
4．小学校でも原文と現代語訳とのていねいな対照が必要である。
5．小学校でも古典作品の背景についての説明は必要である。

社 会

質問６（教科書の現状）

１．社会科教科書の現状という観点からお考えをお聞きします。次の①～⑤の項目についてお答えください。５～１のなかからあなたの考えにもっとも近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

	全く同感である	………	どちらともいえない	………	全く同感しない
①主体的、能動的な学び方を促すような配慮がなされている。	5	4	3	2	1
②学習を発展させるための手だてが示されている。	5	4	3	2	1
③個人差に応じた指導にも対処できるような配慮がなされている。	5	4	3	2	1
④身近な地域を取り上げるための配慮がなされている。	5	4	3	2	1
⑤他教科との関連がつけられている。	5	4	3	2	1

２．最も望ましいと思われる社会科教科書のあり方について、上記の①～⑤のなかから１つだけ選び、その番号を□に記入してください。

□

質問７（教科書の役割）

１．社会科の学習指導において教科書が果たしている役割という観点から、次の①～④の項目についてお答えください。５～１のなかからあなたの考えにもっとも近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

	とても役立った	………	どちらともいえない	………	全く役立たなかった
①児童の興味・関心をひき、学習意欲を促すのに役立ったか。	5	4	3	2	1
②多様な思考や主体的な判断を促すのに役立ったか。	5	4	3	2	1
③資料活用や情報処理の能力を育成するのに役立ったか。	5	4	3	2	1
④基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図るのに役立ったか。	5	4	3	2	1

２．今後の社会科教科書の役割として最も期待することについて、上記の①～④のなかから１つだけ選び、その番号を□に記入してください。

□

質問８（教科書の使用状況）

１．社会科授業における教科書の使用状況についてお聞きします。次の１～６の場面のうち、あなたが教科書使用を重視しているのはどの場面ですか。次の１～６のなかから実情に近いものを２つ選びその番号に○をつけてください。

１．指導計画・学習指導案立案の場面
２．学習の動機付けの場面
３．学習課題・問題の設定の場面
４．学習課題・問題の追求の場面
５．学習のまとめの場面
６．学習を自己評価させる場面

２．今後の社会科教科書に充実を期待するのは、上記の１～６のどの場面に関してですか。上記の１～６のなかから２つ選び、その番号を□に記入してください。

□ □

算 数

質問９（教科書への要望）

現行の算数教科書の内容について伺います。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の程度（全体的に）
１．現行程度でよい　　２．現行より難しい方がよい　　３．現行より易しい方がよい

２．作業的・体験的な活動など算数的活動の分量
１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

３．答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを答えさせる記述式の問題
１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

４．習熟度別指導への対応
１．教科書でも必要　　２．教科書では不必要　　３．どちらともいえない

理 科

質問 10（観察、実験）

観察、実験についておたずねします。それぞれあてはまるものを１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書に載っている観察、実験を行っていますか。

１．教科書に載っている観察、実験は、ほぼ実施している。
２．教科書に載っている観察、実験は、一部実施している。
３．教科書に載っている観察、実験は、あまり実施していない。

（上記１で「３」と答えた方のみにお伺いします）上記１で「３」と答えた理由で、次のなかにあてはまるものがあれば番号に○をつけてください。

１．観察、実験を行う時間が足りなくて実施できない。
２．実験器具・薬品などの不足で実施できない。
３．飼育、栽培教材の準備や現地学習の困難から実施できない。

２．教科書に載っていない観察、実験を授業で取り上げていますか。

１．積極的に取り上げている。
２．必要に応じて取り上げている。
３．ほとんど取り上げていない。

３．教科書には、観察、実験の手順がわかりやすく記述されていますか。

１．適切でわかりやすい。
２．少しわかりにくい。
３．わかりにくい。

４．教科書には、観察、実験における安全面の配慮が適切に示されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。

（上記４で「２」と答えた方のみ）不適切な内容

１．多すぎる　２．少なすぎる　３．説明が足りない

質問 11（教材・資料）

教材や資料についておたずねします。それぞれあてはまるものを１つ選んで番号に○をつけてください。

１．児童の興味・関心を高める内容が適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。

（上記１で「２」と答えた方のみ）不適切な内容

１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

２．新しい科学の知見や先端技術に関することが適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。

（上記２で「２」と答えた方のみ）不適切な内容

１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

３．環境や環境の保護に関することが適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。

（上記３で「２」と答えた方のみ）不適切な内容

１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

４．児童の日常生活と関連することが適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。

（上記４で「２」と答えた方のみ）不適切な内容

１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

次に教科書制度についてお伺いします。

質問 12（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである。

質問 13（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問 14（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の小学校の教科書１冊あたり（上下巻がある場合は各巻あたり）の平均定価は３３７円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．現行程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在お使いの教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿＿００円位

質問 15

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなた自身のことについておたずねします。

A．現在の勤務校の所在地について

.....都・道・府・県.....市・郡・区

B．現在お持ちの小学校教諭以外の教員免許状の番号すべてに○をつけてください。

ア．中学校の教諭の免許状

01．国語	02．社会	03．数学	04．理科	05．音楽
06．美術	07．保健体育	08．保健	09．技術	10．家庭
11．外国語（英語）		12．外国語（ドイツ語）		
13．外国語（フランス語）		14．外国語（その他）		
15．職業	16．職業指導	17．職業実習	18．宗教	

イ．高等学校の教諭の免許状

19．国語	20．地理歴史	21．公民	22．数学	23．理科
24．音楽	25．美術	26．工芸	27．書道	28．保健体育
29．保健	30．柔道	31．剣道	32．外国語（英語）	
33．外国語（ドイツ語）		34．外国語（フランス語）		
35．外国語（その他）		36．看護	37．看護実習	38．家庭
39．家庭実習	40．情報	41．情報実習	42．情報技術	43．農業
44．農業実習	45．工業	46．工業実習	47．建築	
48．インテリア	49．デザイン	50．情報処理	51．商業	52．商業実習
53．計算実務	54．水産	55．水産実習	56．福祉	57．福祉実習
58．商船	59．商船実習	60．職業指導	61．宗教	

ウ．その他の教諭の免許状

62．特別支援学校の教諭	63．養護教諭	64．栄養教諭

C．教員歴

勤務経験のあるすべての校種について、勤務年数の合計を１～４のなかから１つ選んで番号に○をつけてください。勤務経験のない校種についてはご回答いただかなくて結構です。

	１．～１０年	２．１１～２０年	３．２１～３０年	４．３１年～
ア．小学校	1	2	3	4
イ．中学校	1	2	3	4
ウ．高等学校	1	2	3	4
エ．特別支援学校	1	2	3	4

D．現在学校でお使いの教科書の出版社

教科ごとに該当する番号１つに○をつけてください。

ア．国語の教科書

１．東京書籍	２．大阪書籍	３．学校図書	４．教育出版
５．光村図書			

イ．社会の教科書

１．東京書籍	２．大阪書籍	３．教育出版	４．光村図書
５．日本文教			

ウ．算数の教科書

１．東京書籍	２．大阪書籍	３．大日本図書	４．学校図書
５．教育出版	６．啓林館		

エ．理科の教科書

１．東京書籍	２．大日本図書	３．学校図書	４．教育出版
５．信濃教育会	６．啓林館		

E．あなたが得意な授業はどの授業ですか。（複数回答可）

１．国語	２．社会	３．算数	４．理科	５．生活
６．音楽	７．図画工作	８．家庭	９．体育	10．道徳
11．特別活動	12．総合的な学習の時間			

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈中学校国語〉

先生方へ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．ご回答は**国語科主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）にお願いいたします。

２．ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（授業と教科書）

あなたのふだんの授業での教科書の使い方にもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。
２．教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。
３．教科書とその他の教材を半々程度使う。
４．教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。
５．教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。

質問２（教材・学習材）

教科書は教師が生徒に教えるための教材と、生徒が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。

あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教えるための教材としての性格が強い教科書
２．どちらかというと、教えるための教材としての性格がより強い教科書
３．自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書
４．どちらかというと、自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書
５．教えるための教材、自ら学習するための学習材両方の性格がバランスよく保たれている教科書

質問３（体様）

次のＡ～Ｃについて、子どもたちの学力向上に役立つ教科書という観点に立って、現在お使いの教科書についてお答えください。

Ａ．内容の構成やデザインについて

次の項目（Ａ－１～８）について、現行教科書をどのように変えればよりよい教科書になると思いますか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の中学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ｂ．堅牢性について

教科書は生徒の学習活動に支障のないよう、教科書専用の特別な用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で綴じられています。

次の項目（Ｂ－１～３）について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ｂ－１．表紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚いハードカバーにする　　３．薄くする

Ｂ－２．本文の用紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚くする　　３．薄くする

Ｂ－３．製本（綴じ方）

１．現行程度でよい　　２．頑丈にする　　３．簡易にする

Ｃ．書き込み、貼り付け、切り取りなどについて

教科書には生徒が書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けしたり、切り取って使う教材などがついていたりするものがあります。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行の教科書程度あればよい。
２．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より増やしたほうがよい。
３．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より減らしたほうがよい。
４．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。

質問４（「読むこと」の教材）

「読むこと」の教材についてうかがいます。先生のご意見に合うものはどれですか。あてはまるものの番号すべてに○をつけてください。

1．文学的文章の教材数をもっと増やしてほしい。
2．漱石や鴎外などの近代古典の名作をもっと位置づけてほしい。
3．現代の中学生の生活や心情に合うような新鮮な作品をもっと位置づけてほしい。
4．わかりやすい作品よりも読み応えのある作品を位置づけてほしい。
5．説明的文章の教材数をもっと増やしてほしい。
6．説明的文章ではテーマよりも文章構成がわかりやすいものにしてほしい。
7．図版やグラフなどを参照しながら内容を読み取るような説明文を位置づけてほしい。
8．完璧で優れた文章よりも、批判的な読解力がつくような文章を教材にしてほしい。
9．ブックトークや読書紹介の活動をもっと教科書に位置づけてほしい。
10．読書案内でもっと多くの本を紹介してほしい。

質問５（古典教材）

新しい学習指導要領では小学校から古典を扱うようになると予想されますが、中学校の古典の扱いはどうすべきでしょうか。先生のご意見に合うものはどれですか。あてはまるものの番号すべてに○をつけてください。

1．小学校に古典が入ってくるならば、中学校では現行より高度な古典教材が望ましい。
2．小学校に古典が入っても、中学校では現行程度の古典教材でよい。
3．古典教材に抵抗をなくすために、現代語訳をていねいにつけるべきである。
4．現代語訳があると古典教材を読む力が育たないので、訳注のみにするほうがよい。
5．古典の学習は音読・暗唱をしっかりやればよい。
6．時代背景の説明などによって、もっと古典に対する興味付けを図ることが大切である。

質問６（「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材）

「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の教材についてうかがいます。先生のご意見に合うものはどれですか。あてはまるものの番号すべてに○をつけてください。

1．「話す・聞く」教材をもっと増やしてほしい。
2．「話す・聞く」教材では、話し合いのテーマや話題をもっと生徒の生活の場に即したものにしてほしい。
3．「話す・聞く」教材では、もっと話し方や聞き方を身につけさせる指導ができるようにしてほしい。
4．「書く」教材をもっと増やしてほしい。
5．「書く」教材では、手紙などの実用的な文章をもっと書かせるようにしてほしい。
6．「書く」教材では、詩や物語などの創作がもっと行えるようにしてほしい。
7．「話す・聞く」や「書く」教材は、「読む」教材と関連させて扱えるようにしてほしい。
8．「話す･聞く」や「書く」教材は、短い時間で扱える練習的な教材を位置づけてほしい。

質問７（漢字、文法、その他の言語事項）

漢字や文法、その他の言語事項の扱いについてうかがいます。先生のご意見に合うものはどれですか。あてはまるものの番号すべてに○をつけてください。

1．漢字は、読むことの教材の文脈の中で提出するほうがよい。
2．漢字は、漢字学習の系統性を考慮した取り立て教材で扱うほうがよい。
3．漢字については、振り仮名つきでもっと多くの漢字を教科書に提出してほしい。
4．文法教材ではもっと練習問題を増やしてほしい。
5．実際は副教材で指導するので、教科書の文法教材は簡略でよい。
6．文法教材は何箇所かに分けて配置し、トピックごとに記述するものがよい。
7．文法教材はどこか１箇所にまとめて配置し、体系的に記述するものがよい。
8．言語事項の学習では、生徒の語彙をふやすことを重視したい。
9．言語事項の学習では、外国語との比較で日本語の特質を考えさせるとよい。
10．言語事項の学習では、コミュニケーションの問題を重視したい。

次に教科書制度についてお伺いします。

質問８（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである。

質問９（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問 10（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の中学校の教科書１冊あたり（上下巻のある場合は各巻あたり、複数学年で使用する教科書は１冊あたり）の平均定価は４８４円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．現行程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在お使いの教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿＿００円位

質問 11

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなた自身のことについておたずねします。

Ａ．現在の勤務校の所在地について

.....都・道・府・県.....市・郡・区

Ｂ．中学校国語科のほかに現在お持ちの教員免許状の番号すべてに○をつけてください。

ア．小学校の教諭の免許状

01．小学校

イ．中学校の教諭の免許状

02．国語　03．社会　04．数学　05．理科　06．音楽
07．美術　08．保健体育　09．保健　10．技術　11．家庭
12．外国語（英語）　13．外国語（ドイツ語）
14．外国語（フランス語）　15．外国語（その他）
16．職業　17．職業指導　18．職業実習　19．宗教

ウ．高等学校の教諭の免許状

20．国語　21．地理歴史　22．公民　23．数学　24．理科
25．音楽　26．美術　27．工芸　28．書道　29．保健体育
30．保健　31．柔道　32．剣道　33．外国語（英語）
34．外国語（ドイツ語）　35．外国語（フランス語）
36．外国語（その他）　37．看護　38．看護実習　39．家庭
40．家庭実習　41．情報　42．情報実習　43．情報技術　44．農業
45．農業実習　46．工業　47．工業実習　48．建築
49．インテリア　50．デザイン　51．情報処理　52．商業　53．商業実習
54．計算実務　55．水産　56．水産実習　57．福祉　58．福祉実習
59．商船　60．商船実習　61．職業指導　62．宗教

エ．その他の教諭の免許状

63．特別支援学校の教諭　64．養護教諭　65．栄養教諭

Ｃ．教員歴

勤務経験のあるすべての校種について、勤務年数の合計を１～４のなかから１つ選んで番号に○をつけてください。勤務経験のない校種についてはご回答いただかなくて結構です。

	１．～１０年	２．１１～２０年	３．２１～３０年	４．３１年～
ア．小学校	1	2	3	4
イ．中学校	1	2	3	4
ウ．高等学校	1	2	3	4
エ．特別支援学校	1	2	3	4

Ｄ．現在学校でお使いの教科書の出版社

該当する番号に○をつけてください。

１．東京書籍　２．学校図書　３．三省堂　４．教育出版
５．光村図書出版

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈中学校社会〉

先生方へ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．ご回答は**社会科主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）にお願いいたします。なお、社会科の全分野の教科書にわたってご回答ください。

２．ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「２つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（授業と教科書）

あなたのふだんの授業での教科書の使い方にもっとも近いのはどれですか。各分野について次の１～５のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1. 教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。	2. 教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。	3. 教科書とその他の教材を半々程度使う。	4. 教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。	5. 教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。
ア．地理的分野	1	2	3	4	5
イ．歴史的分野	1	2	3	4	5
ウ．公民的分野	1	2	3	4	5

質問２（教材・学習材）

教科書は教師が生徒に教えるための教材と、生徒が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。

あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。各分野について次の１～５のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1. 教えるための教材としての性格が強い教科書	2. どちらかというと、教えるための教材としての性格がより強い教科書	3. 自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書	4. どちらかというと、自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書	5. 教えるための教材、自ら学習するための学習材両方の性格がバランスよく保たれている教科書
ア. 地理的分野	1	2	3	4	5
イ. 歴史的分野	1	2	3	4	5
ウ. 公民的分野	1	2	3	4	5

質問３（体様）

次のＡ～Ｃについて、子どもたちの学力向上に役立つ教科書という観点に立って、現在お使いの教科書についてお答えください。

Ａ．内容の構成やデザインについて

次の項目（Ａ－１～10）について、現行教科書をどのように変えればよりよい教科書になると思いますか。分野ごとにそれぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の中学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

ア．地理的分野　１ …… ２ …… ３
イ．歴史的分野　１ …… ２ …… ３
ウ．公民的分野　１ …… ２ …… ３

Ａ－９．観察、見学、調査、資料活用など、調べ学習の数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ア．地理的分野　　１ …… ２ …… ３

イ．歴史的分野　　１ …… ２ …… ３

ウ．公民的分野　　１ …… ２ …… ３

Ａ－10．さし絵、図、表、写真などの数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

ア．地理的分野　　１ …… ２ …… ３

イ．歴史的分野　　１ …… ２ …… ３

ウ．公民的分野　　１ …… ２ …… ３

Ｂ．堅牢性について

教科書は生徒の学習活動に支障のないよう、教科書専用の特別な用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で綴じられています。

次の項目（Ｂ－１～３）について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ｂ－１．表紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚いハードカバーにする　　３．薄くする

Ｂ－２．本文の用紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚くする　　３．薄くする

Ｂ－３．製本（綴じ方）

１．現行程度でよい　　２．頑丈にする　　３．簡易にする

Ｃ．書き込み、貼り付け、切り取りなどについて

教科書には生徒が書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けしたり、切り取って使う教材などがついていたりするものがあります。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。各分野について次の１～４のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行の教科書程度あればよい。	2．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より増やしたほうがよい。	3．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より減らしたほうがよい。	4．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。
ア．地理的分野	1	2	3	4
イ．歴史的分野	1	2	3	4
ウ．公民的分野	1	2	3	4

質問４（教科書の現状）

１．社会科教科書の現状という観点からお考えをお聞きします。次の①～⑤の項目についてお答えください。社会科の各分野ごとに、５～１のなかからあなたの考えにもっとも近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

		全く同感である	………	どちらともいえない	………	全く同感しない
①主体的、能動的な学び方を促すような配慮がなされている。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
②学習を発展させるための手だてが示されている。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
③個人差に応じた指導にも対処できるような配慮がなされている。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
④身近な地域を取り上げるための配慮がなされている。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
⑤他教科や他分野との関連がつけられている。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1

２．社会科の各分野ごとに、最も望ましいと思われる社会科教科書のあり方について、上記の①～⑤のなかから１つだけ選び、その番号を□に記入してください。

ア．地理的分野 □　イ．歴史的分野 □　ウ．公民的分野 □

質問５（教科書の役割）

１．社会科の学習指導において教科書が果たしている役割という観点から、次の①～④の項目についてお答えください。社会科の各分野ごとに、５～１のなかからあなたの考えにもっとも近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

		とても役立った	………	どちらともいえない	………	全く役立たなかった
①生徒の興味・関心をひき、学習意欲を促すのに役立ったか。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
②多様な思考や主体的な判断を促すのに役立ったか。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
③資料活用や情報処理の能力を育成するのに役立ったか。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1
④基礎的、基本的な知識の確実な習得と定着化を図るのに役立ったか。	ア．地理的分野	5	4	3	2	1
	イ．歴史的分野	5	4	3	2	1
	ウ．公民的分野	5	4	3	2	1

２．社会科の各分野ごとに、今後の社会科教科書の役割として最も期待することについて、上記の①～④のなかから１つだけ選び、その番号を□に記入してください。

ア．地理的分野 □　イ．歴史的分野 □　ウ．公民的分野 □

質問６（教科書の使用状況）

１．社会科授業における教科書の使用状況についてお聞きします。次の１～６の場面のうち、あなたが教科書使用を重視しているのはどの場面ですか。社会科の各分野ごとに、次の１～６のなかから実情に近いものを２つ選び、その番号を□に記入してください。

１．指導計画・学習指導案立案の場面
２．学習の動機付けの場面
３．学習課題・問題の設定の場面
４．学習課題・問題の追求の場面
５．学習のまとめの場面
６．学習を自己評価させる場面

ア．地理的分野 □□　イ．歴史的分野 □□　ウ．公民的分野 □□

２．今後の社会科教科書に充実を期待するのは、上記の１～６のどの場面に関してですか。社会科の各分野ごとに、上記の１～６のなかから２つ選び、その番号を□に記入してください。

ア．地理的分野 □□　イ．歴史的分野 □□　ウ．公民的分野 □□

次に教科書制度についてお伺いします。

質問７（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである。

質問８（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問９（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の中学校の教科書１冊あたり（上下巻のある場合は各巻あたり、複数学年で使用する教科書は１冊あたり）の平均定価は４８４円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．現行程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在お使いの教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿００円位

質問 10

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなた自身のことについておたずねします。

Ａ．現在の勤務校の所在地について

……都・道・府・県……市・郡・区

Ｂ．中学校社会科のほかに現在お持ちの教員免許状の番号すべてに○をつけてください。

ア．小学校の教諭の免許状

01．小学校

イ．中学校の教諭の免許状

02．国語　03．社会　04．数学　05．理科　06．音楽
07．美術　08．保健体育　09．保健　10．技術　11．家庭
12．外国語（英語）　13．外国語（ドイツ語）
14．外国語（フランス語）　15．外国語（その他）
16．職業　17．職業指導　18．職業実習　19．宗教

ウ．高等学校の教諭の免許状

20．国語　21．地理歴史　22．公民　23．数学　24．理科
25．音楽　26．美術　27．工芸　28．書道　29．保健体育
30．保健　31．柔道　32．剣道　33．外国語（英語）
34．外国語（ドイツ語）　35．外国語（フランス語）
36．外国語（その他）　37．看護　38．看護実習　39．家庭
40．家庭実習　41．情報　42．情報実習　43．情報技術　44．農業
45．農業実習　46．工業　47．工業実習　48．建築
49．インテリア　50．デザイン　51．情報処理　52．商業　53．商業実習
54．計算実務　55．水産　56．水産実習　57．福祉　58．福祉実習
59．商船　60．商船実習　61．職業指導　62．宗教

エ．その他の教諭の免許状

63．特別支援学校の教諭　64．養護教諭　65．栄養教諭

C．教員歴

勤務経験のあるすべての校種について、勤務年数の合計を１～４のなかから１つ選んで番号に○をつけてください。勤務経験のない校種についてはご回答いただかなくて結構です。

	１．～１０年	２．１１～２０年	３．２１～３０年	４．３１年～
ア．小学校	1	2	3	4
イ．中学校	1	2	3	4
ウ．高等学校	1	2	3	4
エ．特別支援学校	1	2	3	4

D．現在学校でお使いの教科書の出版社

分野ごとに該当する番号に○をつけてください。

ア．地理的分野

１．東京書籍　２．大阪書籍　３．教育出版　４．帝国書院
５．日本文教出版　６．日本書籍新社

イ．歴史的分野

１．東京書籍　２．大阪書籍　３．教育出版　４．清水書院
５．帝国書院　６．日本文教出版　７．扶桑社　８．日本書籍新社

ウ．公民的分野

１．東京書籍　２．大阪書籍　３．教育出版　４．清水書院
５．帝国書院　６．日本文教出版　７．扶桑社　８．日本書籍新社

E．現在授業を担当されている分野

担当している分野の番号すべてに○をつけてください。

１．地理的分野
２．歴史的分野
３．公民的分野

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈中学校数学〉

先生方へ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．ご回答は**数学科主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）にお願いいたします。

２．ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（授業と教科書）

あなたのふだんの授業での教科書の使い方にもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。
２．教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。
３．教科書とその他の教材を半々程度使う。
４．教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。
５．教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。

質問２（教材・学習材）

教科書は教師が生徒に教えるための教材と、生徒が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。

あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教えるための教材としての性格が強い教科書
２．どちらかというと、教えるための教材としての性格がより強い教科書
３．自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書
４．どちらかというと、自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書
５．教えるための教材、自ら学習するための学習材両方の性格がバランスよく保たれている教科書

質問３（体様）

次のＡ～Ｃについて、子どもたちの学力向上に役立つ教科書という観点に立って、現在お使いの教科書についてお答えください。

Ａ．内容の構成やデザインについて

次の項目（Ａ－１～10）について、現行教科書をどのように変えればよりよい教科書になると思いますか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の中学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－９．定着のための練習問題の数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－10．さし絵、キャラクターなどの数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ｂ．堅牢性について

教科書は生徒の学習活動に支障のないよう、教科書専用の特別な用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で綴じられています。

次の項目（Ｂ－１～３）について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ｂ－１．表紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚いハードカバーにする　　３．薄くする

Ｂ－２．本文の用紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚くする　　３．薄くする

Ｂ－３．製本（綴じ方）

１．現行程度でよい　　２．頑丈にする　　３．簡易にする

Ｃ．書き込み、貼り付け、切り取りなどについて

教科書には生徒が書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けしたり、切り取って使う教材などがついていたりするものがあります。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行の教科書程度あればよい。
２．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より増やしたほうがよい。
３．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より減らしたほうがよい。
４．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。

質問４（教科書への要望）

現行の数学教科書の内容について伺います。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の程度（全体的に）

１．現行程度でよい　　２．現行より難しい方がよい　　３．現行より易しい方がよい

２．作業的・体験的な活動など数学的活動の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

３．答え（結果）だけでなく、考え方や理由などを答えさせる記述式の問題

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

４．生徒に身につけさせたい基礎・基本のなかで、もっとも重視している力

１．問題解決力　　２．論理的な思考力　　３．説明するなどの表現力

５．教科書の改善・充実でもっとも重要な内容

１．導入教材の充実　　２．思考力を養う問題の充実　　３．練習問題の充実

６．習熟度別指導への対応

１．教科書でも必要　　２．教科書では不必要　　３．どちらともいえない

次に教科書制度についてお伺いします。

質問５（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである。

質問６（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問７（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の中学校の教科書１冊あたり（上下巻のある場合は各巻あたり、複数学年で使用する教科書は１冊あたり）の平均定価は４８４円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．現行程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在お使いの教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿００円位

質問８

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなた自身のことについておたずねします。

Ａ．現在の勤務校の所在地について

……都・道・府・県……市・郡・区

Ｂ．中学校数学科のほかに現在お持ちの教員免許状の番号すべてに○をつけてください。

ア．小学校の教諭の免許状

01．小学校

イ．中学校の教諭の免許状

02．国語　03．社会　04．数学　05．理科　06．音楽
07．美術　08．保健体育　09．保健　10．技術　11．家庭
12．外国語（英語）　13．外国語（ドイツ語）
14．外国語（フランス語）　15．外国語（その他）
16．職業　17．職業指導　18．職業実習　19．宗教

ウ．高等学校の教諭の免許状

20．国語　21．地理歴史　22．公民　23．数学　24．理科
25．音楽　26．美術　27．工芸　28．書道　29．保健体育
30．保健　31．柔道　32．剣道　33．外国語（英語）
34．外国語（ドイツ語）　35．外国語（フランス語）
36．外国語（その他）　37．看護　38．看護実習　39．家庭
40．家庭実習　41．情報　42．情報実習　43．情報技術　44．農業
45．農業実習　46．工業　47．工業実習　48．建築
49．インテリア　50．デザイン　51．情報処理　52．商業　53．商業実習
54．計算実務　55．水産　56．水産実習　57．福祉　58．福祉実習
59．商船　60．商船実習　61．職業指導　62．宗教

エ．その他の教諭の免許状

63．特別支援学校の教諭　64．養護教諭　65．栄養教諭

C．教員歴

勤務経験のあるすべての校種について、勤務年数の合計を１～４のなかから１つ選んで番号に○をつけてください。勤務経験のない校種についてはご回答いただかなくて結構です。

	１．～１０年	２．１１～２０年	３．２１～３０年	４．３１年～
ア．小学校	1	2	3	4
イ．中学校	1	2	3	4
ウ．高等学校	1	2	3	4
エ．特別支援学校	1	2	3	4

D．現在学校でお使いの教科書の出版社

該当する番号に○をつけてください。

１．東京書籍　　２．大阪書籍　　３．大日本図書　　４．学校図書
５．教育出版　　６．啓林館（未来へひろがる数学）
７．啓林館（楽しさひろがる数学）

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈中学校理科〉

先生方へ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．ご回答は**理科主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）にお願いいたします。なお、理科の全分野の教科書にわたってご回答ください。

２．ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（授業と教科書）

あなたのふだんの授業での教科書の使い方にもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。
２．教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。
３．教科書とその他の教材を半々程度使う。
４．教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。
５．教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。

質問２（教材・学習材）

教科書は教師が生徒に教えるための教材と、生徒が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。

あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教えるための教材としての性格が強い教科書
２．どちらかというと、教えるための教材としての性格がより強い教科書
３．自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書
４．どちらかというと、自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書
５．教えるための教材、自ら学習するための学習材両方の性格がバランスよく保たれている教科書

質問３（体様）

次のＡ～Ｃについて、子どもたちの学力向上に役立つ教科書という観点に立って、現在お使いの教科書についてお答えください。

Ａ．内容の構成やデザインについて

次の項目（Ａ－１～９）について、現行教科書をどのように変えればよりよい教科書になると思いますか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の中学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－９．さし絵、図、表、写真などの数

ア．第一分野　　１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす
イ．第二分野　　１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ｂ．堅牢性について

教科書は生徒の学習活動に支障のないよう、教科書専用の特別な用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で綴じられています。

次の項目（Ｂ－１～３）について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ｂ－１．表紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚いハードカバーにする　　３．薄くする

Ｂ－２．本文の用紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚くする　　３．薄くする

Ｂ－３．製本（綴じ方）

１．現行程度でよい　　２．頑丈にする　　３．簡易にする

Ｃ．書き込み、貼り付け、切り取りなどについて

教科書には生徒が書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けしたり、切り取って使う教材などがついていたりするものがあります。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行の教科書程度あればよい。
２．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より増やしたほうがよい。
３．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より減らしたほうがよい。
４．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。

質問４（観察、実験）

観察、実験についておたずねします。次の１～４についてそれぞれお答えください。

１．教科書に載っている観察、実験を行っていますか。第一分野、第二分野について次の１～３のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

１．教科書に載っている観察、実験は、ほぼ実施している。
２．教科書に載っている観察、実験は、一部実施している。
３．教科書に載っている観察、実験は、あまり実施していない。

ア．第一分野　１ …… ２ …… ３
イ．第二分野　１ …… ２ …… ３

（<u>上記１で「３」と答えた方のみにお伺いします</u>）上記１で「３」と答えた理由で、次のなかにあてはまるものがあれば、第一分野、第二分野についてそれぞれ番号に○をつけてください。

１．観察、実験を行う時間が足りなくて実施できない。
２．実験器具・薬品などの不足、生物教材の準備、現地学習の困難などで実施できない。

ア．第一分野　１ …… ２
イ．第二分野　１ …… ２

２．教科書に載っていない観察、実験を授業で取り上げていますか。第一分野、第二分野について次の１～３のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

１．積極的に取り上げている。
２．必要に応じて取り上げている。
３．ほとんど取り上げていない。

ア．第一分野　１ …… ２ …… ３
イ．第二分野　１ …… ２ …… ３

３．教科書には、観察、実験の手順がわかりやすく記述されていますか。

１．適切でわかりやすい。
２．少しわかりにくい。
３．わかりにくい。

４．教科書には、観察、実験における安全面の配慮が適切に示されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。
→ **（<u>上記４で「２」と答えた方のみ</u>）不適切な内容**
１．多すぎる　２．少なすぎる　３．説明が足りない

質問５（教材・資料）

教材や資料についておたずねします。それぞれあてはまるものを１つ選んで番号に○をつけてください。

１．生徒の興味・関心を高める内容が適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。
→ **（<u>上記１で「２」と答えた方のみ</u>）不適切な内容**
１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

２．新しい科学の知見や先端技術に関することが適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。
→ **（<u>上記２で「２」と答えた方のみ</u>）不適切な内容**
１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

３．環境や環境の保護に関することが適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。
→ **（<u>上記３で「２」と答えた方のみ</u>）不適切な内容**
１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

４．生徒の日常生活と関連することが適切に掲載されていますか。

１．適切である。
２．不適切である。
→ **（<u>上記４で「２」と答えた方のみ</u>）不適切な内容**
１．多すぎる　２．少なすぎる　３．テーマが適切でない

質問６（自由研究）

教科書には、夏休みの自由研究などのために、自由研究のテーマ例が掲載されていますが、参考になっているでしょうか。第一分野、第二分野について次の１～３のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

１．大いに参考になっている。
２．少し参考になっている。
３．あまり参考にならない。

ア．第一分野　　１ …… ２ …… ３
イ．第二分野　　１ …… ２ …… ３

次に教科書制度についてお伺いします。

質問７（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである。

質問８（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問９（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の中学校の教科書１冊あたり（上下巻のある場合は各巻あたり、複数学年で使用する教科書は１冊あたり）の平均定価は４８４円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に〇をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に〇をつけてください。

１．現行程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在お使いの教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿＿００円位

質問 10

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなた自身のことについておたずねします。

Ａ．現在の勤務校の所在地について

.....都・道・府・県.....市・郡・区

Ｂ．中学校理科のほかに現在お持ちの教員免許状の番号すべてに〇をつけてください。

ア．小学校の教諭の免許状

01．小学校

イ．中学校の教諭の免許状

02．国語	03．社会	04．数学	05．理科	06．音楽
07．美術	08．保健体育	09．保健	10．技術	11．家庭
12．外国語（英語）		13．外国語（ドイツ語）		
14．外国語（フランス語）		15．外国語（その他）		
16．職業	17．職業指導	18．職業実習	19．宗教	

ウ．高等学校の教諭の免許状

20．国語	21．地理歴史	22．公民	23．数学	24．理科
25．音楽	26．美術	27．工芸	28．書道	29．保健体育
30．保健	31．柔道	32．剣道	33．外国語（英語）	
34．外国語（ドイツ語）		35．外国語（フランス語）		
36．外国語（その他）		37．看護	38．看護実習	39．家庭
40．家庭実習	41．情報	42．情報実習	43．情報技術	44．農業
45．農業実習	46．工業	47．工業実習	48．建築	
49．インテリア	50．デザイン	51．情報処理	52．商業	53．商業実習
54．計算実務	55．水産	56．水産実習	57．福祉	58．福祉実習
59．商船	60．商船実習	61．職業指導	62．宗教	

エ．その他の教諭の免許状

63．特別支援学校の教諭	64．養護教諭	65．栄養教諭

C．教員歴

勤務経験のあるすべての校種について、勤務年数の合計を１～４のなかから１つ選んで番号に○をつけてください。勤務経験のない校種についてはご回答いただかなくて結構です。

	１．～１０年	２．１１～２０年	３．２１～３０年	４．３１年～
ア．小学校	1	2	3	4
イ．中学校	1	2	3	4
ウ．高等学校	1	2	3	4
エ．特別支援学校	1	2	3	4

D．現在学校でお使いの教科書の出版社

分野ごとに該当する番号に○をつけてください。

ア．第一分野

１．東京書籍　２．大日本図書　３．学校図書　４．教育出版
５．啓林館

イ．第二分野

１．東京書籍　２．大日本図書　３．学校図書　４．教育出版
５．啓林館

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈中学校英語〉

先生方へ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．ご回答は**英語科主任の先生**（またはこれに代わることのできる先生）にお願いいたします。

２．ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（授業と教科書）

あなたのふだんの授業での教科書の使い方にもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書だけを使ってその内容を逐一取り扱う。
２．教科書を主に使うが、その他の教材もところどころ使う。
３．教科書とその他の教材を半々程度使う。
４．教科書をところどころ使うが、その他の教材を主に使う。
５．教科書はほとんど使わずに、その他の教材を使う。

質問２（教材・学習材）

教科書は教師が生徒に教えるための教材と、生徒が自ら学習するための学習材としての性格を備えなければならないといわれています。

あなたが使いたい教科書はどんな教科書ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教えるための教材としての性格が強い教科書
２．どちらかというと、教えるための教材としての性格がより強い教科書
３．自ら学習するための学習材としての性格が強い教科書
４．どちらかというと、自ら学習するための学習材としての性格がより強い教科書
５．教えるための教材、自ら学習するための学習材両方の性格がバランスよく保たれている教科書

質問３（体様）

次のＡ～Ｃについて、子どもたちの学力向上に役立つ教科書という観点に立って、現在お使いの教科書についてお答えください。

Ａ．内容の構成やデザインについて

次の項目（Ａ－１～９）について、現行教科書をどのように変えればよりよい教科書になると思いますか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ－１．ページ数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－２．カラーページの割合

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．現行教科書ほどカラーページは必要ない。
３．図、写真、重要なポイントなど必要な部分だけカラーであればよい。

Ａ－３．本文の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－４．発展的な学習内容（学習指導要領の範囲外のもの）の分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－５．注、コラム、資料などの分量

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ａ－６．さし絵、図、表、写真などの大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－７．文字の大きさ

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－８．判型（大きさ）　＊現行の中学校教科書のほとんどがＢ５判です。

１．現行程度でよい　　２．大きくする　　３．小さくする

Ａ－９．練習問題、体験学習の数

１．現行程度でよい　　２．増やす　　３．減らす

Ｂ．堅牢性について

教科書は生徒の学習活動に支障のないよう、教科書専用の特別な用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で綴じられています。

次の項目（Ｂ－１～３）について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ｂ－１．表紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚いハードカバーにする　　３．薄くする

Ｂ－２．本文の用紙の厚さ

１．現行程度でよい　　２．厚くする　　３．薄くする

Ｂ－３．製本（綴じ方）

１．現行程度でよい　　２．頑丈にする　　３．簡易にする

Ｃ．書き込み、貼り付け、切り取りなどについて

教科書には生徒が書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けしたり、切り取って使う教材などがついていたりするものがあります。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行の教科書程度あればよい。
２．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より増やしたほうがよい。
３．書き込み、貼り付け、切り取りなどは現行教科書より減らしたほうがよい。
４．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。

質問４（教科書の構成）

中学校英語科では「聞く」「話す」ことを重点的に行うように構成されていますが、この点についてはどのようにお考えですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．もっと重点化すべき
２．今程度でよい
３．「読む」「書く」とのバランスをとってほしい
４．もっと基礎力がつくように構成してほしい

質問５（語彙数）

語彙は 900 語程度を教えることになっていますが、この点についてはどのようにお考えですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．目減りを考慮して多く出して、学べるようにすべき
２．今程度でよい
３．もっと精選、減らして確実に定着させるべき
４．語彙数制限は必要ない

質問６（言語項目）

学習指導要領では教える言語項目が指定され、教科書ではもれなく扱っていますが、この点についてはどのようにお考えですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教えることが多すぎる。もっと精選すべき
２．今程度でよい
３．教えることが少なすぎる。もっと教えるべき
４．もう少し自由度があるほうがよい

質問７（望ましい教科書）

英語の教科書は、教えてもらわないで生徒が独力で学習するのは難しいと思われますが、先生は今後の教科書はどのような方向が望ましいと思われますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．詳しい説明をつけるなど、自学できるようにすべき
２．今程度に、教わることが前提でよい
３．英語には音声が必須だから、ＣＤを教科書に付けて欲しい

質問８（習熟度別学習）

教科書では習熟度別にどう対応したらよいとお考えですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．積極的に対応すべき
２．教科書で扱わなくてもよい
３．指導上で対応すべき

次に教科書制度についてお伺いします。

質問９（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担すべきである。

質問 10（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問 11（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の中学校の教科書１冊あたり（上下巻のある場合は各巻あたり、複数学年で使用する教科書は１冊あたり）の平均定価は４８４円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．現行程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在お使いの教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿＿００円位

質問 12

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなた自身のことについておたずねします。

Ａ．現在の勤務校の所在地について

.....都・道・府・県.....市・郡・区

Ｂ．中学校英語科のほかに現在お持ちの教員免許状の番号すべてに○をつけてください。

ア．小学校の教諭の免許状

01．小学校

イ．中学校の教諭の免許状

02．国語　03．社会　04．数学　05．理科　06．音楽
07．美術　08．保健体育　09．保健　10．技術　11．家庭
12．外国語（英語）　13．外国語（ドイツ語）
14．外国語（フランス語）　15．外国語（その他）
16．職業　17．職業指導　18．職業実習　19．宗教

ウ．高等学校の教諭の免許状

20．国語　21．地理歴史　22．公民　23．数学　24．理科
25．音楽　26．美術　27．工芸　28．書道　29．保健体育
30．保健　31．柔道　32．剣道　33．外国語（英語）
34．外国語（ドイツ語）　35．外国語（フランス語）
36．外国語（その他）　37．看護　38．看護実習　39．家庭
40．家庭実習　41．情報　42．情報実習　43．情報技術　44．農業
45．農業実習　46．工業　47．工業実習　48．建築
49．インテリア　50．デザイン　51．情報処理　52．商業　53．商業実習
54．計算実務　55．水産　56．水産実習　57．福祉　58．福祉実習
59．商船　60．商船実習　61．職業指導　62．宗教

エ．その他の教諭の免許状

63．特別支援学校の教諭　64．養護教諭　65．栄養教諭

Ｃ．教員歴

勤務経験のあるすべての校種について、勤務年数の合計を１～４のなかから１つ選んで番号に○をつけてください。勤務経験のない校種についてはご回答いただかなくて結構です。

	１．～１０年	２．１１～２０年	３．２１～３０年	４．３１年～
ア．小学校	1	2	3	4
イ．中学校	1	2	3	4
ウ．高等学校	1	2	3	4
エ．特別支援学校	1	2	3	4

Ｄ．現在学校でお使いの教科書の出版社

該当する番号に○をつけてください。

１．東京書籍　２．開隆堂　３．学校図書　４．三省堂
５．教育出版　６．光村図書出版

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈小学校〉

保護者のみなさまへ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．この調査票を配られた学級に通われている子どもさんについて、ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。記入されるのは、保護者の方ならどなたでも結構です。

２．ご回答いただいた調査票は、封筒に入れて学校に提出してください。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（教科書への関心）

あなたは子どもさんが今年の４月から使っている教科書などを手にとって内容を見たことがありますか。下のア～サについて次の１～４のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1．じっくりと見たことがある。	2．勉強を教えるときなど、少し見たことがある。	3．ぱらぱらとめくる程度に見たことはある。	4．まったく見たことがない。
ア．国語	1	2	3	4
イ．書写	1	2	3	4
ウ．社会	1	2	3	4
エ．地図帳	1	2	3	4
オ．算数	1	2	3	4
カ．理科	1	2	3	4
キ．音楽	1	2	3	4
ク．図画工作	1	2	3	4
ケ．家庭	1	2	3	4
コ．保健	1	2	3	4
サ．道徳	1	2	3	4

質問２（生涯学習と教科書）

あなたは自分自身の興味関心や勉強のために子どもさんの教科書などを読んだり見たりすることがありますか。読んだり見たりすることがあれば、その教科の番号すべてに○をつけてください。

１．国語　　２．書写　　３．社会　　４．地図帳
５．算数　　６．理科　　７．音楽　　８．図画工作
９．家庭　　10．保健　　11．道徳

質問３（子どものようす）

学校以外での子どもさんのようすについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．自分ひとりで、教科書を使って勉強している。
2．自分ひとりで、教科書以外の教材を使って勉強している。
3．家族の人に教わりながら、教科書を使って勉強している。
4．家族の人に教わりながら、教科書以外の教材を使って勉強している。
5．家庭教師と、教科書を使って勉強している。
6．家庭教師と、教科書以外の教材を使って勉強している。
7．学校の勉強を補うための学習塾に通っている。
8．受験のための学習塾に通っている。
9．図書館によく行く。
10．学校以外ではあまり勉強しない。
11．おけいこ事に通っている。
12．クラブやチームに入ってスポーツをしている。

質問４（教科書の取り扱い）

子どもさんの日頃の教科書の扱い方についておたずねします。次のうちもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

1．ほかの本とは区別して、たいせつに使っている。
2．特別たいせつにしているわけではないが、ふつうに使っている。
3．多少汚れたり、破れてしまったページがあったりはするが、まあまあたいせつに使っている。
4．乱暴に使うので、汚れたり、破れてしまったページがあったり、綴じから外れたりしている。

質問５（家庭）

子どもさんの自宅での勉強にあなたはどのような対応をしていますか。次のうち該当するものすべてに○をつけてください。

1．質問される前に「いっしょに勉強しましょう」と言って、そばについて教えることが多い。
2．質問されたら子どもが理解するまでいっしょに考える。
3．質問されても答えられないことが多いので、子どもまかせにしている。
4．子どもといっしょに考えたいが、忙しいのでそういう時間がない。
5．子どもから聞かれることはない。

質問６（教科書の内容）

教科書の内容についての考え方であなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

1．教科書の内容はよくできているので、いまのままでよい。
2．教科書は、すぐれた参考書や問題集のようにもっと編集を工夫して、子どもの興味関心にこたえることのできるような内容にかえたほうがよい。
3．教科書の内容はよくわからないが、子どもが満足しているのでいまのままでよい。
4．教科書の内容についてあまり考えたことがないのでわからない。

上の質問で２と答えた方におたずねします。教科書の編集にはどのような工夫をしたらよいと思いますか。具体的なイメージやアイデアがあればお書きください。

質問７（体様）

教科書は子どもの学習活動だけでなく、体力や持ち運びの利便性などにも考慮して厚さ、大きさ、カラーページなどが工夫されています。また、教科書専用に作られた用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で製本されるなど、子どもへのさまざまな配慮がなされています。

次のＡ～Ｅの項目について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ．教材の量やページ数

１．いまの程度でよい。
２．いまより増やしてほしい。
３．減らしてほしい。

Ｂ．教科書の判型（大きさ）

１．いまの程度でよい。
２．いまより大きいほうがよい。
３．いまより小さいほうがよい。

Ｃ．カラーページの分量

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．いまの教科書ほどカラーページは必要ない。
３．教科書は、図、写真など必要な部分だけカラーであればよい。

Ｄ．堅牢性

Ｄ－１．表紙の厚さ

１．いまの程度でよい。
２．表紙は厚いハードカバーがよい。
３．表紙の紙はいまより薄くてよい。

Ｄ－２．用紙の厚さ

１．いまの程度でよい。
２．いまより厚くて丈夫な用紙のほうがよい。
３．多少弱くても薄い用紙のほうがよい。

Ｄ－３．製本（綴じ方）

１．いまの程度でよい。
２．いまより頑丈なほうがよい。
３．いまより簡易な方法でよい。

Ｅ．書き込み、貼り付け、切り取りなどの分量

＊教科書には授業で書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けたり、切り取って使う教材がついていたりするものがあります。

１．いまの程度でよい。
２．いまよりも増やしたほうがよい。
３．いまよりも減らしたほうがよい。
４．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。

質問８（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担するべきである。

質問９（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問 10（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の小学校の教科書１冊あたりの平均定価は３３７円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いま使われている程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在の小学校の教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿００円位

質問 11

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなたの性別を教えてください。

１．男
２．女

ご協力ありがとうございました。

教科書に関する調査〈中学校〉

保護者のみなさまへ

財団法人教科書研究センターでは、このたび小・中学校の教科書に関する教師と保護者の意識調査を実施することになりました。間もなく新しい学習指導要領が告示され、教科書発行会社ではこれに合わせて新しい教科書の編集が始まります。この調査は、教師、保護者の方々の声を教科書作りに反映させ、教科書の改善、充実に資することを目的としたものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の主旨をご理解いただきアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は本調査の目的以外に使われることはありません。

調査結果については、平成２０年８月頃に財団法人教科書研究センターのホームページ（URL:http://www.textbook-rc.or.jp）上に公開する予定です。

財団法人教科書研究センター
理事長　古　村　澄　一

回答にあたってのお願い

１．この調査票を配られた学級に通われている子どもさんについて、ご自身の意見をご回答ください。ふだんお感じになられているままご記入くださいますようお願いいたします。記入されるのは、保護者の方ならどなたでも結構です。

２．ご回答いただいた調査票は、封筒に入れて学校に提出してください。

３．回答選択肢につけていただく○印は、１つだけの場合と複数の場合があります。それぞれの質問の指示に従ってご回答ください。（「１つ選んで」、「すべてに」など）

４．本調査の調査票は(財)教科書研究センターが作成し、㈱サーベイリサーチセンターに実施を委託しています。本調査に関するお問合せは下記までお願いいたします。

㈱サーベイリサーチセンター
社会情報部　　担当：花村、三好
〒116-8581　東京都荒川区西日暮里２－４０－１０
電話：０１２０－３８０－６２１　（月～金：９：３０～１７：３０）

質問１（教科書への関心）

あなたは子どもさんが今年の４月から使っている教科書などを手にとって内容を見たことがありますか。下のア～シについて次の１～４のなかから１つ選んでそれぞれ番号に○をつけてください。

	1．じっくりと見たことがある。	2．勉強を教えるときなど、少し見たことがある。	3．ぱらぱらとめくる程度に見たことはある。	4．まったく見たことがない。
ア．国語	1	2	3	4
イ．書写	1	2	3	4
ウ．社会	1	2	3	4
エ．地図帳	1	2	3	4
オ．数学	1	2	3	4
カ．理科	1	2	3	4
キ．音楽	1	2	3	4
ク．美術	1	2	3	4
ケ．技術・家庭	1	2	3	4
コ．保健体育	1	2	3	4
サ．英語	1	2	3	4
シ．道徳	1	2	3	4

質問２（生涯学習と教科書）

あなたは自分自身の興味関心や勉強のために子どもさんの教科書などを読んだり見たりすることがありますか。読んだり見たりすることがあれば、その教科の番号すべてに○をつけてください。

１．国語	２．書写	３．社会（地理的分野）
４．社会（歴史的分野）	５．社会（公民的分野）	６．地図帳
７．数学	８．理科（第１分野　物理・化学）	
９．理科（第２分野　生物・地学）		
10．音楽（一般）	11．音楽（器楽合奏）	12．美術
13．技術・家庭（技術分野）	14．技術・家庭（家庭分野）	15．保健体育
16．英語	17．道徳	

質問３（子どものようす）

学校以外での子どもさんのようすについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１．自分ひとりで、教科書を使って勉強している。
２．自分ひとりで、教科書以外の教材を使って勉強している。
３．家族の人に教わりながら、教科書を使って勉強している。
４．家族の人に教わりながら、教科書以外の教材を使って勉強している。
５．家庭教師と、教科書を使って勉強している。
６．家庭教師と、教科書以外の教材を使って勉強している。
７．学校の勉強を補うための学習塾に通っている。
８．受験のための学習塾に通っている。
９．図書館によく行く。
10．学校以外ではあまり勉強しない。
11．おけいこ事に通っている。
12．クラブやチームに入ってスポーツをしている。

質問４（教科書の取り扱い）

子どもさんの日頃の教科書の扱い方についておたずねします。次のうちもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．ほかの本とは区別して、たいせつに使っている。
２．特別たいせつにしているわけではないが、ふつうに使っている。
３．多少汚れたり、破れてしまったページがあったりはするが、まあまあたいせつに使っている。
４．乱暴に使うので、汚れたり、破れてしまったページがあったり、綴じから外れたりしている。

質問５（家庭）

子どもさんの自宅での勉強にあなたはどのような対応をしていますか。次のうち該当するものすべてに○をつけてください。

１．質問される前に「いっしょに勉強しましょう」と言って、そばについて教えることが多い。
２．質問されたら子どもが理解するまでいっしょに考える。
３．質問されても答えられないことが多いので、子どもまかせにしている。
４．子どもといっしょに考えたいが、忙しいのでそういう時間がない。
５．子どもから聞かれることはない。

質問６（教科書の内容）

教科書の内容についての考え方であなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の内容はよくできているので、いまのままでよい。
２．教科書は、すぐれた参考書や問題集のようにもっと編集を工夫して、子どもの興味関心にこたえることのできるような内容にかえたほうがよい。
３．教科書の内容はよくわからないが、子どもが満足しているのでいまのままでよい。
４．教科書の内容についてあまり考えたことがないのでわからない。

上の質問で２と答えた方におたずねします。教科書の編集にはどのような工夫をしたらよいと思いますか。具体的なイメージやアイデアがあればお書きください。

質問７（体様）

教科書は子どもの学習活動だけでなく、体力や持ち運びの利便性などにも考慮して厚さ、大きさ、カラーページなどが工夫されています。また、教科書専用に作られた用紙に印刷し、一般の書籍より頑丈な方法で製本されるなど、子どもへのさまざまな配慮がなされています。

次のＡ～Ｅの項目について、あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

Ａ．教材の量やページ数

１．いまの程度でよい。
２．いまより増やしてほしい。
３．減らしてほしい。

Ｂ．教科書の判型（大きさ）

１．いまの程度でよい。
２．いまより大きいほうがよい。
３．いまより小さいほうがよい。

Ｃ．カラーページの分量

１．教科書は全ページ、カラーがよい。
２．いまの教科書ほどカラーページは必要ない。
３．教科書は、図、写真など必要な部分だけカラーであればよい。

Ｄ．堅牢性

Ｄ－１．表紙の厚さ

１．いまの程度でよい。
２．表紙は厚いハードカバーがよい。
３．表紙の紙はいまより薄くてよい。

Ｄ－２．用紙の厚さ

１．いまの程度でよい。
２．いまより厚くて丈夫な用紙のほうがよい。
３．多少弱くても薄い用紙のほうがよい。

Ｄ－３．製本（綴じ方）

１．いまの程度でよい。
２．いまより頑丈なほうがよい。
３．いまより簡易な方法でよい。

Ｅ．書き込み、貼り付け、切り取りなどの分量

＊教科書には授業で書き込みなどをする箇所があったり、貼り付けたり、切り取って使う教材がついていたりするものがあります。

１．いまの程度でよい。
２．いまよりも増やしたほうがよい。
３．いまよりも減らしたほうがよい。
４．書き込み、貼り付け、切り取りなどは必要ない。

質問８（無償制）

平成１９年度用の児童生徒１人あたりの１年分の平均教科書費は、小学校３，０９１円、中学校４，４７７円です。小・中学校の教科書は、国が教科書発行会社から買い上げて児童生徒に無償で配布されています。（義務教育教科書無償給与制度）

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書費は国が負担するべきである。
２．教科書費は国または自治体が負担するのがよい。
３．教科書費の一部を保護者が負担するのがよい。
４．教科書費は全額を保護者が負担するのがよい。
５．教科書費は一部、または全額を保護者が負担するべきである。

質問９（給与制）

日本では小・中学校の教科書が児童生徒に無償で配布される給与制がとられていますが、欧米諸国では教科書を教室や学校に備え付けて授業で使ったり、一定期間児童生徒に貸し出したりする貸与制がほとんどで、教科書は数年間繰り返し使われます。

あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いまのままの給与制がよい。
２．どちらかというと給与制のほうがよい。
３．どちらかというと貸与制のほうがよい。
４．貸与制がよい。
５．教科によっては貸与制も考えられる。

質問 10（定価）

教科書の定価は、国によって毎年その最高額が定められます。平成１９年度用の中学校の教科書１冊あたりの平均定価は４８４円です。

Ａ．あなたの考えにもっとも近いのはどれですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．教科書の価格は妥当である。
２．教科書の価格は一般の書籍に比べて高い。
３．教科書の価格は一般の書籍に比べて安い。

Ｂ．よりよい教科書作りのため、教科書の価格はどうあるべきだと思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

１．いま使われている程度の教科書が保証されるなら、定価は国が定めてよい。
２．よい教科書が作られるなら、定価はもっと高くてもよい。
３．さまざまな改善や工夫をして、定価をもっと安くしたほうがよい。
４．よりよい教科書作りのために、教科書の価格は出版社が自由に定めることができるようにしたほうがよい。

Ｃ．あなたが値段をつけるとすれば、教科書の体裁、厚さ、内容から考えて、現在の中学校の教科書１冊の平均定価はいくらぐらいが適当だと思いますか。

＿＿＿＿＿００円位

質問 11

教科書について、日頃感じていること、改善すべき点、お気づきの点などご自由にお書きください。

最後にあなたの性別を教えてください。

１．男　　２．女

ご協力ありがとうございました。

義務教育教科書に関する教師の意識及び保護者の要望についての調査

調査結果報告書〈最終報告〉

平成 20（2008）年 9 月 20 日

財団法人 教科書研究センター
理事長　古 村 澄 一
東京都江東区千石 1 丁目 9 番 28 号
〒135-0015 電話 03-5606-4311 FAX. 03-5606-3044
URL:http://www.textbook-rc.or.jp